

履修要項・シラバス

2023



札幌保健医療大学

保健医療学部 栄養学科

2023年度学事暦

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 内 容				全学行事
								栄養学科 1 年次	栄養学科 2 年次	栄養学科 3 年次 (編入 3 年次含む)	栄養学科 4 年次 (編入 4 年次含む)	
4 月							1	4/3、5、6 新入生ガイダンス	4/3前期授業開始 4/13 健康診断	4/3前期授業開始 4/14健康診断	4/3前期授業開始 4/14健康診断	4/4 入学式
	2	3	4	5	6	7	8	4/7 栄養学科ガイダンス				4/28 (予定) 体育大会
	9	10	11	12	13	14	15	4/10 前期授業開始				
	16	17	18	19	20	21	22	4/13 健康診断				
	23	24	25	26	27	28	29					
5 月	30											
		1	2	3	4	5	6				5/29～6/2 給食経営管理論実習Ⅲ	5/1 創立記念日
	7	8	9	10	11	12	13					
	14	15	16	17	18	19	20					
	21	22	23	24	25	26	27					
6 月	28	29	30	31								
					1	2	3				6/5～6/9 栄養教育実習	6/3補講日
	4	5	6	7	8	9	10					
	11	12	13	14	15	16	17					
	18	19	20	21	22	23	24					
7 月	25	26	27	28	29	30						
							1			7/3～7/14 給食経営管理論実習Ⅱ		
	2	3	4	5	6	7	8					
	9	10	11	12	13	14	15					
	16	17	18	19	20	21	22					
8 月	23	24	25	26	27	28	29					
	30	31										
			1	2	3	4	5	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験	8/14～18 前期定期試験 8/21～25 前期追再試験	8/1～10/13 公衆栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	8/28～9/28 夏期休業 ※学年によって異なる
	6	7	8	9	10	11	12					
	13	14	15	16	17	18	19					
9 月	20	21	22	23	24	25	26					
	27	28	29	30	31							
						1	2	9/29 後期ガイダンス	9/29 後期ガイダンス	9/29 後期ガイダンス		9/22 前期学位授与式
	3	4	5	6	7	8	9					
	10	11	12	13	14	15	16					
10 月	17	18	19	20	21	22	23					
	24	25	26	27	28	29	30					
								10/2 後期授業開始	10/2 後期授業開始 10/21、28 集中講義	10/2 後期授業開始	10/16 後期ガイダンス 10/17 後期授業開始 10/21、28 集中講義	10/7～8 (予定) 大学祭
	1	2	3	4	5	6	7					
	8	9	10	11	12	13	14					
11 月	15	16	17	18	19	20	21					
	22	23	24	25	26	27	28					
	29	30	31									
				1	2	3	4			11/11 (予定) グロ-アップ セレモニー	11/11 (予定) (編入生)グロ-アップ セレモニー	11/11 (予定) グロ-アップ セレモニー
	5	6	7	8	9	10	11					
12 月	12	13	14	15	16	17	18					
	19	20	21	22	23	24	25					
	26	27	28	29	30							
									12/2、23 集中講義		12/2、23 集中講義	12/28～1/5 冬期休業
	3	4	5	6	7	8	9					
1 月	10	11	12	13	14	15	16					
	17	18	19	20	21	22	23					
	24	25	26	27	28	29	30					
	31											
		1	2	3	4	5	6					
2 月	7	8	9	10	11	12	13					
	14	15	16	17	18	19	20					
	21	22	23	24	25	26	27					
	28	29	30	31								
								2/13～16 後期定期試験 2/19～22、26 後期追再試験	2/19～22 後期定期試験 2/26～3/1 後期追再試験	2/13～16 後期定期試験 2/19～22、26 後期追再試験		2/5入学試験日
3 月	4	5	6	7	8	9	10					
	11	12	13	14	15	16	17					
	18	19	20	21	22	23	24					
	25	26	27	28	29							
							1					3/16 学位記授与式
	3	4	5	6	7	8	9					
	10	11	12	13	14	15	16					
	17	18	19	20	21	22	23					3/4～3/31 春期休業 ※学年によって異なる
	24	25	26	27	28	29	30					
	31											

この他に全学行事として避難訓練が予定されています。
入学試験日は入構できません。
試験期間は暫定で記載しています。
学事暦の日程は、一部変更することがあります。

目 次

I 履修要項

I-1 本学の教育理念	2
I-2 本学の教育目的	2
I-3 本学の教育目標	2
I-4 栄養学科の教育目的	3
I-5 栄養学科の教育目標	3
I-6 札幌保健医療大学の三方針	
1) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	4
2) 栄養学科カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）	5
3) アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）	6
I-7 履修について	
1) 学期	7
2) 修業年限・在学年限	7
3) 授業科目	7
4) 科目の履修および登録	8
I-8 授業について	
1) 授業時間	9
2) 休講・補講・補講等（補習）・集中講義	9
3) 欠席の取扱い	9
4) 欠席回数自己管理について	10
5) 天候による非常事態への対応	11
6) 授業評価アンケート	11
I-9 試験について	
1) 試験の種類・手続き	12
2) 受験資格	13
3) 試験の方法	13
4) 試験時間	13
5) 受験心得	14
6) 不正行為	14
I-10 単位・成績について	
1) 単位について	15
2) 単位修得に関する事項	15
3) 成績通知	17

II 栄養学科

II-1 栄養学科の臨地実習（先修条件）	
1) 実習の先修条件	21
2) 臨地実習における追実習と再実習について	22
II-2 栄養学科の卒業要件・進級要件	
1) 卒業要件	23
2) 進級要件	23
II-3 栄養学科の資格の取得	
1) 栄養士免許	24
2) 管理栄養士国家試験受験資格	24
3) 栄養教諭一種免許状	25
4) 食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）	27
II-4 教育目標とディプロマ・ポリシー	29
II-5 教育課程表（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）	30
II-6 教育課程と学科ディプロマ・ポリシーの関連表	32
II-7 科目配置表	34
II-8 栄養学科 履修モデル（全コース一覧）	36
II-9 栄養学科コース別履修モデル	38
II-10 オフィスアワー	44

III シラバス

授業科目名と担当者一覧	48
1年次	51
2年次	137
3年次	205
4年次	251
教職課程	273

IV 規程（学則・教務に関する諸規程）

札幌保健医療大学学則	300
札幌保健医療大学保健医療学部履修規程	314
札幌保健医療大学保健医療学部履修に関する細則	319
札幌保健医療大学教職課程履修規定	325
札幌保健医療大学試験規程	330
札幌保健医療大学における成績評価の異議申し立てに関する規程	332
札幌保健医療大学既修得単位認定規程	336

I 履修要項

I-1 本学の教育理念

本学は、吉田学園の建学の精神に込められた「豊かな人間性」と「職業人としての基礎能力」をもつ人財を育成する伝統を継承しています。

本学は、学生一人ひとりの人間力として、「豊かな感性」「高潔な精神」「確かな知力」を培い、これらの人間的調和と自己成長をはかるとともに、「他者と共存」できる医療人を育成します。

この教育理念の実現によって、社会から必要とされる人財を地域に輩出することで、保健医療福祉の充実・向上に貢献します。

◆本学の教育がめざす、人間力とは、

- ・豊かな感性：人の心に寄り添い、他者との思いや苦悩を汲み取る力
- ・高潔な精神：真・善を追求し、公共の使命と責任を全うする意志力
- ・確かな知力：人間的な判断と行動の知的拠り所となる力
- ・他者との共存：多様な文化や社会、個性ある互いを認め合い、他者と共に生きる力

I-2 本学の教育目的

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

I-3 本学の教育目標

- (1) 人間力を涵養し、社会の一員としての社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。
- (2) 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。
- (3) 人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。
- (4) 保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度を有し、実践力のある人材を育成する。
- (5) 社会生活や保健医療福祉で関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。
- (6) 保健医療福祉の諸課題への探求心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。

I-4 栄養学科の教育目的

栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。

I-5 栄養学科の教育目標

- (1-1) 自己の良心と社会規範に従い、自己を抑制し、責任ある行動のできる栄養専門職者を育成する。
- (1-2) 目的に適った情報の収集と論理的な思考・判断を行い、適切に表現できる栄養専門職者を育成する。
- (2) 自然と共生するすべての生命を尊び、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる栄養専門職者を育成する。
- (3) 人間・環境・健康を体系的に理解し、健康生活に関わる栄養と食について、社会的視点から多角的に捉えることのできる栄養専門職者を育成する。
- (4-1) 栄養管理の対象となる個人・家族・集団の特性を理解し、人々の健康生活に適した栄養ケアをマネジメントできる栄養専門職者を育成する。
- (4-2) 地域社会の栄養と食生活に関する健康課題を評価・判定し、課題解決に向けた効果的な栄養と食に関する生活支援を実践できる栄養専門職者を育成する。
- (5) 社会と保健医療福祉分野での管理栄養士の役割と責務を認識し、多職種および関係者と連携・協働できる栄養専門職者を育成する。
- (6) 保健医療福祉の動向を捉え、管理栄養士としての専門性を探求し、将来にわたり能力向上のために自己研鑽し続ける栄養専門職者を育成する。

I-6 札幌保健医療大学の三方針

1) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学において卒業時に修得できる学位の名称は、次のとおりです。

学科	学位
看護学科	学士（看護学）
栄養学科	学士（栄養学）

本学の保健医療学部看護学科・栄養学科は、教育理念・目的をふまえ、学部教育目的の「人間と自然、多様な文化や社会に関する知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「専門分野の基礎知識・技術・態度」「多職種との連携協働力」「生涯学習力」の6つの資質・能力のもと、下記の到達目標に応じた看護師、管理栄養士の専門職業人としての人間的基盤の形成および、各専門的能力を修得するとともに各国家試験受験資格の要件となる単位を含む126単位以上（栄養学科）の修得を求めます。これらの方針を満たした者は、看護学科においては学士（看護学）、栄養学科においては学士（栄養学）の学位を授与します。

【栄養学科】

DP1-1 社会の一員として社会規範を守り、自己統制力および責任ある行動力を身につけている。

DP1-2 情報収集力・論理的思考力・多様な表現力を総合的に身につけている。

DP2 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる能力を身につけている。

DP3 人間・環境・健康に関する知識を活用し、健康生活に関わる栄養と食の社会的な諸課題を多角的に捉える能力を身につけている。

DP4-1 栄養管理の対象となる人々の健康レベルと生活特性に適した栄養ケアのマネジメント力の基礎を身につけている。

DP4-2 地域社会における栄養と食生活に関する健康課題を評価・判定し、課題解決に向けた効果的な栄養教育や食生活の支援のための実践力の基礎を身につけている。

DP5 保健医療福祉を担う管理栄養士の役割と責務に基づき、対象者のQOLの向上に向けて多職種および関係者と連携・協働できる能力の基礎を身につけている。

DP6 保健医療福祉および栄養学の発展を志向し、栄養専門職としての専門的能力を継続的に向上させるために必要な能力を身につけている。

2) 栄養学科カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）

栄養学科では、社会人としてまた管理栄養士として必要な知識・技術・態度および専門的実践力を修得し、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を身につけるために、次のような教育内容・教育方法・評価方法によってカリキュラムを編成し実施します。

＜教育内容＞

（1）教育課程（カリキュラム）を「基礎教育」と「専門教育」で編成します。

基礎教育では、「人間」と「環境（自然・社会・文化）」について広く学び、社会人としての基盤を形成するための科目を、栄養学科・看護学科の共通および合同科目として配置します。

専門教育では、管理栄養士の専門分野において基礎となる知識・技術・態度および専門的実践力の基礎とその応用力を育成するため、「専門基礎科目」と「専門科目」の科目を配置します。

（2）学修の過程は、教育内容の専門性の深化を考え、「基礎教育科目」から「専門基礎科目」、「専門科目」へと、学生が学びやすい設定にします。

学年進行に合わせて学修の積み上げができるように、基礎教育科目を原則1～2年次に、専門基礎科目を主として2年次までに、専門科目を1～4年次に配置します。

また、基礎教育の選択科目は全学年を通じて履修でき、学生の個別性を考慮した学修を可能にします。

（3）大学での学修を支援するために本学独自の科目を配置し、主体的な学修と学業継続に必要なスキルを育成します。

学生が本学の教育理念を学び、大学生活に早期に適応でき、大学での主体的学修と学業継続の基礎となるソーシャル・スキルおよびアカデミック・スキルを高めることができるように、本学独自に看護学科との合同科目「学びの理解」を配置します。

（4）保健医療福祉に関する社会活動への参画や協働体験をする科目を配置し、学生の主体性、社会性と責任感を育てます。

管理栄養士を目指す学生が自ら考え行動し、社会活動に参画、協働する意欲、社会性、責任ある行動力を身につけ、専門科目を履修する際の基盤づくりができるように、保健医療福祉に関する活動で体験した多様な学びを単位として認定する選択科目「特別総合科目」を配置します。

（5）地域の保健医療福祉への理解を深める科目を配置し、地域に暮らす生活者の理解と健康生活を支援する関係職種の連携・協働力を育成します。

各学年の学修進度に合わせ、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士としての専門性や役割の理解を深めることができるように、管理栄養士に必要な保健医療福祉の基礎科目や専門科目と並行し、1～4年次に看護学科との合同科目として「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」を配置します。

（6）学生が自ら選択して学修内容を深め、進路選択の一助となるよう、履修モデルとして、「食育実践」、「スポーツ栄養」、「臨床栄養」の各コースを配置します。

「食育実践コース」：子どもから大人まで幅広い世代を対象とした健康増進のための栄養教育に関わる選択科目で構成します。

「スポーツ栄養コース」：アスリートや健康運動実践者などを対象とした栄養サポートを行うためのスポーツ栄養に関わる選択科目で構成します。

「臨床栄養コース」：傷病者を対象としたチーム医療を含む栄養ケアを行うための臨床栄養学に関わる選択科目で構成します。

＜教育方法＞

- (1) 各科目の特性によって、講義、演習、実験、実習の授業形態を適切に取り入れ、学修効果の向上を図る教育を展開します。また、一部の科目で習熟度別クラスを設定します。
- (2) 演習・実験・実習科目において、1年次からさまざまなアクティブ・ラーニング手法を導入し、社会性や協調性、主体性、論理的思考を培い、コミュニケーション力の向上を図ります。
- (3) 専門教育の知識基盤となる初年次の理系科目では、基礎学力の向上を促進するため、入学前のプレ学習、入学直後の補習を行います。
- (4) 1～4年次を通して、学年担任を中心に適宜面談を行いながら、ポートフォリオの活用や継続的な学修指導を行い、学修の振り返りと課題の明確化を促し、学びの向上を支援します。

＜評価方法＞

- (1) シラバスに記載されている各科目の明確な評価方法と基準に基づいて到達度を厳格に評価します。
- (2) 各科目とディプロマ・ポリシーとの関連を可視化し、学修成果の到達度を評価します。
- (3) 各年次終了時に、学則に定める進級制度により進級の可否を判断します。
- (4) GPA（グレード・ポイントの設定）制度を導入し、学修状況の評価・判定を行います。
- (5) 学期ごとに授業評価アンケートを実施し、授業の評価とともに授業に対する学生の取り組み姿勢についての自己評価を行います。

3) アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）

求める学生像

- (1) 確かな学力を持った人
基礎学力を有し、学修意欲があり積極的に課題解決に取り組む人。入学後、真摯に積極的な態度で学修に取り組む人。
- (2) 保健医療への関心がある人
人々の健康と生活を支える看護学・栄養学に興味・関心を持っている人。入学後、広い視野から人々の健康生活に興味・関心を持てる人。
- (3) 豊かな社会性を備えている人
社会の一員として責任を持ち、相手の立場になって考え、様々な人と協力し合いながら行動できる人。入学後、積極的に他者とのコミュニケーションを通じて自分の立場を理解し、責任を持って行動できる人。
- (4) 強い向上心を持っている人
保健医療に携わる看護師、保健師、管理栄養士として地域に貢献する意欲を持ち、生涯にわたって学びを継続しようと努力する人。入学後、地域に対して何ができるかを考え、様々な問題の解決に向かって行動できる人。

I-7 履修について

1) 学期

学年を分けて、次の2学期とします。

前期	後期
4月1日～9月30日	10月1日～3月31日

2) 修業年限・在学年限

●修業年限：4年（学則第14条）

4年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得した者に卒業を認定します。

●在学年限：8年（学則第15条）

8年を超えて在学することができません。8年で卒業できない場合は、除籍となります。

●休学期間：1年（学則第34条）

ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができます。通算して4年を超えることができません。

3) 授業科目

授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目および教職に関する科目になります。また、所定の単位数と授業回数が定められており、以下のとおり区分されています。

●必修科目：

卒業までに単位を修得しなければならない科目です。

●選択科目：

卒業までに定められた各区分の必要単位数以上を修得しなければならない科目です。

●選択必修科目：

選択必修科目として指定された科目の中から、必要単位数を修得しなければならない科目です。

4) 科目の履修および登録

●履修登録について

- (1) 履修をする科目は、履修登録をしなければなりません。各年次4月の履修登録期間内に1年分を本人が登録します。
- (2) 期間内に履修登録しなかった場合の履修は認められません。
- (3) 各学期の履修訂正期間に履修科目の変更(追加・取消)を行うことができます。
- (4) 在学する学年より上位学年に配当されている科目を履修登録することはできません。
- (5) 休学中または学費未納の学生は、履修登録および受講、試験の受験はできません。
- (6) 同一曜日で同一時限に2科目以上を重複して履修登録をすることはできません。
- (7) 前年度までに履修し、単位を修得した科目を再度履修登録することはできません。
- (8) 1年間で履修登録可能な単位数には、上限があります(CAP制)。
- (9) 当該年度に単位を修得できず、翌年度以降に再度履修することを再履修といいます。

●CAP制について

大学で学修する講義・演習・実習・実験などの各授業科目には単位数が定められており、単位を修得するためには、大学における授業に加えて予習・復習からなる自己学習が必要です(p. 15を参照)。

本学では、学修すべき授業科目を精選して十分な学修時間を確保し、授業内容を深く修得できることを目的にCAP制を導入しています。CAP制とは、各学年が履修できる一年間の総単位数に上限を設定することで、各学科のディプロマ・ポリシーを達成するための学修を計画的に進められるよう適切に授業科目を履修できることを目的とした制度です。1年間の履修科目登録単位の上限は、学科により異なります。また、4月に履修相談会を実施します。

なお、再履修科目はCAP制の対象外となります。

項目	栄養学科
履修科目登録単位の上限(1年間)	48 単位
CAP制対象外の科目	・ 栄養教諭一種免許取得に必要な科目 ・ 再履修科目
卒業要件単位に含まれない科目	・ 栄養教諭一種免許取得に必要な科目

※編入生、転学科した学生は、「CAP制」の対象外になります。

I-8 授業について

1) 授業時間

授業時間は、1 時限 90 分を原則としています。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
授業時間	9:30～11:00	11:10～12:40	13:30～15:00	15:10～16:40	16:50～18:20

2) 休講・補講・補講等（補習）・集中講義

休講、補講、講義変更等の連絡は、掲示板でお知らせします。

休 講	担当教員等の都合により予定されていた授業が行われないことを「休講」といいます。
補 講	休講等により授業時間が不足した場合、授業回数を補うために「補講」が行われます。
補 講 等 (補習)	大学が認める特段の理由による欠席として扱われた場合に受けることができます。
集中講義	科目によっては、通常の時間割以外のある一定期間（長期休業日等）に集中して授業を行います。これを「集中講義」といいます。

3) 欠席の取扱い

- (1) 欠席により、授業への出席回数不足が生じると、失格となります。
- (2) 授業を欠席した場合は、欠席日を含めた原則 5 日以内に授業欠席届を学務課に提出してください。
- (3) 遅刻、早退などにより授業を 60 分以上受講しない場合は、欠席として取り扱います。
- (4) 下記の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った場合は、「大学が認める特段の理由」による欠席として扱われ、補講等の配慮を受けることができます。その際は、理由を明確にする証明書類を授業欠席届に添付のうえ、欠席日を含めた原則 5 日以内に学務課に提出してください。
- (5) 試験を欠席した場合は、p. 12 を確認してください。
- (6) 実習を欠席した場合は、p. 22 を確認してください。
- (7) その他、疾病等のやむを得ない事由で長期欠席（連続 7 日以上欠席）する場合は、長期欠席届を学務課へ提出してください。
- (8) 「大学が認める特段の理由」以外の授業の欠席については、特段の指示がない限り病院等の診断書は不要です。

大学が認める特段の理由による欠席の適用範囲

欠席事由	許可日数		必要添付書類等
災害、公共交通機関の障害	当該日のみ		・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書
忌引き	配偶者	7日以内	・新聞の死亡欄又は葬儀礼状等 ・保護者による証明書（要押印）
	一親等 父母、子	7日以内	
	二親等 祖父母、兄弟姉妹	3日以内	
インフルエンザ等の感染症による出席停止 （学生便覧参照）	医師の診断書により、出席停止を必要とされた期間に限る		・医師の診断書 ※病名、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要。 ・登校許可証明書（感染症用）等
その他教務委員会が認めた事由	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間に限る		・欠席事由を証明できる書類等
【提出期限】 ① 授業の場合：欠席日を含めた 原則5日以内 に「 授業欠席届 」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。 ② 試験の場合：指定された日時までに「 追試験受験願 」に必要書類を添付し、学務課に提出してください。			

※ 新型コロナウイルス感染予防に関わる欠席については、別途提示します。

4) 欠席回数の自己管理について

- (1) 授業への出席回数不足（授業出席時間数とその授業時間数の3分の2未満）が生じると、単位を修得できません。出欠席回数については、学生各自の自己管理を徹底してください。
- (2) 科目担当教員や学務課から学生に対し、欠席回数に関する警告連絡はしません。出欠席については自己管理を徹底した上で、確認する場合は学生自身が直接科目担当教員に行ってください。

5) 天候による非常事態への対応

悪天候が予想される場合は、必ず下記の時刻に天気予報を確認してください。なお、休講措置については、確認の意味から学生緊急メールに一斉送信します。メールが受信できない学生は、必ず事前に設定を行っておいてください。

(1) 学生の休講措置の条件

午前7時および午前11時の時点で石狩中部（札幌市、江別市）または石狩全域に次のいずれかの特別警報または警報が発令された場合は、午前および午後の授業を休講にします。

確認時刻	休講する時限
午前7時	1・2時限の授業を休講にします。
午前11時	3・4・5時限の授業を休講にします。

(2) 発令警報の種類

- ①「暴風特別警報」または「大雨特別警報」が発令されている場合
- ②「暴風警報」と「大雨警報」が同時発令されている場合
- ③「大雪特別警報」または「大雪警報」が発令されている場合
- ④「暴風雪特別警報」または「暴風雪警報」が発令されている場合

※1. 注意報は該当しません。

※2. 日本気象協会では、石狩全域を次の3つに分類しています。

- ・石狩北部【石狩市、当別町、新篠津村】
- ・石狩中部【札幌市、江別市】
- ・石狩南部【千歳市、恵庭市、北広島市】

- (3) 地震等の災害が発生した時に一斉に緊急メールを送信するので、その指示に従ってください。

6) 授業評価アンケート

履修しているすべての科目について、授業評価アンケートを行います。アンケートの結果は、データ化して記述式回答とともに各科目担当者へフィードバックし、今後の授業改善および組織的教育改善に活用します。集計結果は、掲示および図書館にて開示します。

I-9 試験について

1) 試験の種類・手続き

(1) 定期試験

原則として、学期末（前期末と後期末）の指定された期間に実施する試験です。ただし、学期途中で終了した科目については、学期末以外の時期に実施することがあります。

(2) 追試験

正当な理由によって、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を欠席した場合に実施する試験です。

評点の上限は、定期試験と同様の扱いとします。届け出をし、教務委員会に認められた場合、各科目1回限り受験することができます。

【追試験受験手続きの流れ】

①「大学が認める特段の理由」による欠席（p. 10の欠席事由に該当）

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出		教務委員会で認められた場合	無料で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

②「やむを得ない事由」による欠席

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出		教務委員会で認められた場合	1科目500円で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

※体調不良で定期試験を欠席した場合は、必ず病院等を受診し、診断書を追試験受験願に添付のうえ、学務課へ届け出てください。

診断書には、病名のほか、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要です。

受診日と診断結果、病名のみの診断書、また病院等を受診せず、市販薬の領収書等を添付しても証明書としては認められません。

(3) 再試験

定期試験において不合格となり、再試験の該当となった場合は、指定された日時までに学務課窓口にて、本人が受験手続を行ってください。

受験料は1科目2,200円です。

再試験は、原則として各科目1回限り受験することができます。

なお、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を正当な理由なく欠席した場合は、再試験を受験することはできません。

2) 受験資格

以下のすべてに該当しなければ試験を受けることはできません。受験資格のない者が試験を受けても単位は与えられません。

- (1) 履修登録をしていること。
- (2) 講義、演習、実習および実技における授業出席時間数が、その授業実施時間数の3分の2以上であること。

授業で失格になる欠席回数	
8回実施科目の場合	4回の欠席で受験資格を失います。
15回実施科目の場合	6回の欠席で受験資格を失います。
30回実施科目の場合	11回の欠席で受験資格を失います。

- (3) 授業料その他納付金を納めていること。また、追・再試験の場合は、必要な手続きをしていること。
- (4) 学生証を提示していること。また、追・再試験の場合は、受験許可書または受験票とともに提示すること。

3) 試験の方法

試験は、以下のいずれかの方法で行います。

試験形式	①筆記試験、②口述試験、③レポート試験、④実技試験 ※各科目の試験方法は、シラバスの「評価方法・基準」にて確認してください。
------	---

4) 試験時間

試験の時間割は、必ず掲示で確認してください。

試験時間は、原則1時限60分ですが、科目によっては90分の場合もあります。なお、天候等により試験時間の開始時間が遅くなる場合があります。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
試験時間	9:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00

※また、試験規程第4条第2項に定めるとおり、定期試験は、科目担当責任者が必要と認める場合には、適宜行うことができる。その場合、手続き及び実施は、科目責任者の責任下で行うこととする。

5) 受験心得

受験にあたっては、下記の注意事項に十分留意のうえ、試験に臨んでください。
また、体調管理を行い、早めに登校するよう心がけてください。特に冬は交通機関の乱れが予想されますので注意が必要です。

- (1) 受験者は、必ず学生証を携行し、試験の際は、試験監督者の見やすい通路側の机の上に提示しなければなりません。また、追・再試験の場合は、それぞれの受験許可書または受験票も必ず提示してください。
- (2) 学生証を紛失または忘れた場合は、学務課で仮学生証を発行します。仮学生証は、発行当日のみ有効で発行手数料は、500 円です。
- (3) 指定された座席で受験してください。教室に座席表が貼られるので確認のうえ着席してください。
- (4) 試験開始10分前には着席してください。
- (5) 試験開始後20分以上遅刻した者は、受験を認めません。遅刻による試験時間の延長も行いません。
- (6) 試験開始後30分が経過するまで及び試験終了5分前からは、退室を認めません。
- (7) 試験場における物品の貸借および私語を禁じます。
- (8) 答案用紙は、原則として再配布しません。
- (9) 机の上には、学生証（追試験・再試験受験票）、シャープペンシル、替え芯、鉛筆、消しゴム、鉛筆削り、時計（時計機能だけのもの）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）、科目担当教員から持ち込みを許可されたものを置くことができます。その他、事前に申請し教務委員会から持ち込みの許可を得たものを置くことができます。それ以外の持ち物は、すべて椅子の下に置いてください。
- (10) 携帯電話や音の出る機器は、電源を切り、かばんに入れてください。
- (11) 答案用紙を提出する場合は、試験監督者の指示する場所に提出してください。
- (12) 体調不良、トイレに行きたい場合などは、挙手をして試験監督者に申し出てください。ただし、原則再入室はできません。
- (13) その他、試験場においては、すべて試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為と同様に扱います。
- (14) 解答用紙には、必ず学籍番号と氏名を記載してください。

6) 不正行為

不正行為または疑わしい行為（試験監督者の指示に従わない者も含む）は、即時退室を命じ、それ以降の受験を停止するとともに、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第 46 条により、懲戒処分を行います。

＜不正行為の具体例＞

- (1) 問題用紙配付中、配付後及び回収中に、カンニング（ノートやテキストなどを机上等に置いたり見たりすること、他の学生の答案等を見ること、人から答えを教わること）や話をする事。
- (2) 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- (3) 回収予定の問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- (4) 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- (5) 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- (6) 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- (7) 「解答やめ」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

I-10 単位・成績について

1) 単位について

単位とは、科目を修得するために必要な学習量を示すもので、単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとしています。例えば、1単位の講義の単位を修得するためには、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習の自己学習が伴った45時間の学修をし、授業実施時間数の3分の2以上出席して試験等の評価を受けて合格した場合に授与されます。本学では90分の授業で2時間相当の授業時間とみなしており、90分の講義に対して2時間の予習と2時間の復習が必要です。授業時間だけではなく、自学自習時間として、予習・復習を行う必要がありますので、以下に例を記載します。

(1) 授業形態ごとの単位の計算方法

単位数は、各授業科目に定められており、授業形態によって必要な学習時間が異なります。本学では、次の基準により計算しています（学則第24条）。

講義・演習	講義と演習は、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とします。
実験・実習・実技	実験・実習および実技は、45時間をもって1単位とします。
卒業研究等	卒業研究等の授業科目は、その学修の成果を考慮して単位数を定めます。

(2) 単位と自学自習時間について

区分	具体例	必要学修時間	授業時間	授業時間以外の 自学自習時間
講義	2単位の講義科目を修得するための学修時間	90時間 (45時間×2単位)	30時間 (2時間×15回)	60時間 (4時間×15回)
演習	1単位の演習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1単位)	30時間 (2時間×15回)	15時間 (1時間×15回)
実習	1単位の実習科目を修得するための学修時間	45時間 (45時間×1単位)	45時間 (3時間×15回)	—

2) 単位修得に関する事項

(1) 成績評価

- ① 成績評点は100点満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とします。
- ② 成績は、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）で表示され、可以上を合格とします。
- ③ 追試験の評価は100点満点とし、再試験の評価上限は60点とします。
- ④ 修得した科目（単位）の成績評価は、成績表に記載されます。成績表には、過去に修得したすべての科目の成績が記載されています。

(2) GPA制度

本学はGPA制度を導入しています。GPA制度とは、学生が履修登録した全科目の成績評価、評定に対して点数（グレード・ポイント（以下GP））を設定し、履修登録科目単位数を基に平均値を算出し、履修計画や学修指導、保健師国家試験受験資格希望者選抜、就職活動の際の学校推薦者選抜などに役立てるものです。

GPAの最高値は「4.00」、最低値は「0.00」となります。

① 成績評価とG P

評価区分	評定（英語表記）	付加するG P
100～90 点	秀（S）	4
89～80 点	優（A）	3
79～70 点	良（B）	2
69～60 点	可（C）	1
60 点未満（59～0 点）	不可（D）	0
出席時間数の 2 / 3 に満たない者	失格（P）	0
学期途中での休学、退学	評定不能（W）	0
既修得単位認定科目	認定（N）	G P Aの対象としない

② G P Aの算出方法

上表の「付加するG P」を基に計算を行います。

$$G P A = \frac{（「秀」の単位数 \times 4 + 「優」の単位数 \times 3 + 「良」の単位数 \times 2 + 「可」の単位数 \times 1）}{\text{総履修登録単位数}}$$

※算出された数値の小数点第3位以下は切り捨てる。

③ G P Aに関する注意事項

- 転学科（栄養学科）については、単位認定した科目の成績は「認定」となることから、G P A算出の対象になりません。
- 履修訂正期間内に取り消し手続きを行わなかった場合や履修放棄した場合などは、不合格科目もG P Aの算出に含まれます。履修をやめた科目や不必要な科目は、必ず履修登録の訂正期間に取り消しの手続きを行ってください。
- 累積成績に基づくG P Aを算出する際に、再履修科目が合格した場合は、当該科目を履修する以前に不合格となった科目（単位数）は計算式（分母）から除きます。
- 入学前に修得した単位のうち、本学で既修得単位と認定した科目は、G P Aの対象にはなりません。

（3）他大学等における科目の履修等（学則第26条参照）

- ① 教育上有益と認める時は、他大学等との協議に基づき、当該他大学等の科目を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度として卒業要件単位として認められる場合があります。

② 入学前の既修得単位の認定（学則第28条参照）

入学する前の大学または短期大学等において修得した単位について、審査を受け承認されると本学の科目として単位が認定されます。なお、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えることはできません。詳細は、「既修得単位認定規程」をご覧ください。

（4）転学科における科目の履修等

転学科前に在籍していた学科で履修した科目の単位認定は、該当科目において行われます。2年次以降の科目の履修については、担任または学務課で相談してください。

3) 成績通知

最終評価が記載された成績表は、学期末の試験終了後に学生および保護者に通知します。

保護者への送付時期

- 前期：9月下旬
- 後期：3月下旬

Ⅱ 栄 養 学 科

Ⅱ－１ 栄養学科の臨地実習（先修条件）

１）実習の先修条件

臨地実習に係る科目を履修するためには、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目があり、『先修条件』として次のとおり細則で定めています。

臨地実習を受講する際は、各実習のオリエンテーションでの説明をよく聞いて臨んでください。臨地実習先（病院や施設など）や時期は、科目によって異なります。

科 目	先修条件 単位を修得しなければならない科目
給食経営管理論実習Ⅱ（３年次前期）	給食経営管理論Ⅰ（２年次前期）
	給食経営管理論Ⅱ（２年次後期）
	給食経営管理論実習Ⅰ（２年次後期）
公衆栄養学実習Ⅱ（４年次通年）	公衆栄養学Ⅰ（３年次前期）
	公衆栄養学Ⅱ（３年次後期）
	公衆栄養学実習Ⅰ（３年次後期）
給食経営管理論実習Ⅲ（４年次通年）	給食経営管理論実習Ⅱ（３年次前期）
臨床栄養学実習Ⅳ（４年次通年） 臨床栄養学実習Ⅴ（４年次通年）	臨床栄養学Ⅰ（２年次後期）
	臨床栄養学Ⅱ（３年次前期）
	臨床栄養学実習Ⅰ（３年次前期）
	臨床栄養学Ⅲ（３年次後期）
	臨床栄養学実習Ⅱ（３年次後期）
	給食経営管理論実習Ⅱ（３年次前期）

2) 臨地実習における追実習と再実習について

2022 年度以降入学生対象

(追実習)

臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・ 追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後5日以内に学務課に提出してください。
- ・ 所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目1回限り実習することができます。
- ・ 追実習は履修登録した年度の当該科目の開講期間内に追実習期間を設定し実施します。
- ・ 追実習は当該科目の単位認定に必要な日数分すべて行います。
- ・ 単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要です。
- ・ 評価は、通常の単位認定評価と同様とします。

(再実習)

臨地実習における再実習とは、不合格(60点未満)となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・ 栄養学科の再実習は、履修登録した年度の当該科目の開講期間内に実施します。
- ・ 再実習を受けようとする学生は、別途指定された期日までに必要な手続きを学務課にて行わなければなりません。
- ・ 再実習料は1科目 2,200 円です。
- ・ 当該年度の当該科目の開講期間内に実施しない実習科目は、次年度に再度履修登録を行い実習に臨まなければなりません。
- ・ 単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要です。
- ・ 再実習の評価の上限は可(60点)とします。ただし、次年度に再度履修登録した科目の評価は通常の単位認定と同様とします。

2021 年度以前入学生対象

(追実習)

臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・ 追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後5日以内に学務課に提出してください。
- ・ 所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目1回限り実習することができます。
- ・ 追実習は原則として履修登録した年度内の全実習終了後、実習施設との調整可能な期間に実施します。ただし、調整が不可能な場合は次年度に実施します。
- ・ 追実習の期間および日程、内容は当該科目欠席日数および学習状況により決定します。
- ・ 単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要です。
- ・ 評価は、通常の単位認定評価と同様とします。

(再実習)

臨地実習における再実習とは、不合格(60点未満)となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいいます。

- ・ 栄養学科の再実習は、履修登録した当該年度内に行うことはできません。
- ・ 当該年度内に単位が修得できなかった実習科目は、次年度に再度履修登録を行い実習に臨まなければなりません。
- ・ 単位認定のためには、原則3分の2以上の出席が必要です。
- ・ 評価は、通常の単位認定評価と同様とします。

Ⅱ-2 栄養学科の卒業要件・進級要件

1) 卒業要件

4年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得していることが必要です。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目	小計
必修単位	17 単位	40 単位	49 単位	106 単位
選択単位	9 単位以上	4 単位以上	7 単位以上 ※選択必修 1 単位含む	20 単位以上
選択必修単位 ※	—	—	「給食経営管理論実習Ⅲ」 または「公衆栄養学実習Ⅱ」 のどちらか 1 単位を選択必修科目として修得すること	
小 計	26 単位以上	44 単位以上	56 単位以上	126 単位以上
合 計	126 単位以上			

※選択必修科目として修得した科目は選択科目には振り替えられないので、注意すること。

2) 進級要件

上級学年に進級するためには、次の要件を満たしていることが必要です。

● 2 年次進級

2022 年度以降入学生対象

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
1 年以上	—	1 年次に配当されている必修科目 20 単位以上	

2021 年度入学生対象

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
1 年以上	—	—	—

● 3 年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
2 年以上	2 年次までに配当されている必修科目 17 単位 選択科目 6 単位以上	2 年次までに配当されている必修科目 54 単位以上	

● 4 年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
3 年以上	—	3 年次までに配当されている必修科目 77 単位以上	

※編入生については、「4 年次進級要件」は対象外になります。

Ⅱ-3 栄養学科の資格の取得

1) 栄養士免許

本学の保健医療学部栄養学科を卒業した者は、栄養士免許を取得できます。

(1) 免許証申請手続きの流れ

4年次に申請手続きを行います。

時期（予定）	内 容
12月	栄養士免許申請書類の提出・点検
2月	卒業判定会議で卒業の認定
3月	北海道（庁）から栄養士免許証を受理
3月	卒業式で栄養士免許証を交付

(2) 免許申請について

免許の申請は、大学が一括で行います。

2) 管理栄養士国家試験受験資格

本学の保健医療学部栄養学科を卒業した者は、管理栄養士の国家試験受験資格を取得することができます。

(1) 国家試験申請手続きの流れ

4年次に申請手続きを行います。

時期（予定）	内 容
11月	国家試験ガイダンスの実施
12月	大学から願書を一括提出
2月	卒業判定会議で卒業の認定
3月	管理栄養士国家試験
3月	国家試験合格発表

(2) 免許申請について

国家試験合格後の免許の申請は、各自で手続きすることになります。

3) 栄養教諭一種免許状

私たち人間は、食物を摂取し、「栄養」という営みに役立つ食物の成分を体内に取り入れて生命を維持しています。したがって、健康的に生きるためには、食生活で「栄養」に有用な食物成分を摂取することが不可欠です。しかし、近年、食生活の乱れが顕在化し、児童・生徒においても偏った食物成分の摂取による肥満や痩身が増加などの問題が生じ、家庭だけではなく、学校や地域においても健全な食習慣を身につけるための食育を推進していく必要性が高まり、2005 年に栄養教諭制度が創設されました。

栄養教諭とは、学校（小学校・中学校・特別支援学校等）において、食育を推進する重要な役割を担う教諭で、「教育に関する資質」と「栄養に関する専門性」を併せ持ち、学校給食を生きた教材として活用し、効果的な教育を行うことが期待されています。

栄養教諭の職務内容には、「食に関する指導」と「学校給食の管理」があります。「食に関する指導」とは、①児童生徒への個別的な相談指導、②児童生徒への教科・特別活動等における教育指導、③食に関する教育指導の連携・調整です。「学校給食の管理」とは、①学校給食に関する基本計画の策定への参画、②栄養管理（基準に適した献立の作成）、③衛生管理（点検、指導等）、④学校給食の検食、検査用保存食の管理、⑤使用食材料の選定、購入、保管等、⑥調理従事者への指導等が示されています。

所定の手続きを経た上で、必要な科目の単位を修得して、本学の保健医療学部栄養学科を卒業した者は、「栄養教諭一種免許状」を取得できます。免許状取得に必要な科目と単位数は、別表1のとおりです。

別表 1 栄養教諭一種免許状取得に必要な科目及び単位数

栄養に係る教育に関する科目（４単位）

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目		
各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
			必修	選択
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 食生活に関する歴史的及び文化的事項	4	食生活論	2	
食に関する指導の方法に関する事項		食育指導論	2	

教職に関する科目（18 単位）

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
				必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理	1	
	教職の意義及び教育の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度論	1	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	1	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育論	1	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		特別活動・総合的学習指導論	1	
	生徒指導の理論及び方法		教育方法論	1	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		生徒指導論	1	
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	教育相談論	2	
	教職実践演習	2	栄養教育実習事前・事後指導	1	
			栄養教育実習	1	
			教職実践演習	2	

教員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目（８単位）

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目		
各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
			必修	選択
日本国憲法	2	法と人権	2	
体育	2	スポーツ理論	1	
		スポーツ科学と運動	1	
外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ（基礎）	1	
		英語Ⅱ（会話）	1	
情報機器の操作	2	情報処理	1	
		情報リテラシー	1	

4) 食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）

本学の保健医療学部栄養学科を「有機化学」の単位を修得し卒業した者は、食品衛生管理者、食品衛生監視員の任用資格を取得することができます。

食品衛生管理者は、食品衛生法第48条の規定により、製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物であって、食品衛生法施工令で定めるものの製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置かなければならないことになっています。営業者は、本任用資格者を食品衛生管理者として置き、15日以内に都道府県知事（保健所）に届け出を行います。

なお、食品衛生監視員は公務員で、国家公務員の場合は、輸入食品の安全監視および指導（輸入食品監視業務）、輸入食品等に係る微生物検査と理化学検査（検査業務）、検疫感染症の国内への侵入防止（検疫衛生業務）などの業務に従事します。

地方公務員の場合は、保健所等に勤務し、飲食店等の営業施設の許可事務と監視および指導、食品検査、食品に関する苦情や相談への対応などを行います。

北海道の場合は、「食品衛生監視等の業務に従事する管理栄養士」など、職種で募集を行っています。年度によって採用募集方法の変更が生じますので北海道のHPで確認してください。

食品衛生管理者・監視員に係る資格取得指定科目一覧表

食品衛生法施行規則 別表第十四（第五十条関係）					
学 科	科 目	本学履修科目	単 位 数		開講 年次
			必修	選択	
化学関係	有機化学	有機化学		2	1
	無機化学	基礎化学	2		1
生物化学関係	生物化学	生化学Ⅰ	2		1
		生化学Ⅱ	2		2
		生化学実験	1		2
	食品化学	食品科学Ⅰ	2		1
		食品科学Ⅱ	2		1
		食品科学実験Ⅰ	1		1
		食品科学実験Ⅱ	1		3
	微生物関係	微生物学	微生物学	2	
微生物学実験			1		1
公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2		2
		公衆衛生学実習	1		2
	食品衛生学	食品衛生学	2		2
		食品衛生学実験	1		2
		合計単位数	22	2	—

食品衛生法施行規則 別表第十五（第五十条関係）					
学 科	科 目	本学履修科目	単 位 数		開講 年次
			必修	選択	
その他の関連科目	病理学	病理学	2		2
	産業医学	健康管理概論	2		2
	栄養化学	臨床栄養学Ⅱ	2		3
	栄養学	基礎栄養学	2		1
		基礎栄養学実験	1		2
		応用栄養学Ⅰ	2		2
		応用栄養学Ⅱ	2		2
		応用栄養学Ⅲ	2		3
		応用栄養学実習	1		3
	衛生管理学	給食経営管理論Ⅰ	2		2
		給食経営管理論Ⅱ	2		2
		給食経営管理論実習Ⅰ	1		2
		合計単位数	21	0	—

総修得可能単位数	45
----------	----

Ⅱ-4 教育目標とディプロマ・ポリシー

2021 年度以降入学生

栄養学科

本学の教育目標	学科の教育目標	学科ディプロマ・ポリシー
1. 人間力を涵養し、社会の一員としての社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。	1. 自己の良心と社会規範に従い、自己を統制し、責任ある行動のできる栄養専門職者を育成する。	DP1-1 社会の一員として社会規範を守り、自己統制力および責任ある行動力を身につけている。
	2. 目的に適った情報の収集と論理的な思考・判断を行い、適切に表現できる栄養専門職者を育成する。	DP1-2 情報収集力・論理的思考力・多様な表現力を総合的に身につけている。
2. 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。	自然と共生するすべての生命を尊び、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる栄養専門職者を育成する。	DP2 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる能力を身につけている。
3. 人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。	人間・環境・健康を体系的に理解し、健康生活に関わる栄養と食について、社会的視点から多角的に捉えることのできる栄養専門職者を育成する。	DP3 人間・環境・健康に関する知識を活用し、健康生活に関わる栄養と食の社会的な諸課題を多角的に捉える能力を身につけている。
4. 保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度等を有し、実践力のある人材を育成する。	1. 栄養管理の対象となる個人・家族・集団の特性を理解し、人々の健康生活に適した栄養ケアをマネジメントできる栄養専門職者を育成する。	DP4-1 栄養管理の対象となる人々の健康レベルと生活特性に適した栄養ケアのマネジメント力の基礎を身につけている。
	2. 地域社会の栄養と食生活に関する健康課題を評価・判定し、課題解決に向けた効果的な栄養と食に関する生活支援を実践できる栄養専門職者を育成する。	DP4-2 地域社会における栄養と食生活に関する健康課題を評価・判定し、課題解決に向けた効果的な栄養教育や食生活の支援のための実践力の基礎を身につけている。
5. 社会生活や保健医療福祉で関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。	社会と保健医療福祉分野での管理栄養士の役割と責務を認識し、多職種および関係者と連携・協働できる栄養専門職者を育成する。	DP5 保健医療福祉を担う管理栄養士の役割と責務に基づき、対象者の QOL の向上に向けて多職種および関係者と連携・協働できる能力の基礎を身につけている。
6. 保健医療福祉の諸課題への探求心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。	保健医療福祉の動向を捉え、管理栄養士としての専門性を探求し、将来にわたり能力向上のために自己研鑽し続ける栄養専門職者を育成する。	DP6 保健医療福祉および栄養学の発展を志向し、栄養専門職としての専門的能力を継続的に向上させるために必要な能力を身につけている。

Ⅱ－５ 教育課程表 （卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）

2021年度以降入学生 栄養学科

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								卒業教諭 一種免許 取得希望者	卒業必要単位数
						1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	講義	1		15									
		論理的思考	講義	2		30									
		情報処理	演習	1		30								●	
		統計分析法	演習	1			30								
		情報リテラシー	演習	1			30							●	
		生物学	講義		1	15									
	言語と表現力	基礎化学	講義	2		30									
		英語Ⅰ(基礎)	演習	1		30								●	
		英語Ⅱ(会話)	演習	1			30							●	
		英語Ⅲ(読解)	演習		1			30							
		英語Ⅳ(総合)	演習		1				30						
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	演習	1		30									
	人間と社会	表現技法Ⅱ(討議・発表)	演習	1			30								
		心理学	講義	2		30									
		倫理学	講義	1		15									
		生態学	講義		1	15									
		スポーツ科学と運動	演習		1		30							●	
		スポーツ理論	講義		1		15							●	
		地域社会文化論	講義		2		30								
		社会貢献と活動	演習		1			30							
		生活環境論	講義		2			30							
		現代社会論	講義	2				30							
		国際社会論	講義		1				15						
		法と人権	講義		2		30							●	
		教育学	講義		1				15						
		文学と人間	講義		1				15						
小 計 (26科目)				17	16										
専門基礎科目	社会・環境と健康	生涯発達論	講義		1		15								
		人間関係論	講義	1		15									
		生命倫理	講義		1			15							
		医療概論	講義		2			30							
		健康管理概論	講義	2					30						
		公衆衛生学	講義	2				30							
		公衆衛生学実習	実習	1					45						
		保健医療福祉行政論	講義	1							15				
	人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	特別総合科目	演習		1		30								
		形態機能学Ⅰ	講義	2			30								
		形態機能学Ⅱ	講義	2				30							
		形態機能学実習Ⅰ	実習	1					45						
		形態機能学実習Ⅱ	実習	1						45					
		有機化学	講義		2		30								
		病理学	講義	2					30						
		微生物学	講義	2				30							
		微生物学実験	実験	1				45							
		生化学Ⅰ	講義	2				30							
		生化学Ⅱ	講義	2					30						
		生化学実験	実験	1					45						
	食べ物と健康	病態診療学Ⅰ	講義	2						30					
		病態診療学Ⅱ	講義	2							30				
		食品科学Ⅰ	講義	2			30								
		食品科学Ⅱ	講義	2				30							
		食品科学Ⅲ	講義		2				30						
		食品科学実験Ⅰ	実験	1				45							
		食品科学実験Ⅱ	実験	1						45					
		食品機能学	講義		2							30			
		食品衛生学	講義	2					30						
		食品衛生学実験	実験	1					45						
	小 計 (33科目)				40	11									

【基礎教育科目】
必修科目17単位
選択科目9単位以上

計26単位以上修得

【専門基礎科目】
必修科目40単位
選択科目4単位以上

計44単位以上修得

卒業要件及び履修方法
〔卒業要件〕 基礎教育科目では26単位以上（必修17単位および選択科目9単位以上）、専門基礎科目44単位以上（必修40単位および選択科目4単位以上）、専門科目56単位以上（必修49単位および選択必修科目「給食経営管理論実習Ⅲ」または「公衆栄養学実習Ⅱ」のうち1単位ならびに選択科目6単位以上）を履修し、合計126単位以上を修得していること。但し、栄養教諭一種免許取得に必要な科目は含めない。 ※原則、基礎教育科目のうち選択科目の履修は開講年次とするが、当該科目の単位修得状況により下級年次配当科目の履修を認める。 〔資格取得要件及び履修方法〕 1年間の履修科目の登録の上限は、48単位とする。但し、栄養教諭一種免許取得に必要な科目は含めない。 〔選択必修科目〕 専門科目の単位数に△がついた科目で、どちらか1科目を必ず修得すること。また、この科目を選択科目に振り替えることはできない。

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								栄養教諭 一種免許 取得希望者	卒業必要単位数
						1年		2年		3年		4年			
						必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	管理栄養士論	管理栄養士論	講義	1		15									
		管理栄養士総合演習	演習	1								30			
	基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2			30								
		基礎栄養学実験	実験	1				45							
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	講義	2				30							
		応用栄養学Ⅱ	講義	2					30						
		応用栄養学Ⅲ	講義	2						30					
		応用栄養学実習	実習	1							45				
		免疫と栄養	講義	1							15				
		スポーツ栄養学総論	講義	1					15						
		スポーツ栄養学(基礎)	講義	1						15					
		スポーツ栄養学(応用)	講義	1							15				
		スポーツ栄養学演習	演習	1						30					
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	講義	2				30							
		栄養教育論Ⅱ	講義	2					30						
		栄養教育論Ⅲ	講義	2						30					
		栄養教育論実習	実習	1							45				
		栄養カウンセリング演習	演習	1						30					
		食生活論	講義	2						30				●	
		食育指導論	講義	2							30			●	
		食育農場演習	演習	1		30									
		食育実践演習	演習	1				30							
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	講義	2					30						
		臨床栄養学Ⅱ	講義	2						30					
		臨床栄養学Ⅲ	講義	2							30				
		臨床栄養学Ⅳ	講義	2								30			
		臨床栄養学実習Ⅰ	実習	1						45					
		臨床栄養学実習Ⅱ	実習	1							45				
		臨床栄養学実習Ⅲ	実習	1								45			
		栄養サポートチーム論	講義	1									15		
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	講義	2						30					
		公衆栄養学Ⅱ	講義	2							30				
		公衆栄養学実習Ⅰ	実習	1							45				
		地域栄養活動演習	演習	1								30			
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	講義	2				30							
		給食経営管理論Ⅱ	講義	2					30						
		給食経営管理論実習Ⅰ	実習	1					45						
	総合演習	総合演習Ⅰ	演習	1						30					
		総合演習Ⅱ	演習	1								30			
	統合科目	英語文献講読演習	演習	1							30				
		卒業研究	演習	2								60			
		地域連携ケア論Ⅰ	講義	1			15								
		地域連携ケア論Ⅱ	講義	1				15							
		地域連携ケア論Ⅲ	講義	1					15						
		地域連携ケア論Ⅳ	講義	1									15		
	臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	実習	1						45					
		給食経営管理論実習Ⅲ	実習	△1								45			
		公衆栄養学実習Ⅱ	実習	△1								45			
		臨床栄養学実習Ⅳ	実習	2								90			
		臨床栄養学実習Ⅴ	実習	2								90			
小計(50科目)				49	21										
合計(109科目)				106	48									合計126単位以上	
栄養教諭一種免許取得に必要な科目	教職概論	講義	2	30									●		
	教育原理	講義	1		15								●		
	教育制度論	講義	1		15								●		
	教育課程論	講義	1			15							●		
	教育方法論	講義	1			15							●		
	道徳教育論	講義	1			15							●		
	特別活動・総合的学習指導論	講義	1				15						●		
	生徒指導論	講義	1				15						●		
	特別支援教育概論	講義	1						15				●		
	教育心理学	講義	2					30					●		
	教育相談論	講義	2						30				●		
	栄養教育実習事前・事後指導	実習	1								45		●		
	栄養教育実習	実習	1								45		●		
	教職実践演習	演習	2									60	●		
合計(14科目)					18										

Ⅱ-6 教育課程と学科ディプロマ・ポリシーの関連表

科目区分	授業科目の名称	学科ディプロマ・ポリシー							
		◎：強く関連するディプロマ・ポリシー、○：関連するディプロマ・ポリシー							
		DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
基礎 教育 科目	学習と思考力	学びの理解	○	◎	○	○		○	○
		論理的思考		◎					
		情報処理		◎					
		統計分析法		◎					
		情報リテラシー	○	◎					
		生物学			◎	○			
	言語と表現力	基礎化学			◎	○			
		英語Ⅰ(基礎)	○	◎	○				
		英語Ⅱ(会話)	○	◎	○				
		英語Ⅲ(読解)		◎					
		英語Ⅳ(総合)		◎					
		表現技法Ⅰ(読解・分析)	○	◎					
	人間と社会	表現技法Ⅱ(討議・発表)	○	◎					
		心理学	○	◎	○	○			
		倫理学	◎	○		○			
		生態学		○	◎	○			
		スポーツ科学と運動	◎	○		○		○	
		スポーツ理論		○		◎			
		地域社会文化論		○	◎	○			
		社会貢献と活動	◎	○	○				
		生活環境論	○	○	◎	○			
		現代社会論	○	○	◎	○			
		国際社会論	○	○	◎	○			
		法と人権	◎	○	◎	○			
		教育学	◎	○	○				
		文学と人間	○	○	◎				
	小 計 (26科目)								
専門 基礎 科目	社会・環境と健康	生涯発達論			◎	○			
		人間関係論	◎		○	○			
		生命倫理			◎				
		医療概論	○			◎		○	○
		健康管理概論				◎			
		公衆衛生学				◎			
		公衆衛生学実習		◎		○		○	
		保健医療福祉行政論				○	○	◎	
		特別総合科目	◎	○		○			
	人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ		○	○	◎			
		形態機能学Ⅱ		○	○	◎			
		形態機能学実習Ⅰ	○	○	○	◎		○	
		形態機能学実習Ⅱ	○	○	○	◎		○	
		有機化学		○		◎			
		病理学		○		◎			
		微生物学		○		◎			
		微生物学実験	○	○		◎		○	
		生化学Ⅰ		○		◎			
		生化学Ⅱ		○		◎			
		生化学実験	○	○		◎		○	
		病態診療学Ⅰ		○		◎			
		病態診療学Ⅱ		○		◎			
	食べ物と健康	食品科学Ⅰ		○	○	◎			○
		食品科学Ⅱ		○	○	◎			○
		食品科学Ⅲ		○	○	◎			○
		食品科学実験Ⅰ	○	○	○	◎		○	○
		食品科学実験Ⅱ	○	○	○	◎		○	○
		食品機能学		○		◎			○
		食品衛生学		○		◎			○
		食品衛生学実験	○	○		◎		○	○
		調理学		○	○	◎			○
		調理学実習Ⅰ	○	○	○	◎		○	○
		調理学実習Ⅱ	○	○	○	◎		○	○
	小 計 (33科目)								

科目区分		授業科目の名称	学科ディプロマ・ポリシー							
			◎：強く関連するディプロマ・ポリシー、○：関連するディプロマ・ポリシー							
			DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
専門科目	管理栄養士論	管理栄養士論	◎		○	○				
		管理栄養士総合演習				◎	◎	◎	○	○
	基礎栄養学	基礎栄養学				◎				
		基礎栄養学実験				◎				
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ				○	◎	○		
		応用栄養学Ⅱ				○	◎	○		
		応用栄養学Ⅲ				○	◎	○		
		応用栄養学実習				○	◎	○		○
		免疫と栄養				◎				
		スポーツ栄養学総論				○	◎			
		スポーツ栄養学(基礎)				○	◎			
		スポーツ栄養学(応用)				○	◎			
	スポーツ栄養学演習				○	◎		○	○	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ			○	◎	○	○		
		栄養教育論Ⅱ				◎	○	○		
		栄養教育論Ⅲ				○	◎	○		
		栄養教育論実習				○	◎	◎		○
		栄養カウンセリング演習			○	○	◎	○		
		食生活論				◎	○		○	
		食育指導論				◎	○			
		食育農場演習	○		○	◎				
	食育実践演習	○		○	◎		◎		○	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	○		○	○	◎			
		臨床栄養学Ⅱ				○	◎		○	
		臨床栄養学Ⅲ				○	◎		○	
		臨床栄養学Ⅳ				○	◎		○	
		臨床栄養学実習Ⅰ				○	◎		◎	
		臨床栄養学実習Ⅱ				○	◎		◎	
		臨床栄養学実習Ⅲ				○	◎		◎	○
		栄養サポートチーム論				○	○		◎	○
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	○	○		◎		◎		
		公衆栄養学Ⅱ		○		○		◎		◎
		公衆栄養学実習Ⅰ		◎		○		◎		
		地域栄養活動演習		○		○		◎		
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	◎			○	○			
		給食経営管理論Ⅱ				◎	○			
		給食経営管理論実習Ⅰ				○	◎		○	
	総合演習	総合演習Ⅰ	◎			○			○	○
		総合演習Ⅱ		○	○	○	○	○	◎	◎
	統合科目	英語文献講読演習		◎		○				
		卒業研究	○	○		◎				○
		地域連携ケア論Ⅰ	○	○	○			○	◎	
		地域連携ケア論Ⅱ	○	○	○	○		○	◎	
		地域連携ケア論Ⅲ	○	○	○	○		○	◎	
		地域連携ケア論Ⅳ	○	○	○	○		○	◎	○
	臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ				◎	◎		○	○
		給食経営管理論実習Ⅲ				○	◎	○	○	◎
公衆栄養学実習Ⅱ					◎		○	○	◎	
臨床栄養学実習Ⅳ		○			◎	○		◎	○	
臨床栄養学実習Ⅴ		○			◎	○		◎	○	
小計（50科目）										
合計（109科目）										

Ⅱ－７ 科目配置表

2021年度以降入学生

栄養学科

科目区分			1 年次				2 年次						
			前期		単位	後期		単位	前期		単位	後期	
基礎 教育 科目	基礎 教育 科目	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1							
			論理的思考	2	情報リテラシー	1 *							
	情報処理	1 *											
	生物学	(1)											
	基礎化学	2											
		言語と表現力	英語Ⅰ(基礎)	1 *	英語Ⅱ(会話)	1 *	英語Ⅲ(読解)	選	(1)	英語Ⅳ(総合)	選	(1)	
			表現技法Ⅰ(読解・分析)	1	表現技法Ⅱ(討議・発表)	1							
	人間と社会	心理学	心理学	2	スポーツ科学と運動	選	(1) *	社会貢献と活動	選	(1)	国際社会論	選	(1)
倫理学			1	スポーツ理論	選	(1) *	生活環境論	選	(2)	教育学	選	(1)	
生態学			選	(1)	地域社会文化論	選	(2)	現代社会論	2	文学と人間	選	(1)	
				法と人権	選	(2) *							
	小 計 (内選択科目計)		10科目 (選択2科目)	13 (2)	8科目 (選択4科目)	10 (6)	4科目 (選択3科目)	6 (4)	4科目 (選択4科目)	4 (2)			
専門 基礎 科目	専門 基礎 科目	社会・環境 と健康	人間関係論	1	生涯発達論	選	(1)	生命倫理	選	(1)	健康管理概論	2	
								医療概論	選	(2)	公衆衛生学実習	1	
		特別総合科目【通】	選	特別総合科目【通】	選	(1)	公衆衛生学	2					
	人体の構造と 機能及び疾病の 成り立ち	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	形態機能学実習Ⅰ	1	形態機能学実習Ⅱ	1				
		有機化学	選	(2)	微生物学	2	病理学	2	病態診療学Ⅰ	2			
				微生物学実験	1	生化学Ⅱ	2						
				生化学Ⅰ	2	生化学実験	1						
	食べ物と健康	食品科学Ⅰ	2	食品科学Ⅱ	2	食品衛生学	2	食品科学Ⅲ	選	(2)			
		調理学	2	食品科学実験Ⅰ	1	食品衛生学実験	1						
		調理学実習Ⅰ	1	調理学実習Ⅱ	1								
	小 計 (内選択科目計)		7科目 (選択2科目)	10 (2)	9科目 (選択2科目)	13 (2)	9科目 (選択2科目)	14 (3)	5科目 (選択1科目)	8 (2)			
	専門 科目	専門 科目	管理栄養士論	管理栄養士論	1								
			基礎栄養学			基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1				
			応用栄養学					応用栄養学Ⅰ	2	応用栄養学Ⅱ	2		
										スポーツ栄養学総論	選	(1)	
			栄養教育論	食育農場演習【通】	選	食育農場演習【通】	選	(1)	栄養教育論Ⅰ	2	栄養教育論Ⅱ	2	
							食育実践演習【通】	選	食育実践演習【通】	選	(1)		
臨床栄養学									臨床栄養学Ⅰ	2			
公衆栄養学													
給食経営管理論							給食経営管理論Ⅰ	2	給食経営管理論Ⅱ	2			
									給食経営管理論実習Ⅰ	1			
小 計 (内選択科目計)		2科目 (選択1科目)	1	3科目 (選択1科目)	4 (1)	1科目 (選択1科目)	8	7科目 (選択2科目)	11 (2)				
合 計		19科目 (選択5科目)	24 (4)	20科目 (選択7科目)	27 (8)	14科目 (選択7科目)	28 (7)	16科目 (選択15科目)	23 (15)				
栄養教諭一種免許所得 申請に必要な科目		教職概論	選	(2)	教育原理 教育制度論	選 選	(1) (1)	教育課程論 教育方法論 道徳教育論	選 選 選	(1) (1) (1)	特別活動・総合的学習指導論 生徒指導論 特別支援教育概論	選 選 選	(1) (1) (1)
合 計		1科目 (選択1科目)	2 (2)	2科目 (選択2科目)	2 (2)	3科目 (選択3科目)	3 (3)	3科目 (選択3科目)	3 (3)				

- 「選」は選択科目。単位数の（数字）は選択科目、その他は必修科目である。
- 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
- 【通】は通年科目。通年科目の単位数は該当年次の後期に単位数が記載されている（通年科目の前期の単位数には数字を記載していない）。
- 「※」科目は、栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目にも該当。

科目配置表

科目区分			3年次				4年次				単位計 (内選択計)	
			前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
基礎教育科目	基礎教育科目	学習と思考力								9 (選択1)		
		言語と表現力								6 (選択2)		
		人間と社会								18 (選択13)		
	小 計			0		0		0		0	33 (選択16)	
専門教育科目	専門基礎科目	社会・環境と健康			保健医療福祉行政論	1					12 (選択5)	
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち		2							22 (選択2)	
		食べ物と健康		1			食品機能学	選 (2)			17 (選択4)	
		小 計		2科目	3	1科目	1	1科目 (選択1科目)	2 (2)		0	51 (選択11)
	専門科目	管理栄養士論					管理栄養士総合演習【通】		管理栄養士総合演習【通】		1	2
		基礎栄養学										3
		応用栄養学	応用栄養学Ⅲ	2	応用栄養学実習	1 (1)						12 (選択5)
			スポーツ栄養学(基礎)	選 (1)	スポーツ栄養学(応用)	選 (1)						
			スポーツ栄養学演習【通】	選	スポーツ栄養学演習【通】	選 (1)						
		栄養教育論	栄養教育論Ⅲ	2	栄養教育論実習	1						14 (選択7)
			栄養カウンセリング演習	選 (1)	食育指導論	選 (2) *						
			食生活論	選 (2) *								
		臨床栄養学	臨床栄養学Ⅱ	2	臨床栄養学Ⅲ	2	臨床栄養学Ⅳ	2	栄養サポートチーム論	(1)		12 (選択1)
			臨床栄養学実習Ⅰ	1	臨床栄養学実習Ⅱ	1	臨床栄養学実習Ⅲ	1				
		公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2	公衆栄養学Ⅱ	2	地域栄養活動演習	選 (1)				6 (選択1)
					公衆栄養学実習Ⅰ	1						
		給食経営管理論										5
		総合演習	総合演習Ⅰ	1			総合演習Ⅱ	1				2
		統合科目	地域連携ケア論Ⅲ	1	英語文献講読演習	選 (1)	卒業研究【通】	選	卒業研究【通】	選 (2)		7 (選択3)
									地域連携ケア論Ⅳ	選 1		
	臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	1			給食経営管理論実習Ⅲ【通】	選 ※	給食経営管理論実習Ⅲ【通】	選 (1) ※		7 (選択4)	
						公衆栄養学実習Ⅱ【通】	選 ※	公衆栄養学実習Ⅱ【通】	選 (1) ※			
						臨床栄養学実習Ⅳ【通】		臨床栄養学実習Ⅳ【通】	選 2			
						臨床栄養学実習Ⅴ【通】	選	臨床栄養学実習Ⅴ【通】	選 (2)			
	小 計 (内選択科目計)		12科目 (選択4科目)	16 (4)	11科目 (選択5科目)	14 (6)	10科目 (選択5科目)	5 (1)	8科目 (選択7科目)	11 (7)	70 (選択21)	
合 計		14科目 (選択4科目)	19 (4)	12科目 (選択5科目)	15 (6)	11科目 (選択7科目)	7 (3)	8科目 (選択7科目)	11 (7)	154 (選択48)		
栄養教諭一種免許所得 申請に必要な科目			教育心理学	選 (2)	教育相談論	選 (2)	栄養教育実習事前・事後指導【通】	選	栄養教育実習【通】	選	18 (選択18)	
							栄養教育実習事前・事後指導【通】	選 (1)	栄養教育実習【通】	選 (1)		
								就職実践演習	選 (2)			
合 計		1科目 (選択1科目)	2 (2)	1科目 (選択1科目)	2 (2)	2科目 (選択2科目)	0	3科目 (選択3科目)	4 (4)	18 (選択18)		

Ⅱ－８ 栄養学科 履修モデル（全コース一覧）

科目区分			1 年次		2 年次	
			前期	後期	前期	後期
専門科目	全コース共通	管理栄養士論	管理栄養士論			
		基礎栄養学		基礎栄養学	基礎栄養学実験	
		応用栄養学			応用栄養学Ⅰ	応用栄養学Ⅱ
		栄養教育論			栄養教育論Ⅰ	栄養教育論Ⅱ
		臨床栄養学				臨床栄養学Ⅰ
		公衆栄養学				
		給食経営管理論			給食経営管理論Ⅰ	給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理論実習Ⅰ
		総合演習				
		統合科目		地域連携ケア論Ⅰ	地域連携ケア論Ⅱ	
		臨地実習				
コース別選択	食育実践コース	栄養教育論	食育農場演習【通】	選 食育農場演習【通】	選 食育実践演習【通】	選 食育実践演習【通】
		公衆栄養学				
		統合科目				
	スポーツ栄養コース	応用栄養学				スポーツ栄養学総論
		統合科目				
	臨床栄養コース	栄養教育論				
		臨床栄養学				
		統合科目				
		臨地実習				

専門基礎科目	全コース共通	社会・環境と健康	人間関係論	生涯発達論	選 生命倫理	選 健康管理概論
			特別総合科目【通】	選 特別総合科目【通】	選 医療概論	選 公衆衛生学実習
					選 公衆衛生学	
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ	形態機能学Ⅱ	形態機能学実習Ⅰ	形態機能学実習Ⅱ
			有機化学	選 微生物学	病理学	病態診療学Ⅰ
				微生物学実験	生化学Ⅱ	
		食べ物と健康	食品科学Ⅰ	食品科学Ⅱ	食品衛生学	食品科学Ⅲ
			調理学	食品科学実験Ⅰ	食品衛生学実験	
			調理学実習Ⅰ	調理学実習Ⅱ		

基礎教育科目	全コース共通	学習と思考力	学びの理解 論理的思考 情報処理＊	統計分析法 情報リテラシー＊		
			生物学	選		
			基礎化学			
		言語と表現力	英語Ⅰ(基礎)＊ 表現技法Ⅰ(読解・分析)	英語Ⅱ(会話)＊ 表現技法Ⅱ(討議・発表)	英語Ⅲ(読解)	選 英語Ⅳ(総合)
		人間と社会	心理学 倫理学 生態学	スポーツ科学と運動＊ 選 スポーツ理論＊ 選 地域社会文化論 選 法と人権＊ 選	社会貢献と活動 選 生活環境論 選 現代社会論	選 国際社会論 選 教育学 選 文学と人間

栄養教職課程	教職概論	選 教育原理	選 教育課程論	選 特別活動・総合的学習指導論	選
		教育制度論	選 教育方法論	選 生徒指導論	選
			道徳教育論	選 特別支援教育概論	選

- 「線」は選択科目。【通】は通年科目。
- 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
- 「＊」科目は、栄養教職一種免許取得申請に必要な科目にも該当

栄養学科 履修モデル（全コース一覧）

区 分			3 年次		4 年次	
			前 期	後 期	前 期	後 期
専 門 科 目	全 コ ー ス 共 通	管理栄養士論			管理栄養士総合演習【通】	管理栄養士総合演習【通】
		基礎栄養学				
		応用栄養学Ⅲ		応用栄養学実習 免疫と栄養	選	
		栄養教育論 食生活論 *	選	栄養教育論実習		
		臨床栄養学 臨床栄養学実習Ⅰ		臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	臨床栄養学Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅲ	
		公衆栄養学 公衆栄養学Ⅰ		公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ		
		給食経営管理論				
		総合演習	総合演習Ⅰ		総合演習Ⅱ	
		統合科目	地域連携ケア論Ⅲ	英語文献講読演習	選	地域連携ケア論Ⅳ
		臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ		給食経営管理論実習Ⅲ【通】※ 公衆栄養学実習Ⅱ【通】※ 臨床栄養学実習Ⅳ【通】	給食経営管理論実習Ⅲ【通】※ 公衆栄養学実習Ⅱ【通】※ 臨床栄養学実習Ⅳ【通】
コ ー ス 別 選 択	食育実践 コース	栄養教育論		食育指導論 *	選	
		公衆栄養学			地域栄養活動演習	選
		統合科目			卒業研究【通】	選 卒業研究【通】 選
	スポーツ栄養 コース	応用栄養学	スポーツ栄養学(基礎)	選	スポーツ栄養学(応用)	選
		統合科目	スポーツ栄養学演習【通】	スポーツ栄養学演習【通】		
	臨床栄養 コース	栄養教育論	栄養カウンセリング演習	選		
		臨床栄養学				栄養サポートチーム論 選
		統合科目			臨床栄養学実習Ⅴ【通】	臨床栄養学実習Ⅴ【通】 選
		臨地実習			卒業研究【通】	選 卒業研究【通】 選

専 門 基 礎 科 目	全 コ ー ス 共 通	社会・環境 と健康		保健医療福祉行政論		
		人体の構造と 機能及び疾病の 成り立ち	病態診療学Ⅱ			
		食べ物と健康	食品科学実験Ⅱ		食品機能学	選

基 礎 教 育 科 目	全 コ ー ス 共 通	学習と思考力				
		言語と表現力				
		人間と社会				

栄養教職課程	教育心理学	選	教育相談論	選	栄養教育実習事前・事後指導【通】	選	栄養教育実習事前・事後指導【通】	選
					栄養教育実習【通】	選	栄養教育実習【通】	選
							教職実践演習	選

- 「線」は選択科目。【通】は通年科目。
- 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
- 「*」科目は、栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目にも該当

管理栄養士受験資格・食品衛生監視員・食品衛生管理者の任用資格・栄養士免許

栄養教諭

Ⅱ－９ 栄養学科コース別履修モデル

食育実践コース（履修科目は一例です）

科目区分				1 年次				2 年次							
				前 期		単位	後 期		単位	前 期		単位	後 期		単位
基礎教育 基礎科目	基礎 教育 科目	全 コ ー ス 共 通	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1								
				論理的思考	2	情報リテラシー	1 *								
				情報処理	1 *										
				生物学	選 (1)										
			基礎化学	2											
			言語と表現力	英語Ⅰ (基礎)	1 *	英語Ⅱ (会話)	1 *	英語Ⅲ (読解)	選 (1)						
				表現技法Ⅰ (読解・分析)	1	表現技法Ⅱ (討議・発表)	1								
			人間と社会	心理学	2	地域社会文化論	選 (2)	社会貢献と活動	選 (1)	国際社会論	選 (1)				
				倫理学	1			生活環境論	選 (2)	教育学	選 (1)				
							現代社会論	2							
小 計 (内選択科目計)				9科目 (選択1科目)	12	5科目 (選択1科目)	6	4科目 (選択3科目)	6	2科目 (選択2科目)	2				
専門基礎科目	専門 基礎 科目	全 コ ー ス 共 通	社会・環境 と健康	人間関係論	1			公衆衛生学	2	健康管理概論 公衆衛生学実習	2 1				
			人体の構造と 機能及び疾病の 成り立ち	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	形態機能学実習Ⅰ	1	形態機能学実習Ⅱ	1				
				有機化学	選 (2)	微生物学	2	病理学	2	病態診療学Ⅰ	2				
						微生物学実験	1	生化学Ⅱ	2						
						生化学Ⅰ	2	生化学実験	1						
			食べ物と健康	食品科学Ⅰ	2	食品科学Ⅱ	2	食品衛生学	2	食品科学Ⅲ	選 (2)				
				調理学	2	食品科学実験Ⅰ	1	食品衛生学実験	1						
				調理学実習Ⅰ	1	調理学実習Ⅱ	1								
			小 計 (内選択科目計)				6科目 (選択1科目)	10	7科目	11	7科目	11	5科目 (選択1科目)	8	
			専門 教育	専門 科目	全 コ ー ス 共 通	管理栄養士論	管理栄養士論	1							
						基礎栄養学		基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1				
	応用栄養学							応用栄養学Ⅰ	2	応用栄養学Ⅱ	2				
	栄養教育論							栄養教育論Ⅰ	2	栄養教育論Ⅱ	2				
	臨床栄養学									臨床栄養学Ⅰ	2				
	公衆栄養学														
	給食経営管理論							給食経営管理論Ⅰ	2	給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理論実習Ⅰ	2 1				
	総合演習														
	統合科目					地域連携ケア論Ⅰ	1	地域連携ケア論Ⅱ	1						
	臨地実習														
	食育実践 コース	栄養教育論				食育農場演習【通】	選	食育農場演習【通】	選 (1)	食育実践演習【通】	選	食育実践演習【通】	選 (1)		
		公衆栄養学													
		統合科目													
小 計 (内選択科目計)				2科目 (選択1科目)	1	3科目 (選択1科目)	4	6科目 (選択1科目)	8	6科目 (選択1科目)	10				
合 計				17科目 (選択3科目)	23	15科目 (選択2科目)	21	17科目 (選択4科目)	25	13科目 (選択4科目)	20				

1. 「選」は選択科目。単位数の（数字）は選択科目、その他は必修科目である。
2. 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
3. 【通】は通年科目。通年科目の単位数は該当年次の後期に単位数が記載されている（通年科目の前期の単位数には数字を記載していない）。
4. 「※」科目は、栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目にも該当。

食育実践コース 履修モデル

(127単位履修モデル)

区 分				3 年次				4年次				単位計	卒業必要 単位数
				前期	単位	後 期	単位	前期	単位	後 期	単位	(内選択計)	
基礎教育	基礎教育科目	全 コ ー ス 共 通	学習と思考力								9 (選択1)	必修 17 選択 9	
			言語と表現力								5 (選択2)		
			人間と社会								12 (選択7)		
		小 計			0	0	0	0	26 (選択10)				
専門教育	専門基礎科目	全 コ ー ス 共 通	社会・環境と健康		保健医療福祉行政論	1				7	必修 40 選択 4		
			人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	2					22 (選択2)				
			食べ物と健康	1					15 (選択2)				
		小 計			2科目 3	1科目 1	0	0	44 (選択4)				
	専門科目	全 コ ー ス 共 通	管理栄養士論				管理栄養士総合演習【通】		管理栄養士総合演習【通】	1	2	必修 49 選択 6	
			基礎栄養学								3		
			応用栄養学	2	応用栄養学実習	1					7		
			栄養教育論	2	栄養教育論実習	1					7		
			臨床栄養学	2 1	臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	2 1	臨床栄養学Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅲ	2 1		11			
			公衆栄養学	2	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ	2 1				5			
			給食経営管理論							5			
			総合演習	1		総合演習Ⅱ	1			2			
			統合科目	1				地域連携ケア論Ⅳ	1	4			
			臨地実習	1			公衆栄養学実習Ⅱ【通】 選 臨床栄養学実習Ⅳ【通】	※	公衆栄養学実習Ⅱ【通】 選 臨床栄養学実習Ⅳ【通】	(1) ※ 2	4 (選択1)		
		食育実践 コース	栄養教育論		食育指導論	選 (2) *					7		
			公衆栄養学				地域栄養活動演習	(1)					
			統合科目				卒業研究【通】	選	卒業研究【通】	選 (2)	(選択7)		
小 計 (内選択科目計)			8科目 12	7科目 (選択1科目)	10	8科目 (選択3科目)	5	5科目 (選択2科目)	7	57 (選択8)	必修選択 1		
合 計			10科目 15	8科目 (選択1科目)	11	8科目 (選択3科目)	5	5科目 (選択2科目)	7	127 (選択22)	合計 126以上		

スポーツ栄養コース（履修科目は一例です）

科目区分				1 年次				2 年次					
				前 期		単位	後 期		単位	前 期		単位	後 期
基礎教育科目	基礎教育科目	全コース共通	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1						
				論理的思考	2	情報リテラシー	1 *						
				情報処理	1 *								
				基礎化学	2								
			言語と表現力	英語Ⅰ(基礎)	1 *	英語Ⅱ(会話)	1 *	英語Ⅲ(読解)	選(1)	英語Ⅳ(総合)	選(1)		
			表現技法Ⅰ(読解・分析)	1	表現技法Ⅱ(討議・発表)	1							
		人間と社会	心理学	2	スポーツ科学と運動	選(1) *	社会貢献と活動	選(1)	国際社会論	選(1)			
	倫理学		1	スポーツ理論	選(1) *	現代社会論	2	教育学	選(1)				
				法と人権	選(2) *								
小 計 (内選択科目計)				8科目	11	7科目 (選択3科目)	8	3科目 (選択2科目)	4	3科目 (選択3科目)	3		
専門基礎科目	専門基礎科目	全コース共通	社会・環境 と健康	人間関係論	1			公衆衛生学	2	健康管理概論 公衆衛生学実習	2 1		
			人体の構造と 機能及び疾病の 成り立ち	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	形態機能学実習Ⅰ	1	形態機能学実習Ⅱ	1		
				有機化学	選(2)	微生物学	2	病理学	2	病態診療学Ⅰ	2		
					微生物学実験	1	生化学Ⅱ	2					
					生化学Ⅰ	2	生化学実験	1					
			食べ物と健康	食品科学Ⅰ	2	食品科学Ⅱ	2	食品衛生学	2				
				調理学	2	食品科学実験Ⅰ	1	食品衛生学実験	1				
				調理学実習Ⅰ	1	調理学実習Ⅱ	1						
		小 計 (内選択科目計)				6科目 (選択1科目)	10	7科目	11	7科目	11	4科目	6
		全コース共通	管理栄養士論	管理栄養士論	1								
			基礎栄養学			基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1				
			応用栄養学					応用栄養学Ⅰ	2	応用栄養学Ⅱ	2		
			栄養教育論					栄養教育論Ⅰ	2	栄養教育論Ⅱ	2		
			臨床栄養学							臨床栄養学Ⅰ	2		
			公衆栄養学										
			給食経営管理論					給食経営管理論Ⅰ	2	給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理論実習Ⅰ	2 1		
			総合演習										
			統合科目			地域連携ケア論Ⅰ	1	地域連携ケア論Ⅱ	1				
臨地実習													
スポーツ 栄養 コース	応用栄養学						スポーツ栄養学総論	選(1)					
	統合科目												
小 計 (内選択科目計)				1科目	1	2科目	3	5科目	8	6科目 (選択1科目)	10		
合 計				15科目 (選択1科目)	22	16科目 (選択3科目)	22	15科目 (選択2科目)	23	13科目 (選択4科目)	19		

- 「選」は選択科目。単位数の（数字）は選択科目、その他は必修科目である。
- 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
- 【通】は通年科目。通年科目の単位数は該当年次の後期に単位数が記載されている（通年科目の前期の単位数には数字を記載していない）。
- 「※」科目は、栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目にも該当。

スポーツ栄養コース 履修モデル

(126単位履修モデル)

区 分				3 年次				4 年次				単位計	卒業必要 単位数		
				前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位	(内選択計)			
基礎教育	基礎教育科目	全コース共通	学習と思考力								8	必修 17 選択 9			
			言語と表現力								6 (選択2)				
			人間と社会								12 (選択7)				
	小 計			0		0		0		0	26 (選択9)				
専門教育	専門基礎科目	全コース共通	社会・環境と健康		保健医療福祉行政論	1					7	必修 40 選択 4			
			人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	2							22 (選択2)				
			食べ物と健康	1			食品機能学	選 (2)			15 (選択2)				
		小 計		2科目	3	1科目	1	1科目 (選択1科目)	2		0		44 (選択4)		
	専門科目	全コース共通	管理栄養士論				管理栄養士総合演習【通】		管理栄養士総合演習【通】	1	2	必修 49 選択 6			
			基礎栄養学										3		
			応用栄養学Ⅲ	2	応用栄養学実習	1							7		
			栄養教育論	2	栄養教育論実習	1							7		
			臨床栄養学	2 1	臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	2 1	臨床栄養学Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅲ	2 1			11				
			公衆栄養学	2	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ	2 1					5				
			給食経営管理論								5				
			総合演習	1			総合演習Ⅱ	1			2				
			統合科目	1					地域連携ケア論Ⅳ	1	4				
			臨地実習	1			公衆栄養学実習Ⅱ【通】 臨床栄養学実習Ⅳ【通】	選 選	※ 公衆栄養学実習Ⅱ【通】 臨床栄養学実習Ⅳ【通】	選 (1) ※ 2	4 (選択1)				
			スポーツ 栄養 コース	応用栄養学	スポーツ栄養学(基礎) 選 (1) スポーツ栄養学演習【通】 選	スポーツ栄養学(応用) 選 (1) スポーツ栄養学演習【通】 選 (1)							6 (選択6)		
				統合科目				卒業研究【通】	選	卒業研究【通】	選 (2)		(選択6)		
			小 計 (内選択科目計)		10科目 (選択2科目)	13	8科目 (選択2科目)	10	7科目 (選択2科目)	4	5科目 (選択2科目)		7	56 (選択7)	必修選択 1
			合 計		12科目 (選択2科目)	16	9科目 (選択2科目)	11	8科目 (選択3科目)	6	5科目 (選択2科目)		7	126 (選択20)	合計 126以上

臨床栄養コース（履修科目は一例です）

科目区分				1 年次				2 年次					
				前 期		単位	後 期		単位	前 期		単位	後 期
基礎教育	基礎教育科目	全コース共通	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1						
				論理的思考	2	情報リテラシー	1 *						
				情報処理	1 *								
				基礎化学	2								
		言語と表現力	英語Ⅰ（基礎） 表現技法Ⅰ（読解・分析）	1 * 1	英語Ⅱ（会話） 表現技法Ⅱ（討議・発表）	1 * 1	英語Ⅲ（読解）	選 (1)	英語Ⅳ（総合）	選 (1)			
人間と社会	心理学 倫理学 生態学	2 1 選 (1)	法と人権	選 (2) *	生活環境論 現代社会論	選 (2) 2	国際社会論 文学と人間	選 (1) 選 (1)					
小 計 （内選択科目計）			9科目 （選択1科目）	12	5科目 （選択1科目）	6	3科目 （選択2科目）	5	3科目 （選択3科目）	3			
専門基礎科目	専門基礎科目	全コース共通	社会・環境と健康	人間関係論	1	生涯発達論	選 (1)	生命倫理	選 (1)	健康管理概論	2		
							医療概論	選 (2)	公衆衛生学実習	1			
			人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	形態機能学実習Ⅰ	1	形態機能学実習Ⅱ	1		
				微生物学		2	病理学	2	病態診療学Ⅰ	2			
		微生物学実験			1	生化学Ⅱ	2						
		生化学Ⅰ			2	生化学実験	1						
		食べ物と健康	食品科学Ⅰ	2	食品科学Ⅱ	2	食品衛生学	2					
			調理学	2	食品科学実験Ⅰ	1	食品衛生学実験	1					
			調理学実習Ⅰ	1	調理学実習Ⅱ	1							
		小 計 （内選択科目計）			5科目	8	8科目 （選択1科目）	12	9科目 （選択2科目）	14	4科目	6	
		全コース共通	管理栄養士論	管理栄養士論	1								
			基礎栄養学			基礎栄養学	2	基礎栄養学実験	1				
			応用栄養学					応用栄養学Ⅰ	2	応用栄養学Ⅱ	2		
			栄養教育論					栄養教育論Ⅰ	2	栄養教育論Ⅱ	2		
			臨床栄養学							臨床栄養学Ⅰ	2		
			公衆栄養学										
			給食経営管理論					給食経営管理論Ⅰ	2	給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理論実習Ⅰ	2 1		
			総合演習										
			統合科目			地域連携ケア論Ⅰ	1	地域連携ケア論Ⅱ	1				
臨地実習													
小 計 （内選択科目計）			1科目	1	2科目	3	5科目	8	5科目 （選択1科目）	9			
合 計			15科目 （選択1科目）	21	15科目 （選択2科目）	21	17科目 （選択4科目）	27	12科目 （選択3科目）	18			

1. 「選」は選択科目。単位数の（数字）は選択科目、その他は必修科目である。
2. 選択科目のうち、「※」の給食経営管理論実習Ⅲと公衆栄養学実習Ⅱは選択必修科目である。
3. 【通】は通年科目。通年科目の単位数は該当年次の後期に単位数が記載されている（通年科目の前期の単位数には数字を記載していない）。
4. 「*」科目は、栄養教諭一種免許取得申請に必要な科目にも該当。

臨床栄養コース 履修モデル

(127単位履修モデル)

区 分				3 年次				4年次				単位計 (内選択計)	卒業必要 単位数		
				前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位				
基礎教育	基礎教育科目	全コース共通	学習と思考力								8	必修 17 選択 9			
			言語と表現力							6 (選択2)					
			人間と社会							12 (選択7)					
		小 計		0		0		0		0	26 (選択9)				
専門基礎科目	専門基礎科目	全コース共通	社会・環境と健康		保健医療福祉行政論	1					11 (選択4)	必修 40 選択 4			
			人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	病態診療学Ⅱ	2						20				
			食べ物と健康	食品科学実験Ⅱ	1						13				
		小 計	2科目	3	1科目	1		0		0	44 (選択4)				
	専門科目	専門科目	全コース共通	管理栄養士論				管理栄養士総合演習【通】		管理栄養士総合演習【通】	1	2	必修 49 選択 6		
				基礎栄養学										3	
				応用栄養学	応用栄養学Ⅲ	2	応用栄養学実習 免疫と栄養	1 選 (1)						8 (選択1)	
				栄養教育論	栄養教育論Ⅲ	2	栄養教育論実習	1						7	
				臨床栄養学	臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ	2 1	臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学実習Ⅱ	2 1	臨床栄養学Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅲ	2 1				11	
				公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2	公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ	2 1						5	
				給食経営管理論										5	
				総合演習	総合演習Ⅰ	1			総合演習Ⅱ	1				2	
				統合科目	地域連携ケア論Ⅲ	1					地域連携ケア論Ⅳ	1		4	
				臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ	1			給食経営管理論実習Ⅲ【通】 選 臨床栄養学実習Ⅳ【通】	※ 選	給食経営管理論実習Ⅲ【通】 選 臨床栄養学実習Ⅳ【通】	(1) ※ 2		4 (選択1)	
				臨床栄養コース	栄養教育論	栄養カウンセリング演習 選 (1)									6 (選択6)
					臨床栄養学						栄養サポートチーム論 選 (1)				
					統合科目					卒業研究【通】 選		卒業研究【通】 選 (2)			
					臨地実習					臨床栄養学実習Ⅴ【通】 選		臨床栄養学実習Ⅴ【通】 選 (2)			
				小 計 (内選択科目計)			9科目 (選択1科目)	13	7科目 (選択1科目)	9	8科目 (選択3科目)	4		7科目 (選択4科目)	10
合 計			11科目 (選択1科目)	16	8科目 (選択1科目)	10	8科目 (選択3科目)	4	7科目 (選択4科目)	10	127 (選択21)	合計 126以上			

Ⅱ-10 オフィスアワー

教員が特定の曜日・時間を定め、学生からの授業や学生生活全般に関する質問、相談に応じるシステムです。

面接を希望する学生は、各教員の実施方法を確認のうえ、面談希望教員と連絡を取り面談日を調整してください。

未決定の教員は、決定後、掲示にてお知らせします。

時間帯（①②方式）

① 1週間のうち、一定期間を教員の個々のスケジュールにより決定しています。

② 特に時間を設定していません。

面談方式（ab方式）

a オープン方式：学生は自由に教員を訪問することができます。

b アポイント方式：学生が各教員とアポイントを取ったうえで訪問することができます。

（メールアドレスを参考にしてください。）

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
基礎看護学分野	教授 (学長)	オヒナタ テルミ 大日向 輝美	月～金	②	b	oohinata.t@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	4101
基礎教育分野	教授	スエシ アツオ 末光 厚夫	月～金	②	b	sue@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1314
	教授	マツオ フミコ 松尾 文子	月～金	②	b	fmatsuo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1221
専門基礎教育分野	教授	イエコ マサヒロ 家子 正裕	火 以外	②	b	masa2023@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1211
基礎看護学分野	准教授	シュドウ エリカ 首藤 英里香	月～金	②	b	eshudo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1217
	講師	ソノダ リコ 園田 典子	月～金	②	b	sonoda@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1214
	講師	モトヨシ アケミ 本吉 明美	月～金	②	a	a-motoyoshi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1215
	助教	ヨコヤマ ケイコ 横山 桂子	月～金	②	a	yokoyama@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
成人看護学分野	教授	フジイ ミヅエ 藤井 瑞恵	月～金	②	b	fujii@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1315
	准教授	オノ ヨシアキ 小野 善昭	月～金	②	b	ono-y@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1321
	講師	イトウ マドカ 伊藤 円	月～金	②	a	m-ito@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1323
	講師	カト タクト 加藤 剛寿	月～金	②	b	kato-t@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1322
	助教	イケノ コウヘイ 池野 航平	月～金	②	a	ikeno@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
	助教	イマイズミ リエ 今泉 里絵	月～金	②	a	imaizumi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
高齢者看護学分野	教授	ハツリ ユカリ 服部 ユカリ	月～金	②	b	luna@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1212
	准教授	ナカ タマイ 中田 真依	月～金	②	a	mainakata@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1319
	助教	ナカ タケノブ 中武 延	月～金	②	a	nakatake@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
母性看護学分野	教授	サイトウ サカエ 齋藤 早香枝	月～金	②	a	sasai@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1218
	准教授	サワダ ムミ 澤田 優美	月～金	②	b	sawada@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1213
	教授	ノザキ ユキコ 野崎 由希子	月～金	②	a	nozaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
小児看護学分野	教授	カワサキ カズコ 河崎 和子	月	16:00～ 17:30	b	kawasaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1313
	助教	ササキ 佐々木 めぐみ	月～金	②	a	sasaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
精神看護学分野	准教授	ハラダ ムカ 原田 由香	月～金	②	b	harada@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1312
	助教	タカハシ マサキ 高橋 正樹	月～金	②	b	masaki-ta@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325
総合看護学分野	教授	キヅ ユミコ 木津 由美子	月	12:40～ 13:30	a	kizu@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1316
	講師	ヨシダ ユウコ 吉田 祐子	月～金	②	b	yuko-y@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1317
地域看護学分野	教授	コンドウ アキヨ 近藤 明代	月～金	②	a	kondoh@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1220
	准教授	アンドウ ヨウコ 安藤 陽子	月～金	②	a	ando@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1219
	准教授	タケザワ チヒロ 武澤 千尋	月～金	②	b	c-takezawa@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1311
	講師	オガワ カツコ 小川 克子	月～金	②	a	k.ogawa@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1222
	講師	カワガuchi ケイジ 川口 桂嗣	水	12:40～ 13:30	a	k-kawaguchi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1320
	講師	サクナミ アキコ 作並 亜紀子	月～金	②	a	sakunami@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1216

オフィスアワー

栄養学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
社会・環境と健康	教授	ハマオカ ナホロ 濱岡 直裕	月～木	②	b	hamaoka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5308
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	教授	チバ ヒシ 千葉 仁志	月～金	②	b	chiba-h@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5302
	准教授	キンタカ ヨリ 金高 有里	月～金	②	b	kintaka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5307
	講師	ツクイ タカキ 津久井 隆行	月～金	②	b	tsukui@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5103
食べ物と健康	教授	イタガキ ヤスハル 板垣 康治	月～金	②	b	itagaki@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5301
	教授	サカモト メグミ 坂本 恵	月～金	②	b	sakamoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5105
基礎栄養学	准教授	マツカワ ナリコ 松川 典子	月～金	②	a	matsukawa@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5310
応用栄養学	講師	イワベ マイコ 岩部 万衣子	月～金	②	a	iwabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5102
栄養教育論	教授	モモセ 百々瀬 いづみ	月～金	②	a	momose@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5311
臨床栄養学	教授	オカモト トモコ 岡本 智子	月～金	②	b	okamoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5306
	講師	ウジケ シノ 氏家 志乃	月～金	②	a	ujike@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5305
公衆栄養学	准教授	ツチモト コウジ 槌本 浩司	月～金	②	b	tsutimoto@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5106
給食経営管理論	教授	ヤマベ シュウコ 山部 秀子	月～金	②	a	yamabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5107
	講師	ワタナベ 渡辺 いつみ	月～金	②	a	watanabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5104
教職課程	教授	アンネ ヤスマサ 安念 保昌	月～金	②	b	dpforest@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5304
	教授	カト タカシ 加藤 隆	月～金	②	a	katotaka@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5312
	助教	アビコ ヒロミ 安彦 裕実	月～金	②	a	abiko@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助教	ムラオ サト 村尾 咲音	月～金	②	a	murao@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助教	ヨネタ ミチ 米田 実央	月～金	②	a	yoneta@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助手	ヒダ マユミ 樋田 真弓	月～金	②	a	hida@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101
	助手	オサベ タイコ 長部 泰子	月～金	②	a	osabe@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101

Ⅲ シラバス

2021年度以降入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
学びの理解	講義	1	前	1		木津 由美子、○山部 秀子、飯田 直弘	51
論理的思考	講義	1	前	2		崔 昌鳳	53
情報処理	演習	1	前	1		末光 厚夫	55
統計分析法	演習	1	後	1		末光 厚夫	57
情報リテラシー	演習	1	後	1		安念 保昌	59
生物学A・B	講義	1	前		1	津久井 隆行 松川 典子	61
基礎化学	講義	1	前	2		津久井 隆行	63
英語Ⅰ（基礎）A	演習	1	前	1		松尾 文子	65
英語Ⅰ（基礎）B	演習	1	前	1		竹内 康二	67
英語Ⅰ（基礎）C	演習	1	前	1		大西 三佳子	69
英語Ⅱ（会話）	演習	1	後	1		David Flenner Peter Reemst Coxford Richard Michael	71
表現技法Ⅰ（読解・分析）A	演習	1	前	1		高木 維	73
表現技法Ⅰ（読解・分析）B	演習	1	前	1		安永 立子	75
表現技法Ⅰ（読解・分析）C	演習	1	前	1		錦戸 葵	77
表現技法Ⅱ（討議・発表）A	演習	1	後	1		高木 維	79
表現技法Ⅱ（討議・発表）B	演習	1	後	1		安永 立子	81
表現技法Ⅱ（討議・発表）C	演習	1	後	1		錦戸 葵	83
心理学	講義	1	前	2		安念 保昌	85
倫理学	講義	1	前	1		村上 友一	87
生態学	講義	1	前		1	立澤 史郎	89
スポーツ科学と運動	演習	1	後		1	大浦 浩	91
スポーツ理論	講義	1	後		1	大浦 浩	93
地域社会文化論	講義	1	後		2	澤井 玄	95
法と人権	講義	1	後		2	神元 隆賢	97
生涯発達論	講義	1	後		1	安念 保昌	99
人間関係論	講義	1	前	1		安念 保昌	101
特別総合科目	演習	1	通		1	百々瀬 いづみ 他	103
形態機能学Ⅰ	講義	1	前	2		金高 有里、千葉 仁志	104
形態機能学Ⅱ	講義	1	後	2		千葉 仁志	106
有機化学	講義	1	前		2	津久井 隆行	108
微生物学	講義	1	後	2		濱岡 直裕	110
微生物学実験	実験	1	後	1		濱岡 直裕	112
生化学Ⅰ	講義	1	後	2		森山 隆則	114
食品科学Ⅰ	講義	1	前	2		松川 典子	116
食品科学Ⅱ	講義	1	後	2		板垣 康治	118
食品科学実験Ⅰ	実験	1	後	1		松川 典子、津久井 隆行	120
調理学	講義	1	前	2		坂本 恵	122
調理学実習Ⅰ	実習	1	前	1		坂本 恵	124
調理学実習Ⅱ	実習	1	後	1		坂本 恵	126
管理栄養士論	講義	1	前	1		○山部 秀子、岩部 万衣子、○榎本 浩司、○氏家 志乃、○渡辺 いづみ、	128
基礎栄養学	講義	1	後	2		松川 典子	130
食育農場演習	演習	1	通		1	○百々瀬 いづみ	132
地域連携ケア論Ⅰ	講義	1	後	1		○榎本 浩司、澤田 優美、○氏家 志乃、小川 克子	134
英語Ⅲ（読解）	演習	2	前		1	松尾 文子	137
英語Ⅳ（総合）	演習	2	後		1	松尾 文子	139
社会貢献と活動	演習	2	前		1	岩本 希	141
生活環境論	講義	2	前		2	江本 匡	143
現代社会論	講義	2	前	2		翁 康健	145
国際社会論	講義	2	後		1	翁 康健	148
教育学	講義	2	後		1	加藤 隆	150
文学と人間	講義	2	後		1	畠山 瑞樹	152
生命倫理	講義	2	前		1	森口 真衣	154
医療概論	講義	2	前		2	○千葉 仁志	156
健康管理概論	講義	2	後	2		○千葉 仁志	158
公衆衛生学	講義	2	前	2		板垣 康治	160
公衆衛生学実習	実習	2	後	1		濱岡 直裕、板垣 康治	162
形態機能学実習Ⅰ	実習	2	前	1		金高 有里	164
形態機能学実習Ⅱ	実習	2	後	1		金高 有里	165
病理学	講義	2	前	2		家子 正裕	167

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
生化学Ⅱ	講義	2	前	2		津久井 隆行	169
生化学実験	実験	2	前	1		津久井 隆行	171
病態診療学Ⅰ	講義	2	後	2		○千葉 仁志	173
食品科学Ⅲ	講義	2	後		2	板垣 康治	175
食品衛生学	講義	2	前	2		濱岡 直裕	177
食品衛生学実験	実験	2	前	1		濱岡 直裕	179
基礎栄養学実験	実験	2	前	1		松川 典子	181
応用栄養学Ⅰ	講義	2	前	2		岩部 万衣子	183
応用栄養学Ⅱ	講義	2	後	2		岩部 万衣子、金高 有里	185
スポーツ栄養学総論	講義	2	後		1	○千葉 昌樹、松本 恵	187
栄養教育論Ⅰ	講義	2	前	2		○百々瀬 いづみ	188
栄養教育論Ⅱ	講義	2	後	2		○百々瀬 いづみ	190
食育実践演習	演習	2	通		1	○百々瀬 いづみ	192
臨床栄養学Ⅰ	講義	2	後	2		○氏家 志乃	194
給食経営管理論Ⅰ	講義	2	前	2		○山部 秀子、○渡辺 いづみ	196
給食経営管理論Ⅱ	講義	2	後	2		○山部 秀子、○渡辺 いづみ	198
給食経営管理論実習Ⅰ	実習	2	後	1		○山部 秀子、○渡辺 いづみ	200
地域連携ケア論Ⅱ	講義	2	前	1		○榎本 浩司、○氏家 志乃、澤田 優美、小川 克子	202
保健医療福祉行政論	講義	3	後	1		○千葉 昌樹	205
病態診療学Ⅱ	講義	3	前	2		○千葉 仁志	206
食品科学実験Ⅱ	実験	3	前	1		荒川 義人	208
応用栄養学Ⅲ	講義	3	前	2		岩部 万衣子	210
応用栄養学実習	実習	3	後	1		岩部 万衣子	212
免疫と栄養	講義	3	後		1	板垣 康治	214
スポーツ栄養学（基礎）	講義	3	前		1	東郷 将成	216
スポーツ栄養学（応用）	講義	3	後		1	松本 恵	217
スポーツ栄養学演習	演習	3	通		1	榎本 浩司、千葉 昌樹、松本 恵	218
栄養教育論Ⅲ	講義	3	前	2		岩部 万衣子、板垣 康治	220
栄養教育論実習	実習	3	後	1		○百々瀬 いづみ	222
栄養カウンセリング演習	演習	3	前		1	○岡本 智子	224
食生活論	講義	3	前		2	白崎 佳美	226
食育指導論	講義	3	後		2	白崎 佳美	228
臨床栄養学Ⅱ	講義	3	前	2		○氏家 志乃	230
臨床栄養学Ⅲ	講義	3	後	2		○岡本 智子	232
臨床栄養学実習Ⅰ	実習	3	前	1		○氏家 志乃	234
臨床栄養学実習Ⅱ	実習	3	後	1		○氏家 志乃	236
公衆栄養学Ⅰ	講義	3	前	2		○榎本 浩司	238
公衆栄養学Ⅱ	講義	3	後	2		○榎本 浩司	240
公衆栄養学実習Ⅰ	実習	3	後	1		○榎本 浩司	242
総合演習Ⅰ	演習	3	通	1		○山部 秀子、○渡辺 いづみ、○岡本 智子、○榎本 浩司	244
英語文献講読演習	演習	3	後		1	松川 典子、板垣 康治、津久井 隆行	246
地域連携ケア論Ⅲ	講義	3	前	1		○氏家 志乃、○榎本 浩司、澤田 優美、小川 克子	248
給食経営管理論実習Ⅱ	実習	3	前	1		○山部 秀子、○渡辺 いづみ	250
食品機能学	講義	4	前		2	松川 典子	251
管理栄養士総合演習	演習	4	通	1		坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、○岡本 智子、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いづみ	253
臨床栄養学Ⅳ	講義	4	前	2		○岡本 智子	255
臨床栄養学実習Ⅲ	実習	4	前	1		○岡本 智子	257
栄養サポートチーム論	講義	4	後		1	○岡本 智子、○氏家 志乃、看護学科教員	259
地域栄養活動演習	演習	4	前		1	○榎本 浩司	261
総合演習Ⅱ	演習	4	前	1		○百々瀬 いづみ、板垣 康治、○岡本 智子、坂本 恵、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いづみ	263
卒業研究	演習	4	通		2	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、○岡本 智子、加藤 隆、○千葉 仁志、濱岡 直裕、○百々瀬 いづみ、○山部 秀子、金高 有里、○榎本 浩司、松川 典子、○氏家 志乃、津久井 隆行、○渡辺 いづみ	264
地域連携ケア論Ⅳ	講義	4	後	1		澤田 優美、○榎本 浩司、○氏家 志乃、小川 克子	267
給食経営管理論実習Ⅲ	実習	4	通		1※	○山部 秀子、○百々瀬 いづみ、○渡辺 いづみ	269
公衆栄養学実習Ⅱ	実習	4	通		1※	○榎本 浩司	270
臨床栄養学実習Ⅳ	実習	4	通	2		○岡本 智子、○氏家 志乃	271
臨床栄養学実習Ⅴ	実習	4	通		2	○岡本 智子、○氏家 志乃	272

※ 選択必修：どちらかの科目を必ず履修すること。他の選択科目で代替えは出来ません。

栄養教諭一種免許取得に必要な教職科目

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
教職概論	講義	1	前		2	加藤 隆	273
教育原理	講義	1	後		1	加藤 隆	275
教育制度論	講義	1	後		1	明田川 知美	277
教育課程論	講義	2	前		1	松田 剛史	278
教育方法論	講義	2	前		1	松田 剛史	280
道德教育論	講義	2	前		1	加藤 隆	282
特別活動・総合的学習指導論	講義	2	後		1	高橋 公平	284
生徒指導論	講義	2	後		1	佐藤 憲夫	285
特別支援教育概論	講義	3	後		1	松井 由紀夫	287
教育心理学	講義	3	前		2	安念 保昌	288
教育相談論	講義	3	後		2	川俣 智路	290
栄養教育実習事前・事後指導	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	292
栄養教育実習	実習	4	通		1	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	294
教職実践演習	演習	4	後		2	加藤 隆、○百々瀬 いづみ、岩部 万衣子	295

- (注) 1. 科目の責任者は科目担当者の先頭記載者
2. ○印は学科所属の専任教員で医師、管理栄養士、栄養士、臨床検査技師を経験している実務経験者

授業科目	学びの理解 Understanding of Study at Tertiary Level				担当教員	木津 由美子、山部 秀子、飯田 直弘		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○	○	○			○	○
授業目的	大学（高等教育）での学びの出発点として、学士力「文化・社会に関する知識・理解」「社会人に必要な汎用的技能」「態度・志向性」「創造的思考力」を修得する意義、および専門職業人としての学習態度や倫理観、職業観を身につける重要性を認識する。							
到達目標	1. 学業を中心とした大学生活全般の自己管理能力と自律的な学習態度を培う。 2. 社会人として、医療人として求められる社会的責任と行動、職業観の形成を促す。 3. 現代の保健医療に係る課題と医療人としての社会的貢献のあり方について考える。 4. 医療人としての看護職と管理栄養士の役割と連携を理解し、共同体意識を形成する。 5. 4 年間の大学生活での目標を確認し、自己の課題と学習計画を考える。 6. コミュニケーション・スキル、論理的思考と問題解決力を修得する意義を理解する。 7. 社会人・職業人としての汎用的スキルの意味と活用するための基礎を理解する。							
関連科目	論理的思考や表現技法をはじめこれから履修する科目すべてに関連する。							
テキスト	指定テキストはなし。授業内で資料を配付する。							
参考書	授業内で随時提示する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価し、60 点以上を合格とする。 ①レポート（80 点） ・到達目標に関するレポート課題を課し、学修の到達度を評価する。 ②提出物（20 点） ・講義において課題を課し、提出物（20 点）として学修の到達度を評価する。					
	レポート	80						
	小テスト							
	提出物	20						
	その他							
履修上の留意事項	参考文献は随時提示する。 レポートと課題の提出方法は、各教員の講義最終時に提示する。 レポートや課題は、指定された期限を守って提出する。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物には、コメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容	医療職と大学教育の講義の際は、実務経験者の立場から、看護師・管理栄養士の教員の経験談を織り交ぜながら、どのような専門職をめざすのか具体的なイメージができるように授業をします。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1 (木津)	大学での学び方	1. ガイダンス 2. 大学教育（高等教育）の目的と共通能力「学士力」の育成 3. 自律的学習の実践：「学習活動の手引き」 4. 学ぶ力とは：「感じる」「表現する」「伝える」「共有する」				事前：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく（1 時間）。 事後：大学で学ぶ意味について自分の考えをまとめる(2 時間)。		
2 (木津)	学士力と本学教育理念「人間力」	1. 人間力とは 2. 社会人・医療人に求められる資質・能力とは 3. 自律的学習の実践：文献の活用 ＊本学図書館の支援協力を受ける				事前：「本学で学ぶ意義」について A5 版用紙に 250 字程度にまとめる(2 時間)。 事後：図書館の文献検索の課題を実施し記載する（1 時間）。		
3 (木津)	学ぶ力の体験学習「いのち」「人が社会で生きること」	1. DVD「赤ちゃんの運命を決めるもの」視聴 2. 個人学習：DVD の内容について「感じたこと」「考えたこと」を記載 3. グループ学習：各自で「感じたこと」「考えたこと」をグループで「表現する」「伝える」「共有する」				事前：大学で必要な能力について自分の考えをまとめる（2 時間）。 事後：「いのち」「人が社会で生きること」に関して自己の学びを指定用紙にまとめる(2 時間)。		
4 (飯田)	大学（高等教育）で学ぶこと（1）	1. 高等教育の現状と将来像 2. 教授法と教育評価①：学習指導と授業の多様な形態 3. 教授法と教育評価②：教育評価の理論と方法				事前：高校までの自己の学修方法について振り返りまとめる(2 時間)。 事後：高校と大学の学びは、どのような点が違うのかまとめる(2 時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (飯田)	大学（高等教育）で学 ぶこと（2）	1. 多様な学力観・能力観①：国内外の多様な能力・資質の枠 組み（コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決 力など） 2. 多様な学力観・能力観②：能力や知能に関する理論 3. 創造力とは 4. コンピテンシー・テスト	事前：汎用的スキルとは何か調べてノ ートにまとめる(2時間)。 事後：前回の授業で学んだことを復習 し、将来汎用的スキルを活用する場面 をシミュレーションする(2時間)。
6 (山部)	医療職と大学教育（1）	1. 保健医療に係る現代の課題と医療職の役割 2. 管理栄養士の役割	事前：管理栄養士について調べてノ ートにまとめる(2時間)。 事後：医療職が大学で学ぶ意義につい て、自分の考えをまとめる(2時間)。
7 (木津) (山部)	医療職と大学教育(2)	1. 看護職の役割 2. グループ学習：看護職と管理栄養士の役割の共通性と相違 性、同じ大学で学ぶ意義について意見交換 3. グループ発表	事前：看護職について調べてノートに まとめる。(2時間)。 事後：医療職が大学で学ぶ意義につい て自分の考えをまとめる(2時間)。
8 (木津) (山部)	大学で学ぶ目標と課題 の共有	1. グループ学習 1) 学びの目標をもつ(どんな看護職・管理栄養士になりたいか) 2) 目標実現のために為すべきこと、大切にすること 2. グループ発表	事前：どんな看護職・管理栄養士になり たいか自分の考えをノートにまとめる (2時間)。 事後：グループ学習からの学びをまと め指定用紙に記載する(2時間)。

授業科目	論理的思考 Introduction to Logic				担当教員	崔 昌鳳		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						
授業目的	本科目は学生諸君に人間の日常的活動のひとつである推論という営みについて理解を深めてもらい、それを通じて、各自が様々な問題に対し論理的・批判的に考えるスキル及び、それを適切に表現する術を身につけることを目的とする。							
到達目標	1. 様々な文章中に、どのような推論が含まれているかを見出し、明示的に書き換える技術を身につける。 2. 様々な推論事例について、批判的に考察する技術を身につける。 3. 論理的に正しい推論を自ら構成できるようになる。							
関連科目	1 年前期で学修する「学びの理解」「表現技法Ⅰ」、後期の「表現技法Ⅱ」に関連する。							
テキスト	必要に応じて資料を配付する。							
参考書	戸田山和久「論文の教室：レポートから卒論まで」（NHK 出版） 野矢茂樹「新版論理トレーニング」（産業図書）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験	70	目標への到達状況についての総合的な判断に基づき評価する。判断材料となるのは各回の小テストと提出物、および、定期試験結果である。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物	10						
	その他							
履修上の 留意事項	授業中に課題演習を課す。演習に取り組む際には、与えられた課題について自分で考えることが要求される。課題演習の「解答」を単に覚えるだけではほとんど学習効果は得られないものと心得ておいていただきたい。演習はフォームを利用して行う。そのため、毎回 PC を持参してくるように。							
課題に対するフィードバックの方法	課題に関しては、模範回答例を提示し、また各学生の回答を比較検討したうえで、よく見受けられる誤解の例について、それがなぜ間違っているのか、また、正しく考えるにはどうしたらよいのか教示する。なお、なお課題に限らず、チームズ内で常時、質問を受けつけるので、わからないことがあれば遠慮なく質問するように。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	授業概要 - 「論理的思考とはなにか」		授業内容及び成績評価法について概説する。			(2 時間) 講義内容をノートにまとめておくこと。		
2	主張と根拠 ---情報の取捨選択		資料に基づいて文章を作成する演習を行う。配布する資料には、種々雑多な情報を載せているが、指定した内容の文章を書くために、自ら情報を取捨選択する必要がある。			(5 時間) 講義中に指示した条件を守った文章をフォームで提出すること。締め切りは次回の前日までとする。		
3	主張と根拠 ---筋道を明確に		第 2 回で作成した文章を題材に、筋道が明確にわかるような文章を書くために必要な事柄について講義する。明確な筋道をもつ文章を書く技術は、論理的思考を身につける上で大前提となる必須スキルである。			(5 時間) 講義内容をふまえて、次回までに課題文章を修正し、書きあげること。		
4	論理パズル その 1		講義冒頭で演習問題を提示し、その解答をフォームで提出してもらう（提出は次回まで）。講義時間中は、4～5 名の学生でグループを構成し、グループ内での議論を通じて正解にたどり着くことを目標としてもらう。			(4 時間) 演習問題の解答を作成し、次回までにフォームで提出すること。解答には、答えだけではなく、なぜその答えが正しいのかについての考察を含める必要がある。		
5	論理パズル その 2		第 4 回で提示した演習問題を題材に、複雑な状況を表を用いて明晰化する手法について解説する。			(4 時間) 講義内容をふまえて、演習問題への解答を再度、作成し、次回提出すること。		
6	事実判断と価値判断		事実判断と価値判断の違いについて概説する。			(4 時間) 復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	価値判断詳論	諸々の価値判断（道徳判断、美的判断など）の特徴について詳説する。	（4 時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
8	事実と意見	事実と意見の違いとこれらの関係について講義する。	（4 時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
9	事実と意見 その 2	事実と意見を混在させることの危険性について、具体例をもとに講義する。	（4 時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
10	接続関係・接続表現	代表的な接続関係と接続表現について講義し、そののち、課題問題に取り組んでもらう。	（5 時間）接続表現を適切に使った文章を書きあげ、フォームで提出すること
11	接続関係・接続表現	様々な文章例を提示し、そこに現れる各文がどのような接続関係にあるのか考察してもらう。	（3 時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
12	誤謬推論	日常的に間違えやすい推論パターンを提示し、なぜ、それが間違っているのかについて講義する。	（5 時間）誤謬推論の例を講義終了時に提示する。提示された例がなぜ「誤謬」推論なのか、その理由を考察し、次回までにその理由を記した文章を作成すること。
13	演繹と仮説	仮説形成とその検証について概説し、演繹と推測の関連性について講義する。	（3 時間）仮説形成型の推論事例を最低三つ自分で構成し、フォームで提出すること。
14	知識と論理	以下のトピックについて講義を行う。 1. 「真であることを信じること」と「知っていること」の違い 知識論理パズル	（4 時間）知識論理パズルの解答を作成し、次回、提出すること。
15	総合演習	第 1 回から第 14 回までの講義内容に関して理解を深めてもらうための課題演習を行う。	（5 時間）各回で扱った話題について、各自で復習すること。

授業科目	情報処理 Information Processing				担当教員	末光 厚夫		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						
授業目的	本科目では、基礎的な情報処理能力とコンピュータリテラシーを習得し、他の科目に適用できることを目指す。演習を通じて、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方とインターネットを活用した情報収集やコミュニケーションの方法を学ぶ。							
到達目標	1. PC の基礎的な使い方、電子メールやインターネットの活用法を習得する。 2. Word、Excel、PowerPoint の基本的操作を習得する。							
関連科目	PC を使用する全ての科目が関連科目である。							
テキスト	授業時に資料を配付する。							
参考書	富士通エフ・オー・エム「よくわかる Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019」(FOM 出版)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		4 回のレポート（100%）で PC の基礎的な使い方と、Word、Excel、PowerPoint の基本的操作が習得できているか評価する。					
	レポート	100						
	小テスト							
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに習得できるように復習しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、提出締切後に解答を示して、解説をする。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	PC の基礎的な使い方	本科目の目的と構成について理解し、各回の位置づけを確認する。 授業で使用する PC の基礎的な操作方法（PC の起動と終了、マウス・キーボードの操作、ファイルの保存など）を学ぶ。				事前:シラバスを確認する(30分)。 事後:講義内容を復習する(30分)。		
2	電子メールの利用とタイピング	1. 電子メールの利用方法を習得する。 2. タイピングの方法を学ぶ。				事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
3	インターネットの活用とマナー	1. ブラウザを利用したインターネット検索の方法を学ぶ。 2. インターネットを使用する際のマナーを理解する。				事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。		
4	Word の基本（1）	1. Word の基礎知識を習得する。 2. 文字入力の方法を理解する。				事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
5	Word の基本（2）	文書作成における基本的操作（文字のコピー・移動、配置、装飾、書式）を理解する。				事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
6	Word の基本（3）	グラフィック機能（オンライン画像、図、図形、ワードアート）を使用した文書作成の方法を理解する。				事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
7	Word の基本（4）	1. 表を使用した文書作成の方法を理解する。 2. 学習した Word の機能を活用して文書を作成する。				事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。		
8	Excel の基本（1）	1. Excel の基礎知識を習得する。 2. データ入力の方法を理解する。				事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
9	Excel の基本（2）	1. 表の作成の方法を理解する。 2. 表計算機能（四則計算、関数など）を理解する。				事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
10	Excel の基本（3）	グラフ（棒グラフ、円グラフなど）の作成の方法を理解する。				事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
11	Excel の基本（4）	1. データベース機能を理解する。 2. 学習した Excel の機能を活用してデータ処理を行う。				事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	PowerPoint の基本 (1)	1. PowerPoint の基礎知識を習得する。 2. スライド作成の基礎を理解する。	事後：講義内容を復習する (1 時間)。
13	PowerPoint の基本 (2)	テキスト、オンライン画像、図、図形、表、SmartArt を使用したスライドの作成の仕方を理解する。	事後：講義内容を復習する (1 時間)。
14	PowerPoint の基本 (3)	画面切り替え、アニメーション、スライドショーの機能を理解する。	事後：講義内容を復習する (1 時間)。
15	PowerPoint の基本 (4)	1. プレゼンテーションのやり方の基本を理解する。 2. 学習した PowerPoint の機能を活用して、プレゼンテーション用の資料を作成する。	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する (1 時間)。

授業科目	統計分析法 Statistical-analytical Method				担当教員	末光 厚夫		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						
授業目的	収集したデータの特徴を明らかにするための統計分析の手法について学ぶとともに、コンピュータを使用して統計分析を実行する方法を学ぶ。演習を通じて、特徴の数値化、各種データのグラフ化、統計的推定・統計的検定などの統計処理、調査データの処理方法などについて習得する。							
到達目標	1. 統計学の体系について理解し、データの種類と特性について理解する。 2. 記述統計学の基礎を理解し、Excel を使用した統計処理方法を習得する。 3. 推測統計学の基礎を理解し、Excel を使用した統計処理方法を習得する。 4. 調査データの処理方法の基礎を習得する。							
関連科目	公衆衛生学、公衆衛生学実習、保健医療福祉行政論が関連科目である。							
テキスト	授業時に資料を配付する。							
参考書	1. 白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」（日本評論社） 2. 菅民郎「Excel で学ぶ統計解析入門」（オーム社） 3. 石村園子「すぐわかる確率・統計」（東京図書） 4. 上田拓治「44 の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」（オーム社）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	60	毎回の講義において、講義内容の理解度を評価するために、提出物（40％）として、演習課題を課す。定期試験（60％）では、統計学の基礎知識の理解度を評価するとともに、一部実技試験を通して、Excel を使用した統計処理方法の習熟度も評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	40						
	その他							
履修上の留意事項	統計分析法の学習と Excel を使用したデータ処理方法の修得は表裏一体であることから、繰り返し練習すること。							
課題に対するフィードバックの方法	演習課題は、提出締切後に解答を示して、解説を行う。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	統計学とは		本科目の構成と指針について説明し、統計学発展の歴史、目的と有用性、統計分析手法の体系などを概説したうえで、各回の位置づけを確認する。			事前:シラバスを確認する(30分)。 事後:講義内容を復習する(30分)。		
2	記述統計学の基礎 (1)		各種調査で収集したデータの種類の理解し、それらの性質について学ぶ。Excel を使用してデータから度数分布表やヒストグラムを作成する方法などを習得する。			事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
3	記述統計学の基礎 (2)		分布の中心を表す代表値、ばらつきを表す四分位範囲、箱ひげ図と異常値の識別、偏差、分散、標準偏差などの考え方について理解し、Excel を使用した計算方法も習得する。			事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
4	記述統計学の基礎 (3)		変動係数、Z スコア、偏差値、分布の歪度、尖度などについて学び、Excel の分析ツールを使用して記述統計量を算出する方法も習得する。			事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
5	推測統計学への準備 (1)		統計的推定・検定のための準備として、確率の考え方を理解する。確率、確率変数、確率分布、確率変数の平均値、分散、確率変数の標準化などの考え方を理解し、Excel を使用した計算方法を習得する。			事後：講義内容を復習する（1 時間）。		
6	推測統計学への準備 (2)		重要な確率分布（二項分布、正規分布、標準正規分布、t 分布、 χ^2 分布、F 分布など）の特徴と適用する分析手法、計算方法を理解する。			事後：講義内容を復習する（1 時間）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	推測統計学への準備 (3)	母集団と標本、母数と統計量の理解、さらに標本を得るための標本抽出について学ぶ。正規母集団、母数、統計量と標本分布、推定量と推定値、中心極限定理などの概念を理解する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
8	統計的推定の基礎 (1)	統計量から母数を統計的に推定する方法を学ぶ。推定のための用語、点推定と区間推定、信頼係数と信頼区間の考え方、推定方法などについて理解する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
9	統計的推定の基礎 (2)	正規母集団の母平均の推定（母分散既知／未知）、小標本における母平均の推定、母分散の推定、母比率の推定などについて理解し、Excel を使用した推定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
10	統計的検定の基礎 (1)	ある仮説が正しいか否かを無作為抽出した標本に基づいて統計的に判断する検定の考え方を学ぶ。帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、臨界値、p 値、仮説の採択および棄却、片側検定と両側検定などについて理解する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
11	統計的検定の基礎 (2)	第Ⅰ種の過誤と第Ⅱ種の過誤の考え方を学ぶ。母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
12	統計的検定の基礎 (3)	等分散の検定、母比率の検定、母比率の差の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
13	相関分析	2 変数間の関係を分析する手法を学ぶ。相関図、相関係数、クラーメルの連関係数、順位相関係数、無相関の検定、独立性の検定などについて理解し、それぞれの統計処理の手順を習得する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
14	調査データの集計と分析	Excel を使用した調査データの入力方法、ピボットテーブルによるクロス集計表の作成の手順を学ぶ。また、作成したデータを用いて、グラフ化や検定などの統計処理を行い、統計分析の手法の一連の手順を確認する。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
15	SPSS 統計パッケージの活用	Excel に入力されたデータを SPSS 統計パッケージで活用し分析するための基本的な手順と出力結果の見方について学ぶ。	事後：講義内容を復習する（1 時間）。

授業科目	情報リテラシー Information Literacy				担当教員	安念 保昌		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	コンピュータや情報通信ネットワーク及び情報社会に関する知識や理論を学習し、情報の発信・加工、ビッグデータの収集・分析の基礎能力を身につけ、データサイエンスの入り口に立つことを目的とする。							
到達目標	1. 情報倫理について理解する。 2. 情報通信とセキュリティについて理解する。 3. 情報加工・発信のリテラシーを習得する。 4. アンケートデータの収集の仕方と分析を修得する。 5. グループでのコラボレーションのリテラシーを習得する。							
関連科目	情報処理、統計分析法							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、期末に発表会を行う。発表会では、上記の 5 つの到達目標をそれぞれ 20 点満点(計 100 点満点)で評価する。 それらを合わせて、ワークシート:発表会=6:4 で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
	その他	40						
履修上の 留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3 色ボールペンを使ってノートを取る。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィ ードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 発表会にいて、発表ごとにコメント講評し、さらなる学修への指針を与える。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	情報とは何か	授業の形式、コード情報、モード情報、生命＝情報であること コラボレーション（共同作業）のためのグループ形成（4 人グループ）				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		
2	情報倫理について	情報モラル、情報化社会、著作権				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		
3	情報セキュリティにつ いて	ネット社会に潜む危険と対策、メールコミュニケーション、SNS				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		
4	情報整理の方法(1)	MindMap の作成 グループによる共同作業で作成する（以降全てにおいて）				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		
5	情報整理の方法(2)	Miro の使い方、発表テーマの絞り込み				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		
6	情報整理の方法(3)	発表テーマの背景、目的、方法をまとめ、質問紙の項目を提出する				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		
7	WEB 調査の作成	Google Form の使い方、グループワークによる共同編集 各グループから、3－5 問出し合って、共通の WEB 調査を行う				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		
8	WEB 調査の実施	完成した Form を教室全員で答えあい、友人にもこたえてもらい、最低 100 人のデータを取ってくる（次回までに）				事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	WEB 調査の分析(1)	取得したデータの数値化、HAD の使い方	事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。
10	WEB 調査の分析(2)	HAD による統計分析	事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。
11	WEB 調査の分析(3)	HAD による分析、Google site への結果の張り込み	事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。
12	プレゼン資料の作成(1)	Google site を使って、共同作業で、プレゼン資料を作成結果、考察、展望を考える	事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。
13	プレゼン資料の作成(2)	Google site を使って、共同作業で、プレゼン資料を完成する	事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。
14	WEB ページでの報告会 1	グループワークで完成したホームページによる発表会 発表 5 分、質疑 3 分（交代時間を含む）	事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。
15	WEB ページでの報告会 2	グループワークで完成したホームページによる発表会 発表 5 分、質疑 3 分（交代時間を含む）	事前：配信される授業資料を予習する(30 分)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(30 分)。

授業科目	生物学　A・B Biology				担当教員	津久井　隆行／松川　典子 ※担当教員は、クラス別		
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			◎	○				
授業目的	生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に関する知識を修得する。特に、ヒトの体の構造および機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また、栄養素について学び、どのように体内で利用されているのかについて理解する。							
到達目標	1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および、細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。 2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。 3. 生体内における情報伝達について学修し、生体内恒常性について理解する。 4. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝えるしくみや、配偶子が形成される過程について理解する。							
関連科目	形態機能学Ⅰ・Ⅱ、生化学Ⅰ・Ⅱ、基礎栄養学が関連科目となる。高校レベルの生物基礎、生物を基盤とするので、復習しておくこと。							
テキスト	齊藤省吾「新体系看護学全書 基礎科目 生物学」(メヂカルフレンド社)							
参考書	P. レーヴン／G. ジョンソン　他「レーヴン／ジョンソン　生物学」上・下 (培風館)							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60 点以上を合格とする。 ①小テスト (30 点) ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。 ②定期試験 (70 点) ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。 ・最終試験は、授業終了後の定期試験期間前に行う予定。					
	レポート							
	小テスト	30						
	提出物							
	その他							
履修上の 留意事項	重要な内容については配布資料やスライドで解説するが、その他の内容についてもテキストの十分な読み込みが必要。							
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス 細胞に関する基礎知識	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習の内容、評価方法と基準、履修上の留意点の説明 生物を構成する最小の単位である細胞について以下の点から理解する。 ・細胞の構造と機能　　・細胞の増殖 (細胞分裂) 細胞に水が出入りするしくみについて理解する。 ・浸透圧とそれに伴う様々な現象				事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 教科書や配布資料を用いて授業内容の復習をする。(2 時間)		
2	個体の成り立ちー分化 生体内の物質の流れと働き①	分化した細胞が多数集まって形成される組織について特徴を理解する。 生命活動における同化のしくみについて以下の点から理解する。 ・物質代謝と酵素　　・栄養素　　・消化と吸収				教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
3	生体内の物質の流れと働き②	生命活動における異化のしくみについて以下の点から理解する。 ・肺によるガス交換　　・腎臓の構造と働き (尿の生成)				教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
4	からだの恒常性の維持 ①	内部環境としての体液の働きについて理解する。				教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	からだの恒常性の維持 ②	生物はどのようにして体内の環境を一定の状態に維持しているのかについて以下の点から理解する。 ・神経系とその働き ・内分泌系とその働き	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
6	外的刺激の受容	生物が環境の変化を受け取り、それに反応するしくみについて以下の点から理解する。 ・刺激と反応 ・感覚器とその働き (視覚と聴覚)	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
7	遺伝	遺伝物質とはどのようなものなのか、遺伝物質によって何がつくられ、生命活動ではどのように利用されているのかを以下の点から理解する。 ・遺伝物質の所在 ・DNA の構造 ・たんぱく質の合成 ヒトの遺伝と、それに伴って生じる病気について理解する。 ・遺伝性疾患と酵素 ・伴性遺伝 ・染色体異常	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
8	配偶子の形成	生物が受精のために配偶子を形成するしくみについて理解する。 ・細胞分裂と減数分裂の違い ・配偶子の形成	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	基礎化学 Basic Chemistry				担当教員	津久井 隆行		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			◎	○				
授業目的	化学は、様々な物質の構造、性質、相互反応について研究する学問分野であり、自然科学の一部門である。栄養学科の専門基礎教育科目や専門教育科目を学ぶには、生化学、生理学、栄養学、食品学などを学修するための化学の知識が必要である。基礎化学では物質の構造を学び、物質が何でできているかを理解する。また、有機化合物の特徴や分類を理解し、有機化合物の性質などの基礎的な知識を修得する。さらに、物質量の概念、様々な化学変化、化学反応について観察や実験を通して物質の構成や種類、性質、変化など化学の基礎的な知識を修得する。							
到達目標	1. 基礎化学に不可欠な国際単位系について説明し、単位換算ができる。 2. 物質の基本的な成り立ちの概略を説明し、化学的な物質量（モル）を計算できる。 3. 元素の周期表の規則性を説明し主だった元素の記号及び原子量を説明できる。 4. 物質の状態の変化と性質について説明できる。 5. 化学反応と栄養価のエネルギー（熱量）について説明できる。 6. 物質量や溶液の濃度の基本的な考え方について説明し、計算できる。 7. 溶液の種類と性質について示し pH の定義について具体的に説明できる。							
関連科目	各実験科目で求められる計算力の基礎となる。高校レベルの化学計算を基盤とするので、各自復習しておくこと。							
テキスト	教員が作成する配布資料							
参考書	北原重登 他「食を中心とした化学 第3版」(東京教学社) 田中永一郎・松岡雅忠「まるわかり！基礎化学」(南山堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70%	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60 点以上を合格とする。 ①小テスト（30 点） ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。 ②定期試験（70 点） ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。					
	レポート							
	小テスト	30%						
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	1. 授業前に配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2. 授業後には配布資料の該当ページを必ず復習する。 3. 演習を取り入れた双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス・単位と有効数字		基礎化学を学ぶ目的及び国際単位の種類について解説する。			配布資料を用いて授業内容の復習をする。(2 時間)		
2	物質の基本的な成り立ちについて		原子とその構造、分子について示し物質の分類を解説する。			配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
3	物質の基本的な成り立ちについて		元素の種類と周期表の規則性を示し原子の化学結合を解説する。			配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
4	化学的な物質量（モル）について		原子量、分子量、モルの求め方について解説する。			配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各 2 時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	溶液の濃度について	様々な濃度（質量パーセント濃度、モル濃度）や密度の求め方について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
6	物質の状態と性質について	固体、液体、気体の考え方について例を挙げて解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
7	物質の状態と性質について	溶解度、様々な溶液の濃度表記法、浸透圧について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
8	化学変化と栄養価の「熱」の関わりについて	化学反応における反応熱について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
9	化学変化と栄養価の「熱」の関わりについて	栄養素の反応熱について具体例を挙げて解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
10	水溶液とコロイド溶液の性質について	電解質と非電解質の違いについて解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
11	水溶液とコロイド溶液の性質について	酸と塩基の性質について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
12	水溶液とコロイド溶液の性質について	pH（水素イオン濃度指数）の定義について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
13	水溶液とコロイド溶液の性質について	酸と塩基の中和反応について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
14	水溶液とコロイド溶液の性質について	水溶液の性質（緩衝や浸透）およびコロイド食品について解説する。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各2時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
15	全体のまとめ	これまでに学修した内容について振り返り、定着を図る。	配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各3時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	英語Ⅰ（基礎）A EnglishⅠ				担当教員	松尾 文子		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。							
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。							
関連科目	英語Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ							
テキスト	Answers to Everyday Questions 3 [Intermediate] Arao A. Mihara K. et al.（NAN'UN-DO, 2023）							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。任意提出の課題に積極的に取り組むことが望ましい。							
課題に対するフィ ードバックの方法	中間試験は解答例を配布し各自に確認してもらう。基準点に達しなかった学生には、課題を出し、コメントを付して返却する。小テストの答え合わせを授業中に行う。任意提出の課題は、テキストの Writing B と、Teams にアップする Unit ごとの確認問題で、いずれもコメントを付して返却する。さらに、Unit ごとに文法・語法に関する発展的な内容を記した English in Detail を Teams にアップする。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 （担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	現在時制・過去時制	Introduction / Unit 1: What did People Use Before Erasers?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
2	助動詞	Unit 2: Who Is Barbie?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
3	完了形	Unit 3: How did T-Shirts Become Popular?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
4	受動態	Unit 4: Who Invented Cotton Candy?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
5	There 構文	Unit 5: Which Came First, the TV or the RC?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
6	冠詞・名詞	Unit 6: Why Do ATM PINs Have Only Four Numbers?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
7	不定詞・動名詞	Unit 7: Why Are Pencils Yellow?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
8	これまでのテキストの 理解度確認	中間試験				試験勉強・次回の授業の予習（4 時 間）		
9	形容詞・副詞	Unit 8: What Are the Ends of Shoelaces Called?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
10	比較	Unit 9: Why Are Gym Shoes Called “Sneakers”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	前置詞	Unit 10: Why Do We Drink So Much Coffee?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
12	接続詞	Unit 11: Which Came First, Lighters or Matches?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
13	付加疑問文・修飾語句	Unit 12: Why Is Meat from Pigs Called “Pork”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
14	関係詞	Unit 13: Can You Wang a “Welly”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）
15	分詞・分詞構文	Unit 14: Why Do We Shake Hands?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1時間）

授業科目	英語Ⅰ（基礎）B EnglishⅠ				担当教員	竹内康二		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。							
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。							
関連科目	英語Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ							
テキスト	Answers to Everyday Questions 2 [Pre-Intermediate] Arao A. Mihara K. et al. (NAN'UN-DO, 2023)							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。任意提出の課題に積極的に取り組むことが望ましい。							
課題に対するフィ ードバックの方法	中間試験は解答例を配布し各自に確認してもらう。基準点に達しなかった学生には、課題を出す。小テストの答え合わせを授業中に行う。任意提出の課題は、テキストの Writing B と、Teams にアップする Unit ごとの確認問題で、いずれもコメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	現在時制・過去時制	Introduction / Unit 1: What is “Black Friday”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
2	未来形・進行形	Unit 2: What is a “leap year”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
3	完了形	Unit 3: Why do big ceremonies have a “red carpet”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
4	受動態・使役動詞	Unit 4: Where did “mouthwash” come from?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
5	There 構文・助動詞	Unit 5: What is a “Viking”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
6	冠詞・代名詞	Unit 6: Why are oranges “orange”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
7	可算名詞・不計算名詞	Unit 7: Where did “Vaseline” come from?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
8	これまでのテキストの 理解度確認	中間試験				試験勉強・次回の授業の予習（4 時 間）		
9	形容詞・副詞	Unit 8: Why are flamingos “pink”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
10	比較	Unit 9: What is a movie “trailer”?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		
11	不定詞・動名詞	Unit 10: Where did “bubble wrap” come from?				テキストの予習・主に文法事項の 確認（1 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	接続詞・前置詞	Unit 11: Why is a billiard table “green”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1 時間）
13	話法	Unit 12: Why Is film called “footage”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1 時間）
14	付加疑問文・WH 疑問文	Unit 13: Where did “Coca-Cola” come from?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1 時間）
15	分詞・関係詞	Unit 14: Why are social media apps “blue”?	テキストの予習・主に文法事項の確認（1 時間）

授業科目	英語Ⅰ（基礎）C EnglishⅠ				担当教員	大西 三佳子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。							
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。							
関連科目	1 年後期で履修する英語Ⅱ（会話）と密接に関連する。							
テキスト	T.O'Brien, K. Mihara, K. Maeda and H. Kimura「English Indicator 1 (Essential)」(Nan'un-do, 2022)							
参考書	必要に応じて紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	50	基準：グループ活動、提出物、小テスト（以上で 50%）及び定期テスト(50%) の結果から評価する。 観点：日々の授業中の活動に真面目に取り組み、到達目標に向かって努力しているかで判断する。					
	レポート							
	小テスト	20						
	グループ活動	20						
	提出物	10						
履修上の留意事項	授業時は必ず教科書や辞書などを持参し、テストや提出物の準備を忘れない。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストと課題は翌週の授業で返却し、重要事項を解説する。							
実務経験を活かした教育内容	イギリス国民の食事や生活の様子などを講義に織り交ぜ、教科書の内容がより理解し易いように授業をする。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	本科目の目的・目標・学習内容と学習方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等について説明する。				事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：テキストの予習 (0.5 時間)		
2	Unit 1 The Royal Family	1. reading（チャールズ国王について） 2. grammar（現在時制） 3. writing（基本的な重要構文）				事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)		
3	Unit 2 The Beatles	1. reading（ビートルズ） 2. grammar（過去時制） 3. writing（基本的な重要構文）				事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)		
4	Unit 4 Euro Money	1. reading（ユーロ） 2. grammar（助動詞） 3. writing（基本的な重要構文）				事前：テキストの内容確認 (0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)		
5	Unit 5 To Your Health	1. reading（健康管理） 2. grammar（完了形） 3. writing（基本的な重要構文）				事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)		
6	Unit 6 Recycling	1. reading（リサイクル） 2. grammar(冠詞・代名詞) 3. writing（基本的な重要構文）				事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：小テストと前半まとめの学習（1 時間）		
7	前半のまとめ	「前半のまとめ」を学習する。				事前：小テストとまとめの学習(1 時間) 事後：中間復習ドリルの準備（2 時間）		
8	中間復習ドリル	これまでに学んだ内容の定着度をチェックする。 (Units 1,2,4,5,6)				事前：中間復習ドリルの学習(2 時間) 事後：テキストの予習(0.5 時間)		
9	Unit 9 My Company	1. reading（イギリスの会社） 2. grammar（比較級・最上級） 3. writing（基本的な重要構文）				事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	Unit10 Advertising	1. reading (広告) 2. grammar (不定詞・動名詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)
11	Unit13 A Storm	1. reading (イギリスの天候) 2. grammar (受動態) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)
12	Unit 14 The Media	1. reading (メディア) 2. grammar (関係詞) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：復習と小テストの準備(0.5 時間)
13	Unit15 Sightseeing	1. reading (イギリス観光スポット) 2. grammar (仮定法) 3. writing (基本的な重要構文)	事前：テキストの内容確認(0.5 時間) 事後：小テストと後半まとめの学習 (1 時間)
14	後半のまとめ	「後半のまとめ」を学習する。	事前：小テストとまとめの学習(1 時間) 事後：期末復習ドリルの準備(2 時間)
15	期末復習ドリル	これまで学んだ内容の定着度をチェックする。 (Units, 9, 10, 13,14,15)	事前：期末復習ドリルの学習(2 時間) 事後：期末テストの準備 (2 時間)

授業科目	英語Ⅱ（会話） EnglishⅡ（Conversation）				担当教員	David Flenner / Peter Reemst /Coxford Richard Michael ※担当教員は、クラス別		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○					
授業目的	The purpose of this course is to build basic and intermediate English skills for communicating with patients/clients.							
到達目標	1. Building confidence in order to communicate with patients/clients in English 2. Improving students' knowledge of language used in the field of nutrition 3. Building an awareness of the needs of English speaking patients/clients							
関連科目	英語Ⅰ・Ⅱ							
テキスト	Bob Jones & Brent Simmonds 「Eat Well」 （Brand New Edition）(Perceptia Press)							
参考書	なし							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験	60	The assessment standards of academic achievement are as follows. 1. Worksheets 30% 2. Class Participation(Attendance and Question Response) 10% 3. Mid-Term Test 30% 4. Final Test 30%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	30						
	その他	10						
履修上の 留意事項	Students are expected to participate in conversation and exercises							
課題に対するフィ ードバックの方法	Feedback on progress in quizzes (including an explanation of answers and how to improve upon results) and students' progress in general classwork. Additionally, suggestions on increasing students' overall satisfaction/sense of achievement gained from the course will be provided.							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	Orientation	Classroom Language and Instruction / Introductory Unit					Pre-Study Unit 1 (1hour)	
2	Unit 1	The Food You Need					Worksheet 1 (1hour)	
3	Unit 2	Do You Ever Skip Breakfast?					Worksheet 2 (1hour)	
4	Unit 3	Let's Go For Whole Grains					Worksheet 3 (1hour)	
5	Unit 4	Vegetarian, Protein, & Tofu					Worksheet 4 (1hour)	
6	Unit 5	Get Your Vits & Minerals					Worksheet 5 (1hour)	
7	Unit 6	Fats: Good or Bad?					Worksheet 6 (1hour)	
8	Mid-Term Test	Review / Test 1: Units 1-6					Pre-Study Unit 7 (1hour)	
9	Unit 7	The Obesity Epidemic					Worksheet 7 (1hour)	
10	Unit 8	Water: The Source Of Life					Worksheet 8 (1hour)	
11	Unit 9	How Was School Lunch?					Worksheet 9 (1hour)	
12	Unit 10	Food For Small Mouths					Worksheet 10 (1hour)	
13	Unit 11	Food For Senior Citizens					Worksheet 11 (1hour)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
14	The Curse of Malnutrition	Unit 12	Worksheet 12 (2hour)
15	まとめ Final Test	Review/Test 2: Units 7-12	Not Applicable

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）A Presentation SkillsⅠ (Reading Comprehension and Analyses)				担当教員	高木 維		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、大学および社会において求められる一般的な作文技術の習得を目的とする。文章表現の面では、いわゆる文学作品的な美文ではなく、学術的表現を用いて、文法ミスのない平易な文を書くことを目指す。内容構成の面では、三部構成に則り、論拠・出典を明確にしたレポートの作成を目指す。							
到達目標	1.レポートにふさわしい表現で、文法ミスのない文を書く技能を身に付ける。 2.他人発の情報を的確に利用し、出典を明示する技能を身に付ける。 3.三部構成の重要性を理解し、レポートの構成を考える能力を身に付ける。 4.レポートを作成するための全体的なプロセスを把握する。							
関連科目	さまざまな科目で課される課題文の基礎となる。 また、1 年後期に履修する「表現技法Ⅱ」と密接に関係する。							
テキスト	なし							
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共 著「読みやすく考えて調べて書く」(学術図書出版) 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」慶應義塾大学出版会)							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート・その他の提出物・授業態度により総合的に評価する。 ※期末レポートの提出がない場合は、評価の対象とはならない。 ・レポート（40%）：期末レポートの得点 ・提出物（40%）：各種提出課題への取り組み ・授業態度（20%）：講義内活動への取り組みの姿勢					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	40						
	その他	20						
履修上の 留意事項	講義内活動を踏まえて、段階的にレポートを作成する。 そのため、欠席回は TEAMS にアップロードされる講義資料を確認し、自身で学習を進める必要がある。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	・ガイダンス ・レポートの文体	・本科目の目的、評価基準 ・レポート（論説文）にふさわしい文体				「レポートの文体」について復習 し、宿題に取り組む（1 時間）		
2	・段落構成① ・客観的表現	・段落構成の概要と、例示・対比の段落 ・文章から主観性を排するテクニック				次回講義時間までに提出課題① 「適切な文章表現」を完成させ、 提出する（1 時間）		
3	・段落構成② ・断定表現	・意見と理由の段落を書くトレーニング ・文章から曖昧性を排するテクニック				「段落構成」について復習し、宿 題に取り組む（1 時間）		
4	・段落構成③ ・引用文献欄	・データをもとに段落を書くトレーニング ・利用した文献をリスト化する「引用文献欄」の書きかた				「引用文献欄」について復習し、 宿題に取り組む（1 時間）		
5	・引用文 ・文法ミス	・引用文の書き方と要約のテクニック ・レポートにおいて頻出する文法ミス				次回講義時間までに提出課題② 「引用文と引用文献欄」を完成さ せ、提出する（1 時間）		
6	・レポートの種類 ・三部構成	・一般的なレポートの種類と三部構成 ・課題文作成のための文献読解				配布された資料読解をすすめ、宿 題に取り組む（1 時間）		
7	・文献メモ ・表記	・文献調査時に作成すべき「文献メモ」の概要 ・レポートにおいて望ましい文字遣い（漢字・数字・記号）				配布された資料読解をすすめ、文 献メモを作成する（1 時間）		
8	・アウトラインの作成 ・課題文執筆の注意点	・提出課題③「事実を説明する文章」のアウトライン作り ・段落構成・引用の総復習				次回講義時間までに提出課題③ 「事実を説明する文章」を完成さ せ、提出する（1 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	・投稿規定 ・文献調査	・期末レポートにおける重要な指示（投稿規定）の確認 ・簡単な文献調査のテクニック	ワークノートを用いて、意見作りと文献調査を進める（1時間）
10	・考察 ・他人発の情報の利用	・意見の説得力を高めるために必要な要素 ・他人の意見をレポートに組み込むときの注意点	意見作りを進め、アウトラインを作成する（1時間）
11	・序論・結論 ・個人相談①	・レポートの序論・結論の構成 ・これまでの取り組みを教員に見せ、コメントを受ける活動	期末レポートのアウトラインを作成する（1時間）
12	・個人相談②	・これまでの取り組みを教員に見せ、コメントを受ける活動	期末レポート（初稿）を完成させる（1時間）
13	・推敲	・批判的にレポートを読み、ミスを発見する演習 ・期末レポート（初稿）の推敲	期末レポート（初稿）を改訂し、印刷して次回提出する（1時間）
14	・レポートの構成	・投稿規定から、レポート全体の構成を想定するトレーニング	「レポートの構成」について復習し、宿題に取り組む（1時間）
15	・総括	・期末レポートを読み合い、感想を交換する活動 ・後期の活動とテーマの説明	後期に向け、告知されたテーマについて情報を集める（1時間）

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）B Presentation SkillsⅠ (Reading Comprehension and Analyses)				担当教員	安永 立子		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	言語表現とは何か、という理論的な側面を学び、日本語表現に関する学術的な基礎知識を習得する。そのうえで、 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる実践的な日本語の運用能力を身につける。							
到達目標	1. 言語表現に関する基本的な学術用語を理解する。 2. 日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3. 文章を書く際の発想力、構成力を学習し、適宜応用できる。							
関連科目	1 年前期で学修する「学びの理解」「論理的思考」や後期に学修する「表現技法Ⅱ」に関連する。							
テキスト	なし							
参考書	授業時間内にその都度紹介する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。					
	レポート	40	毎回の講義で提出を課す小課題に対して、4 点満点で採点し、60 点満点として評価する（3 分の 1 以上の欠席は評価の対象外）。授業に対する取り組み姿勢についても、採点に適宜加味する。授業内、また事後学習として課す実作レポートをその都度採点し、合計を 40 点満点に換算して、100 点満点で上記の目標の達成度を評価する。					
	小テスト		なお、授業内で課す 2 回の実作レポートを提出できなかった場合は評価の対象としない。					
	提出物	30						
	その他	30						
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は適宜添削し、講評を添えて返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス／本科目の説明と履修上の注意 レポートについて／適切な文を書くためのエクササイズ	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 表現方法を学ぶにあたって、レポートを書くとはどういうことか、概略を学ぶ。 「非文」[悪文]の例を学生各自が添削し、正しい文についての理解を深める。				事前にシラバスを読み、本科目履修についての疑問等を明らかにしておく(30 分)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。 また、指定された家庭学習を行う(30 分)。		
2	レポートの文体を理解する	間違いやすい語彙の知識を確認する。話し言葉と書き言葉の違いについて判断できる能力を身につける。論述に適した文体について学ぶ。				授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。また、指定された家庭学習を行う(1 時間)。		
3	説明的文章の方法（1）	知識や情報を伝えるためには、何が重要か理解する。読者をどのように想定するかについて学ぶ。				授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。		
4	説明的文章の方法（2） ／説明文の製作	言語の抽象化能力とカテゴリー理論について学ぶ。講義をもとにレポート実作①説明文を書く。				授業時間内に書き上げられなかった場合は次週に提出すること（評価は下がるが、採点対象とする）。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	説明文の返却／レポートの基本的構成／発想から文章へ（1）	作成した説明文にコメントを付して返却し、説明文を作成する際の留意点について復習する。また、レポートの基本構成とレポートの種類、及び論点を創出する方法について学ぶ。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
6	資料の集め方／引用書誌情報の記し方／「問題提起のある文章」の導入	レポート作成に当たって、どのように資料を収集するか学ぶ。また、レポート内に引用する資料について、その引用の方法や書誌情報の記し方について学ぶ。さらに、「問題提起のある文章」の組み立てを理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
7	引用書誌情報の収集と記載の実践／「問題提起のある文章」の構成	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成のための資料収集を進める。具体的な資料収集を実際に行い、書誌情報を書いてみる。また、「問題提起のある文章」のアウトラインを作成する。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
8	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導その1	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
9	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導その2	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 *パソコンを持参すること。	レポート実作②「問題提起のある文章」のための文献収集及び作成(1時間)。
10	レポート実作②「問題提起のある文章」の提出／発想から文章へ（2）／賛否両論を想定する	様々なところから発想した観点を文章に発展させる技法を身につける。賛否両論が可能な文を考えることで、論理的な文章の構築を学ぶ。	授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。 提出できなかった場合は次週提出すること（評価は下がるが、採点対象とする）。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
11	レポートにおける「事実」と「意見」の区別／段落について／中心文と展開文	レポートの記述において、「事実」と「意見」をどのように区別して扱うかについて学ぶ。また、段落とそれを構成する中心文、展開文の概念を理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
12	他人の文章に対する批判を構築する	他人の文章の論理構造を読み解き、批判を構築する方法を身につける。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
13	論理的文章の基本	要約の方法を確認する。論文の文体を身につける。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
14	情報を整理する	データの読み取りの基本を学ぶ。論文の論理構築の方法を理解する。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1時間)。
15	問題提起文の返却／敬語と手紙・メール文の基本	作成した「問題提起のある文」を添削して返却するとともに、講評を渡し解説を加える。日常的な言語によるコミュニケーションの訓練として、敬語を学ぶ。	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。 前期の授業全体を振り返り、論理的な文章を書く際の注意点について確認しておく(1時間)。

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）C Presentation SkillsⅠ (Reading Comprehension and Analyses)				担当教員	錦戸 葵		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、日本語表現の基礎を学び、学業および社会活動において必須となる文章力を修得することを目的とする。学術的文章にふさわしい構成や表現を学習し、学問・研究にかかわる文章を作成する能力を養うほか、社会活動において必要とされる、敬語表現およびメール・手紙の書き方に関する基礎的な知識を身につけることを目指す。							
到達目標	1. 日本語表現の基礎が身についている。 2. レポートや課題を、学術的文章にふさわしい構成・表現で書くことができる。 3. 敬語表現の使い方や、メール・手紙の書き方が身についている。							
関連科目	高校レベルの国語（現代文）の知識を基盤とするため、各自復習しておくこと。							
テキスト	なし							
参考書	講義内で適宜紹介する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		期末レポートを 6 割、毎回実施する授業内課題を 3 割として評価する。また、その他として、授業への積極的な参加や、課題に対する積極的な取り組みを 1 割として評価する。なお、欠席した回の授業内課題については、提出は任意とし評価には加えない。					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物	30						
	その他	10						
履修上の 留意事項	欠席した場合は、後日その回の配布物を必ず受け取ること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	授業内課題は、添削しコメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	授業目的、到達目標、評価方法・基準について確認する。				事前：シラバスを確認する。		
2	学術的な文章	作文・レポート・論文の違いや、学術的な文章にふさわしい文体を学ぶ。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。		
3	文章の三要素と読解・ 要約	文章における三要素を学び、文章の読解・要約を行う。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。		
4	要約文の作成例／事実 と意見	要約文の作成手順・作成例を確認し、文章要約の復習をする。事実と意見の違いを学ぶ。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。		
5	原稿用紙の使い方／紹 介文の作成①	基本的な原稿用紙の使い方を学び、紹介文を作成する。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。		
6	紹介文の作成②	他の学生が執筆した紹介文を読み、長所や参考にしたい点を共有する。自分が作成した紹介文を振り返り、感想を書く。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。他者の紹介文の内容について調べる。		
7	資料の検索・引用	インターネットを用いた資料の検索の方法と、引用・出典の書き方について学ぶ。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。実際に自分で資料を検索してみる。		
8	文章の構成	文章の基本的な構成を学ぶ。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。		
9	文章の表記	学術的文章における、漢字・ひらがな・カタカナ・数字等の適切な表記を学ぶ。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。本や新聞を読み、表記を確認する。		
10	文章の推敲	文章推敲の観点を学び、実際に文章を推敲する。				事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	敬語表現／メール・手紙	敬語表現の基本を学ぶ。メールと手紙の書き方を学ぶ。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。
12	レトリック	さまざまな表現の技法を学び、学術的文章にふさわしい表現か否かを判断する力を身につける。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。
13	レポート作成の準備①	文章の構成を振り返り、レポートの序論・本論・結論の書き方や、タイトルのつけ方を学ぶ。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。レポートの構想を練る。
14	レポート作成の準備②	レポートの書き方を学び、レポート執筆時の注意事項を押さえる。各自レポートの構想を練り、ワークシートを利用して下書きを作成する。レポートについて、個別に相談に応じる。	事前：レポートの構想を練る。 事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。資料探しや下書き作成を行う。
15	学習のまとめ	これまでの講義内容を振り返り、復習を行う。レポートについて、個別に相談に応じる。	事後：返却された課題のコメントを読み、適宜修正を行う。レポートの執筆を開始する。

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）A Presentation Skills Ⅱ (Academic Presentation)				担当教員	高木 維		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、大学および社会において求められるプレゼンテーション技術の習得を目的とする。プレゼンテーションの準備段階ではディスカッションを行い、他者の見解や批判を取り込んで考察を進める方法を学習する。また、プレゼンテーションにおいては発表資料を作成し、自分の主張を的確に伝えるための能力を身に着ける。							
到達目標	1.多人数の前で、説得力のあるプレゼンテーションをするための技術を習得する。 2.議論を推し進めるために、どのような点に着目すべきかを学習する。 3.発表内容を的確に資料にまとめる技術を習得する。							
関連科目	1 年前期に履修した「表現技法Ⅱ」と密接に関係する。							
テキスト	なし							
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共 著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」（慶應義塾大学出版会）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物・授業態度により総合的に評価する。 ※口頭発表ができない場合は、評価の対象とはならない。 ・提出物（50％）：各種提出課題への取り組み ・授業態度（50％）：ディスカッション・口頭発表会への取り組みの姿勢					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
	その他	50						
履修上の 留意事項	講義内活動をもとに、段階的にディスカッションや口頭発表会の準備を行う。 そのため、欠席回は TEAMS にアップロードされる講義資料を確認し、自身で学習を進める必要がある。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	・ガイダンス ・文献調査	・本科目の目的、評価基準 ・図書館・ネットを利用した情報の調べかた				ワークノートを利用し、文献調査を進める（1 時間）		
2	・リサーチエスチョン ・図表の利用	・リサーチエスチョンの考えかた・絞り込みかた ・レポートにおける図表の利用のしかた				次回講義時間までに提出課題① 「図表の利用」を完成させ、提出する（1 時間）		
3	・資料の作成	・ディスカッションで利用する配布資料の構成 ・リサーチエスチョンと、現段階での調査結果のまとめかた				調査した内容のなかで特に重要な情報を、word にまとめる（1 時間）		
4	・ディスカッション概要	・一般的なディスカッションの構成と役割 ・ディスカッションの練習				ディスカッション時に配布する資料作成をつづける（1 時間）		
5	・ディスカッション①	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループでディスカッションを行う				提出課題②「ディスカッション報告書」を作成する（1 時間）。		
6	・ディスカッション②	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループでディスカッションを行う				提出課題②「ディスカッション報告書」を作成する（1 時間）。		
7	・口頭発表会の概要 ・発表資料の作成	・口頭発表会の構成と評価 ・発表時間内に収まる原稿の構成と、作成の手順				ディスカッション資料やワークノートをもとに、発表資料を作成する（1 時間）		
8	・原稿の作成	・発表時間内に収まる原稿の構成と、作成の手順				ワークノートをもとに、発表原稿を作成する（1 時間）		
9	・質疑応答 ・口頭発表の注意点	・わかりやすい質問の方法と、回答の心がけ ・印象のよいプレゼンテーションに必要な技術				発表原稿の推敲を行う。また、発表資料を完成させる（1 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	・口頭発表会①	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	提出課題③「発表資料」を締切までに提出する。また、発表の練習を行う（1 時間）
11	・口頭発表会②	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	提出課題③「発表資料」を締切までに提出する。また、発表の練習を行う（1 時間）
12	・口頭発表会③	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
13	・口頭発表会④	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
14	・口頭発表会⑤	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う	発表の練習を行い、本番に備える（1 時間）
15	・総括	・発表資料と評価の返却 ・前期・後期を通じて「表現技法」で学んだ内容の総括	評価やコメントを読み、発表において注意すべき点を確認する（1 時間）

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）B Presentation Skills Ⅱ (Academic Presentation)				担当教員	安永 立子			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	演習				単位数	1 単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	◎							
授業目的	さまざまな場面で必要とされる「プレゼンテーション力」を養い、人間関係を構築するコミュニケーションのあり方を学習する。また、多人数の前で話す能力を身につけるとともに、的確な情報伝達の方法を学習する。さらに、自分の主張を論理的に表現する方法を学び、複数人による討議を有意義に進行させることができる。								
到達目標	1.日本語による発表や討論のための基本的な方法論を身につける。 2.発話による他人とのコミュニケーションを円滑に行うために、必要な知識を習得する。 3.複数人による討議に際して、論理的な議論を行うことを可能にする。								
関連科目	1 年前期に履修した表現技法Ⅰと密接に関係する。								
テキスト	なし								
参考書	授業時間内にその都度紹介する。								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 毎回の講義への積極的な参加に対して、4 点満点で採点し、60 点満点として評価する（3 分の 1 以上の欠席は評価の対象外）。授業内での口頭発表及び、その準備のために作成する課題と事後の振り返り課題をその都度採点し、合計を 40 点満点に換算して、100 点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す口頭発表を実施できなかった場合は評価の対象としない。 その他：口頭発表、授業への取り組み姿勢						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	40							
	その他	60							
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。								
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は適宜添削し、講評を添えて返却する。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス／本科目の説明と履修上の注意 プレゼンテーションについて／適切なテーマ設定について学ぶ		本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 プレゼンテーションのテーマについてワークシートを作成する。作業の進め方についてスケジュールを理解する。 ＊パソコンを持参すること。			事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく(30 分)。 プレゼンテーションのテーマを決定するための調査を行う（30 分）。			
2	プレゼンテーションの構成		プレゼンテーションをどのように組み立てるか理解する。 ＊パソコンを持参すること。			プレゼンテーション作成に必要な資料を収集する(1 時間)。			
3	グループディスカッションにむけた準備		グループディスカッションに向けて発表用配布資料の作り方を学ぶ。 ＊パソコンを持参すること。			グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。（1時間）。			
4	グループディスカッションその 1		グループに分かれ、それぞれ現時点での発表概要を説明する。グループ内で互いの発表について、討議を行い、プレゼンテーション完成を目指す。 ＊パソコンを持参すること。			グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。発表後グループディスカッションワークシートを完成させ、次週に提出する(1時間)。			
5	グループディスカッションその 2		グループに分かれ、それぞれ現時点での発表概要を説明する。グループ内で互いの発表について、討議を行い、プレゼンテーション完成を目指す。 ＊パソコンを持参すること。			グループディスカッションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。発表後グループディスカッションワークシートを完成させ、次週に提出する(1時間)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	プレゼンテーション発表にむけた個人指導その1	プレゼンテーションの作成にあたって、個別の進捗状況を確認し、発表全体の完成を目指す。 *パソコンを持参すること。	
7	プレゼンテーション発表にむけた個人指導その2	プレゼンテーションの作成にあたって、個別の進捗状況を確認し、発表全体の完成を目指す。 *パソコンを持参すること。	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。 プレゼンテーション第1週の発表者は発表用配布資料を次週までに提出する。
8	口頭発表の留意点／発表時の質問方法と応答の形式	口頭による発表の特徴と留意点について学習する。また、発表内容に対してどのような質問をするべきか、質問に対しての適切な応答はどのようなものかを学習する。 *パソコンを持参すること。	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。(1時間)。 プレゼンテーション第2週の発表者は発表用配布資料を次週までに提出する。
9	実践：プレゼンテーション (1)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
10	実践：プレゼンテーション (2)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
11	実践：プレゼンテーション (3)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
12	実践：プレゼンテーション (4)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
13	実践：プレゼンテーション (5)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次回発表者は発表用配布資料を提出し、リハーサルをしておくこと。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
14	実践：プレゼンテーション (6)	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。また、発表を聞いて発表内容についての討議に参加する。	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。聴講者は発表予定題目について討議に参加するための事前学習を行う(1時間)。
15	後期授業全体のまとめと反省	プレゼンテーションの発表原稿、振り返りシート等を添削して返却するとともに、講評を渡し解説を加える。	後期の講義全体を振り返り、発表・討議の際に注意すべき点を確認しておく(1時間)。

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）C Presentation Skills Ⅱ Academic Presentation)				担当教員	錦戸 葵		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎						
授業目的	本科目は、学業および社会活動において必要とされる、討議・口頭発表・資料作成の技術を獲得することを目的とする。また、質疑応答・フィードバック・振り返りを行うことで、論理的に思考・判断して課題を発見する力と、指摘された課題を解決する力を身につけることを目指す。							
到達目標	1. 討議・発表の基礎知識を身につけ、グループディスカッションやプレゼンテーションを円滑に行うことができる。 2. 発表用の資料を、適切に作成することができる。 3. 課題および解決策を見つけることができる。							
関連科目	1 年前期に履修した「学びの理解」と関連する。							
テキスト	なし							
参考書	講義内で適宜紹介する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		期末レポートを 3 割、授業内での提出物を 3 割、その他（グループディスカッション・結論報告会・プレゼンテーションの内容・姿勢）を 4 割として評価する。 なお、グループディスカッションとプレゼンテーションのいずれも行わなかった場合、評価の対象としない。また、期末レポートを提出しなかった場合も、評価の対象としない。					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物	30						
その他	40							
履修上の 留意事項	自分がプレゼンテーションを行う回に欠席する場合は、必ず教員に連絡すること。また、欠席した回の配布物は、後日必ず受け取ること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物は、コメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス		授業目的、到達目標、評価方法・基準について確認する。グループディスカッション用のグループ分けを行う。			事前：シラバスを確認する。		
2	グループディスカッション の準備①		グループディスカッションのやり方と、報告・質疑応答の流れについて学習する。			事後：グループディスカッション の手順を復習する。		
3	グループディスカッション の準備②		グループで交流する。自己紹介シートを作成し、グループ内で自己紹介を行う。ディスカッションの練習として、指定されたテーマについて話し合い、結論とその理由をグループでまとめ、提出する。			事後：次回のグループディスカッ ションに向けて、自分が果たした 役割を考える。		
4	グループディスカッション		グループディスカッションを行う。前半グループがディスカ ッション（30 分）を行い、後半グループが観察・フィードバ ックをする。その後、前半グループと後半グループを入れ替 えて、同様にディスカッション・観察・フィードバックを行 う。			事後：次回の報告会と感想文作成 に向け、ディスカッションとフィ ードバックの内容を振り返り、ま とめておく。		
5	結論報告会の準備		前回のディカッションの結論を、フィードバックを踏まえ報 告用にまとめる。代表 1 名を選出し、グループで相談しなが ら報告原稿を作成する。報告・質疑応答の練習を行う。			事前：ディスカッションとフィ ードバックの内容を振り返る		
6	結論報告会		代表 1 名がディスカッションの結論をクラス全体に報告す る。1 グループずつ報告（5 分）と質疑応答（3 分）を行っ たあと、グループで振り返りを行い、個人で感想を書いて提 出する。			事前：報告・質疑応答の準備をす る。		
7	プレゼンテーションの準備 ①		プレゼンテーションについて学習する。プレゼンテーション の練習として、指定されたテーマについて発表するための原 稿を作成する。			事後：返却された提出物のコメン トを確認する。次回の発表の準備 をする。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	プレゼンテーションの準備②	プレゼンテーションの練習として、グループ内で1人ずつ発表(3分)・質疑応答(2分)を行う。振り返りを行い、個人で感想を書いて提出する。	事前：発表の練習をする。 事後：振り返りの内容を踏まえ、プレゼンテーションに備える。
9	プレゼンテーションの準備③	プレゼンテーション用の資料の作成方法について学習する。資料の引用・出典について復習する。個別に相談に応じる。	事後：プレゼンテーション用の原稿と資料を作成し、発表の練習をする。
10	プレゼンテーション①	1人ずつプレゼンテーションを行う(1/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
11	プレゼンテーション②	1人ずつプレゼンテーションを行う(2/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
12	プレゼンテーション③	1人ずつプレゼンテーションを行う(3/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
13	プレゼンテーション④	1人ずつプレゼンテーションを行う(4/4)。発表(5分)と質疑応答(3分)を行ったあと、発表者は自分の発表の振り返りを、それ以外の学生は発表を聞いた感想を、それぞれ書いて提出する。	事前：プレゼンテーションの準備をする。 事後：発表者は、自分の発表に対する質問・コメントをまとめ、レポート執筆に備える。
14	レポート作成の準備	プレゼンテーションの内容をレポート(期末レポート)にまとめるために、レポートの書き方について復習する。※プレゼンテーション予備日①	事後：レポート執筆の準備をする。
15	学習のまとめ	これまでの講義内容を復習する。レポートについて、個別に相談に応じる。※プレゼンテーション予備日②	事後：これまでの配布資料を確認し、レポートの執筆を開始する。

授業科目	心理学 Psychology				担当教員	安念 保昌		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	◎	○	○				
授業目的	心とはいったい何なのか、心理学はその心をどの様に捉えようとしているのかを理解することが、この授業の目的である。心理学は様々な近接領域から影響を受けて、多様な形をなし、まずはその歴史的起源に立ち戻って、基本を押さえる。さらに心理学のそれぞれの領域で、行動や心をどの様に捉えてきたのかを理解し、そのどの領域にも共通する、身体と行動と心の繋がりを学修する。							
到達目標	食と体を結び付ける心の働きを知ることで、栄養士としての様々な場面における応用について学ぶ。 1) 心理学の基本的なものの考え方を理解する。 2) それぞれの領域の中で、行動や心がどの様に捉えられているのか理解する。 3) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 4) それを簡潔なレポートにまとめる。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。							
関連科目	生涯発達論、人間関係論							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。 下山晴彦,他(編)「心理学事典」(誠心書房) 2014 小林芳郎(編著)「新しい心理学へのアプローチ」(保育出版社) 2015							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4 で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
	その他							
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取る。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teams で配信する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	心理学はどの様にして誕生したのか	心そのものについて、その存在の不思議さ：心理学の歴史と動向				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
2	心の起源について考える	心はどのようにして生まれたのか、地球史の長期的視点で振り返る：比較心理学				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
3	心と脳とのつながり	心はどこにあるのか：神経心理学的基礎				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
4	人は周りをどのように感じとらえているのか	心の活動は、身の回りを感じ、捉えることから始まる：感覚知覚心理学				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
5	人は何に気づき注意するのか	2 つのタイプの注意、小実験、注意の 2 過程説、閾下刺激：注意の心理学				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
6	記憶とは何か	記憶にまつわる、身近な問題：記憶の認知科学				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	言葉とは何か	言葉の成り立ちと獲得：言語心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	考えるとはどういうことか	思考の意義と過程：思考心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
9	うまくよく生きること	新しさを創り出す心は、豊かで充実した生活を生み出す：知能の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
10	人はどのように感じ、揺れ動くか	感情・情動の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
11	人は何を求め、どのように生きてゆくか	動機・欲求・適応の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
12	性格とは何か	性格の理論、形成と要因：性格心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
13	経済心理学から見たテーマパーク	ディズニーランドの心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
14	ヒトのかわいらしさの起源	脳の進化とネオテニー	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
15	人はなぜひかれあうのか	恋愛の心理学	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	倫理学 Ethics				担当教員	村上 友一		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○		○				
授業目的	社会の一員として責任ある行動をとりうる自己を形成するために、倫理的な思考力を形成する。また、将来的に直面しうる諸問題に対応するための情報収集力・論理的思考力を養うとともに、そうした問題を言語化しうるだけの表現力を身につける。							
到達目標	1.決定主体である自己の成立基盤を理解する。 2.倫理的な問題に対して自分自身で考える力を養成する。 3.自分自身の考えを正しく表現する力を養い、コミュニケーション能力の向上をはかる。							
関連科目	1年後期で学修する「法と人権」、2年前期の「生命倫理」、3年後期「看護倫理」につながる科目である。							
テキスト	特に指定しない。							
参考書	授業内で紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート 50%、提出物 25%、その他 25%によって評価する。なお、その他には、「事前学習・事後学習」が含まれる。					
	レポート	50						
	小テスト							
	提出物	25						
	その他	25						
履修上の留意事項	本講義では自分で考え、それを文章化する時間を設ける（上記、提出物）。この時間は私語を認めるので、友人とのコミュニケーションを通して自分の考えを深めて欲しい。講義がすべて終了した後にレポートが課される。							
課題に対するフィードバックの方法	課題へのフィードバックは期末レポートのみ行う（提出先の moodle において）。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	生命倫理や現代社会において重視される自己決定権の背後に自由主義があることを確認する。				事前学習：自己決定権について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）		
2	自由主義の帰結	自由主義を突き詰めると、社会規範の多くが浸食されるほか、いくつかの問題が生じることを確認する。				事前学習：自由主義について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）		
3	自由主義と臓器売買	リバタリアニズムの立場からは容認されてしまう臓器売買、その実態を見ることにより、自由主義の負の側面を考察する。				事前学習：臓器売買について自らの見識を言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	カントのリバタリアニズム批判	カントの哲学的立場から「自由主義」を批判的に見たときに、何が得られ、何が失われるかを見ておく。	事前学習：哲学者カントについて調べる（理解は求めない）（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
5	自由をめぐる実践的考察	リバタリアニズムやカント主義のように極端に走るのではなく、われわれの生活実践から自由主義を再構築する。	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
6	自己決定の成立基盤としての平等	リバタリアンが考えるように平等が自由を破壊するのではなく、むしろ平等が自由を保障することを確認する。	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
7	平等概念の再検討	平等概念は複雑であるので、これを分析・整理する。また、いくつかの事例について考えることを通して、平等と不平等の理解を深める。	事前学習：平等について自分がどのようなイメージを抱いているかを言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
8	自己と共同体の関係を問い直す	自己決定の主体である個人がどのような存在であるのかを、これまでの考察を整理しつつ解明していく。インフォームド・コンセントの主体となるべき個人のあり方を明確にし、それによってインフォームド・コンセントを別の角度からとらえる視点を提供する。	事前学習：「自己形成」「アイデンティティ」について調べ、講義に備える。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）

授業科目	生態学 Ecology				担当教員	立澤 史郎		
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	◎	○				
授業目的	ヒトを含む生物と環境の関係および様々な環境問題について科学的・客観的に理解するために、生態学の基本概念と身近な事例を学ぶ。							
到達目標	・「2つの自然」「3つの生態学」について理解し説明できる。 ・関心のある地球環境問題について生態学的観点から説明することができる。							
関連科目	生物学 A・B、情報リテラシー、生活環境論、生命倫理							
テキスト	ありません。							
参考書	1.日本生態学会編「生態学入門 [第 2 版]（東京化学同人） 2.鷲谷いづみ、矢原徹一著「保全生態学入門―遺伝子から景観まで」（文一総合出版）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を毎回のコメントペーパー、レポート、および受講状況を合わせて総合的に評価します。 レポート 40％ 提出物 40％：コメントペーパー その他 20％：受講態度など					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	40						
	その他	20						
履修上の 留意事項	・高校「生物」教科書（特に生態・環境の項）を読み返しておくことが望ましい。 ・講義の内容および順序は受講生の理解度や関心等により変更する場合があります。							
課題に対するフィ ードバックの方法	課題の達成度に応じた説明や情報の追加を授業内で行います。また個別の質問にも対応します。							
実務経験を 活かした教育内容	国内外で地域住民・動物・生態系の one-health をめざして行っているプロジェクト等の内容を授業に反映させます。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	暮らしと生態学（ナチュ ラルヒストリー基礎）	ヒトを含め生物が環境との相互作用の中で生きていること、それゆえ人・生物・環境の三者のバランス（one-health）が重要であることを理解する。生物の生きざま（生活史）を知る手法として生活痕跡（フィールドサイン）の見方を学ぶ。				事前学習：過去に学んだ「進化」「適応」について復習しておくこと。（3～4 時間）		
2	鹿学（かがく）入門（ナチ ュラルヒストリー応用）	生物が環境といかにかかわりあいながら生活しているか、その結果としてどのように多様化しているか、“シカ”を例に学ぶ。				事前学習：身の回りで「野生動物」についてどのようなニュースがあるか調べてみこと。（3～4 時間）		
3	個体群生態学 1（基礎）	個体数の変動過程やその要因に関する基礎概念を学ぶ。またそれが、人口問題の理解や鳥獣害問題の解決・軽減につながることを理解する。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする人口問題に関係する記事・ニュースをよく読んでおくこと。（3～4 時間）		
4	個体群生態学 2（応用： 人口問題と鳥獣害）	個体群生態学（個体数変動）の研究例を学ぶ。また応用事例として、人口問題や鳥獣害問題について学ぶ。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする鳥獣害問題に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3～4 時間）		
5	群集生態学 1（基礎）	生物群集（種数）の変化や生物多様性に関する基礎概念を学ぶ。またそれらが外来種問題と関係していることを理解する。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生物多様性に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3～4 時間）		
6	群集生態学 2（応用：生 物多様性と外来種問題）	群集生態学の応用事例として、生物多様性保全の問題と外来種問題について学ぶ。				事前学習：身の回りやメディアで見聞きする外来生物に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3～4 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	生態系生態学 1 (基礎)	生態系における物質やエネルギーの循環について学ぶ。またそれが、人類の生存環境の問題と関わることを理解する。	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生態系に関するニュースをよく読んでおくこと。(3～4 時間)
8	生態系生態学 2 (応用：食物連鎖と生態濃縮)	生態系生態学の応用事例として、食物連鎖と生態濃縮について学ぶ。またそれらの視点を持つことで、人類が自らの生存環境にどのような影響を与えてきたか理解する。	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする環境・公害問題に関するニュースをよく読んでおくこと。(3～4 時間)

授業科目	スポーツ科学と運動 Sports Science and Exercise				担当教員	大浦 浩		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○		○			○	
授業目的	本授業は、身体を動かすことを通し、スポーツの楽しさ、仲間とのコミュニケーション、自他の体調の変化の「気づき」などを知り、社会生活に必要な「協調性」やあらゆる場面に自ら対応していく「積極性」を身につけることを目的とします。							
到達目標	医療人として豊かな人間性、社会生活に必要なマナーや社会性を身につける。							
関連科目	中学レベルの保健体育理論の知識を基盤とするので各自復習しておいてください。							
テキスト	特になし							
参考書	特になし							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		実技参加への意欲・積極性と受講態度、安全性の評価と技能評価を総合して評価する。 (70%) また課題を期限内に提出する事とする。(30%)					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	30						
	その他	70						
履修上の 留意事項	全授業回数の 2/3 以上の出席回数が必要。安全にスポーツを行う為に運動着、運動しやすい靴を着用すること。土足厳禁。感染防止対策として、マスクの着用。時間厳守。授業中の無断退室・飲食・勝手な行動を禁ずる。規則厳守。シラバスに記載されているスポーツ種目の順番、実施回数、種目等は履修者人数によって変更する場合ある。各時間、予習復習時間は 60 分程度。							
課題に対するフィ ードバックの方法	課題提出物には評価を付けて返却します。 A～C 評価は再提出なし。D 評価は再提出してもらいます。							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、ボッチャなど講義に織り交ぜながら、インクルーシブ教育について理解しやすいように授業を行います。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス レクリエーション	授業内容と目的、授業内容の構成、受講の諸注意の説明、評価方法について理解する。 軽い運動で身体をほぐす。					シラバスを読む。 実技授業に参加できるだけの基礎体力づくりと健康管理を日頃から心がける。 軽い運動が出来るような服装をすること。	
2	ソフトバレーボール①	基本ルールについて ボール操作とコントロール					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
3	ソフトバレーボール②	基本練習～攻撃編					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出①）	
4	ソフトバレーボール③	基本練習～守備編					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出②）	
5	ソフトバレーボール④	リーグ戦①					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出③）	
6	ソフトバレーボール⑤	リーグ戦②					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出④）	
7	ソフトバレーボール⑥	リーグ戦③					ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑤）	
8	バドミントン①	各ストロークの基本練習① ハーフコートでシングルスゲーム練習					バドミントンを文献やインターネットなどで予習	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	バドミントン②	各ストロークの基本練習② ハーフコートでシングルスゲーム練習	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑥）
10	バドミントン③	ルールの説明 ダブルスゲーム	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑦）
11	バドミントン④	ダブルスゲーム	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑧）
12	バドミントン⑤／生涯スポーツ（ボッチャ①）	生涯スポーツについて説明、ボッチャのルール説明	文献やインターネットなどで予習
13	バドミントン⑥／ボッチャ②	ダブルスゲーム	バドミントンとボッチャについて文献やインターネットなどで復習（課題提出⑨）
14	バドミントン⑦／ボッチャ③	ダブルスゲーム	バドミントンとボッチャについて文献やインターネットなどで復習（課題提出⑩）
15	まとめ	ソフトバレーボール、バドミントンゲーム	半期で実施した各実技種目等の復習

授業科目	スポーツ理論 Sports Theory				担当教員	大浦 浩		
対象学科・年次・学期	栄養学科/看護学科・1 年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	看護師・養護教諭・保健師・栄養士・管理栄養士は、患者・生徒・クライアント等の健康を預かる大切な役割を担っている。そして、その健康の保持増進に影響を及ぼすとされるのが運動（スポーツ）である。本科目では、健康を含めた対象者の QOL に大きく関わる運動やスポーツについて自ら学び体験し、知識を構築するだけでなく、自身の運動習慣確立の第一歩とする事を目的とする。							
到達目標	1.「健康とスポーツ（体力）との関連」や「栄養と睡眠」について理解する。 2.「心身のつながりとスポーツとの関連」や「動機づけ」のメカニズムについて理解する。 3.「トレーニング理論」と「運動プログラムの組み方」や「コンディショニングのセルフチェック法」について理解する。 4.「スポーツを取り巻く社会変化」について理解する。							
関連科目	中学レベルの保健体育理論の知識を基盤とするので各自復習しておいてください。							
テキスト	プリントを配布							
参考書	1.杉原隆著「運動指導の心理学」（大修館書店） 2.（特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【理論編】」（ベースボールマガジン社） 3.（特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【実践編】」（ベースボールマガジン社）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	100	目標の到達状況を受験条件（講義出席回数 2/3 以上）を満たした学生に対し、筆記試験にて 100％評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	他者の学習の妨げとなるような私語や携帯電話の使用、飲食等を禁じる（飲み物は蓋付のもので、飲む時以外は机の上に置かなければ可）。禁止行為に対しては注意・指摘するが、改善が見られない場合は途中退室を命じることがある。大学生として節度ある受講態度を心掛けつつ、受講者間において講義内容に関する自由闊達な議論が展開されることを望む。尚、シラバスに記載されている内容や順番は状況により変更する場合がある。各授業の前後に 3～4 時間の予習・復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	まとめの確認レポートについては、翌週の授業時に返却し解答・解説をする。							
実務経験を活かした教育内容								
回数（担当）	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	・ガイダンス ・「ころとからだ」のつながり		講義の目的と内容構成、受講の諸注意、評価方法、講義の進め方について理解する。 スポーツ理論を学ぶ上で基本となる「心身の関連」について理解する。			シラバスを読む。		
2	・スポーツと動機づけについて		いわゆる“モチベーション”の正体を知り、その維持向上のメカニズムを学習する。スポーツ活動における成功（失敗）体験が人に及ぼす影響や自己コントロール法について理解する。			「やる気」と「モチベーション」の違いを理解し、自分の精神を自己コントロールする訓練を行う。		
3	・フィードバックについて		運動学習における「フィードバック構造」について学習し、運動上達のメカニズムを理解する。フィードバックの効用を実験を通して体感する。			フィードバックを、自己の向上だけでなく、他者とのコミュニケーションにも活用する。		
4	・コーチングについて		コーチングの基礎を学習し、医療従事者、運動指導者に限らず、誰もが一度は遭遇する「他者を“コーチング”する場面」で力を発揮できるように準備する。			学習したコーチングスキルを日常生活で使えるようになる。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	・コンディショニングの基本について	より良いスポーツ活動のために必要なコンディショニングは、心身のセルフチェックを行うことから始まる。	自身の状態を確認し、以降のトレーニングにつなげる。
6	・トレーニング理論と運動処方について	トレーニングの原則（運動 - 栄養 - 休養（超回復））について学習し、トレーニング計画作成の基本を理解する。	簡単なトレーニングメニューの作成や、一定期間のトレーニング計画の立案をする。
7	・各年代の体力特性および適正な運動処方について	年代別の体力特性について触れ、ジュニア期を中心に、人の発育発達に応じた適切な運動選択の方法について学習する。	”いつ“、“何”を基準に、“どのような”運動を行えば良いのかを考え、理解する。
8	・スポーツと社会（オリンピック、ドーピング、人種、DNA） ・総括	スポーツに纏わる様々な社会問題を通して、今後のスポーツ界はどうなっていくのか、56年ぶりの自国開催となった「東京五輪 2020」を振り返りながら考察する。	オリンピックの歴史やスポーツ界の闇について知り、未来のスポーツ界について思いをはせる。

授業科目	地域社会文化論 Community Culture Theory				担当教員	澤井 玄		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	◎	○				
授業目的	「節分にまくのは落花生」「赤飯には甘納豆が入っている」のは普通だろうか、変わっているのだろうか。いずれも北海道の習慣で、全国的なものではない。この授業では、本学の所在する北海道の気候や人柄・食文化・習慣などを客観化することなどを通じて、自分の「普通」が他者にとっても「普通」とは限らないことを理解する。そして「自分は正しい」だけでなく「他者も正しい」ことを認められる思考を身に付けたい。またアイヌ文化についても適宜触れていきたい。							
到達目標	北海道の地域特性を理解するとともに、地域・時代・環境により、「正しい」こと、「当たり前」のことは不変ではないことを理解する。							
関連科目	「現代社会論」「社会貢献と活動」に関連する。							
テキスト	特になし。毎回資料を配布する。							
参考書	必要に応じて紹介する。可能であれば『なにこれ！？北海道学』池田貴夫著（北海道新聞社 2013 年）を見ておくこと。また本講義にかかわる事項以外にも、日刊の総合新聞（web ではなく紙の）にできるだけ毎日、目を通すこと。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点					
	試験	50	目標への到達状況を試験等の結果・提出物・その他授業への取り組み姿勢などにより総合的に評価する。講義に取り上げる事項に関連するアンケートを複数回実施する。これは提出物として評価するので誠実かつできるだけ詳細に回答すること。欠席回数が授業回数の 1/3 を超えた場合は試験の受験資格を失う。定期試験を受験しなかった場合は評価の対象とならない。 <遠隔授業となった場合の評価方法については別途指示する>					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	40						
	その他	10						
履修上の留意事項	授業中の私語・許可を得ない入退出等、授業の進行の妨げとなる行為は厳禁する。 上記に違反する者は学生証を提示させ、繰り返し注意を受ける者については以後の出席を認めない場合があるので十分注意のこと。							
課題に対するフィードバックの方法	毎回の出席 Forms における質問・感想および講義内容に関連するアンケートに対する回答・コメント等は、原則として次回講義時に口頭また必要に応じて資料を配布しておこなう。							
実務経験を活かした教育内容	道内各地で調査の機会があり、地域ごとに方言・産物・食生活等に差異・特色があることから、履修生たちの地元の特色も聞き出しながら授業展開を行っていく。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	イントロダクション	・私たちの「正しい」は世界中で正しいのだろうか。例：「命は唯一無二」なのか。 ・NHK ス ペシャル『ヤノマミ』ビデオ前半視聴。 ・「地球の食卓」(TOTO 出版) から世界の食生活を垣間見る。 ・初回アンケート（生活の中でのカルチャーショック）					配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
2	地域・文化で異なる「当たり前」	・「地球の食卓」続き。 ・増加する在日外国人。習慣の違い。 ・NHK ス ペシャル『ヤノマミ』ビデオ後半視聴。 ・地域・文化に関するアンケート。					配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
3	命は「唯一無二」のものか？	・前回アンケート結果報告。 ・ヤノマミ族の新生児を「天に返す」行為について。 ・世界各地・各時代の人口抑制（墮胎・間引き）。					配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	
4	親子・家族とは何か	・生物学的な親子と社会的な親子。 ・ 様々な親子のあり方。 ・どこまでが家族か。 ・「家族」に関するアンケート。					配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)	
5	日本の家族像	・江戸時代～現代の日本の家族像の変化。 ・「我が子」か「神の子」か。 ・誕生から死亡までの日本の儀礼・習慣。					配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	
6	家族・家庭とは何か	・家族団欒（だんらん）の誕生と、家庭の食卓の変遷。明治からサザエさん ・ちびまる子ちゃん、そして現代。 ・家庭内教育の場としての食卓・団欒。					配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	現代の家族と食卓	・家族のあり方の変化。 ・『家族の勝手でしょ』（岩村暢子・新潮社）にみる孤食・個食・勝手食い・バラバラ食いなど ・家庭内教育機会の減少。	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
8	日本人の身体観	・文化としての身体。 ・日本人の身体観・体に関する諺。 ・現代医療に必要な、文化による身体観の相違への理解。	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
9	伝統的生活文化（伝統医療）と現代医療	・現代医療と伝統医療の対立と共存。 ・民間治療・まじないのアンケート。	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)
10	方言と意思疎通	・方言のために医療従事者が病状把握を誤る現状。「はらあんべ（腹塩梅）ニヤニヤすってや」など ・臨床方言学の提唱。	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
11	北海道の自然と歴史	・北海道の自然環境 ・北海道に歴史は無いのか、明治時代以前から考える。	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
12	明治から現代の北海道	・本州からの移住 ・故地からの伝統継承と新しい生活	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
13	北海道に住む人々の習慣・考え方	・北海道人の気質・習慣・食文化・消費動向など・節分の風習アンケート	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。(計 4.5 時間)
14	アイヌ民族の今 北海道の疾病と特徴	・アイヌ民族の現状 ・北海道に多い病気・少ない病気とその要因	配付資料を復習しておくこと。(計 3.5 時間)
15	講義のまとめ	・これまでの講義のまとめ。	配付資料を復習しておくこと。(計 6 時間)

授業科目	法と人権 Law and Human Rights				担当教員	神元 隆賢		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○	◎	○				
授業目的	わが国の基礎法にしてすべての法律の根本を定義する根本規範である日本国憲法の内容は、総論、人権保障、統治機構に分けられる。この授業は、第 1 ～ 11 回では人権保障に関する問題をとりあげ、具体的事例を踏まえて学習することにより、社会生活を営むうえで必要な人権の基礎知識と法的思考を身につけることを目的とする。第 12 ～ 14 回では医療と人権に関する諸問題を学習することにより、「食」という人の健康の根本に携わる者として必要な法知識を身につけることを目的とする。							
到達目標	1.日本国憲法のうちの人権論に関する主要な判例および学説を理解したうえで、社会や世論で問題（話題）とされている事象について、現代憲法学の観点から議論をすることができる。 2.医療人としての職務と人権、そして法との関わりを、具体的な事例を通じて理解したうえで、法的・倫理的課題を克服するための一つの視角を得る。							
関連科目								
テキスト	初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門（第 6 版）」（有斐閣アルマ、2020 年）							
参考書	1.芦部信喜（高橋和之補訂）「憲法（第 7 版）」（岩波書店、2019 年） 2.戸松秀典「憲法」（弘文堂、2015 年）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	60	原則、この授業は対面で実施するが、コロナ禍により困難である場合にはオンライン授業で実施する。授業期間中にコロナ感染状況が変化し、対面授業とオンライン授業が切り替わった場合には、評価方法はオンライン授業のものを採用する。評価基準は、試験・レポートでは、文章の完成度と、私見を理論的に論述できるかという理論構成力を重視する。小テストでは、人権にかかる基本的知識の習得度を重視する。 【対面授業】 2/3 以上への出席を必要条件とし、宿題型のレポート、授業 15 回目に実施する小テスト、学期末の試験によって成績を評価する。評価割合は左記参照。 試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。追試験は実施するが、レポート・小テストの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。 【オンライン授業】 授業 15 回目で宿題型レポートを課し、その点数のみ（100%）で評価する。レポートの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。					
	レポート	20						
	小テスト	20						
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	【対面授業】 PowerPoint と教科書を併用し、授業前日までに Microsoft Teams にて PowerPoint データをエクスポートした PDF ファイルを配布する。 【オンライン授業】 MP4 動画と PDF ファイルを Microsoft Teams にて配布する。 担当教員への連絡は kanmoto@hgu.jp まで。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてはすべてにコメントを返す。小テスト、定期試験については模範解答及び講評を Microsoft Teams にて後日公開する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス、法学入門（1）	・ 授業の概要、方法、成績評価方法の説明 ・ 法とは何か				事前：シラバスを読んでおく（30 分）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1 時間 30 分）。		
2	法学入門（2）	・ 憲法、民法、刑法の機能 ・ 判例と学説				事前：とくになし。事後：自分の考えをノートにまとめる（2 時間）		
3	外国人の権利	・ 外国人に参政権（選挙権、被選挙権）を認める余地はあるか				事前：テキストの「Theme2」を読む（1 時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1 時間）。		
4	プライバシー権	・ プライバシー権保護の重要性 ・ 名誉毀損とは ・ 「宴のあと」事件				事前：テキストの「Theme3」を読む（1 時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1 時間）		
5	表現の自由（1）プライバシー権との調和	・ 名誉毀損における真実性の証明による不処罰				事前：テキストの「Theme3」と前回のレジュメ・ノートを読む（1 時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	表現の自由（2）ポルノの権利	・ わいせつ文書等頒布罪 ・ 許容される性表現の限界	事前：テキストの「Theme8」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
7	法の下での平等	・ 平等権の意味 ・ 尊属殺人罪違憲判決事件	事前：テキストの「Theme5,6」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
8	信教の自由	・ 神戸高専剣道実技拒否事件 ・ オウム真理教解散命令事件	事前：テキストの「Theme7」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
9	生存権	・ 「健康で文化的な最低限度の生活」とは	事前：テキストの「Theme11」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
10	教育権	・ 家永教科書裁判 ・ 旭川学テ事件	事前：テキストの「Theme12」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）。
11	死刑制度	・ 死刑存置論 ・ 死刑廃止論	事前：テキストの「Theme13」を読む（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
12	人の始期・終期	・ 胎児と人、人と死体を区別する法的基準 ・ 人はいつから「人」として法的に保護されるか	事前：とくになし。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）
13	自己決定権（1）被害者の同意	・ 自殺、自殺関与、同意殺人（死に同意した者の殺害）の違法性 ・ 同意傷害（負傷に同意した者の傷害）における傷害罪の成否 ・ 医療行為と傷害	事前：とくになし。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）
14	自己決定権（2）安楽死・尊厳死	死期が切迫した患者の苦痛を除去するための殺害、延命治療中止は許容されるか	事前：前回の授業内容を復習し、安楽死・尊厳死の是非について、自分の考えを整理しておく（1時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（1時間）
15	授業のまとめ	・ これまでの総括 ・ 学期末試験に向けて ・ 小テスト	事前：授業全体を振り返って、疑問点をまとめておく（1時間）。事後：学期末試験に向けてこれまでのノートをまとめて考えを整理する（1時間）

授業科目	生涯発達論 Lifelong Development				担当教員	安念 保昌		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			◎	○				
授業目的	「個体発生は、系統発生を繰り返す」とエルンスト・ヘッケルの反復説にあるように、長い進化の中で生物はそれぞれの種で生まれては死んでゆくことを繰り返してきた。発達心理学は、その言葉通りで言えば生まれて、成長していくことに焦点を当ててきたが、世界で最先端の少子高齢化が進む日本で、心身共に成長を過ぎて、老齢期そして死を迎えるまでの人の一生をとらえる生涯発達心理学に変わってきている。子育てを通じての親子関係が、孫育ての関係に替わっていくことで、人は長寿社会を構成するようになった。こうした世代間関係の在り方をライフサイクル、世代間発達を学修する。							
到達目標	1) 発達心理学の基礎を理解する。 2) 発生から成熟までの変化を理解する。 3) 青年期から成人期までの変化を理解する。 4) 中年期から老いへの対応を理解する。 5) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 6) それを簡潔なレポートにまとめることができること。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。							
関連科目	心理学(栄養)							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。 西村純一・平野真理（編著）「生涯発達心理学」（ナカニシヤ出版）2019 高橋一公・中川佳子（編著）「生涯発達心理学 15 講」（北大路書房）2014							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点					
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4 で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
	その他							
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取ること。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teams で配信する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	生涯発達心理学の基礎	心とは何か：認識と精神発達、発達の意義、氏か育ちか				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
2	成長・成熟の過程	学習理論からみた発達、比較行動学による発達理論、刻印付け、生理的早産としての人間、愛着の発達理論				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
3	個体発生と乳児期の発達	胎生期、新生児の特徴、新生児微笑、乳児期の認知的発達、愛着形成、ピアジェの認知発達理論、				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
4	幼児期の機能と発達	ことばの発達、幼児期の認知発達、社会性の発達、心の理論、社会脳				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
5	児童期の発達	思考と道徳性の発達、遊びと対人関係、発達障害、ASD				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	疾風怒濤の時代	アイデンティティの獲得と危機、精神病理、キャリア発達理論	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	家族の形成と発達	家族理論、母性と父性、世代間の連鎖	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	中年期から老年期	ライフサイクル論、中年期の課題と危機、老年期の不適応と障害	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	人間関係論 Human Relations				担当教員	安念 保昌		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎		○	○				
授業目的	我々が日々人の間で振る舞う中に、どのような秘密が隠されているのだろうか。意識の進化の中に、自己の成り立ちを考え、さらに、対人行動を巡るあらゆる生物・生態学的制約について考察する。自己は、意識過程の様々な物語から、自ら編み上げていったものである。そのプロセスは、ある物語性を持ったゲーム空間においてなされ、一方、他者は、そうした編み上げられたゲーム上の自己を通じて、解釈される。こうしてどのような家族・社会集団が成立するだろうか。							
到達目標	1)人間関係の基礎的な事項：自己認知、対人認知、態度、集団特性、コミュニケーション、生物心理社会モデルを理解すること。また、この分野が、社会心理学の中に置かれている、普遍的な位置づけについても理解する。 2) 社会心理学の細部の領域において、心がどのような方法論でとらえられているのか理解する。 3) 毎回の内容に関するワークシートや、Miro などを利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解する。 4) 毎回の内容を自分の身近な問題として捉えることができ、それを簡潔な文章にまとめることができる。							
関連科目	心理学(栄養)							
テキスト	前もって配信される授業資料							
参考書	適宜紹介する。 石川ひろの, 他(編著)「人間関係論」〔第3版〕(医学書院) 2018 岡堂哲雄(編著)「人間関係論入門」(金子書房) 2000 北村英哉・大坪庸介(著)「進化と感情から解き明かす社会心理学」(有斐閣アルマ) 2012							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4 で評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	60						
	その他							
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取ること。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。							
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teams で配信する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	はじめに: 演劇と人間関係	我々は仮面 persona をかぶっているのだろうか。				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
2	自己と他者: 社会的自己	自己知識・自己概念 自己知覚 自己評価・自尊心の維持・自己制御 自己呈示				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
3	社会的認知	帰属、対人認知のメカニズム、社会的判断・推論、ステレオタイプ、偏見				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
4	対人関係・対人行動・対人認知	バランス理論、認知的不協和理論、社会的交換、協力と競争、援助行動、攻撃				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		
5	コミュニケーション	言語・非言語コミュニケーション、マスコミ、CMC、ICT				事前：配信される授業資料を予習する(2 時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2 時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	集団・組織	所属・成員性、集団への同調、内集団ひいき、集団内の地位とリーダーシップ	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	態度の機能と構造	態度の形成と機能、態度の構造と変化、態度変化のモデル、説得への抵抗	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
8	社会的ジレンマ	ゲーム理論と心の理論	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	特別総合科目 Study with Extracurricular Activities				担当教員	百々瀬 いづみ 他		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年・通年				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○		○				
授業目的	本学は、人間力を根幹とした医療人の育成という教育理念に基づき、専門職業人としての資質の向上を目指している。本科目では、学生自らが健康、社会・環境、栄養、保健医療福祉に関する課題を掲げ、課外活動に積極的に参加、学修を積み重ねることで管理栄養士としての専門科目を履修する際の基盤をつくることをねらいとする。							
到達目標	1) 自己の人間力を育成しかつ専門職業人としての資質向上につながる活動に計画的・主体的に参加することができる。 2) 活動内容と学びを保健医療福祉の視点から記述できる。 3) 活動を通して、専門職業人（管理栄養士）の役割について考えることができる。							
関連科目	学びの理解、管理栄養士論							
テキスト	なし							
参考書	なし							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		評価のためには、以下の3点が必要となる。1) 学習のねらいに合致した自主的活動が授業の30時間相当あること。2) 活動がポートフォリオにまとめられていること。3) 各活動の学びがレポートにまとめられていること。提出されたポートフォリオ（上記3点含む）から総合的に評価する。詳細は、ガイダンスで説明する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	100						
	その他							
履修上の 留意事項	必ずガイダンスを受講してください。							
課題に対するフィ ードバックの方法	個々の課題に対して、個別にアドバイスをおこなう							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	科目ガイダンス		①学修のねらいと学修の進め方 ②単位認定の方法					
2～15	自主的活動		各種活動とポートフォリオの作成					

授業科目	形態機能学Ⅰ Anatomy and PhysiologyⅠ				担当教員	金高 有里、千葉 仁志			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○	○						
授業目的	人体の構造と機能について基本的な解剖学のおよび生理学的知識を修得する。具体的には、人体の構造と構成、細胞組織、器官についての概略を踏まえて、体液・血液、循環器系、消化器系、呼吸器系、等についての構造、機能、調節機構について学修し、栄養学との関連について理解する。								
到達目標	人体を構成する各器官の構造と機能を理解し、栄養学との関係を説明できる。								
関連科目	生化学Ⅰ,生化学Ⅱ,基礎栄養学,病理学								
テキスト	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版 羊土社								
参考書	「人体の構造と機能 第5版」 内田さえ、佐伯由香、原田玲子編集、医歯薬出版								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	90	定期試験(90%)、提出物(10%)の結果により総合的に評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	10							
	その他								
履修上の 留意事項	形態機能学Ⅱと一体の科目として学修すること。 生化学や基礎栄養学、病理学の理解へと続く科目として学修すること。 学んだことを自分の体のことと結びつけて理解すること。								
課題に対するフ ィードバックの方法	提出物には、評価をつけて返却する。								
実務経験を 活かした教育内容	組織解剖学を取り入れた研究を進めているため、その内容を生かした授業とする。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (金高)	ガイダンス	形態機能学について				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
2 (金高)	細胞と組織	細胞の構造と機能、組織、器官、個体、人体の基準平面				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
3 (金高)	運動器系(1)	運動の仕組み、骨の構造と機能、骨格、関節				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
4 (金高)	運動器系(1)	骨格筋の構造と機能、全身の骨格筋、筋収縮の仕組み				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
5 (金高)	皮膚・皮膚感覚	皮膚の構造、上皮組織、感覚				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
6 (金高)	ホメオスタシス(1)	エネルギー出納、摂食行動、エネルギー消費、発熱と熱放散、体温、エネルギー代謝異常				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
7 (金高)	ホメオスタシス(2))	エネルギー出納、摂食行動、エネルギー消費、発熱と熱放散、体温、エネルギー代謝異常				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
8 (金高)	生体防御(1)	異物、解毒、皮膚・粘膜、自然免疫				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
9 (金高)	生体防御(2)	獲得免疫				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
10 (千葉)	血液	血液の組成と機能、赤血球の産生と機能、白血球の種類と機能、血小板の産生と機能、血液凝固と線溶系、血液型				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			
11 (千葉)	循環器系(1)	血管の構造と種類、心臓の構造と機能、心臓収縮と心電図、血圧とその調節				テキストと配付(2時間)プリントを読んでおくこと			
12 (千葉)	循環器系(2)	体循環、肺循環、動脈、静脈、毛細血管、血圧、血流、リンパ系				テキストと配付プリントを読んでおくこと(2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13 (千葉)	呼吸器系 (1)	呼吸器系の概略、鼻腔・咽頭・喉頭の構造と発声のしくみ、気管と気管支の構造と特徴、肺の構造と区分、胸部 X 線写真の見方	テキストと配付プリントを読んでおくこと (2 時間)
14 (千葉)	呼吸器系 (2)	縦隔の区分、胸膜腔の構造と呼吸運動、呼吸ガス交換とガス運搬、呼吸運動の調節、呼吸機能検査	テキストと配付プリントを読んでおくこと (2 時間)
15 (金高)	まとめ	まとめと復習	テキストと配付プリントを読んでおくこと (2 時間)

授業科目	形態機能学Ⅱ Anatomy and Physiology Ⅱ				担当教員	千葉 仁志		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				
授業目的	形態機能学Ⅰに引き続き、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）を生活行動と連動させながら系統的に学習し、2年次と3年次に履修する病理学、病態診療学Ⅰ・Ⅱの基礎を支える科目とする。ここでは食物の消化と栄養素の吸収に関わる消化器系、体液の調節と尿の生成に関わる腎・泌尿器系、内臓機能の調節に関わる内分泌系、情報の受容と処理に関わる神経系と感覚器系、生殖器の正常な形態と機能について学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。							
到達目標	1. 上部消化管と下部消化管の構造を機能と関連づけて説明できる。 2. 肝臓・胆嚢・膵臓の構造を機能と関連づけて説明できる。 3. 泌尿器の構造を尿の生成機構および排尿調節機構と関連づけて説明できる。 4. 体液、電解質および酸塩基平衡について構成と機能を関連づけて説明できる。 5. 内分泌器官の構造を内分泌による内臓機能の調節に関連づけて説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の構造を機能と関連づけて説明できる。 7. 感覚器の構造を機能と関連づけて説明できる。 8. 生殖器の構造を機能と関連づけて説明できる。							
関連科目	1年次後期に履修する基礎栄養学、2年次前期に履修する病理学、2年次後期に履修する病態診療学Ⅰ、3年次前期に履修する病態診療学Ⅱと、密接に関連する。							
テキスト	志村 二三夫, 岡 純, 山田 和彦編集、栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学 人体の構造と機能 第3版、羊土社。							
参考書	内田さえ、佐伯由香、原田玲子編集、人体の構造と機能 第5版、医歯薬出版。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	70％	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題と正解をよく学習し、定期試験の準備をすること。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60％以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が60％以上の場合に合格とする。					
	レポート							
	小テスト	30％						
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	教員が作成したパワーポイントの講義資料（レジュメ）に基づいて講義を行う。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に対して注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を学修する姿勢が求められる。小テストではFORMSを使用するので、送受信ができるようにPC（あるいはタブレットやスマートフォン）を準備しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストはFORMSを利用するので、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違った箇所をレジュメと教科書・参考書で確認し、理解と正しい情報の確実な記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師としての臨床経験を講義に織り交ぜながら、解剖学と生理学について身近に感じられ、理解が進むように配慮して授業を行う。							
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	消化管の構造と機能 (1)		口腔と咽頭の構造、咀嚼および嚥下機能、上部消化管の構造と機能			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)		
2	消化管の構造と機能 (2)		下部消化管の構造と機能、栄養素の消化と吸収、消化管ホルモン			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)		
3	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能		肝臓の区分と多様な機能、胆嚢の構造と機能、膵臓の構造と機能			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	腎・尿路系の構造と機能	腎臓と尿路系の構造、尿の生成と調節機構、排尿調節機構	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
5	体液の調節機構	水分の調節、電解質の調節、酸塩基平衡のしくみ	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
6	内分泌系の構造と機能 (1)	ホルモンの種類と化学構造、ホルモン分泌の調節、視床下部一下垂体系、甲状腺	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
7	内分泌系の構造と機能 (2)	副甲状腺、副腎、睪島、副腎、性腺	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
8	神経系の構造と機能 (1)	神経系の細胞の種類と機能、神経細胞の構造と興奮のしくみ、神経筋接合部の構造と興奮の伝達	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
9	神経系の構造と機能 (2)	脳の構造と機能、脳室と髄膜、脳脊髄液の生成と循環	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
10	神経系の構造と機能 (3)	脊髄の構造と機能、脳神経と脊髄神経の構造と機能、	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
11	神経系の構造と機能 (4)	自律神経系の種類と機能、脳の高次機能	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
12	感覚器の構造と機能 (1)	眼球と眼球付属器の構造と視覚機能、対光反射と遠近調節、眼球運動と神経支配	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
13	感覚器の構造と機能 (2)	耳の構造と聴覚および平衡覚、舌の構造と味覚、嗅上皮と嗅覚、体性感覚の種類、皮膚の構造と機能、疼痛の分類	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
14	生殖器の構造と機能 (1)	性分化のしくみ、女性生殖器の構造と機能、男性生殖器の構造と機能	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
15	生殖器の構造と機能 (2)	受精と発生のしくみ、定期試験についての注意	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

授業科目	有機化学 Organic Chemistry				担当教員	津久井 隆行			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○		◎					
授業目的	自然の動植物や人類にとって、その生命維持や生活を支える基本としての有機化合物とは不可分の関係にある。具体的には、たんぱく質、炭水化物、脂質、ビタミンは有機化合物である。これらの構造、官能基とその反応性、立体構造等を学修する。さらに様々な有機反応について学修し、生体を構成する、あるいは生命現象に深く関与する基本的な有機化合物について理解を深め、生化学に関わる基本物質についての知識を修得し、生命現象を化学的に理解する。								
到達目標	1. 有機化学と生化学・栄養学との関連性を説明できる。 2. 有機化合物における炭素の特殊性について説明できる。 3. 炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について説明できる。 4. 有機化合物の官能基の種類と物質の名称について説明できる。 5. 異性体と生体物質との関連について説明できる。 6. 栄養素を具体的に挙げの構造や特性の概略について説明できる。								
関連科目	基礎科目（食品科学、生化学ⅠおよびⅡ、基礎栄養学）や実験系科目の基礎となる。 食品衛生管理者となる資格の取得には本科目の履修が必須となる。								
テキスト	熊谷仁 他「初歩の有機化学」（アイ・ケイコーポレーション）及び、教員が作成する配布資料								
参考書	菅原二三男 監訳「マクマリー生物有機化学 生化学編」（丸善）								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 ①小テスト（30点） ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。 ②定期試験（70点） ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。						
	レポート								
	小テスト	30							
	提出物								
	その他								
履修上の 留意事項	1. 授業前にテキスト・配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2. 授業後にはテキスト・配布資料の該当ページを必ず復習する。 3. 演習を取り入れた双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。								
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題		授業内容				事前・事後学習		
1	有機化学とは		有機化学の定義を示し生化学・栄養学との関連について理解する。				配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(2時間)		
2	有機化学の基礎：有機化合物の結合とその表し方		有機化合物の基本的な構造および構造式の表し方について学修する。				配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
3	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について		単結合炭化水素（アルカン）の種類・構造・名称・性質について学修する。				テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		
4	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について		二重結合炭化水素（アルケン）の種類・構造・名称・性質について学修する。				テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各2時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	三重結合炭化水素（アルキン）の種類・構造・名称・性質について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
6	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	官能基と IUPAC 命名法について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
7	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	代表的な有機反応について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
8	炭素の基本骨格による分類とその種類・構造・名称・性質について	環状炭化水素（芳香族化合物）の種類・構造・名称・性質について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
9	有機化合物の官能基の種類と物質の名称	官能基の種類と性質 1：アルコール、エーテル、フェノールなどについて学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
10	有機化合物の官能基の種類と物質の名称	官能基の種類と性質 2：アルデヒド、ケトンその他について学修する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
11	糖・アミノ酸の異性体と立体化学について	糖の D-、L-異性体と α -、 β -異性体、様々なグリコシド結合について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
12	糖・アミノ酸の異性体と立体化学について	アミノ酸の分類と化学構造について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
13	脂質の有機化学	脂質の化学構造や化学反応について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
14	核酸の有機化学	核酸の化学構造について理解する。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 2 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
15	全体のまとめ	これまでに学修した内容について振り返り、定着を図る。	テキストおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。 （各 3 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	微生物学 Microbiology				担当教員	濱岡 直裕		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	人間は様々な場面で微生物と関わりを持っていることを学修する。微生物学の歴史や分類、性質等について理解する。 また、人体と有毒物質との相互関係を理解し、病原微生物の感染から発症、その防御機構について学修する。							
到達目標	1. 微生物とヒトの関わりを説明できる。 2. 微生物の種類、性質、生理と代謝について説明できる。 3. 微生物と食品の関係を説明できる。 4. 微生物と感染症について説明できる。 5. 滅菌・消毒について説明できる。 6. 微生物のバイオテクノロジー応用について説明できる。							
関連科目	微生物学実験に強く関連する。							
テキスト	小林秀光・白石淳 編「微生物学 第3 版」（化学同人）							
参考書	大橋典男編 「栄養科学イラストレイテッド微生物学」(羊土社)							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への 参加状況、態度）などにより目標の到達状況を評価する。 最終試験は最終授業時間において行う。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	各授業の前後に各 1 時間の予習・復習を必要とする。							
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストや試験の出題は授業の中で解説する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	微生物概論	オリエンテーション、微生物の歴史				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
2	微生物基礎（1）	微生物の種類と性質(1)				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
3	微生物基礎（2）	微生物の種類と性質(2)				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
4	微生物基礎（3）	微生物の生理と代謝				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
5	食品微生物（1）	微生物と食品				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
6	食品微生物（2）	微生物を利用した食品				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
7	食品微生物（3）	微生物の機能を利用した食品				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	病原微生物 (1)	感染機構、細菌	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
9	小まとめと小テスト	ここまでの小まとめ、小テスト、解答解説	事前にテキストを予習し、事後に配布資料等で復習する (各 1 時間程度)。
10	病原微生物 (2)	真菌、ウイルス、原虫	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
11	病原微生物 (3)	新興・再興感染症	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
12	滅菌・消毒	滅菌法、消毒法	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
13	バイオテクノロジー	バイオテクノロジーと微生物	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
14	微生物学の応用	微生物に関する最近の話題	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
15	総まとめ	総括、最終試験、解答解説	事前にテキストを予習し、事後に配布資料等で復習する (各 1 時間程度)。

授業科目	微生物学実験 Microbiology Experiment				担当教員	濱岡 直裕			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実験				単位数	1 単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○		◎			○		
授業目的	微生物学で学修する内容を基礎として、微生物学の実験技術の基礎を学修するとともに、実験を通して、微生物の特徴を理解する。微生物の観察や測定等の実験によってヒトと微生物の関わりを学び、医療現場、介護現場、食生活などにおける微生物の有用性や危険性などを理解し、管理栄養士として医療・介護の現場において必要な応用力を身につける。								
到達目標	1. 微生物を扱うための基本的技術を修得している。 2. 医療における微生物の有用性や危険性について説明できる。 3. 食品加工、食生活における微生物の有用性や危険性について説明できる。								
関連科目	微生物学に強く関連する。								
テキスト	杉山章、岸本満、和泉秀彦編「食品衛生学実験 - 安全を支える衛生検査のポイント -」(みらい) 毎回、資料を配付する								
参考書									
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		レポート、提出物、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況を評価する。						
	レポート	40							
	小テスト								
	提出物	20							
	その他	40							
履修上の 留意事項	実験にあたっては予習・復習を 1 時間程度行うこと								
課題に対するフィ ードバックの方法	実験レポートはコメントを付け返却する。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	微生物学的基礎技術	実験の基本的注意、実験準備				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
2	菌数の測定 (1)	一般生菌数の測定				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
3	菌数の測定 (2)	一般生菌数の測定結果の確認				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
4	菌数の測定 (3)	乳酸菌数の測定				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
5	菌数の測定 (4)	乳酸菌数の測定結果の確認				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
6	菌数の測定 (5)	抗菌剤の効果の評価				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
7	菌数の測定 (6)	抗菌剤の効果の評価の確認				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
8	コロニー観察と 染色観察(1)	落下細菌の採取、標準菌のコロニー観察				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
9	コロニー観察と 染色観察(2)	落下細菌の単染色、顕微鏡観察				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			
10	コロニー観察と 染色観察(3)	標準菌のグラム染色、顕微鏡観察				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
11	コロニー観察と染色観察(4)	標準菌、落下細菌のグラム染色、顕微鏡観察	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
12	大腸菌群の検査 (1)	食品中の大腸菌・大腸菌群の検出	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
13	大腸菌群の検査 (2)	大腸菌・大腸菌群の検出確認	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
14	大腸菌群の検査 (3)	大腸菌の鑑別・大腸菌群の最確数	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
15	全体のまとめ	プレゼンテーション	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。

授業科目	生化学Ⅰ BiochemistryⅠ				担当教員	森山 隆則			
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○		◎					
授業目的	人体を構成する細胞の構造と機能、ヒトの体を構成し外から摂取しなければならないアミノ酸、たんぱく質、糖質、脂質、核酸、酵素、ビタミン及びミネラルの化学構造と機能について学修する。生体のエネルギー源と代謝、生体酸化、酵素の性質や作用等について理解する。								
到達目標	1.アミノ酸・たんぱく質・糖質・脂質の機能を構造・性質にもとづき説明できる。 2.核酸の機能を構造・性質にもとづき説明できる。 3.酵素の定義、構成、性質、生理学的及び栄養学的意義について説明できる。 4.ビタミンの種類と機能を示し補酵素としての役割及び欠乏症について説明できる。 5.体を構成するミネラルを示し、必須なミネラルの欠乏症について説明できる。 6.糖質代謝とエネルギー産生について理解し脂質・たんぱく質との関連を説明できる。								
関連科目	生化学Ⅱ、生化学実験								
テキスト	1. 菌田淳「栄養科学イラストレイテッド 生化学 改定第3版」(羊土社) 2. 菌田淳「栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 改定第3版」(羊土社) 3. その他、教員が作成する配布資料								
参考書	遠藤克己、三輪一智「生化学ガイドブック改定第3版」(南江堂)								
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点						
	試験	70	目標の到達状況を定期試験(70%)、レポート(20%)その他(10%)で評価する。 その他：授業時の発表、取り組み姿勢						
	レポート	20							
	小テスト								
	提出物								
	その他	10							
履修上の留意事項	1.授業前にテキスト・配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2.授業後にはテキスト・配布資料の該当ページを必ず復習する。 3.テキスト「生化学ノート」の課題については指示ある毎に期日内に提出する。 4.双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートの課題は、翌週の授業時に返却し解説する。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験の立場から、生体成分などの講義を織り交ぜながら、生化学について分かりやすく授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	生化学とは	生化学を学ぶ目的、単位・専門用語の理解				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする。			
2	生命と細胞	生命の最小単位である細胞の構造と小器官の役割				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする			
3	たんぱく質とは	アミノ酸・たんぱく質の定義・構造式・生化学的性質				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする。			
4	たんぱく質の種類	たんぱく質の構造・機能からみた種類				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする。			
5	糖質とは	糖質の定義・構造式(異性体)・生化学的性質				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする			
6	糖質の種類	糖質の分類(単糖類・二糖類・多糖類)				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする。			
7	脂質とは	脂質の定義・構造式・生化学的性質				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする。			
8	脂質の種類	脂質の分類(単純脂質・複合脂質・誘導脂質)				プリント内容は必ず予習(2時間)・復習(2時間)をする。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	核酸とは	核酸の構成、遺伝子及びたんぱく質合成との関連	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
10	酵素とは	酵素の定義・性質・生体における生理学的役割	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
11	ビタミンとは	ビタミンの化学構造、機能、分類（水溶性・脂溶性）・欠乏症	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
12	ミネラルとは	ミネラルの構造と機能、種類と欠乏症	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
13	糖質の代謝	解糖系とクエン酸回路（TCA サイクル）	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
14	糖新生	グリコーゲンの代謝とペントースリン酸回路	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。
15	糖代謝の意義	解糖と糖新生の調節、脂質、たんぱく質との関連	プリント内容は必ず予習（2 時間）・復習（2 時間）をする。

授業科目	食品科学Ⅰ Food ScienceⅠ				担当教員	松川 典子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○	○	◎				○	
授業目的	食品の分類には、生産様式、原料、主要栄養素、食習慣、その他の分類があること、また、食品の機能性について学修する。一次機能は生命維持に関わる栄養成分、二次機能は食欲や満足感に影響する嗜好成分であり、三次機能は、消化管内で作用する機能、消化管で吸収後の標的組織での生理機能調節に関わる成分であり、それぞれの特性を理解する。また新規食品やその成分が健康に与える影響や疾病予防に対する役割などを理解する。								
到達目標	1. 食品の種類と分類を説明できる。 2. 食品の機能について、成分と一次、二次、三次機能の関係を説明でき、機能を効果的に活用できる知識を修得している。 3. 食品成分の変化、成分間反応の基礎を理解し、栄養価、安全性、嗜好性などの面で適切に食品を扱う能力を身につけている。								
関連科目	食品科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、食品科学実験Ⅰ・Ⅱ、調理学、基礎栄養学								
テキスト	中河原 俊治 編著「食べ物と健康Ⅱ 第2版 食品の機能」（三共出版）								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	80	授業内で前回の内容に関する小テスト（20％）を実施し、全体の授業内容に関連する定期試験（80％）を実施することで学習到達度を評価する。						
	レポート								
	小テスト	20							
	提出物								
	その他								
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。授業時間ごとに不明な点は質問紙に記入、提出する。調理学や基礎栄養学などとの関連があるので、系統的な科目として学修する。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	食品の分類、機能	食品とは（ 種類、分類など ）、食品成分と機能性				事前：シラバスを確認する。教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）			
2	食品の一次機能（1）	水分、炭水化物の種類と性質①				事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）			
3	食品の一次機能（2）	炭水化物の種類と性質②				事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）			
4	食品の一次機能（3）	炭水化物の加熱変化、たんぱく質の種類と性質①				事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）			
5	食品の一次機能（4）	たんぱく質の種類と性質②、たんぱく質の変化、酵素				事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	食品の一次機能（５）	脂質の種類と性質①	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
7	食品の一次機能（６）	脂質の種類と性質②、脂質の変化	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
8	食品の一次機能（７）	無機質の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
9	食品の一次機能（８）	ビタミンの種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
10	食品の二次機能（１）	色素成分の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
11	食品の二次機能（２）	呈味成分の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
12	食品の二次機能（３）	香気・臭い成分の種類と性質	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
13	食品の二次機能（４）	食品の物性とおいしさの評価	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
14	食品の三次機能（１）	非栄養成分、生体での機能発現	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）
15	食品の三次機能（２）	疾病予防と食品成分	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。（1 時間） 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。（1 時間）

授業科目	食品科学Ⅱ Food Science Ⅱ				担当教員	板垣 康治		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				
授業目的	日常摂取する食品を生物起源によって植物性食品、動物性食品、その他の食品に分類し、それぞれに分類される食品の種類と成分的特性について、また、それらの代表的な加工品について学修する。多様な食品の種類や 成分特性に関する知識を系統的に理解する。また、食品成分表の構成と内容についても理解する。							
到達目標	1. 様々な食品の種類や機能性に関する知識を系統的に理解し、説明できる。 2. 食品の特性を食事設計や栄養教育などの管理栄養士業務に活用できる。							
関連科目	1 年前期に履修した食品科学Ⅰ、2 年後期に履修する食品科学Ⅲ、及び 4 年前期に履修する食品機能論と関連する。							
テキスト	荒川 義人 編著「食べ物と健康Ⅰ 第 2 版 食品の分類と成分」（三共出版）							
参考書	「日本食材百科事典」講談社編（講談社＋α文庫）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、 授業への参加状況、態度）、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。 最終試験は、第 14 回目の授業において行う。					
	レポート							
	最終試験	20						
	提出物							
	その他	20						
履修上の 留意事項	各授業の前後に 2 時間の予習・復習を要する。 食品科学Ⅰ、調理学の基礎を身に付け、身近にある多様な食品に関心をもって受講する。							
課題に対するフィ ードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。							
実務経験を 活かした教育内容	大手食品メーカーでの勤務経験を生かして、より実践的な授業展開を図りたい。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	人間と食品	食文化と食生活、食生活と健康、食料と環境問題				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		
2	食品の分類と成分	食品の分類、植物性食品（1）穀類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		
3	食品の分類と成分	植物性食品（2）いも類、豆類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		
4	食品の分類と成分	植物性食品（3）種実類、野菜類＜ 1 ＞				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		
5	食品の分類と成分	植物性食品（4）野菜類＜ 2 ＞				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		
6	食品の分類と成分	植物性食品（5）果実類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		
7	食品の分類と成分	植物性食品（6）きのこ類・藻類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		
8	食品の分類と成分	動物性食品（1）肉類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	食品の分類と成分	動物性食品 (2) 魚介類	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
10	食品の分類と成分	動物性食品 (3) 乳類	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
11	食品の分類と成分	動物性食品 (4) 卵類	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
12	食品の分類と成分	その他の食品 (1) 油脂類その他の食品 (2) 甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料その他の食品 (3) 微生物利用食品	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
13	食品成分表の理解	日本食品標準成分表の概要、2020 年版 (八訂) の構成など (1)	事前：関連部分をテキスト等で予習する (2 時間)。事後：テキストの課題で復習する (2 時間)。
14	食品科学Ⅱの総括 (1)	食品科学Ⅱの総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する (2 時間)。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する (2 時間)。
15	食品科学Ⅱの総括 (2)	最終試験の総括とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する (2 時間)。事後：配布資料で復習する (2 時間)。

授業科目	食品科学実験Ⅰ Food Science LaboratoryⅠ				担当教員	松川 典子、津久井 隆行			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実験				単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○	◎			○	○	
授業目的	食品科学実験に関する基礎知識、基本的操作を身につけ、食品の一般成分である水分、アミノ酸、たんぱく質、糖質（単糖類、オリゴ糖、多糖類）、脂質、灰分などの定量分析および、定性分析を学修する。実験の結果をレポートに整理するとともに、食品成分の特性や食品成分表に記載されている成分値についても理解する。								
到達目標	1. 食品科学実験の基本操作を身に付けている。 2. 食品成分の特性について説明できる。 3. 食品の一般成分分析法を修得し、食品成分表の記載値の根拠を説明できる。								
関連科目	食品科学Ⅰ・Ⅱ、食品科学実験Ⅱ、基礎栄養学								
テキスト	吉田勉 監修「新しい食品学実験」（三共出版） その他にテーマごとにプリントを配布する。								
参考書	なし								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点						
	試験		目標の到達状況をレポート（60％）、その他（40％）で評価する。 その他：授業時の実験操作を進める姿勢						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物								
	その他	40							
履修上の 留意事項	レポートは、実験テーマごとに内容（結果・考察）をまとめたものを、指定期日までに提出する。 レポート作成には、食品科学Ⅰのテキストで実験内容に該当する箇所の復習を含め2時間程度を要する。								
課題に対するフィ ードバックの方法	レポートは、添削し返却する。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (松川)	実験の基礎知識	ガイダンス、実験器具及びデータの取り扱い				配布プリントと実験テキスト、 及び指示する食品科学関連資料 で実験内容を確認する。			
2 (松川)	基礎実験（1）	糖の定性				配布プリントと実験テキスト、 及び指示する食品科学関連資料 で実験内容を確認する。			
3 (松川)	基礎実験（2）	たんぱく質の定性				配布プリントと実験テキスト、 及び指示する食品科学関連資料 で実験内容を確認する。			
4 (松川)	基礎実験（3）	有機酸の定量				配布プリントと実験テキスト、 及び指示する食品科学関連資料 で実験内容を確認する。			
5 (津久井)	一般成分分析（1）	水分と灰分の定量①				配布プリントと実験テキスト、 及び指示する食品科学関連資料 で実験内容を確認する。			
6 (津久井)	一般成分分析（2）	水分と灰分の定量②				配布プリントと実験テキスト、 及び指示する食品科学関連資料 で実験内容を確認する。			
7 (津久井)	一般成分分析（3）	たんぱく質の定量①				配布プリントと実験テキスト、 及び指示する食品科学関連資料 で実験内容を確認する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (津久井)	一般成分分析 (4)	たんぱく質の定量②	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
9 (津久井)	一般成分分析 (5)	脂質の定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
10 (津久井)	一般成分分析 (6)	無機質の定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
11 (津久井)	一般成分分析 (7)	糖質の定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
12 (松川)	一般成分分析 (8)	ビタミンの定量	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
13 (松川)	でんぷんの性質	でんぷんの種類と糊化温度の違い確認	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
14 (松川)	油脂の性質	油脂の性質 (融点測定・酸価の測定)	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
15 (松川)	食品の色素の性質	食品に含まれる脂溶性、水溶性色素の性質確認	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。

授業科目	調理学 Cookery Science				担当教員	坂本 恵			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1 年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2 単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○	○	◎					
授業目的	人間と食品について、食文化と食生活の歴史の変遷、食生活と健康、食料と環境問題を含め理解する。さらに食物のおいしさは調理方法、個人の嗜好性、環境など様々な要因によって影響を受けていることを理解する。また、食品の備えている特性が調理過程において理化学的、組織学的、物性学的に変化することを学修し、調理理論を理解する。実践の場において、管理栄養士として栄養指導、食事管理などを行うための基礎的な知識を身につける。								
到達目標	1. 食文化と食生活の歴史の変遷、食料と環境問題、食生活と健康について説明できる。 2. 食事における調理の役割について説明できる。 3. 調理操作による食品の変化について説明できる。 4. 食文化や食習慣に配慮した食事計画と調理操作について理解している。								
関連科目	同時期に開講されている調理学実習Ⅰ、食品科学Ⅰと関連している。								
テキスト	1. 大越ひろ・高橋智子編著 「四訂 健康・調理の科学」(建帛社) 2. 八訂 食品成分表 2023 (女子栄養大学出版部)								
参考書									
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	60	目標の到達状況を小テスト (40%) および定期試験 (60%)の結果により総合的に評価する。						
	レポート								
	小テスト	40							
	提出物								
	その他								
履修上の 留意事項	1.授業の中で小テストを実施する。 2.講義資料の練習問題を解き内容を理解する。								
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストは、授業時に返却し解答・解説をする。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	食生活の変遷	食文化と食生活の歴史の変遷、食料と環境問題				シラバスの確認、テキストと配布プリントを復習する (4 時間)			
2	調理の目的	調理の目的と役割				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
3	食事設計と健康 (1)	食事の意義と役割、食事設計、食品成分表の理解と活用				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
4	食事設計と健康 (2)	対象者に適した献立作成の基本的な考え方				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
5	食事設計と健康 (3)	料理様式と食事構成				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
6	おいしさと健康 (1)	おいしさを感じるからだの仕組みと健康への影響				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
7	おいしさと健康 (2)	おいしさに関与する要因とおいしさを構成している食べ物の成分				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
8	おいしさと健康 (3)	おいしさの評価方法、食品の嗜好機能と健康				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
9	調味と味覚	調味操作の基本、味の相互作用				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			
10	調理操作 (1)	非加熱調理操作				テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	調理操作 (2)	加熱調理操作	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
12	食品の調理特性と健康 (1)	炭水化物を多く含む食品の調理特性	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
13	食品の調理特性と健康 (2)	たんぱく質を多く含む食品の調理特性①	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
14	食品の調理特性と健康 (3)	たんぱく質を多く含む食品の調理特性②	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)
15	食品の調理特性と健康 (4)	ビタミン・ミネラルを多く含む食品の調理特性	テキスト関連部分と配布プリントを確認し内容を理解する (4 時間)

授業科目	調理学実習Ⅰ Cookery Science PracticumⅠ				担当教員	坂本 恵			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○	◎			○	○	
授業目的	調理学で学んだ理論を基礎として、食事計画から提供までの過程を体系的に学修する。調理操作における食品の化学的変化や調理技術について実習を通して修得するとともに、おいしい食事とはどのような食事なのか、またどのように提供する事が重要なのか等について考え、実践する能力や技術を身につける。さらに管理栄養士として現場において食事を提供するための留意点や安全な食事提供におけるリスク管理について、実習を通して修得する。								
到達目標	1. 食材に適した取り扱い方や調理操作ができる。 2. 調理技術を習得し日常生活で実践できる。 3. 調理機器を適切に使用することができる。 4. 衛生や安全管理を理解し、調理することができる。								
関連科目	同時期に開講されている調理学と関連している。								
テキスト	1. 松崎政三他 「調理の基礎とサイエンス」(学際企画) 2. 「調理のためのベーシックデータ第6版」(女子栄養大学出版部) 3. 八訂 食品成分表 2023 (女子栄養大学出版部) ※その他プリント配布								
参考書	大越ひろ・高橋智子編著「四訂 健康・調理の科学」(建帛社)								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		実習内容に関する提出物(50%)、小テスト(30%)、その他(20%)の結果を総合的に評価する その他：授業時の取組み姿勢						
	レポート								
	小テスト	30							
	提出物	50							
	その他	20							
履修上の 留意事項	1. 提出物は提出期限を守ること。 2. 実習中不明な点は必ず質問すること。 3. 食材入取等の事情により授業内容を入れ替えることがあります。								
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス		調理学実習Ⅰの目的と授業のすすめ方			事前にシラバスを読み、授業の目的、到達目標を把握しておく。			
2	調理の基本		調理に応じた野菜の切り方、包丁の安全な扱い方、食品の目安量と重量、計量方法			テキストの該当箇所を予習しておく。配布プリントを復習し提出物を作成する。			
3	日本料理(1)		日本料理の特徴 米の調理(炊飯)、だしの取り方、塩分濃度の測定			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
4	日本料理(2)		バランス(主食・主菜・副菜)を考えた献立実習			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
5	日本料理(3)		肉の調理、汁物調理			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
6	日本料理(4)		魚の調理、野菜の調理			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
7	日本料理(5)		魚の調理、揚げ物調理、吸油量			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
8	日本料理(6)		麺の調理、卵の調理			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	日本料理 (7)	乾物を使用した調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
10	西洋料理 (1)	挽き肉調理、ゼラチンの調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
11	西洋料理 (2)	米の調理 (ピラフ)、野菜の調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
12	加工食品	加工食品を使用した調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
13	中国料理 (1)	鶏ガラスープ (湯) の取り方、肉の調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
14	中国料理 (2)	肉の調理、小麦粉の調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
15	まとめ	調理学実習Ⅰのまとめ	前回まで配布したプリントを復習する。

授業科目	調理学実習Ⅱ Cookery Science Practicum Ⅱ				担当教員	坂本 恵			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○	◎			○	○	
授業目的	調理学、調理学実習Ⅰで学修した調理理論、調理技術、安全な食事の提供などの基礎的知識に基づいて、より高度な調理技術や技能を修得し、特別な日に提供される食事などへ発展させる。具体的には季節の食材を選定した旬の料理や行事食、あるいは北海道における郷土食を取り入れた献立の調理、安全でおいしい食事の提供技能や技術を修得する。								
到達目標	1. 調理操作や盛り付けを効率よく展開することができる。 2. 食物の栄養特性や嗜好性をふまえた調理操作を理解し実践できる。 3. 食文化や食習慣に配慮した食事を提供できる力を身につけている。 4. 衛生や安全管理を理解し、食品を調理し、食事を提供することができる。								
関連科目	前期に開講された調理学、調理学実習Ⅰと関連している。								
テキスト	1. 松崎政三他「調理の基礎とサイエンス」(学際企画) 2. 「調理のためのベーシックデータ第6版」(女子栄養大学出版部) 3. 八訂 食品成分表 2023 (女子栄養大学出版部) その他プリント配布								
参考書	1. 大越ひろ・高橋智子編著 「四訂 健康・調理の科学」(建帛社)								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		実習内容に関する提出物(60%)、小テスト(30%)、その他(10%)の結果を総合的に評価する その他：授業時の取組み姿勢						
	レポート								
	小テスト	30%							
	提出物	60%							
	その他	10%							
履修上の 留意事項	1. 提出物は提出期限を守ること。 2. 実習中不明な点は必ず質問すること。 3. 食材入取等の事情により授業内容を入れ替えることがあります。								
課題に対するフ ィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス		調理学実習Ⅱの目的と授業のすすめ方			事前にシラバスを読み、授業の目的・到達目標を把握しておくこと。			
2	日本料理(1)		旬の食材を使用した調理 ①			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
3	日本料理(2)		旬の食材を使用した調理 ②			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
4	日本料理(3)		北海道の郷土料理			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
5	日本料理(4)		北海道の食材を使用した調理			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
6	西洋料理(1)		世界の料理 ①			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
7	西洋料理(2)		世界の料理 ②			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
8	西洋料理(3)		世界の料理 ③			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			
9	中国料理(1)		溜菜と蒸菜の調理			配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	中国料理 (2)	特殊材料と調味料を使用した調理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
11	行事食 (1)	行事食 クリスマス料理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
12	行事食 (2)	行事食 正月料理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
13	行事食 (3)	行事食 ひな祭りの料理	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
14	献立評価	作成献立による各班での調理実習と評価	配布プリントを読んでおく。実習内容に関する提出物を作成する。
15	まとめ	調理学実習Ⅱのまとめ	前回まで配布したプリントを復習する。

授業科目	管理栄養士論 Introduction to Registered Dietetics				担当教員	山部 秀子、岩部 万衣子、槌本 浩司、氏家 志乃、渡辺 いつみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	◎		◎	○					
授業目的	管理栄養士に必要な能力を養成する学修体系の理解と学修目標を明確にし、社会的・職業自立に関する導入科目である。管理栄養士の使命や役割、さらに専門職として不可欠な職業意識、倫理観について学修する。また、管理栄養士として栄養管理を実践していくために、自らの食生活を題材として、分析を行う。これらの授業から理想とする管理栄養士像を明確にする。								
到達目標	1. 管理栄養士の社会的使命や役割について理解している。 2. 管理栄養士の仕事、職業意識、倫理観について理解している。 3. 自分の食生活の内容について理解している。 4. 自分の目標とする管理栄養士について説明することができる。								
関連科目	学びの理解								
テキスト	資料を配布する								
参考書	授業内で説明する								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		目標の到達状況を下記の点から評価、60 点以上を合格とする。 ① 課題レポート(60 点) ・自らの食生活について正しく理解できていること ・管理栄養士の職務や役割を理解できていること ②その他(40 点) ・課題の考察をおこなうなど積極的な成果を評価する ・授業中の積極的な態度、取り組み姿勢を評価する						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物								
	その他	40							
履修上の留意事項	管理栄養士の職域は広いため、現場で働く先生の講義は貴重である。積極的に授業に参加して理解を深め、授業を聴く態度は本学学生としての資質が試される場でもあることを自覚して臨む。 特別講師の先生については授業の順序が入れ替わることがある。 事前事後学習については、それぞれ1時間程度とする。								
課題に対するフィードバックの方法	課題の解説を次の授業で実施する								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から管理栄養士のあり方について理解できる授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1 (山部・岩部)	ガイダンス		授業への取組 管理栄養士の社会的役割 ポートフォリオについて			将来、管理栄養士としてどうなりたいか、考えておく			
2 (山部・岩部)	自己の食生活分析①		自分は何をどれだけ食べているのか考え、食事記録をしてみよう			普段の食生活について考えてみる			
3 (山部・岩部)	自己の食生活分析②		その食事記録を栄養計算してみよう			普段の食生活について考えてみる			
4 (山部・岩部)	自己の食生活分析③		食事記録を分析して評価してみよう			普段の食生活について考えてみる			
5 (槌本・渡辺・氏家)	管理栄養士とは		専門職者として働くということ			インターネットなどで、管理栄養士がどこで働いているか調べてみる			
6 (山部・岩部)	現場における管理栄養士の実態		社会で活躍する管理栄養士の仕事内容について ※特別講師（2名）			インターネットなどで、菅絵里栄養士の業務について調べてみる			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (山部・岩部)	栄養教育の実践	先輩から食事記録をもとに模擬栄養教育を受けて正しい食事摂取を学ぼう	資料を基に、正しい食事とは何か考える
8 (山部・岩部)	まとめ	なりたい管理栄養士とは	自分の未来について考えてみる

授業科目	基礎栄養学 Basic Nutrition				担当教員	松川 典子			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎					
授業目的	栄養とは何か、栄養の概念、栄養学の歴史について学修する。また、食物の摂取に関連する摂食調節、消化吸収について理解する。栄養素の体内動態や消化吸収、生物学的利用、たんぱく質、糖質、脂質の栄養や体内代謝、ビタミン、ミネラルの栄養学的機能について理解する。さらに、水・電解質の栄養的意義について理解する。								
到達目標	1. 栄養、栄養素の概念と意義を説明できる。 2. 摂食行動とその調節の仕組みについて説明できる。 3. 各栄養素の消化吸収及び代謝のメカニズム、他の栄養素との関係を説明できる。								
関連科目	基礎栄養学実験、生化学Ⅰ・Ⅱ、形態機能学Ⅰ・Ⅱ、病態診療学Ⅰ・Ⅱ								
テキスト	川端輝江著「基礎栄養学 栄養素のはたらきを理解するために」(アイ・ケイコーポレーション)								
参考書	奥恒之、柴田克己編「基礎栄養学」(南江堂)								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	70	課題(学習シート)の提出状況(10%)、授業内で前回の内容に関する小テストの実施(20%)、全体の授業内容に関する定期試験(70%)の実施によって学習到達度を評価する。						
	レポート								
	小テスト	20							
	提出物	10							
	その他								
履修上の 留意事項	各回の授業内容を参照し、予習してから授業に臨むこと。								
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストは、終了後に解答・解説する。課題は、添削し返却する。								
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、栄養学の基礎知識に新しい知見も加えながら栄養素の機能や体内動態について理解しやすいよう講義を行います。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	栄養学の概念	栄養の定義、栄養と病気、栄養素の種類と働き				事前：シラバスの確認と教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
2	摂食行動	空腹感と食欲、栄養感覚、食事のリズムとタイミング				事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
3	消化・吸収(1)	消化器系の構造と機能、消化吸収の基本概念				事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
4	消化・吸収(2)	消化調節、膜消化・吸収				事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
5	たんぱく質の栄養(1)	たんぱく質・アミノ酸の体内代謝				事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			
6	たんぱく質の栄養(2)	たんぱく質と他の栄養素との関係				事前：教科書の該当部分を予習する。(1時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	糖質の栄養 (1)	糖質の体内代謝、血糖値とその調節	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
8	糖質の栄養 (2)	糖質のエネルギー源としての作用、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
9	脂質の栄養 (1)	脂質の体内代謝、貯蔵エネルギーとしての作用	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
10	脂質の栄養 (2)	コレステロール代謝の調節、摂取する脂質の量と質の評価、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
11	ビタミンの栄養 (1)	ビタミンの構造と機能、代謝と栄養学的機能、脂溶性ビタミン	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
12	ビタミンの栄養 (2)	水溶性ビタミン、ビタミンの相対生体利用率、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
13	ミネラルの栄養	ミネラルの分類と機能、他の栄養素との関係	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
14	水・電解質の栄養	水の出納・体内調節、電解質の代謝	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)
15	エネルギー代謝	エネルギー代謝の概念、エネルギー消費量およびその測定法	事前：教科書の該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料、学習シートを用い復習する。(1 時間)

授業科目	食育農場演習 Seminar in Food Education and Farming				担当教員	百々瀬 いづみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・通年				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○		○	◎				
授業目的	札幌伝統野菜並びに北海道を代表とする作物の栽培・収穫・加工・販売の一連の流れを経験し、伝統野菜の地域にまつわる背景や、作物の栄養学的特徴、加工特性といった食育へ展開する上で必要となる基本的な知識・技術を修得する。また、栽培に係る農作業の大変さを体験することで食物を大切に作る心を育む。							
到達目標	1. 札幌伝統野菜や北海道を代表とする作物の歴史的背景について説明できる。 2. 収穫した作物の特徴を活かしたレシピの考案が出来る。 3. 収穫した作物の品種の特徴や食品成分上における特徴について説明できる。 4. 上記1～3について適切な媒体を作成し食育へ展開する技能を身につける。							
関連科目	同時期に実施している食品科学Ⅰや調理学の知識と関連する。							
テキスト	なし ※適宜プリントを配布する。							
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を提出物・授業態度により総合的に評価する。 ・提出物(50%)：レシピ・生育記録 ・授業態度(50%)：演習内活動への取り組みの姿勢					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
	その他	50						
履修上の留意事項	・農作業にあたっては各自汚れても良い服装、靴(長靴推奨)を準備すること。 ・基本的な農作業に関しては担当教員より指導するが、作物の日常管理(除草や水やり等)は各自で行う。 ・天候や生育状況により、授業内容が前後もしくは変更となる場合がある。 ・履修人数によっては、グループ分けをして活動を行う場合がある。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、授業の中でコメントや解説、改善指導等を行う。							
実務経験を活かした教育内容	地域で食育、栄養教育を行ってきた実務経験を活かして、農作物の栽培・収穫・加工・販売の一連の流れを体験できるようサポートしていきます。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	農作業にあたっての栽培基礎解説、栽培作物の品種的特徴、栽培スケジュール、収穫物の活用に関する説明を行う。				復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)		
2	栽培準備	農作業に使用する器具の使用方法や注意点に関して説明を行う。栽培予定地の土壌を採取し、pHの測定を行い、石灰の散布量を算出する。また、栽培面積を元に必要肥料量を算出する。				復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)		
3・4	栽培開始 収穫物の特徴を活かした レシピの立案	畝立てやマルチングを行い、播種または定植作業を行う。 また、収穫物の特徴を活かしたレシピの作成を行う。				復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)		
5	田植え	田植え作業を行い、主要穀物の1つである「米」の生産過程について理解を深める。尚、水田へは大学バスを利用する。				復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)		
6～8	栽培管理・収穫物を使用した加工品の試作・媒体作成	栽培する農作物の特性に従って管理(間引き、追肥等)を行う。 また、収穫物の特徴を活かしたレシピを元に試作を行い、販売にあたって必要な媒体の作成等を行う。				復習として配布プリントを熟読しておくこと(各1時間)		
9	収穫①	収穫適期を迎えた作物の収穫、選別、保存する上で必要な下処理を行う。収穫作業後、残渣をきれいに取り除き、堆肥場への移動を行う。				復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)		
10	稲刈り	稲刈り作業を行い、主要穀物の1つである「米」の生産過程について理解を深める。尚、水田へは大学バスを利用する。				復習として配布プリントを熟読しておくこと(1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	収穫②	収穫適期を迎えた作物の収穫、選別、保存する上で必要な下処理を行う。収穫作業後、残渣をきれいに取り除き、堆肥場への移動を行う。	復習として配布プリントを熟読しておくこと(1 時間)
12～14	収穫物の特徴を活かしたレシピの調理・販売	収穫物の特徴を活かしたレシピの作成し、レシピを元に調理し、調理加工品の販売を行う。	復習として配布プリントを熟読しておくこと(各 1 時間)
15	まとめ・振り返り	食育農場演習全体のまとめと、各自の実践状況の振り返りや学んだ内容の確認を行う。	復習として配布プリントを熟読しておくこと(1 時間)

授業科目	地域連携ケア論Ⅰ Theory of Community-based CareⅠ				担当教員	槌本 浩司、澤田 優美、氏家 志乃、小川 克子			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・1年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○			○	○		
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、1年次の本科目では、地域で生活するさまざまな健康レベル、発達段階にある人々に話を聞く、または関わることから、地域で生活する人々が持つ個性や多様性を理解する。同時に、その人々の生活にどのようなことが影響を及ぼしているかを社会的要因も含めて考える。								
到達目標	・生活や地域の捉え方を学び、地域で生活する人々の個性や多様性を理解する。 ・地域で生活する人々の健康や生活には、地域の自然環境や文化・社会的な要素が影響していることを理解する。 ・地域で生活する人々が抱える生活や健康上の課題を地域の特性と関連づけて理解できる。								
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連する。								
テキスト	なし								
参考書	開講時に提示する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40％）を予定しています。 また、目標の達成状況をレポート（60％）に記載しましょう。 詳細は授業の中でも説明します。						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物	40							
	その他								
履修上の留意事項	自分の生活と結びつけながら理解すること。								
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。 また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。								
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義の展開を行う。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (槌本)	授業ガイダンス	授業ガイダンス。グループワークの進め方 「生活」とは				授業前にシラバスを読む(1時間)。 授業後には、配付資料を確認し、内容を復習する（2時間）。			
2 (槌本)	生活者とはⅠ	生活を構造的に考えてみよう（自分を知る、家族を知る）				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
3 (小川)	生活者とはⅡ	生活成立要件と健康について考えよう				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
4 (氏家)	地域で暮らす生活者らの講話Ⅰ	「町内で暮らす生活とは」 （ゲストスピーカー モエレ町内会 副会長）				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
5 (氏家)	地域で暮らす生活者らの講話Ⅱ	「丘珠まちづくりセンターの役割と地域で暮らす人の生活」 （ゲストスピーカー 丘珠まちづくりセンター 所長）				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
6 (澤田)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とはⅠ	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有（その1）				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (小川)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とは II	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有 (その2)	授業前に前回の学習内容を復習する (1 時間)。授業後には、内容を復習する (2 時間)。
8 (澤田)	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とは III	地域で暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有 (その3)	授業前に前回の学習内容を復習する (1 時間)。授業後には、内容を復習する (2 時間)。

授業科目	英語Ⅲ（読解） English III				担当教員	松尾 文子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						
授業目的	1. 一般的な英語表現形式の確認を行い、読解能力を強化する。 2. 医療・栄養・福祉分野の文献を読む。 3. 本文を通して、今日的なテーマに対する興味を持つ。							
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握する。 2. テキストを通じて英語の表現力を高める。 3. テキストを通じて語彙力を高める。							
関連科目	英語 I, II, IV							
テキスト	Food in History. Tamura E.T. and Takahashi M. (英宝社, 2022)							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、授業で行う小テスト 20%、授業の取り組み姿勢 10% で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ調べておく。テキストの Drills の提出は任意だが、積極的に取り組むことが望ましい。							
課題に対するフィ ードバックの方法	中間試験は解答を配布し、各自確認してもらう。基準点に達しなかった学生には課題を出し、コメントを付して返却する。小テストで扱う表現に関するプリントを、あらかじめ授業中に配布する。小テストの答え合わせは授業中に行う。テキストの Drills に関しては、コメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	ブタと豚肉にまつわる 歴史		Introduction / Lesson 1: The Pig or the Pork			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
2	ニンニクにまつわる歴 史		Lesson 2: Do You Like Garlic?			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
3	砂糖にまつわる歴史		Lesson 3: Sweet as Sugar			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
4	パンにまつわる歴史		Lesson 4: Our Daily Bread			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
5	キャビアにまつわる歴 史		Lesson 5: Do You Like Caviar?			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
6	リンゴにまつわる歴史		Lesson 6: Apples			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
7	塩にまつわる歴史		Lesson 7: The White Gold: Salt			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
8	これまでのテキストの 理解度確認		中間試験			試験勉強・次回の授業の予習(4時 間)		
9	チーズにまつわる歴史		Lesson 8: Say Cheese			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
10	豆にまつわる歴史		Lesson 9: Beans			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		
11	フォアグラにまつわる 歴史		Lesson 10: Foie Gras			テキストの予習・主に語彙の確認 (1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	コメにまつわる歴史	Lesson 11: An Important Cereal	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)
13	パスタにまつわる歴史	Lesson 12: Pasta	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)
14	チョコレートにまつわる歴史	Lesson 13: Chocolate	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)
15	ハチミツにまつわる歴史	Lesson 14: A Taste of Honey	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)

授業科目	英語Ⅳ（総合） English IV				担当教員	松尾 文子		
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎						
授業目的	1. 英語の4技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。							
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。							
関連科目	英語 I, II, III							
テキスト	A Healthy Mind, A Healthy Body. Ishikawa E., Sano J. et al.（朝日出版社, 2014）							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （%）	評価基準・観点					
	試験	70	学んだことの理解度を測る定期試験 70%。Unit ごとの単語の小テスト 20%、授業の 取り組み姿勢 10% で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価対象としない。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。テキストの練習問題にある Writing を提出することが望ましい。							
課題に対するフィ ードバックの方法	中間試験は解答例を配布し、各自確認してもらう。基準点に達しなかった学生には課題を出し、コメントを付して返却する。小テストの答え合わせを授業中に行い、Teams に関連情報をアップする。Writing 提出者には、コメントを付して返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 （担当）	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	健康とは		Introduction / Unit 1: What is health?			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
2	美容整形の影響		Unit 2: Reconstructing lives			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
3	災害後の心のケア		Unit 3: Mental health disaster relief not always clear cut			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
4	看護師と介護福祉士の 不足		Unit 4: Japan needs more nurses and care-workers			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
5	ヨガの効能		Unit 5: Yoga’s spiritual balance may boost health			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
6	カロリー計算		Unit 6: Do you count calories?			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
7	ガン発生率の高騰		Unit 7: Clinical oncology			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
8	これまでのテキストの 理解度確認		中間試験			試験勉強・次回の授業の予習（4 時間）		
9	禁煙		Unit 8: It’s never too late to quit smoking			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
10	生活習慣の見直しと糖 尿病		Unit 9: Overcoming diabetes with diet and exercise			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
11	子供の肥満率の指標		Unit 10: Body mass index may not reflect child obesity			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		
12	再生医療と iPS 細胞		Unit 11: The future of regenerative medicine and iPS cells			テキストの予習・主に語彙の確認 （1時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13	高度医療を支える	Unit 12: Need a nurse? You may have to wait	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)
14	高齢化社会の負担	Unit 13: Preparing for a future that includes aging parents	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)
15	ストレス解消法	Unit 14: Simple everyday ways to de-stress and relax	テキストの予習・主に語彙の確認 (1 時間)

授業科目	社会貢献と活動 Volunteer and Social Responsibility				担当教員	岩本 希		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎	○	○					
授業目的	政府は「個人がどのような状況に置かれても、自分らしく活躍できる社会」を望ましい社会像として打ち出し、その背景に『地域共生社会』というコンセプトを掲げている。超高齢社会が進行し地域のつながりが希薄化した現代において住民同士の支え合いは不可欠とされ、2025 年までの構築を目指している「地域包括ケアシステム」でもボランティアセクターは重要な存在感を示している。地域共生社会が目指すのは、対象者ごとの保健・医療・福祉サービスを「縦割り」から「丸ごと」へ、支援者と被支援者という二律対抗軸からの脱却へと転換していくことにある。本科目では保健・医療・福祉の枠組が変更される中で、ボランティアの意義を踏まえ、多種多様なボランティア活動が地域にどう関わり、どう地域を変え、支えているのかについて学ぶ。特に近年重要視され話題となっている世代を問わない居場所の課題や本学に関連する保健、医療、栄養、福祉などの領域とボランティア活動の関連を学び、地域で暮らす住民が抱えるニーズを知り、行政・地域住民・各種事業所及び専門職等との連携についても学んでいく。また、専門職としての視点のみならず、若者の立場で社会にある問題を捉えどのように解決に貢献できるか自身の考えを深めることを目的とする。							
到達目標	1.ボランティア活動の意義を正しく理解するとともに、ボランティア活動を通して当事者のニーズを把握できること。 2.地域住民や当事者のニーズに対して、専門職のあり方やネットワークの構成などの要件について学び、ボランティアの役割・あり方・限界などについて理解できること。 3.現代社会のニーズやボランティアの多様性を理解し、これからの社会に求められているボランティア像や社会貢献の形を自分なりに描くことができること。							
関連科目	「現代社会論」「地域社会文化論」「国際社会論」につながる科目である。							
テキスト	内容に沿った資料を随時配布する。							
参考書	1.柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論～「広がり」から「深まり」へ～」（みらい）2010 2. 前林清和著「Win-Win の社会をめざして」（晃洋書房）2009 3 内海成治、中村安秀著「新ボランティア学のすすめ」（昭和堂）2014							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	50	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 講義の際のレポートや発表、グループワークでの役割遂行など授業態度を点数化し、50%を上限として評価します。並びに定期試験も 50%を上限とし、授業態度・試験の得点を合わせて総合的に評価します。					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物							
	その他	20						
履修上の留意事項	グループワーク（演習）、ゲストスピーカー講義のほか、ボランティア実践を予定しています。 各授業の前後に 30 分の予習、30 分の復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法								
実務経験を活かした教育内容								
回数（担当）	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	社会貢献、ボランティアとは？	オリエンテーション 自分のボランティア経験を発表 ボランティアに対する自分なりの理解					ボランティア経験を振り返ること	
2	ボランティア活動の沿革	諸外国でのボランティア活動の歴史と我が国でのボランティア活動の歩みを学ぶ。					北海道で活動しているボランティア団体について調べてくること	
3	ボランティア活動の内容	ボランティア活動の内容を、領域別、対象別、方法別に検討する。					自分がしてみたいボランティア活動を考えること	
4	社会福祉協議会とボランティア	社協の幅広いボランティア活動について学ぶ。					社協の仕事を HP で確認すること	
5	医療・高齢者福祉とボランティア	医療・高齢者福祉の分野でのボランティア活動について学ぶ。 （ゲストスピーカー 木村 洋美氏）					医療・高齢者福祉で実際に行われているボランティア活動を調べてくること。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	児童福祉・障害者福祉とボランティア	児童分野・障害者分野でのボランティア活動について学ぶ。	児童・障害者分野で実際に行われているボランティア活動を調べてくること。
7	NPO・NGO とボランティア	NPO や NGO のボランティア活動、国際ボランティアなどについて学ぶ。	ボランティアを主体的な活動としている NPO 団体を調べてくること。
8	企業・労働組合とボランティア	企業のCSR、労働組合のボランティアの取組、様々な組織の社会貢献活動について学ぶ。	企業が取り組んでいる社会貢献活動について1つ調べてくること。
9	環境・災害ボランティア	環境ボランティア、災害ボランティアについて学ぶ。	環境ボランティア、災害ボランティアに取り組む団体をそれぞれひとつ挙げること
10	ボランティア実習	1日ボランティア体験をする。	実習先に関する情報を調べておくこと。
11	ボランティア体験を振り返る	ボランティア体験から得られた知見を発表し振り返る。	ボランティア体験をまとめておくこと。
12	ボランティアのコーディネート	ボランティアをコーディネートする技術について学ぶ。	ボランティアの担い手について調べておくこと。
13	ボランティア組織の運営	ボランティア組織の立ち上げ、運営、資金、PRなどについて学ぶ。	助成金情報を調べること。
14	現代社会とボランティア	現代社会における諸問題とボランティアのあり方を考える。	現代社会で支援が必要な人について考察すること。
15	私たちのボランティア論	自分たちが理想的と考えるボランティアのあり方をまとめ、プレゼンテーションする（具体的なボランティア提供を前提として）。	ボランティアのための事業について企画を考えること。

授業科目	生活環境論 Environmental Life Science				担当教員	江本 匡		
対象学科・ 年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	◎	○				
授業目的	人間を取り巻く自然および社会・文化的な環境をシステムという視点から再考し、それらの相互関係を深く認識するとともに、現在、システムで進行している様々な問題点を深く理解し、人の健康と生活の充実、健全な社会の発展という面から、課題に柔軟に対応できる能力の涵養を目的とする。							
到達目標	1.自然環境、生活環境と健康との関わりを概略を説明できる。 2.生活全般をカテゴリー化した構造をもとにヘルスプロモーションの概念を説明できる。 3.ストレスと免疫低下、病気との関係が概説できる。 4.生活習慣病を生体リズムの乱れ、後天性の代謝障害の面からも理解できる。 5.情報の収集・利活用と健康の関わりが説明できる。 6.地球温暖化の危険性、環境保全の重要性を認識し、保全活動を実践できる。							
関連科目	高校レベルの生物、化学などの知識を基盤とするので各自復習をしておくこと。							
テキスト	佐々木胤則編著「変化する環境と健康 改訂版」（三共出版）							
参考書	テキストの章末を参照する。最新の資料は講義中に適時提示する。							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験	60	目標の到達状況を、授業での小テストと期末試験により評価し、それぞれの評価割合は、小テスト(4 回予定)40％、定期試験 60％とする。なお、評価は 5 段階評価とし、総合で 60％以上を単位認定の基準とする。					
	レポート							
	小テスト	40						
	提出物							
	その他							
履修上の 留意事項	受講内容は社会情勢との関係性もあるので、ニュースなどの情報に気を配ることを望む。							
課題に対するフィ ードバックの方法	小テスト結果は次回テスト時に結果をフィードバックする。							
実務経験を 活かした教育内容	これまでの環境関連の研究や業務経験を授業内容に展開していきたい。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	「健康のとらえ方」：生活環境と健康について	自然環境は生命活動が加わって時間と共に相互にゆっくりと変化してきたが、有史からは人間活動の影響を受けて、急速に変化した健康への考え方について概要する。文明・近代史を環境と人との相互関係から捉え、健康観の変化と感染症との関係を探る。(第1章)				事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。総論の健康の捉え方を読み、WHO がこの数十年に取り組んできた活動を整理する。		
2	「環境と健康」：近年の動向	健康に関わる事項として、感染症との戦い、増え続ける生活習慣病、環境破壊による健康被害、増大する心の病、困窮する健康福祉体制の現在までの状況を整理し、今後の方向を探る。(第2章)				第2章「環境と健康」に関する近年の動向を読み、将来につながる問題点をあげる。		
3	「環境刺激に対する調節と適応」：恒常性、ストレス対応	環境刺激に対する調節・適応という事象を調節の局面から取り上げ、調節・適応の負の作用として、生活習慣病やアレルギー疾患増大について考える。ストレス刺激に対する脳のホメオスタシス機能からメンタルヘルスについて解説する。(第3章)				第3章生活環境における具体的なストレス場面を分類してみる。		
4	「水、空気と健康問題1」：汚染と健康問題の変遷 「1回目小テスト」	生命にとっての水の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。(第4章) 第1回～第3回までの内容での小テストを実施する。				近年の水質公害問題の経緯と問題点をまとめる。(第4章) 第1回～第3回までの資料を確認しておく。(試験持込可)		
5	「水、空気と健康問題2」：汚染と健康問題の変遷 「リスク評価とリスクマネジメント」：リスクの考え方と理解	生命にとっての空気の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。(第4章) 日常生活における「リスク」の考え方、捉え方を学び、化学物質の健康への影響について理解する。(第5章)				近年の大気公害問題の経緯と問題点をまとめる。(第4章) リスク・リスクマネジメントについて事前に教科書を読んでおく。(第5章)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	「生体防御と免疫システム」：免疫システムの理解	非自己から自己を守る免疫を生体防御システムとして概説し、ストレスを免疫システムのバランスを崩す因子ととらえ、病気との関連を考察する。(第6章)	免疫システムについて事前に情報を取っておく。
7	「人畜共通感染症、新興感染症」：感染症の理解 「2回目小テスト」	人畜共通感染症、新興感染症を理解する。(第7章) 第4回～第6回までの内容での小テストを実施する。	コロナウイルス感染症について調べておく。 第4回～第6回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
8	「人畜共通感染症、新興感染症」：新興感染症	各種の新興感染症について特性を概説し、予防や対策について考える。(第7章)	各種新興感染症について教科書(第7章)を読んでおく。
9	「放射線の環境拡散と健康影響」：放射線による健康影響の理解	放射線の特性とその健康影響の概要を理解して、放射性物質の管理について考える。(第8章)	放射線によるヒトへの影響について調べる。
10	「アレルギー性疾患の増加とその背景」：アレルギー疾患の理解	文明病とされるアレルギーについて、アトピー素因と生活環境の変化、アレルギー発症のメカニズムを理解する。(第9章)	アレルギーの発症メカニズムと化学物質過敏症について調べる。
11	「からだのリズムと健康、生活習慣病」：生体リズム等の理解 「3回目小テスト」	からだのリズムと生体リズム、生活リズムとの関連をとらえ、代謝リズムの破綻として生活習慣病を再考する。(第10章) 第7回～第10回までの内容での小テストを実施する。	好ましい生活習慣について教科書(第10章)を読んでおく。 第7回～第10回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
12	「環境におけるポジティブファクターと癒し」：生活環境における癒しと植物や風景の影響	人の生活圏の拡大、大規模開発によって生物種が急速に減少して多様性を失うことの問題点を解説し、それらを保護・保全しようという活動につながる癒しとビオトープについて考える。(第11章)	生物多様性を失うことの問題点を考える。
13	「情報化社会におけるコンピューターの利活用と健康」：VDT作業と健康の理解	パソコンワークでの身体影響、情報伝達の歪みや不均衡、錯誤はQOLや心身の健康にも関連していること理解する。(第12章)	OA機器とメンタルヘルスとの関係を調べる。
14	「予防原則から考える環境と健康」 「4回目小テスト」	リスクアセスメントと予防原則の考え方を理解する。(第13章) 第11回～第13回までの内容での小テストを実施する。	予防原則の適用事例について教科書(第13章)を読んでおく。 第11回～第13回までの資料を確認しておく。(試験持込可)
15	「待ったなしの地球温暖化対策」：地球温暖化の進行と健康問題について	人為活動による地球温暖化が急速に進んでいることの観測データや今後の推測を紹介し、気候変動に伴う生活環境の変化が人の健康に与える影響を検討し、対応を提案する。また、リスクへの対応について考え方を理解する。(第14章)	温暖化による健康への影響について考える。

授業科目	現代社会論 Issues in Modern Society				担当教員	翁 康健		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2 年次・前期 看護学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	◎	○				
授業目的	激変し続ける現代社会において、その変化に主体的に対応する必要がある。現代を生きる、医療人としての最低限の社会的常識を理解することがこの授業の目的である。							
到達目標	1.現代社会の諸問題を理解し、自らの対処法が模索できる。 2.地域社会・家族・学校など身近な制度の仕組みを理解し、問題を発見し、対処法を模索できる。 3.現代社会を動かす仕組みを理解し、その対処方法を模索できる。							
関連科目	「国際社会論」は現代社会論の発展科目として、履修することをお勧めします。							
テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。							
参考書	1. 櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編「アンビシャス社会学」（北海道大学出版会） 2. 櫻井義秀編「ウェルビーイングの社会学」（北海道大学出版会）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験		レポート（50％）と講義内で実施するミニ・レポート（50％）から目標の到達状況を評価する。					
	レポート	50						
	小テスト							
	提出物	50						
	その他							
履修上の 留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。							
課題に対するフィ ードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭（あるいは末尾）で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	「社会学」の概観と社会調査	・講義の概要、方法、評価の説明 ・現代社会の捉え方（社会学的な視点） ・社会調査倫理				・事前学習：シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること（2 時間） ・事後学習：社会学の中で関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること（2 時間）		
2	人間の行為と相互行為を理解する	・アイデンティティと役割 ・社会構造と社会的行為 ・逸脱行動と社会変動				・事前学習：第 2 回講義資料「人間の行為と相互行為を理解する」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：人間の行為と相互行為のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること（2 時間）		
3	家族：家族関係の変容	・家族の制度と形態 ・家族の機能と役割 ・現代家族の課題と包摂の可能性				・事前学習：第 3 回講義資料「家族：家族関係の変容」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：家族関係の類型および変容について、講義から理解したことをまとめること（2 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4	教育：学歴社会と文化的再生産	・学校教育の機能 ・文化的再生産 ・「平等」と教育	・事前学習：第 4 回講義資料「教育：学歴社会と文化的再生産」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：社会学の視点から教育を説明してみる（2 時間）
5	労働：非正規雇用と若者の就職問題	・雇用労働の成立と生き方の変容 ・職場で経験する労働の諸側面 ・企業構造転換とグローバル化の中での労働	・事前学習：第 5 回講義資料「労働：非正規雇用と若者の就職問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：労働に関わる問題の例を考え、まとめること（2 時間）
6	階層と階級：格差と社会的排除	・人間社会の歴史と身分・階級・階層 ・日本の社会階層 ・貧困と社会的公正	・事前学習：第 6 回講義資料「階層と階級：格差と社会的排除」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：階層と階級の相違点を説明してみる（2 時間）
7	ジェンダーとセクシュアリティ：フェミニズムと LGBT	・ジェンダー、セクシュアリティのはたらき ・フェミニズムと LGBT ・社会生活の維持と再生産－ケアとリプロダクション	・事前学習：第 7 回講義資料「ジェンダーとセクシュアリティ：フェミニズムと LGBT」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：セクシュアルマイノリティが直面している問題の例を考え、まとめること（2 時間）
8	政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ	・誰が、なぜ運動を起こすのか？ ・社会運動研究の歴史 ・社会運動のいろいろ	・事前学習：第 8 回講義資料「政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：政治と社会運動のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみる（2 時間）
9	グローバル化：グローバル化とエスニシティ	・グローバル化と国民国家 ・グローバル化と社会変容－経済・政治・文化 ・グローバル化時代を生き抜くために	・事前学習：第 9 回講義資料「グローバル化：グローバル化とエスニシティ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル化のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）
10	メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影	・メディアとは何か ・メディアで読み解く現代社会 ・ネット誹謗中傷とインスタ映え	・事前学習：第 10 回講義資料「メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：メディア社会のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）
11	宗教：宗教の社会貢献	・宗教とは ・さまざまな宗教 ・宗教と社会	・事前学習：第 11 回講義資料「宗教：宗教の社会貢献」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：宗教の社会的役割について、講義から理解したことをまとめること（2 時間）
12	少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護	・少子高齢社会の実像 ・少子高齢化と保健・医療・福祉 ・これからの地域戦略	・事前学習：第 12 回講義資料「少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：少子高齢社会の問題点を、考えてまとめること（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13	社会福祉：医療と社会保障	・福祉国家の成立 ・福祉国家の危機 ・多様な福祉モデルの展開	・事前学習：第 13 回講義資料「社会福祉：医療と社会保障」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：日本の社会福祉の特徴を整理し、まとめること（2 時間）
14	地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型	・地域コミュニティの必要性と可能性 ・都市的生活様式 ・健康・医療・コミュニティとソーシャル・キャピタル	・事前学習：第 14 回講義資料「地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：地域社会づくりの設計について、考えてみる（2 時間）
15	全体のまとめ	・全体のまとめ ・期末レポートの案内	・事前学習：第 15 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：15 回分の講義資料を確認し、全体の復習を行うこと（2 時間）

授業科目	国際社会論 International Sociology				担当教員	翁 康健			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1 単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	◎	○					
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバリゼーションの進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。								
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。								
関連科目	「現代社会論」の知識が基盤である。								
テキスト	特に指定しない。時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。								
参考書	1.石井香世子編「国際社会学入門」（ナカニシヤ出版） 2.西原和久・樽本英樹編「現代人の国際社会学・入門—トランスナショナリズムという視点」（有斐閣コンパクト） 3.宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編「国際社会学」（有斐閣）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点						
	試験		定期試験（50%）と講義内で実施するミニ・レポート（50%）から目標の到達状況を評価する。						
	レポート	50							
	小テスト								
	提出物	50							
	その他								
履修上の留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。								
課題に対するフィードバックの方法	各回講義末尾に質疑応答の時間を設ける。加えて、講義後にもミニレポートを通じて意見・感想・疑問点の提出を求める。講義で取り上げることが適切と判断されるものについては、各回講義の冒頭（あるいは末尾）で紹介し、口頭で解説・回答するとともに、必要に応じて適宜資料を作成・配布することとする。								
実務経験を活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	オリエンテーション・グローバル化	・ グローバリゼーション ・ トランスナショナリズム				・ 事前学習：シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること（2 時間） ・ 事後学習：関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみる（2 時間）			
2	国境を越える人—移民と無国籍者の問題	・ 「移民」とはだれか ・ 国籍と市民権 ・ グローバル化と無国籍者、身分証明				・ 事前学習：第 2 回講義資料「国境を越える人—移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・ 事後学習：移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみる（2 時間）			
3	グローバル化時代の難民・国内避難民	・ 「難民」とはだれか ・ グローバル化時代の難民 ・ 難民の越境化をめぐる議論 ・ 日本における難民問題				・ 事前学習：第 3 回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・ 事後学習：難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめること（2 時間）			
4	グローバル化がすすむ日常生活	・ 越境する家族 ・ トランスナショナル教育 ・ 医療におけるグローバル化の進展				・ 事前学習：第 4 回講義資料「グローバル化がすすむ日常生活」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・ 事後学習：越境する家族生活、教育、医療の問題をまとめること（2 時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	グローバル時代の観光・民族・宗教の問題	・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者 ・グローバル化時代の宗教とアイデンティティ	・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル時代の観光・民族・宗教の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル社会における観光・民族・宗教の関係を整理すること（2 時間）
6	社会問題からみるローカルとグローバルの関係	・犯罪のグローバル化 ・ローカル資源とグローバル市場の間 ・紛争のグローバル化	・事前学習：第 6 回講義資料「社会問題からみるローカルとグローバルの関係」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：ローカルとグローバルの関係を説明してみる（2 時間）
7	国際格差と貧困問題	・貧困のグローバル化 ・ボーダーレス化する市場	・事前学習：第 7 回講義資料「国際格差と貧困問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：貧困のグローバル化とグローバル市場の格差について、まとめること（2 時間）
8	全体のまとめ・補足	・全体のまとめ ・期末レポートの案内	・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること（2 時間）

授業科目	教育学 Education				担当教員	加藤 隆			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	◎	○	○						
授業目的	人間の可能性と社会における教育の役割について歴史と現状から知見を提供するとともに、生涯学習社会における家庭教育や学校教育及び市民教育の課題と解決方向についてヒントを示す。								
到達目標	受講者自身が今後経験する生涯学習の場面において自立した学習者として成長していく手がかりを得ること。								
関連科目	教育原理 教職概論 健康教育論 倫理学								
テキスト	適宜、プリント資料を配布する。								
参考書	適宜、アナウンスする								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	70	学校教育と家庭教育、生涯教育、地域生活における現状と課題を中心に試験を課し、理解度及び文章による表現力を評価する。(70%) 授業態度及びレポート時や講義後の感想文などを「その他」対象とし、理解の努力を評価する。(30%)						
	レポート								
	小テスト								
	提出物								
	その他	30							
履修上の留意事項	なぜ? どうして?という自身のつぶやきや問題意識を大切にし、意見交流やコメント交流を重視します。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物に関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、今日の家庭教育や学校教育について理解しやすいように授業を行う。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	近代の教育思想 (1)	ルソーの「子供の発見」、発達の思想、充実した生涯の提起				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく (2時間) 事後：近代の教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2時間)			
2	近代の教育思想 (2)	市民革命とコンドルセの家庭観・学校観・学問観				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく (2時間) 事後：コンドルセの教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2時間)			
3	「新教育」の思想	学びの転換：デューイの思想と実験。子ども研究の始まり				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく (2時間) 事後：学びの転換となったデューイの思想について考察も交えてレポート作成する (2時間)			
4	近代学校のあゆみ	ルターの義務就学論 アダム・スミスの公教育観 国家の学校政策関与				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく (2時間) 事後：取り上げた教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2時間)			
5	日本の文明化と教育	西洋からの学び 福沢諭吉の一身独立の思想				事前：事前配布した教育資料に目を通しておく (2時間) 事後：明治期の教育状況についてまとめる。紹介した参考図書に目を通す (2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	日本の学校制度の成立	森有礼の啓蒙と国家主義 内村鑑三の諭吉批判 ルソーと大正自由教育	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：授業で触れた三つのテーマについて、考察を交えてノートにまとめる（2 時間）
7	戦後日本の教育	「真の個人主義」、「高度成長」と競争教育、市民育成棚上げ	事前：新聞記事などからテーマの資料に目を通す（2 時間）事後：自身の経験も踏まえて、講義で取り上げた内容についてノートにまとめる（2 時間）
8	教育環境の変化と青年	「冷戦」以後の世界と青年。能力観・学校観の転換への期待	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：これまでの講義で取り上げたテーマから一つを選び、自身の見方の変化も含めてレポートにまとめる。（2 時間）

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity				担当教員	畠山 瑞樹			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	◎						
授業目的	文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。 この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象とし、多くの作品の読解を通じて、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。								
到達目標	1.日本の文学や文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。 2.文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。								
関連科目	高等学校の国語便覧等を利用し、古典文学の基礎を復習しておくことで、講義内容をより深く理解できる。								
テキスト	なし（プリント配布）								
参考書	講義時適宜紹介する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		レポート 60％＋小レポート 40％。小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化のため、随時実施する。レポートは、すべての講義終了後かつ定期試験期間前に、提出期限を定める（最終講義日から1週間後を予定）。 評価の観点は到達目標に示した2点。講義内容を理解し、日本の文学や文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、またそれらを基に、自らの考察を深めそれを表現できているかを評価する。						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物	40							
	その他								
履修上の留意事項	1.古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。 2.進捗により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。								
課題に対するフィードバックの方法	1.講義時に実施する小レポートは添削後返却を行い、各自が到達・改善のポイントを具体的に把握できるようにする。 2.前回実施した小レポートの内容について、次回講義時に総括を行い、到達目標への各自の達成度を確認できるようにする。								
実務経験を活かした教育内容									
回数(担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス 古典文学と現代		ガイダンス 現代における古典文学について考える（『落窪物語』） 中古の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）			
2	古典文学と昔話		視覚・聴覚について考える（「かぐや姫」） 上代・中古・中世の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）			
3	古典文学のはじまり		身体観について考える（『古事記』） 上代の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）			
4	古典文学の虚実		病について考える（『大鏡』『平家物語』） 中古・中世の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）			
5	古典文学の変遷①		享受について考える（「浦島太郎」）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む			事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	古典文学の変遷② 古典文学と文化①	享受について考える（「浦島太郎」）② 日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）① 上代・中世・近世・近代の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
7	古典文学と文化② 古典文学と伝説①	日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）② 日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）① 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
8	古典文学と伝説②	日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）② 中古・中世の文学作品を読む	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

授業科目	生命倫理 Bioethics				担当教員	森口 眞衣			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2 年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1 単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○			◎			○	○	
授業目的	現代の生命倫理に関する一般的問題について、自身の日常的な経験と倫理的判断の関係を理解することにより、基本的な視点や方法を身につける。また、人や生命についての概念の曖昧さを実感し、立場によって異なる見解を受け入れ尊重できる姿勢を養う必要性はどこにあるのか、倫理的議論が展開された歴史的背景を理解することにより、倫理原則と基礎理論、判断の基準、生命の尊厳についての理解を深める。								
到達目標	我々が日常生活で無意識に直面している倫理的問題に対し、自分が適切だと考える判断を下すことができ、さらにその判断の理由を述べるようになる。また、ひとりの人間として自分だけでなく他者の立場も尊重すること、価値観に基づく見解や判断を提示することの重要性を理解できるようになる。								
関連科目	(必修) 倫理学 (選択) 地域社会文化論、法と人権								
テキスト	特に指定しない。スライドと配布資料を用いて展開する。								
参考書	必要があればそのつど紹介する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	40	毎回の講義終了時、授業内容と関連する日常経験や仮想事例を用いた思考実験によるアンケートレポート形式の復習課題 (30%)、および授業内容に関するリアクションコメント (30%) の提出を課す。試験では課題内容を踏まえ設問要求に応えた自身の意見を展開できているかという観点で評価する。						
	レポート	30							
	小テスト								
	提出物	30							
	その他								
履修上の留意事項	倫理的判断の提示には自分の考えを適切な言葉で述べることが重要になる。授業中の課題では文章を書く機会を多く設定しているので、日常生活においても自分の意見を適切な文章で述べられるよう意識すること。 各授業の前後に 1～2 時間の予習・1～2 時間の復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	2 回目以降各回の講義冒頭で、前回講義時終了時に提出された復習課題に対する履修者の解答パターンや考察傾向の分析を提示する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	日常と倫理的判断の関係		倫理的判断は人々の立場や主張の方向性と密接な関係があることを踏まえ、多様性を尊重するという目的に沿う生命倫理での使いどころを理解する。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出			
2	倫理的判断に必要な具体的原則		日常生活や臨床現場で求められる倫理的判断の根拠や着眼点となる倫理原則について、その必要性和内容を学んだうえで、実際の適用の難しさを考える。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出			
3	命の判断：それは「人」ですか？		判断主体となる自己の曖昧さを、医学や科学技術の進歩によって新たに出現した様々な「人」を決める判断基準を通して理解する。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出			
4	命の判断：いまは「健康」ですか？		人が「老いる」とはどういうことか、「健康」と「病気」はどう違うのか、人間の身体におきる様々な変化の境界について考える。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出			
5	命の判断：これも「殺害」ですか？		科学的医学の発展に伴う「生命」概念の問題を、生殖医療の背景となる歴史的・社会的な側面での変遷を通して理解する。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出			
6	命の判断：どれが「食物」ですか？		人が生きるうえで「よいもの」を目指した努力の結果「悪いもの」が作り出されてしまうのはなぜなのか、善悪の価値づけについて考える。			講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	命の判断：どちらが「大切」ですか？	社会では「人の命を守る」ことを目標としながら実際には逆のことが起きてしまう矛盾について、歴史的・理論的変遷の決着点を通して理解する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
8	他者の価値観尊重とは	これまでの考察の結果をふりかえり、自分の判断と他者の判断の相違点や新たな気づきの分析を通して、医療人として多様な価値観の理解が患者理解に有益となる可能性を考察する。	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

授業科目	医療概論 Introduction to Medical Care				担当教員	千葉 仁志			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○			◎					
授業目的	医学・医療全体について理解することを目的とする。医療関係職種の役割、チーム医療の必要性、医療を支えている医療保険制度、政策・法律、倫理を理解する。さらに、予防医療、移植医療、遺伝子医療、オーダーメイド医療、救急医療、災害医療、国際医療などの医療の新しい側面を理解し、医療の将来を展望する能力を養う。								
到達目標	1. 医療関係職種のそれぞれの名称と役割を説明できる。 2. チーム医療の必要性と、そこでの管理栄養士の役割について説明できる。 3. 現代医療の基盤となっている医療政策、医療計画、法律、倫理などについて理解している。 4. 医療保険制度の概要を説明できる。 5. 予防医療、最先端医療、救急・災害医療など医療の様々な新しい側面について概要を説明できる。								
関連科目	1年次後期、2年次前期、3年次前期に履修する地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、2年次後期に履修する健康管理概論、4年次後期に履修する栄養サポートチーム論などと、密接に関連する。								
テキスト	編集 小橋 元、近藤 克則、黒田 研二、千代 豪昭「学生のための医療概論（第4版）」（医学書院）								
参考書	「厚生指標・増刊 国民衛生の動向」（最新版）（厚生労働統計協会）								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点						
	試験	70％	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題と正解をよく学習し、定期試験の準備をすること。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60％以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が60％以上の場合に合格とする。						
	レポート								
	小テスト	30％							
	提出物								
	その他								
履修上の 留意事項	メディアが伝える最新の医療関連情報に注意を向け、その情報の持つ意味や自分が感じた疑問点などを、テキスト・参考書・授業などで解決する姿勢を持つことが大切である。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に対して注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を学修する姿勢が求められる。小テストではFORMSを使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストでは、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違った箇所をレジュメと教科書で確認し、理解と正しい情報の記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。								
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師としての臨床経験を講義に織り交ぜながら、医療の実状と課題について身近に感じ、理解できるように授業を行います。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス、医療と人道主義	ガイダンス、医療における人道主義の歴史（個人情報保護、インフォームドコンセント）				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
2	医療の歩み	近代医学の誕生、感染症との闘い、周産期医療、公害・薬害、検査・治療の進歩				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
3	医療倫理	医療は誰のものか、患者の自己決定権、カルテとチーム医療				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
4	医療を支える人々	医療関係職種の名称と役割、チーム医療の重要性				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	医療安全	医療事故の歴史、医療事故の実状、医療事故対策	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
6	保健医療サービス	日本の保健医療制度、医療施設、公衆衛生サービス	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
7	医療政策と医療計画	医療政策、医療計画、医療と経済	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
8	地域医療	在宅ケア、高齢者ケア、地域包括ケア	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
9	救急・災害・国際医療	救急医療の現状、災害医療の問題点、国際医療と日本	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
10	移植医療	移植医療の現状と課題	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
11	遺伝子医療	ゲノム医学、オーダーメイド医療、先制医療	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
12	リハビリテーションと ノーマライゼーション	リハビリテーションとは何か、ノーマライゼーションの目指すもの、障がい者差別と対策	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
13	高齢者医療と精神医療	老人として生きる、精神を病むとは、老人医療と精神医療の現状と課題	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
14	ターミナルケア	尊厳死の現状と課題、ターミナルケアの目的	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
15	現代医療の新たな展開	補完代替医療、統合医療、定期試験について	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

授業科目	健康管理概論 Health Science				担当教員	千葉 仁志			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2 単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎					
授業目的	紀元前から現代に至るまでの健康の概念の歴史、健康の指標、今日の健康増進や疾病予防の考え方や要素、健康を実現するための政策と具体的な取り組みについて学修し、生活や社会と健康の関わりを深く理解する。また、健康を阻害するリスク要因を理解し、健康増進の方法、技法等を修得する。さらに、わが国や海外における、法律に基づいた集団・地域の健康管理体制についても学修する。								
到達目標	1. 健康の概念と健康指標や健康阻害要因について説明できる。 2. 疫学指標について説明できる。 3. 健康日本 21 の概要、課題や目標を説明できる。 4. 健康増進と健康づくりの方法について説明できる。 5. 健康管理チームにおける各専門家と管理栄養士の役割を説明できる。								
関連科目	2 年前期に履修する医療概論、公衆衛生学、3 年次に履修する公衆栄養学Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）と密接に関連する。								
テキスト	尾島俊之、堤 明純「基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第 5 版」（南江堂）								
参考書	「厚生省の指標・増刊 国民衛生の動向」（最新版）（厚生労働統計協会）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	70％	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題と正解をよく学習し、定期試験の準備をすること。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60％以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が 60％以上の場合に合格とする。						
	レポート								
	小テスト	30％							
	提出物								
	その他								
履修上の留意事項	メディアが伝える最新の健康・健康リスク・疾病の情報に注意を向け、その情報の持つ意味や自分が感じた疑問点などを、テキスト・参考書・授業などで解決する姿勢を持つことが大切である。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に対して注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を学修する姿勢が求められる。小テストでは FORMS を使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストでは、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違えた箇所をレジュメと教科書で確認し、理解と正しい情報の記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、健康管理事例などを講義に織り交ぜながら、健康管理について理解しやすいように授業を行います。								
回数（担当）	学習の主題		授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス、健康の概念		講義スケジュールの説明。 WHO による健康の定義とその変遷、健康意識調査				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)		
2	健康管理と健康度評価		健康管理とプライマリ・ヘルスケア 健康度の判定指標と健康阻害要因、国際疾病分類				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)		
3	健康の現状		健康の現状を調べるための統計調査、日本の健康観と国民健康づくり運動の変遷				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)		
4	疫学指標と人口統計		罹患率と有病率、死亡率と致命率、相対危険と寄与危険、オッズとオッズ比、平均寿命と平均余命などの健康指標の定義、求め方、時代的推移				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	健康増進・健康づくり 行政	健康増進の基本概念、健康づくりの必要性と健康日本 21 特定健診・特定保健指導制度の概要	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
6	社会保障制度	国民皆保険制度、社会保障の 3 大制度、社会保険の種類、保険 診療制度	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
7	食生活と健康づくり	国民健康・栄養調査、日本人の食事摂取基準 (2020 年版)、食 生活指針	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
8	運動と健康づくり	健康寿命延伸の 3 大阻害要因、認知症と生活習慣、運動基準と 身体活動基準	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
9	休養・睡眠・ストレス 対策と健康づくり	休養指針、睡眠指針、メンタルヘルスとストレスチェック制度	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
10	生活習慣病と健康管理	生活習慣病の疫学、喫煙と生活習慣病、受動喫煙と改正健康増 進法、アルコール依存症とスクリーニングテスト	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
11	保健医療情報・保健指 導	健診データ・保健医療情報の活用、メタボリックシンドローム、 脂肪肝、アルコール性肝障害、特定保健指導の実践	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
12	母子保健	母子保健法と母子保健手帳、妊婦健康診査、B 型肝炎母子感染 防止対策と HB ワクチンの定期接種化、健やか親子 21、妊婦 と胎児の健康指標	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
13	高齢者保健と地域保健	高齢者の健康課題と健康診査、介護サービスの概要、 保健所と市町村保健センター、地域包括ケアシステム	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
14	学校保健	学校保健推進施策、養護教諭と栄養教諭、学校感染症、食物ア レルギー、保健室と学校医	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間)
15	職域保健/定期試験ガイ ダンス	一般健康診断と特殊健康診断、トータル・ヘルス・プロモーシ ョン、健康管理室と産業医の役割、健康管理活動における栄養 士・管理栄養士定期試験ガイダンス、例題集 (模範解答 & 解説 付き) と定期試験過去問の配付	授業前にレジュメを一読し、要点 を把握しておく。小テストで間違 えた箇所を中心に、レジュメ・テキ スト・参考書で復習する。(2 時間) 学期初めに配布した練習問題と正 解を良く学習し、不明な点はレジュ メ・テキスト・参考書や教員への 質問で解決すること。

授業科目	公衆衛生学 Public Health				担当教員	板垣 康治			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2 年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2 単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎					
授業目的	公衆衛生の概念、公衆衛生・予防医学の歴史について学修する。また、生態系、環境と健康の関わりについて理解する。健康状態、疾病の状況の測定、評価等の基準となる疫学の概念について学修し、疫学指標や疫学の方法、スクリーニング、根拠にもとづいた保健対策とは何かを理解する。また、がん、循環器疾患、代謝疾患、感染症等の主要疾患の疫学と予防対策の現状、さらに衛生、栄養関連法規について学修する。								
到達目標	1. 公衆衛生の概念、健康の定義について説明できる。 2. 健康に関する多くの要因とその解析手段について考え方と方法を説明できる。 3. 保健、医療、福祉、介護制度について説明できる。 4. 関係法規について説明できる。								
関連科目	2 年後期に履修する公衆衛生学実習と密接に関連する。								
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学 2023」 小山洋監修（南江堂）								
参考書	図説 国民衛生の動向								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。 最終試験は、第 14 回目の授業において行う。						
	レポート								
	最終試験	20							
	提出物								
	その他	20							
履修上の 留意事項	各授業の前後に各 2 時間の予習・復習を必要とする								
課題に対するフィ ードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。								
実務経験を 活かした教育内容	神奈川県衛生研究所での勤務経験を生かして、より実践的な公衆衛生学の講義を展開したい。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス 公衆衛生学序論	講義の進め方、評価方法等について 健康について、生活と健康、健康問題の変遷、公衆衛生と医療 の歴史、公衆衛生活動、生命倫理―保健医療福祉の倫理				事前：関連部分をテキスト等で予 習する（2 時間）。事後：テキスト の課題で復習する（2 時間）。			
2	保健統計	健康の測定と健康指標、人口統計、その他の統計				事前：関連部分をテキスト等で予 習する（2 時間）。事後：テキスト の課題で復習する（2 時間）。			
3	疫学	疫学とは、疫学調査の手順と留意事項、疾病の分類、疾病量の 把握、疫学の方法				事前：関連部分をテキスト等で予 習する（2 時間）。事後：テキスト の課題で復習する（2 時間）。			
4	疾病の予防と健康管理	疾病リスクと予防医学、健康管理、健康増進、健康日本 21				事前：関連部分をテキスト等で予 習する（2 時間）。事後：テキスト の課題で復習する（2 時間）。			
5	主な疾病の予防	感染症の予防、循環器系の疾患の予防、糖尿病・脂質異常症・ 痛風・メタボリックシンドロームの予防、がんの予防、腎疾患 の予防、アレルギー疾患の予防、不慮の事故と自殺の防止				事前：関連部分をテキスト等で予 習する（2 時間）。事後：テキスト の課題で復習する（2 時間）。			
6	環境保健	人間の環境、環境の把握とその評価・対策、物理的環境要因、 化学的環境要因、生物的環境要因、空気の衛生と大気汚染、水 の衛生と水質汚濁、廃棄物、衣食住の衛生、公害と環境問題、 環境の管理				事前：関連部分をテキスト等で予 習する（2 時間）。事後：テキスト の課題で復習する（2 時間）。			
7	地域保健と保健行政	地域社会と地域保健、地域保健活動と行政、消費者保健				事前：関連部分をテキスト等で予 習する（2 時間）。事後：テキスト の課題で復習する（2 時間）。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	母子保健	母子保健の水準、母子保健の課題、母子保健活動と行政	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
9	学校保健	子どもの健康状況、学校保健、学校保健の組織と運営、学校保健管理、歯科保健、学校環境管理、学校保健教育	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
10	産業保健	働く人々の健康、労働災害・事故、職業病、職場における健康診断と健康増進、勤労者の労働時間と余暇、職場復帰	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
11	精神保健	精神保健と心の働きの理解、精神の健康とは、精神障害の分類と疫学、主な精神疾患と精神保健の課題、精神保健福祉活動	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
12	国際保健医療	国際保健、人種と民族と国、相手国の情報入手と調査法、開発途上国の健康問題とその対策、日本の保健医療の国際協力、国際機関を通じた協力、国際保健医療の展望	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
13	保健福祉医療の制度と法規	保健医療行政の概要と基礎知識、保健制度の仕組み、医療制度の仕組み、保健医療行政に関するその他の事項、医療保障・年金の仕組み、社会福祉の仕組みと障害者福祉	事前：関連部分をテキスト等で予習する（2 時間）。事後：テキストの課題で復習する（2 時間）。
14	公衆衛生学の総括（1）	公衆衛生学の総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する（2 時間）。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する（2 時間）。
15	公衆衛生学の総括（2）	最終試験の解説とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する（2 時間）。事後：配布資料で復習する（2 時間）。

授業科目	公衆衛生学実習 Public Health Practicum				担当教員	濱岡 直裕、板垣 康治			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		◎		○			○		
授業目的	公衆衛生学で学修したことを基礎として、公衆衛生全般についての理解を深める。科学的根拠に基づいた健康情報の収集や提示方法について実習する。実際に行われている事業等を通して公衆衛生行政を理解する。さらに、具体的な生活環境項目等を測定し、日常生活との関連、健康阻害要因となるものとの関連について、データの解析を行う。科学的根拠にもとづいて説明することができる能力を身につける。								
到達目標	1. 公衆衛生において健康増進、疾病予防を推進する際に必要とされる法規・施策について説明できる。 2. 公衆衛生における統計データの扱い方について説明できる。 3. データを解析し、科学的に説明することができる。								
関連科目	公衆衛生学、健康管理概論								
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第3版）」（医歯薬出版） このほか適宜資料配布する（前期の公衆衛生学で使用したテキストも活用する）								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		レポート、小テスト、提出物、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況を評価する。						
	レポート	20							
	小テスト	30							
	提出物	30							
	その他	20							
履修上の留意事項	実習にあたっては予習・復習を1時間程度行うこと								
課題に対するフィードバックの方法	実験レポートはコメントを付け返却する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 （濱岡）	環境と健康（1）	温熱環境の測定法について（実験）				事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。			
2 （濱岡）	環境と健康（2）	上水道・下水道について（外部見学：札幌市水道および下水道関連施設）				事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。			
3 （濱岡）	環境と健康（3）	化学成分の試験分析について（特別講師：厚生労働省登録検査機関）				事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。			
4 （濱岡）	環境と健康（4）	水の硬度について（実験）				事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。			
5 （濱岡）	環境と健康（5）	環境汚染について（特別講師：北海道立総合研究機構エネルギー環境地質研究所）				事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。			
6 （濱岡）	環境と健康（6）	大気環境の測定について（外部見学：北海道立総合研究機構エネルギー環境地質研究所）				事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。			
7 （濱岡）	環境と健康（7）	食品工場の環境衛生対策について（外部見学：食品製造企業）				事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (濱岡) (板垣)	環境と健康 (8)	食物アレルギーの現状について (演習)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
9 (濱岡) (板垣)	環境と健康 (9)	食品のアレルゲン試験について (実験)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
10 (濱岡)	公衆衛生問題検討 (1)	公衆衛生上の問題について現状と課題をグループでディスカッション (演習)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
11 (濱岡)	公衆衛生問題検討 (2)	公衆衛生上の問題について現状と課題をグループでディスカッション (演習)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
12 (濱岡)	公衆衛生問題検討 (3)	公衆衛生上の問題について現状と課題をグループでプレゼンテーションとディスカッション (演習)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
13 (濱岡)	疫学 (1)	疫学指標について (演習)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
14 (濱岡)	疫学 (2)	記述疫学、分析疫学、介入研究について (演習)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。
15 (濱岡)	疫学 (3)	スクリーニングについて (演習)	事前に関連する前期科目のテキストと前期の配布資料で予習し、事後に配布資料で復習する。

授業科目	形態機能学実習Ⅰ Anatomy and Physiology Practicum				担当教員	金高 有里			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○							
授業目的	形態機能学Ⅰ・Ⅱで学修した基礎的な知識に基づき、実験・測定や標本観察を通して、各臓器・器官（血液、心臓、肺、腎臓、など）の形態、体内での位置および組織構造図と機能について理解する。								
到達目標	1. 解剖学と生理学に関する基本的手技を修得している。 2. 測定・観察した事実に基づいて人体の構造と機能について説明できる。								
関連科目	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ								
テキスト	栄養科学シリーズ NEXT 人体の構造と機能 解剖生理学実習 講談社								
参考書	教員の自作テキスト								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点						
	試験		取り組み姿勢（10％）、レポート（90％）の結果から総合的に評価する。						
	レポート	80％							
	小テスト								
	提出物	20％							
	その他								
履修上の 留意事項	形態機能学Ⅰ・Ⅱおよび形態機能学実習Ⅱと関連付けて学修すること。 機器・標本は貴重なものばかりなので、取り扱いには指示に従って丁寧にすること。								
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物には、評価をつけて返却する。								
実務経験を 活かした教育内容	解剖生理学を主とした研究を行っているため、それを実習で生かす。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	オリエンテーション	形態機能学実習の進め方 実験・観察での留意事項 記録・レポート作成について				配付プリントをよく読むこと			
2	人体の構造と組成（1）	人体・骨格・臓器模型の観察・記録				配付プリントをよく読むこと			
3	人体の構造と組成（2）	解剖標本室の見学・標本観察・記録				配付プリントをよく読むこと			
4	人体の構造と組成（3）	身体計測（身長、体重、体組成、ウェスト周囲長、皮厚など）				配付プリントをよく読むこと			
5	人体の構造と組成（4）	身体計測データの解析				配付プリントをよく読むこと			
6	腎臓・尿（1）	腎臓の全体模型および組織標本の観察・記録				配付プリントをよく読むこと			
7	腎臓・尿（2）	尿の量、浸透圧、各種成分の測定				配付プリントをよく読むこと			
8	血液（1）	血球標本の観察・記録				配付プリントをよく読むこと			
9	血液（1）	血球数計測、ヘモグロビン測定、血球浸透圧抵抗				配付プリントをよく読むこと			
10	心臓・血管（1）	心臓・血管の全体模型および組織標本の観察・記録				配付プリントをよく読むこと			
11	心臓・血管（2）	心音、心電図、血圧測定				配付プリントをよく読むこと			
12	呼吸（1）	肺・気管の全体模型および組織標本の観察・記録				配付プリントをよく読むこと			
13	呼吸（2）	呼吸数、呼吸機能の測定				配付プリントをよく読むこと			
14	呼吸（3）	呼吸機能のデータ解析				配付プリントをよく読むこと			
15	まとめ	全体の学びのまとめと発表				プリントを復習すること			

授業科目	形態機能学実習Ⅱ Anatomy and Physiology Practicum Ⅱ				担当教員	金高 有里		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2 年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1 単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○						
授業目的	形態機能学Ⅱで学修した基礎的な知識に基づき、実験・測定や標本観察を通して、各臓器・器官(消化管、肝臓、膵臓、脂肪組織、骨、骨格筋、中枢および末梢神経、感覚器、内分泌腺など)の形態、体内での位置および組織構造図と機能について理解する。これらと形態機能学実習Ⅰで学修した知識・手技を組み合わせ、食事や運動習慣の介入効果を総合的に検証する。							
到達目標	1. 解剖学と生理学に関する基本的手技を修得している。 2. 測定・観察した事実に基づいて人体の構造と機能について説明できる。 3. 各種機能の評価法とその活用について説明できる。							
関連科目	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ、形態機能学実習Ⅰ							
テキスト	栄養科学シリーズ NEXT 人体の構造と機能 解剖生理学実習 講談社							
参考書	教員の自作テキスト							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		取り組み姿勢(10%)、レポート(90%)の結果から総合的に評価する。					
	レポート	90%						
	小テスト							
	提出物							
	その他	10%						
履修上の 留意事項	形態機能学Ⅰ・Ⅱ及び形態機能学実習Ⅰと関連付けて学修すること。機器・標本は貴重なものばかりなので、取り扱いには指示に従って丁寧にすること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物には、評価をつけて返却する。							
実務経験を 活かした教育内容	解剖生理学を主とした研究を行っているため、それを実習で生かす。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	消化吸収(1)	消化管の組織標本観察					配付プリントをよく読むこと	
2	消化吸収(2)	アミラーゼの機能測定					配付プリントをよく読むこと	
3	栄養素代謝(1)	肝臓、膵臓、脂肪組織の標本観察・記録					配付プリントをよく読むこと	
4	栄養素代謝(2)	血糖測定、経口糖負荷試験					配付プリントをよく読むこと	
5	栄養素代謝(3)	血糖測定、経口糖負荷試験のデータ解析					配付プリントをよく読むこと	
6	エネルギー代謝・体温 (1)	間接熱量計(呼吸分析)、運動負荷					配付プリントをよく読むこと	
7	エネルギー代謝・体温 (2)	体温と皮膚温測定、寒冷刺激					配付プリントをよく読むこと	
8	エネルギー代謝・体温 (3)	汗腺観察、温熱刺激、発汗試験					配付プリントをよく読むこと	
9	感覚(1)	皮膚感覚(触覚、痛覚、温覚、冷覚)試験					配付プリントをよく読むこと	
10	感覚(2)	神経組織観察					配付プリントをよく読むこと	
11	味覚(1)	味覚の基礎					配付プリントをよく読むこと	
12	味覚(2)	味覚の閾値					配付プリントをよく読むこと	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13	神経（１）	反射・平衡感覚	配付プリントをよく読むこと
14	発表	全体のまとめ	配付プリントをよく読むこと
15	まとめ	全体のまとめ	配付プリントをよく読むこと

授業科目	病理学 Pathology				担当教員	家子 正裕		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	病理学は病気になった原因や、病気になった患者の身体に生じている変化について理解し、病変の名称やその原因の発生プロセス、さらに各臓器における代表的な病変・病気について学修する学問である。本科目は、管理栄養士としての職務を遂行するための病理学的基礎力を身に付けることを目的とする。							
到達目標	1. 病理学総論（各種臓器に生じる多彩な病変の共通事項）の概要を説明できる。 2. 代表的な病態の発生機序、経時的变化を説明できる。 3. 正常組織との対比や、各種疾患の関連性を説明できる。							
関連科目	1 年前期に履修した形態機能学Ⅰ、1 年後期に履修する形態機能学Ⅱと密接に関連する。							
テキスト	編/深山正久「はじめの一步の病理学 第2 版」(羊土社)【電子テキスト】							
参考書	1. 渡辺照男編集「カラーで学べる病理学 第5 版」(ヌーヴェルヒロカワ) 2. 小林正伸「なるほどなっとく病理学 病態形成の基本的なしくみ (改訂2 版)」(南山堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	100	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	病変の特徴、発症機序などを学ぶためには、正常組織の構造や機能の理解が前提となるため、形態機能学Ⅰ及びⅡでの学習内容を再確認したうえで受講すること。教員が作成した講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された課題（復習問題）を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。							
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義資料に添付された課題（復習問題）については、次回の講義日までに模範解答と解説を Web 上で公開しますので、自分の解答を必ず確認して理解を深めることが必要です。チャットによる質問等についてはいつでも受け付けて対応します。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、病理解剖の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な病理学的知識について理解しやすいように授業を行います。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	科目ガイダンス 病理学概論	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・病理学とは？ ・病理診断の役割と各種病理検査の概要 ・病気の種類と発症要因				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）		
2	退行性病変（1）	・変性や代謝障害の原因と経過に伴う形態や機能への影響 ・糖質、脂質、タンパク質の代謝障害と色素変性				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）		
3	退行性病変（2）	・萎縮の種類、萎縮と低形成の違い ・萎縮と肥大の対比 ・壊死とアポトーシスの違い				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）		
4	進行性病変（1）	・分化と増殖の対比 ・肥大の分類 ・過形成の具体例				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）		
5	進行性病変（2）	再生組織と肉芽組織の役割、創傷治癒、化生について理解する。 ・再生 ・肉芽組織 ・創傷治癒 ・異物処理 ・化生の種類				事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間） 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する（2 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	循環障害 (1)	・ 高血圧と低血圧 ・ ショックの分類と特徴 ・ 充血とうっ血の違い ・ 虚血の病態と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
7	循環障害 (2)	・ 側副循環の原因と合併症 ・ 出血の種類と特徴 ・ 血栓症と塞栓症	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
8	炎症 (1)	・ 炎症の定義 ・ 炎症の四 (五) 大徴候 ・ 急性炎症の特徴 ・ 炎症マーカーの意義	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
9	炎症 (2)	・ 慢性炎症の発症機序 ・ 慢性炎症における肉芽組織の役割 ・ 急性炎症と慢性炎症の対比 ・ 特異性炎の定義と代表的疾患	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
10	免疫 (1)	・ 免疫の歴史 ・ 免疫学発展の画期的事項とは～その 1 とその 2 ・ フローサイトメトリの発展 ・ モノクローナル抗体と CD 分類	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
11	免疫 (2)	・ 免疫系を構成する免疫細胞の機能 ・ 免疫疾患の種類 (免疫不全、アレルギー等) ・ 自己免疫疾患と膠原病 ・ 移植免疫	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
12	腫瘍 (1)	・ 腫瘍の分類 ・ 良性腫瘍と悪性腫瘍の違い ・ 癌腫と肉腫の違い ・ 転移の種類と特徴	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
13	腫瘍 (2)	・ 癌の進行度 ・ 癌原遺伝子と癌遺伝子 ・ 発癌のしくみ (化学物質、感染因子) ・ 腫瘍マーカーの種類と意義	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
14	先天異常	・ 遺伝疾患の分類と遺伝様式 ・ 代表的な先天異常についての要因と発生機序 ・ 代表的な染色体異常と出生前診断	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)
15	病理学トピックス 定期試験ガイダンス	・ 病理学に関連するトピックスや話題 ・ 管理栄養士国家試験における病理学関連問題の分析 ・ 定期試験について	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する (2 時間) 事後：講義内容を整理し、課題にて理解度を確認する (2 時間)

授業科目	生化学Ⅱ BiochemistryⅡ				担当教員	津久井 隆行		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	アミノ酸、たんぱく質、糖質、脂質の代謝について学修する。さらに、生体調節物質を網羅して理解する。代謝により生成される物質について学修し、個体の恒常性とその調節機構について理解する。生体調節物質として重要なホルモン・活性ペプチドの生理作用、さらに遺伝子工学および免疫システムについて学修する。							
到達目標	1. 糖質代謝について概略を説明し、関連する代謝系について説明できる。 2. 脂質代謝について概略を説明し、リポ蛋白質の種類を説明できる。 3. たんぱく質代謝の概略を説明し、終末代謝産物について説明できる。 4. 代表的なアミノ酸代謝の概略と生成物について説明できる。 5. 遺伝情報の概略と遺伝子発現について説明できる。 6. ホルモン・活性ペプチドの生理作用と恒常性について説明できる。 7. 生体防御機構の概略を示し免疫グロブリンの種類について説明できる。							
関連科目	生化学Ⅰ、生化学実験の他、形態機能学Ⅰ・Ⅱ、病態診療学Ⅰ・Ⅱ、基礎栄養学と関連している。							
テキスト	1. 菌田淳「栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版」(羊土社) 2. 菌田淳「栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート 第3版」(羊土社) 3. 教員が作成する配布資料							
参考書	遠藤克己、三輪一智「生化学ガイドブック改定第3版」(南江堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。					
	レポート		①小テスト(30点) ・講義開始時に当日実施予定の講義内容に関する小テストを実施し、講義に対する事前準備状況を評価する。					
	小テスト	30	②定期試験(70点) ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。					
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	1. 授業前にテキスト・配布資料の該当ページに必ず目を通し予習する。 2. 授業後にはテキスト・配布資料の該当ページを必ず復習する。 3. 双方向的授業を推進することから質疑に積極的に参加する。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説を実施する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	異化と同化	糖質・脂質・たんぱく質の異化、同化及び排泄の流れについて学修する。				教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて復習を行う。(1時間)		
2	糖質の代謝①	外から摂取した糖質の運命と代謝について学修する。				教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。		
3	糖質の代謝②	糖新生と血糖値の調節について学修する。				教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。		
4	脂質の代謝①	摂取された脂質の運命と代謝について学修する。				教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	脂質の代謝②	脂質の体内輸送や蓄積について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
6	タンパク質の分解とアミノ酸代謝①	タンパク質の分解とアミノ酸プールについて学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
7	タンパク質の分解とアミノ酸代謝②	主たるアミノ酸の代謝と産生される物質について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
8	生体エネルギー学	生体エネルギーと関連酵素について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
9	中間代謝	糖代謝と脂質代謝、アミノ酸代謝の相互関係について解説する。また、これらの中間代謝について、概要と制御について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
10	ヌクレオチドの代謝	核酸の代謝とプリン体・プリミジン体の分解について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
11	遺伝子発現とその制御①	遺伝子発現とその調節機構について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
12	遺伝子発現とその制御②	遺伝子の発現や調節に影響する要因について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
13	個体の調節機構とホメオスタシス①	情報伝達の機序と役割、情報伝達物質と細胞応答について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
14	個体の調節機構とホメオスタシス②	ホルモンと生体調節について学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。
15	生体防御機構	免疫機構についての概略と免疫グロブリンについて学修する。	教科書、演習ノートおよび配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各1時間) 講義開始時に今回の内容に関する予習確認テストを行う。

授業科目	生化学実験 Biochemical Experiment				担当教員	津久井 隆行		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実験				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎			○	
授業目的	生化学Ⅰ・生化学Ⅱで学修したアミノ酸、たんぱく質、糖質、脂質、核酸、酵素の定性法や定量法などについて実習を通して学修する。様々な汎用機器と分析機器の原理と構造を理解し、それらを扱う知識と技術を修得し、実験を通して、生命活動を支える細胞や生体物質の構造および生理機能等についての知識を修得する。また食物として外界から取り込んだ物質の利用、代謝とその調節について理解する。							
到達目標	1. ピペット操作や汎用機器の取扱いが正確にできる。 2. 分光光度計の構造・性能を説明でき、物質の定量ができる。 3. pHの定義を説明でき、pHの調節ができる。 4. 酵素活性に及ぼす温度、pH及び基質濃度の影響について説明できる。 5. 血液中の主要な成分とそれらを定量する方法について説明できる。 6. 電気泳動の原理や種類について説明できる。 7. 遺伝子の性質を知り基本的取扱いができる。							
関連科目	生化学Ⅰ・Ⅱに関連科目とする。レポートの作成に基礎化学（1年次前期）で学んだ濃度計算が関連するため、復習しておくこと。							
テキスト	山本克博「はじめてみよう生化学実験」（三共出版） ※その他、教員が作成する配付資料							
参考書	藺田淳「栄養科学イラストレイテッド 生化学 第3版」（羊土社）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の視点から評価し、60点以上を合格とする。 ①実験レポート（70点） ・実験毎にレポートを作成し、実験への理解度を評価する。 ②その他（30点） ・取り組み姿勢を総合的に評価する。					
	レポート	70						
	小テスト							
	提出物							
	その他	30						
履修上の留意事項	1. 生化学Ⅰの講義及び他の科目と関連付けて実験内容を理解する。 2. 実験の進行中の不明な点は必ず質問する。 3. 実験レポートの提出期限を守る。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートは採点し、コメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス マイクロピペットの操作法	ガイダンス（実験上の注意事項に関する説明） マイクロピペットを使用して正確度と精密度を算出する				事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。		
2	吸光度の測定法	分光光度計の原理と使用方法について学修する。 吸光度から標準曲線を作成する。				事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。		
3	pHの測定	pHメーターの使用法について学修する。 緩衝液を調製し、pHメーターの使用法について習熟する。				事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。		
4	酵素活性測定	アルカリフォスファターゼの活性を測定し、Km値を算出する。				事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。		
5	血液成分分析 1	尿酸測定の生化学的・臨床的意義について学修する。 血清中の尿酸を測定する。				事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	血液成分分析 2	血清カルシウム測定の生化学的・臨床的意義について学修する。 血清カルシウムを測定する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
7	血液成分分析 3	血清総タンパク質・アルブミン測定の生化学的・臨床的意義について学修する。 血清総タンパク質・アルブミン量を測定する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
8	血液成分分析 4	セルロースアセテート膜電気泳動 血清タンパク質の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
9	血液成分分析 5	アガロースゲルフィルム電気泳動 リボタンパク質の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
10	血液成分分析 6	血清遊離脂肪酸を測定する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
11	タンパク質の分離と 同定	SDS-PAGE タンパク質の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
12	DNA の検出 1	DNA の測定法について学修する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
13	DNA の検出 2	DNA を抽出・精製し、PCR にて増幅する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
14	DNA の検出 3	アガロースゲル電気泳動 DNA の電気泳動パターンを作成する。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。
15	総括	これまでの実験内容についてまとめる。	事前：テキストで予習する。 事後：実験内容を整理し、レポートを作成する。

授業科目	病態診療学Ⅰ Fundamentals of Clinical Medicine Ⅰ				担当教員	千葉 仁志		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	栄養・食生活と関連する疾患の成因・病態生理・症候と診断（病態評価）、治療法について学修する。それらを人体の構造や機能と関連づけて理解する。前半の講義は総論であり、問診・身体計測・症候・検査・治療の概要を学修する。後半の講義は各論であり、疾患別に診断・治療の概要を学修する。病態診療学Ⅰで扱う疾患は、栄養・代謝疾患、内分泌疾患、動脈硬化性疾患、循環器系疾患、消化管疾患である。それ以外の疾患については3年次前期の病態診療学Ⅱで学修する。							
到達目標	臨床の現場において管理栄養士として他のメディカルスタッフと連携して、食事の提供や栄養指導を行うための基礎的知識を身につけている。							
関連科目	病態診療学Ⅰは臨床系教育の中核をなしており、3年次前期に履修する病態診療学Ⅱは本科目の続編である。本科目の基礎となる科目は、1年次前期の形態機能学Ⅰ、1年次後期の形態機能学Ⅱ・生化学Ⅰ・基礎栄養学、2年次前期の生化学Ⅱである。本科目が基礎の重要部分を構成する科目として、2年次後期～4年次前期の臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ、4年次前期の総合演習Ⅱ、4年次通期の管理栄養士総合演習がある。							
テキスト	田中 明編、栄養科学イラストレイテッド「臨床医学 疾病の成り立ち 第3版」、羊土社。 毎回の授業で配布するレジュメは、教科書を簡明に要約し、必要な追加を行っているので、学習の中心に置くべきものである。定期試験対策は、レジュメを中心に行うと効率的である。							
参考書	詳細な参考書として、「看護のための臨床病態学・第4版」（浅野 嘉延、吉山 直樹、南山堂）。 国家試験に向けての学習の補助となるものとして、「レビューブック管理栄養士」（メディックメディア）がある。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	70％	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題・正解を、レジュメ・教科書を参考にしながら疑問点が無くなるまで学習し、定期試験に臨むこと。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60％以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が60％以上の場合に合格とする。					
	レポート							
	小テスト	30％						
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	教員がパワーポイントで作成した講義資料（レジュメ）に基づいて講義を行う。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を記憶する姿勢が求められる。小テストではFORMSを使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。							
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストはFORMSを利用するので、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違えた箇所をレジュメと教科書・参考書で確認し、理解と正しい情報の確実な記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、図解なども活用して学生が正しく理解することを助けます。							
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス・診断のための身体診察と検査（1）		病態診療学Ⅰについて、問診と診察			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)		
2	診断のための身体診察と検査（2）		全身状態の測定と全身症候			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)		
3	診断のための身体診察と検査（3）		その他の症候と病態			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)		
4	診断のための身体診察と検査（4）		臨床検査の種類と特性、基準値の求め方			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	診断のための身体診察と検査（５）	生化学検査	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
6	診断のための身体診察と検査（６）	一般検査（尿・便）、血液学的検査、免疫検査、腫瘍マーカー	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
7	診断のための身体診察と検査（７）	微生物検査、生理検査、画像検査、病理検査	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
8	疾患治療の概要	対症療法と原因療法、EBM、治療計画・実施・評価、様々な治療方法	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
9	疾患別の病態と治療の概要（１）	栄養障害、糖尿病	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
10	疾患別の病態と治療の概要（２）	脂質異常症、肥満・メタボリックシンドローム、高尿酸血症・痛風	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
11	疾患別の病態と治療の概要（３）	内分泌疾患（１）	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
12	疾患別の病態と治療の概要（４）	内分泌疾患（２）	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
13	疾患別の病態と治療の概要（５）	動脈硬化、虚血性心疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
14	疾患別の病態と治療の概要（６）	高血圧、不整脈、血管疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
15	疾患別の病態と治療の概要（７）	消化管疾患、定期試験について	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

授業科目	食品科学Ⅲ Food Science III				担当教員	板垣 康治		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	◎				○
授業目的	調理・加工、保存中の食品成分の変化について、起きる条件や機構を理解し、加工、保存の具体的方法に関わる知識の修得を図る。関連して食品の包装、規格、表示について学修し、管理栄養士に求められる適切な食品の管理選択能力、それを基礎とした食教育の実践力を身につける。							
到達目標	1. 調理・加工、保存中の食品成分変化について説明できる。 2. 栄養に関する知識、表示の見方について説明できる。 3. 食品の情報を適切に判断し、正しい食品の選択方法について論理的に説明できる。							
関連科目	1年前期に履修した食品科学Ⅰ、1年後期に履修した食品科学Ⅱ、及び4年前期に履修する食品機能論と関連する。							
テキスト	船津保浩他 編著「食べ物と健康Ⅲ 第2版 食品加工と栄養」（三共出版）							
参考書	なし							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。 最終試験は、第14回目の授業において行う。					
	レポート							
	最終試験	20						
	提出物							
	その他	20						
履修上の留意事項	各授業の前後に2時間の予習・復習を要する。 食品科学Ⅰ、Ⅱの知識を身に付け、発展的な科目として学修する。							
課題に対するフィードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。							
実務経験を活かした教育内容	大手食品メーカーでの勤務経験を生かして、より実践的な授業展開を図りたい。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	食料生産と栄養	食料生産の現状と課題、生産条件と栄養				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの課題で復習する（2時間）。		
2	食品加工と栄養	食品加工の意義と目的、食品加工の方法、三次加工食品とその利用				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの課題で復習する（2時間）。		
3	加工食品とその利用（1）	穀類、いも類とでんぷん類、砂糖と甘味類、豆類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの課題で復習する（2時間）。		
4	加工食品とその利用（2）	野菜類、果実類、きのこ類、藻類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの課題で復習する（2時間）。		
5	加工食品とその利用（3）	魚介類、肉類、卵類、乳類				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの課題で復習する（2時間）。		
6	加工食品とその利用（4）	油脂類、菓子類、嗜好飲料、調味料と香辛料				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの課題で復習する（2時間）。		
7	食品流通・保存と栄養	食品流通の概略、食品保存の方法				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの課題で復習する（2時間）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	加工および保存中の成分変化（１）	脂質の変化、たんぱく質の変化、糖質の変化	事前：関連部分をテキスト等で予習する（２時間）。事後：テキストの課題で復習する（２時間）。
9	加工および保存中の成分変化（２）	ビタミンの変化、保存条件による食品成分変化	事前：関連部分をテキスト等で予習する（２時間）。事後：テキストの課題で復習する（２時間）。
10	器具と容器包装（１）	容器の材料の形態と安全基準、包装による品質変化	事前：関連部分をテキスト等で予習する（２時間）。事後：テキストの課題で復習する（２時間）。
11	器具と容器包装（２）	素材による環境汚染、包装リサイクル	事前：関連部分をテキスト等で予習する（２時間）。事後：テキストの課題で復習する（２時間）。
12	食品の表示（１）	食品表示と法律、食品の国内規格と国際規格、各種表示の概要	事前：関連部分をテキスト等で予習する（２時間）。事後：テキストの課題で復習する（２時間）。
13	食品の表示（２）	食品表示の課題、表示の監視	事前：関連部分をテキスト等で予習する（２時間）。事後：テキストの課題で復習する（２時間）。
14	食品科学Ⅲの総括（１）	食品科学Ⅲの総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する（２時間）。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する（２時間）。
15	食品科学Ⅲの総括（２）	最終試験の総括とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する（２時間）。事後：配布資料で復習する（２時間）。

授業科目	食品衛生学 Food Hygiene and Safety				担当教員	濱岡 直裕		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎			○	○
授業目的	食品に起因する健康被害の原因と予防対策について理解する。食中毒の原因物質と発生状況、食中毒の定義、分類、感染症、食品の汚染、食品添加物のメリット・デメリットなどの知識を修得し、さらに食品衛生管理 HACCP の概念、食品工場、家庭における衛生管理、食品衛生行政と関連法規について理解する。							
到達目標	1. 食品に含まれる可能性がある健康障害要因（リスク）とその対応策について理解している。 2. 食品衛生行政の概要とその役割を理解している。 3. 食品の安全性問題を理解するとともに衛生管理の仕組みについて理解している。							
関連科目	微生物学、食品衛生学実験に強く関連する。							
テキスト	「ステップアップ栄養・健康科学 食品衛生学」中島肇・桑原祥浩・池内義弘 編（化学同人）							
参考書	「イラスト食品の安全性」小塚諭編（東京教学社）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験	70	試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況を評価する。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	各授業の前後に各 1 時間の予習・復習を必要とする。							
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストの出題は授業の中で解説する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	食品衛生概論	食品衛生の概要、食品衛生法と食品安全基本法				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
2	食品と微生物	食品と微生物				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
3	食品の変質（1）	食品の変質とその防止				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
4	食品の変質（2）	食品の酸敗とその防止				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
5	食中毒（1）	食中毒の定義と概要、食中毒細菌				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
6	食中毒（2）	ウイルス、自然毒				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
7	食中毒（3）	寄生虫とその疾患、衛生動物				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		
8	食品汚染（1）	有害金属、動物用医薬品				事前にテキストを予習し、事後に テキストの問題で復習する（各 1 時間程度）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	食品汚染 (2)	農薬、その他の有害物質	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
10	小テスト、器具・容器包装	小まとめ、小テスト、器具・容器包装の概要、各製品別の概要	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
11	食品添加物 (1)	食品添加物の概念、安全性評価	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
12	食品添加物 (2)	主な添加物の種類と特徴	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
13	食品衛生対策 (1)	食品保健行政、食品の安全性問題	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
14	食品衛生対策 (2)	HACCP システムによる衛生管理	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。
15	食品衛生学の展望	最近の食品衛生に関する話題、総括	事前にテキストを予習し、事後にテキストの問題で復習する (各 1 時間程度)。

授業科目	食品衛生学実験 Food Hygiene and Safety Practicum				担当教員	濱岡 直裕		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実験				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎			○	○
授業目的	食品衛生学にもとづいて、食品衛生を行うために必要な技術や技能を修得する。食品の変質・腐敗・酸敗の判定法、身の回りの環境などの測定法を修得する。また、細菌検査等の実験結果から、食品衛生法や他の法律に規定された基準などにもとづいた汚染の状況を判定する方法を修得する。安全管理対策について、実験を通して学修する。管理栄養士として食事を提供する場面における品質管理や衛生問題に対応する能力を身につける。							
到達目標	1. 食品衛生実験の基本操作を身につけている。 2. 食品の衛生管理法について説明できる。 3. 各種検査法の原理や特徴について説明できる。 4. 食品の安全管理対策について説明できる。							
関連科目	微生物学実験、微生物学、食品衛生学に強く関連する。							
テキスト	杉山章・岸本満・和泉秀彦編「食品衛生学実験 - 安全を支える衛生検査のポイント -」(みらい) 微生物学実験と同じテキストを用いるほか、適宜、資料を配付する							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		レポート、提出物、授業中の取り組み姿勢（授業への集中度、積極性、参加状況、授業中の受講態度）などにより目標の到達状況を評価する。					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	20						
	その他	40						
履修上の 留意事項	実験にあたっては予習・復習を1時間程度行うこと							
課題に対するフ ィードバックの 方法	実験レポートはコメントを付け返却する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	衛生状態 (1)	手指の細菌検査、グローブ法				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
2	衛生状態 (2)	環境の細菌検査、拭き取り法				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
3	衛生状態 (3)	環境の清浄度検査、ATP 法				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
4	抗菌性	抗菌性評価				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
5	食中毒細菌 (1)	黄色ブドウ球菌の検出				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
6	食中毒細菌 (2)	黄色ブドウ球菌の特性試験				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
7	食中毒細菌 (3)	黄色ブドウ球菌の同定				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
8	食品の腐敗変敗(1)	魚肉の揮発性塩基性窒素 VBN の測定				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
9	食品の腐敗変敗(2)	ヒスタミンの検査				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		
10	食品の腐敗変敗(3)	油脂の酸価・過酸化物価の測定				テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	水道水	水道水の一般生菌数・大腸菌の検査、残留塩素濃度測定	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
12	食品添加物(1)	着色料の検査	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
13	食品添加物(2)	発色剤の検査	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
14	全体のまとめ	プレゼンテーション	テキストの該当箇所を確認し、配布資料で実験内容を整理する。
15	食品衛生監視の概要	食品衛生監視員の業務について（北海道庁食品衛生課）	配布資料で学習内容を整理する。

授業科目	基礎栄養学実験 Basic Nutrition Experiment				担当教員	松川 典子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実験				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎				
授業目的	基礎栄養学で学んだ知識にもとづき、栄養学の基礎となる消化・吸収、栄養素の体内動態や代謝、エネルギー代謝の理解を目的として実験を行う。初めに、実験に用いられる機器とその原理を修得する。ビタミン、ミネラルの体内動向、消化酵素、糖質や脂質の体内動向について自分自身、または動物実験を通して測定する。個人の栄養状態把握に必要な装置や方法について理解し、測定等の技術を修得する。							
到達目標	1. 基本的な実験操作を行うことができる。 2. 栄養素を定性、定量することで各栄養素の消化及び代謝機構を説明できる。							
関連科目	基礎栄養学、生化学Ⅰ・Ⅱ							
テキスト	川端輝江著「基礎栄養学 栄養素のはたらきを理解するために」(アイ・ケイコーポレーション)							
参考書	奥恒之、柴田克己編「基礎栄養学」(南江堂)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験		実験毎のレポート(80%)とその他(20%)から目標の到達状況を評価する。 その他：第15回に実施する発表内容					
	レポート	80						
	小テスト							
	提出物							
	その他	20						
履修上の留意事項	基礎栄養学等関連科目を復習してから臨むこと。 レポート作成には、基礎栄養学のテキストで実験内容に該当する箇所の復習を含め2時間程度を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、添削し返却する。							
実務経験を活かした教育内容	食品分析、動物実験の実務経験を活かし、食品一般成分や組織成分の分析法を教授する。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	実験オリエンテーション、器具類の名称及び使用法、試薬の調製法				事前：シラバスを確認する。 事後：実施内容を復習する。		
2	糖質の消化	糖類の消化実験 (<i>in vitro</i>)				事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。		
3	糖質の代謝①	血糖値の測定				事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。		
4	脂質の代謝①	血漿中トリグリセリドの定量				事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。		
5	脂質の代謝②	肝臓総脂質の定量				事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。		
6	たんぱく質の代謝①	血漿たんぱく質の定量				事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。		
7	たんぱく質の代謝②	肝臓たんぱく質の定量				事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	糖質の代謝③	肝臓、筋肉グリコーゲンの定量	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
9	糖質の代謝④	肝臓グルコース-6-ホスファターゼの測定	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
10	発表資料の作成	発表時間に収まる資料、原稿作成	事前：これまでに実施した実験内容を復習する。 事後：成果発表に必要な資料、原稿を作成する。
11	糖質の消化②	小腸粘膜酵素活性の測定①	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
12	糖質の消化③	小腸粘膜酵素活性の測定②	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
13	ビタミンの定量	尿中ビタミンCの測定	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
14	ミネラルの定量	尿中ナトリウムの測定	事前：テキストで予習する。 事後：配布プリントとテキストを用い、実験内容を整理し、レポートを作成する。
15	まとめ	成果発表	事前：発表資料、原稿を作成しリハーサルを行う。 事後：発表を振り返り、準備から発表に至るまでに注意すべき点を確認する。

授業科目	応用栄養学Ⅰ Applied NutritionⅠ				担当教員	岩部 万衣子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		
授業目的	健康増進や疾病予防に寄与する栄養素の機能やエネルギー代謝の知識にもとづき、健康への影響に関するリスク管理、栄養状態の評価・判定の基本的な考え方や方法について理解する。さらに、栄養ケア・マネジメントの基礎と食事摂取基準の基本的な考え方や各指標の定義・活用方法について修得する。身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアについて学修する。							
到達目標	1. 栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方、方法を説明できる。 2. 食事摂取基準の基本的な考え方、各指標についての定義、活用方法を説明できる。 3. 身体状況や栄養状態等に基づいた栄養アセスメントのための食事調査について説明できる。 4. 対象に適切な調査の方法を説明できる。							
関連科目	1年次の形態機能学、生化学、食品科学、調理学、基礎栄養学を基盤とした科目である。 応用栄養学Ⅱ・Ⅲ、応用栄養学実習と関連する。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学の基盤となる科目である。							
テキスト	伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020年版〉」（第一出版） 栢下 淳、上西 一弘 編「栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第2版」（羊土社）							
参考書	佐々木 敏 著「食事摂取基準入門 - そのところを読む」（同文書院）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	40	授業内容に応じた提出物（30％）、小テスト（30％）、定期試験（40％）の結果を総合して、目標の到達状況を評価する。					
	レポート							
	小テスト	30						
	提出物	30						
	その他							
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点し、解答・解説を行う。 提出物は添削し返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス	応用栄養学とは					教科書、参考資料を事前に確認する。	
2	食事摂取基準（1）	食事摂取基準の概要 食事摂取基準の目的、歴史、意義					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
3	食事摂取基準（2）	食事摂取基準における各指標の定義、策定プロセス 基礎代謝、身体活動レベル、推定エネルギー必要量					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
4	食事摂取基準（3）	食事摂取基準活用の基礎理論（1）					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
5	食事摂取基準（4）	食事摂取基準活用の基礎理論（2）					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
6	食事摂取基準（5）	食事摂取基準活用の各論（1）					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
7	食事摂取基準（6）	食事摂取基準活用の各論（2）					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
8	食事摂取基準（7）	食事摂取基準活用の各論（3）					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
9	食事摂取基準（8）	食事摂取基準活用の各論（4）					教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	食事摂取基準 (9)	食事摂取基準活用の各論 (5)	教科書を中心に 1 時間程度の予習 復習を行う。
11	栄養ケア・マネジメント 計画 (1)	栄養ケア・マネジメント計画 短期・中期・長期の栄養ケア・マネジメント目標 目標にそった栄養ケア・マネジメント計画について	教科書を中心に 1 時間程度の予習 復習を行う。
12	栄養ケア・マネジメント 計画 (2)	栄養ケア・マネジメント計画におけるモニタリング 計画実施後の経過のモニタリング、必要な計画の見直し	教科書を中心に 1 時間程度の予習 復習を行う。
13	栄養アセスメント指標	栄養アセスメント指標 主観的アセスメント、客観的アセスメントの理解と活用	教科書を中心に 1 時間程度の予習 復習を行う。
14	食事調査	食事調査データの活用、食事調査法について	教科書を中心に 1 時間程度の予習 復習を行う。
15	食行動・食環境 まとめ	食事の摂取について 食行動、食環境について 環境と食習慣の関連、食行動と食環境の評価 全体のまとめ	教科書を中心に 1 時間程度の予習 復習を行う。

授業科目	応用栄養学Ⅱ Applied NutritionⅡ				担当教員	岩部 万衣子 金高 有里		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		
授業目的	ライフステージごとに身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアが必要である。成長・発達・加齢の概念について学修し、成長・発達・加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養について理解する。具体的には、妊娠期・授乳期、新生児期、乳児期、成長期（幼児期、学童期、思春期）における生理学的な特徴を理解し、各ライフステージの栄養アセスメントと栄養ケアについて理解する。栄養状況は生活環境や食生活からも影響を受けているので、それらの要因も考慮した栄養管理の基本について理解する。							
到達目標	1. ライフステージごとの身体特性、栄養状況を説明できる。 2. 各ライフステージにおける栄養アセスメントおよび栄養ケアを考えることができる。							
関連科目	1年次の形態機能学、生化学、食品科学、調理学、基礎栄養学を基盤とした科目である。 応用栄養学Ⅰ・Ⅲ、応用栄養学実習と関連する。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学の基盤となる科目である。							
テキスト	伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020年版〉」（第一出版） 栢下 淳、上西 一弘 編「栄養化学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第2版」（羊土社）							
参考書	佐々木 敏 著「食事摂取基準入門 - そのころを読む」（同文書院）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	80	授業内容に応じたレポートや定期試験の結果を総合して、目標の到達状況を評価する。 岩部 50％：定期試験 40％、レポート 10％ 金高 50％：定期試験 40％、レポート 10％					
	レポート	20						
	小テスト							
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートは添削し返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1（岩部）	発育・発達と栄養（1）	成長・発達・加齢の概念、加齢と形態の変化、食機能の変化				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
2（岩部）	発育・発達と栄養（2）	年齢別食事摂取基準と食品構成				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
3（金高）	妊娠期の栄養（1）	女性、妊娠期の栄養の特徴				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
4（金高）	妊娠期の栄養（2）	妊娠期の疾患と栄養ケア・マネジメント				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
5（金高）	授乳期の栄養（1）	授乳期の特性、栄養の特徴				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
6（金高）	授乳期の栄養（2）	授乳期の疾患と栄養ケア・マネジメント				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
7（金高）	新生児・乳児期の栄養（1）	新生児・乳児期の特性、栄養と代謝				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
8（金高）	新生児・乳児期の栄養（2）	新生児・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
9（金高）	成長・発達期（総論）	成長期の食事摂取基準と献立				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
10（岩部）	成長・発達期（幼児期）（1）	幼児期の特性、栄養の特徴、集団給食				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11 (岩部)	成長・発達期（幼児期）（2）	幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
12 (岩部)	成長・発達期（学童期）（1）	学童期の特性、栄養の特徴、学校給食	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
13 (岩部)	成長・発達期（学童期）（2）	学童期の栄養アセスメントと栄養ケア	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
14 (岩部)	成長・発達期（思春期）	思春期の特性、生活習慣の特徴 思春期の栄養アセスメントと栄養ケア	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
15 (岩部)	まとめ	全体のまとめと復習	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。

授業科目	スポーツ栄養学総論 Introduction to Sports Nutrition				担当教員	千葉 昌樹、松本 恵			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎				
授業目的	スポーツ栄養とは何か、基本的な考え方と実際にスポーツ選手へのサポート方法について学ぶ								
到達目標	スポーツ実施者の実態や栄養サポートの実践について理解する。 スポーツ栄養コースの概要とスポーツ栄養の基本を理解する。								
関連科目	スポーツ栄養学								
テキスト	特になし								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		到達目標の達成度をレポートで評価する (千葉 40%、松本 60%)						
	レポート	100							
	小テスト								
	提出物								
	その他								
履修上の留意事項	具体的事例を示しながら学修を進めるため、スポーツ栄養全体のイメージ像を掴むこと。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、観点のよさ、補足的意見などを記載して学生に返却する。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験の立場から、運動・スポーツなど身体活動量が多い人に対して、これから学ぶ栄養学的理論・知識・スキルを基本としたスポーツ栄養学とは何かについて学びます。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習		
1 (千葉)	スポーツ栄養について	授業およびスポーツ栄養コースガイダンス。					事前にシラバスを読んでおく。 配付資料を確認し、内容を復習する (1 時間)。		
2 (千葉)	スポーツ栄養の基礎Ⅰ	スポーツ栄養の基本である栄養素摂取とパフォーマンスの関係について学ぶ					授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する (1 時間)。		
3 (千葉)	スポーツ栄養の基礎Ⅱ	スポーツ栄養の基本であるケガや病気に必要な栄養学的サポートを学ぶ。					授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する (1 時間)。		
4 (松本)	特別講師によるスポーツ栄養の実践Ⅰ	特別講師からスポーツ栄養の実践を学ぶ。					授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する (1 時間)。		
5 (松本)	特別講師によるスポーツ栄養の実践Ⅱ	特別講師からスポーツ栄養の実践を学ぶ。					授業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する (1 時間)。		
6 (松本)	スポーツ選手の栄養サポートの実践Ⅰ	栄養サポートの事例を通じてサポートの方法を学ぶ。					業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する (1 時間)。		
7 (松本)	スポーツ選手の栄養サポートの実践Ⅱ	栄養サポートの事例を通じてサポートの方法を学ぶ。					業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する (1 時間)。		
8 (松本)	スポーツ選手の栄養サポートの実践Ⅲ	栄養サポートの事例を通じてサポートの方法を学ぶ。					業前に前回の学習内容を確認する。配付資料の内容を復習する (1 時間)。		

授業科目	栄養教育論Ⅰ Nutrition EducationⅠ				担当教員	百々瀬 いづみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
			○	◎	○	○			
授業目的	栄養教育の概念、栄養教育の目的・目標について理解する。また、栄養教育のための論理的基礎としての行動科学と栄養教育について理解する。行動科学の理論とモデルについて学修し、行動変容技法についての概念や方法を理解する。さらに、栄養カウンセリング方法や技法を修得する。また、組織・環境づくり、食環境と栄養教育について学修する。								
到達目標	1. 栄養教育の意義や特性を理解し健康保持・増進のための栄養教育の重要性について説明できる。 2. 対象者に適した栄養教育を行うための行動科学の論理や技法の知識を身につけている。 3. 栄養教育と食環境づくりについて、関連法規等をふまえて説明できる。								
関連科目	1年次に学修した専門基礎科目が知識の基盤となるため、復習をしておくこと。 栄養教育論Ⅱ、Ⅲ、栄養教育論実習と関連する								
テキスト	池田小夜子、斎藤トシ子、川野因著「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」（第一出版） ※その他、適宜プリントを、配付する。								
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価する。 定期試験：70％ 小テスト：30％（各回で授業を振り返る小テストあり）						
	レポート								
	小テスト	30							
	提出物								
	その他								
履修上の留意事項	興味・関心を抱き、目標をもって自ら意欲的に学習すること。 各授業前・後に、予習（テキストを読む）、復習を行うこと。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、翌週返却し、授業時に、解答・解説を行います。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域での栄養教育の実践（方法、課題等）を講義に織り交ぜながら、栄養教育の概念や目的、必要な技法等を理解しやすいように授業を行います。								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス、 栄養教育の概念		「栄養教育論」ガイダンス 栄養教育の定義・目的・目標			テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
2	栄養教育の歴史・社会的 背景(1)		栄養教育の誕生と歴史的背景について			テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
3	栄養教育の歴史・社会的 背景(2)		栄養教育の誕生と歴史的背景、現代の課題について			テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
4	栄養教育の対象、 栄養教育の機会・場 (1)		栄養教育の対象とは何か、栄養教育の場とは何か。			テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
5	栄養教育の対象、 栄養教育の機会・場 (2)		栄養教育の場とは何か。			テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
6	栄養教育のための 論理的基礎 (1)		行動科学とは何か			テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
7	栄養教育のための 論理的基礎 (2)		行動科学の理論とモデル(1)			テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	栄養教育のための 論理的基礎 (3)	行動科学の理論とモデル(2)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
9	栄養教育のための 論理的基礎 (4)	行動科学の理論とモデル(3)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
10	栄養教育のための 論理的基礎 (5)	行動科学の理論とモデル(4)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
11	栄養教育のための 論理的基礎 (6)	行動科学の理論とモデル(5)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
12	栄養教育のための 論理的基礎 (7)	栄養カウンセリング(1)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
13	栄養教育のための 論理的基礎 (8)	栄養カウンセリング(2)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
14	栄養教育のための 論理的基礎 (9)	食環境づくりとの関連(1)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
15	栄養教育のための 論理的基礎 (10)・ 栄養教育論Ⅰのまとめ	食環境づくりとの関連(2) 栄養教育論Ⅰのまとめ	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。

授業科目	栄養教育論Ⅱ Nutrition Education Ⅱ				担当教員	百々瀬 いづみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎	○	○			
授業目的	・授業の前半では、栄養教育論Ⅰの基礎をふまえて、栄養教育マネジメントについて学修する。健康・食物摂取に影響する要因をアセスメントして優先課題を決定し、栄養教育の目標（学習目標、行動目標、環境目標、結果目標）を設定して栄養教育計画を作成する方法を学習する。栄養教育の評価の設定、適切な教育媒体を用いることやその効果等について、栄養教育マネジメントを行うための知識や技術を修得する。 ・授業の後半では、栄養教育対象者のライフステージに応じた栄養教育の方法のうち、主に高齢者に対する栄養教育について学修する。								
到達目標	1.個人や地域（教育対象者）の健康・栄養状態・食環境等をアセスメントし、課題抽出ができる。 2. 対象者に対応した栄養評価、適切な栄養教育法を選択し、栄養教育プログラムを計画・立案・実施する方法が分かる。 3. 栄養教育計画の評価について説明できる。 4. 高齢者への栄養教育の方法について説明できる。								
関連科目	栄養教育論Ⅰ、Ⅲ、栄養教育論実習、応用栄養学が関連科目である。								
テキスト	栄養教育論Ⅰと同じものを使用する。その他、資料を配付する。								
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。v c								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価する。 定期試験：70％ 小テスト：30％（各回で授業を振り返る小テストあり）						
	レポート								
	小テスト	30							
	提出物								
	その他								
履修上の留意事項	興味・関心を抱き、目標をもって自ら意欲的に学習すること。 各授業前・後に、予習（テキストを読む）、復習を行うこと。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、翌週返却し、授業時に、解答・解説を行います。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域での栄養教育の実際（方法、課題等）を講義に織り交ぜながら、栄養教育の概念や目的、必要な技法等を理解しやすいように授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス、 栄養教育の概念	「栄養教育論Ⅱ」ガイダンス 栄養教育論Ⅰの復習				テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
2	栄養教育マネジメント (1)	栄養教育マネジメントとは何か				テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
3・4	栄養教育のための アセスメント	栄養教育のためのアセスメントとは何か				テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
5	栄養教育のための 計画立案(1)	栄養教育計画立案と目標設定				テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
6・7	栄養教育のための 計画立案(2)	栄養教育の方法				テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			
8	栄養教育のための 計画立案(3)	栄養教育の実施				テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	栄養教育のための 計画立案(4)	栄養教育の評価	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
10	栄養教育マネジメント (2)	栄養教育マネジメントのまとめ	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
11	ライフステージに 応じた栄養教育(1)	ライフステージに応じた栄養教育とは 「高齢者」の特性に合わせた栄養教育(1)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
12	ライフステージに 応じた栄養教育(2)	「高齢者」の特性に合わせた栄養教育(2)	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
13	ライフステージに 応じた栄養教育(3)	「認知症高齢者」の栄養教育	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
14	ライフステージに 応じた栄養教育(4)	「高齢者」に対する栄養教育の実践例	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。
15	ライフステージに 応じた栄養教育(5)	高齢者に対する栄養教育のまとめ	テキストの関連ページを読むなど、授業の前・後に予習・復習を要する(各1時間程)。

授業科目	食育実践演習 Practical Seminar in Food Education				担当教員	百々瀬いづみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・通年				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○		○	◎		◎		○
授業目的	札幌伝統野菜並びに北海道を代表とする作物の栄養学的特徴、加工特性等を知り、それらを活かした食育を企画し、実際に地域住民を対象に食育を行い、食育の知識、技術を向上させる。							
到達目標	1. 札幌伝統野菜や北海道を代表とする作物の栄養学的特徴、加工特性等について説明できる。 2. 大学農場で収穫された作物の特徴を活かしたレシピの考案、提供が出来る。 3. 2を使った食育を企画し、実際に効果的な食育を展開できる。 4. プレゼンテーション技術、コミュニケーション技術が向上する。							
関連科目	食育農場演習、調理学、食品科学が関連科目である。							
テキスト	無し。適宜、資料を配付する。							
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を提出物・授業態度により総合的に評価する。 ・提出物(50%)：食育関連資料(企画書・レシピ・講話資料等) ・授業態度(50%)：演習への取り組み姿勢					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
	その他	50						
履修上の留意事項	履修人数によって食育の実践回数やグループ人数を検討します。							
課題に対するフィードバックの方法	授業の中で、適時、助言、指導等を行います。							
実務経験を活かした教育内容	地域で食育、栄養教育を行ってきた実務経験を活かして、地域住民にとって効果的な食育を実践できるようにサポートしていきます。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	演習ガイダンス、食育とは 食育Ⅰの準備(1)	授業のガイダンスを行う。食育の概要について説明する。 食育Ⅰの企画を行う。					事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておくこと。関連科目の復習をしておくこと(1時間程)	
2・3	食育Ⅰの準備(2)	食育Ⅰの準備(指導媒体作成、調理品の試作等)					事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1時間程)。	
4	食育Ⅰの準備(3)	食育Ⅰのリハーサルの実施					事前にリハーサルに必要な事柄をイメージし、事後には、個人で振り返りをしておくこと(1時間程)。	
5	食育Ⅰの準備(4)	リハーサルを踏まえ、改善等の準備を行う。					事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1時間程)。	
6・7	食育Ⅰの実践	食育Ⅰの実践					事前に食育実践に必要な事柄をイメージし、準備や心構えをしておくこと。事後には、個人で振り返りをしておくこと(1時間程)。	
8	食育Ⅰの振り返り 食育Ⅱの準備(1)	食育Ⅰの評価 食育Ⅱの企画を行う。					事前に食育の企画をイメージしておくこと(1時間程)。	
9・10	食育Ⅱの準備(2)	食育Ⅱの準備(指導媒体作成、調理品の試作等)					事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1時間程)。	
11	食育Ⅱの準備(3)	食育Ⅱのリハーサルの実施					事前にリハーサルに必要な事柄をイメージし、事後には、個人で振り返りをしておくこと(1時間程)。	
12	食育Ⅱの準備(4)	リハーサルを踏まえ、改善等の準備を行う。					事前に食育やその準備に必要な事柄をイメージしておくこと(1時間程)。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
13・14	食育Ⅱの実践	食育Ⅱの実践	事前に食育実践に必要な事柄をイメージし、準備や心構えをしておくこと。 事後には、個人で振り返りをしておくこと(1時間程)。
15	評価・振り返り	食育Ⅱの評価 食育実践演習の振り返りを行う。	事前に授業の振り返り(自己評価)をしておくこと(1時間程)

授業科目	臨床栄養学Ⅰ Clinical NutritionⅠ				担当教員	氏家 志乃			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○		○	○	◎				
授業目的	臨床栄養管理における管理栄養士の役割、傷病者の療養に対して必要な「栄養の指導」および「栄養ケア」など、臨床栄養学の基本について学修する。								
到達目標	1. 臨床における臨床栄養の意義と目的を理解し説明することができる。 2. 臨床における管理栄養士の役割を理解し説明することができる。 3. 医療保険制度・介護保険制度を理解し説明することができる。 4. 入院時食事療養制度を理解し説明することができる。 5. 臨床における栄養ケア・マネジメントの一連の流れについて理解し説明することができる。								
関連科目	形態機能学、病態診療学								
テキスト	Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅰ総論（中山書店）								
参考書	日本人の食事摂取基準 2020 年度版（第一出版）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	80	到達目標の達成度を試験、課題で評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	20							
	その他								
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題は翌週の授業で解説を行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者（病院管理栄養士）の立場から、臨床現場での事例などを提示しながら栄養管理の一連の流れや診療報酬や入院時食事療養について理解しやすいように授業を行います。								
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス	臨床栄養学とは/臨床栄養管理における管理栄養士の役割				事前）シラバスを確認する。 事後）教科書、配布資料の復習			
2	医療保険制度	診療報酬と入院時食事療養				事前）教科書の関連箇所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習			
3	介護保険制度	医療・福祉・介護制度と臨床栄養管理、介護保険制度				事前）教科書の関連箇所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習、課題に取り取り組む。			
4	病院における臨床栄養管理	栄養ケア・マネジメントとは。栄養ケア・マネジメントの流れ				事前）教科書の関連箇所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習			
5	栄養ケア・マネジメント（1）	栄養アセスメントースクリーニング				事前）教科書の関連箇所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り取り組む。			
6	栄養ケア・マネジメント（2）	栄養アセスメントー食事調査・身体計測・生化学検査①				事前）教科書の関連箇所を読む 事後）教科書、配布資料の復習			
7	栄養ケア・マネジメント（3）	栄養アセスメントー食事調査・身体計測・生化学検査②				事前）教科書の関連箇所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り取り組む。			
8	栄養ケア・マネジメント（4）	栄養ケア計画ー必要栄養量の算定				事前）教科書の関連箇所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り取り組む。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	栄養ケア・ マネジメント (5)	栄養ケア計画—栄養投与法：経口栄養（病院で提供される食事）	事前）入院時食事療養の復習、 教科書の関連箇所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
10	栄養ケア・ マネジメント (6)	栄養ケア計画—栄養投与法：経口栄養（食形態と摂食嚥下）	事前）入院時食事療養、前回授業を 復習する。 事後）教科書、配布資料の復習
11	栄養ケア・ マネジメント (7)	栄養ケア計画—栄養投与法：経腸栄養・静脈栄養	事前）教科書の関連箇所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
12	栄養ケア・ マネジメント (8)	栄養ケア計画—薬と栄養・食物の相互作用	事前）教科書の関連箇所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
13	栄養ケア・ マネジメント (9)	栄養ケア計画—臨床栄養教育・チーム医療	事前）診療報酬の復習、 教科書の関連箇所を読む。 事後）教科書、配布資料の復習
14	栄養ケア・ マネジメント (10)	診療録への記録法 POMR、経過記録 SOAP	事前）教科書の関連箇所を読む 事後）教科書、配布資料の復習 課題に取り組む。
15	まとめ	臨床栄養学Ⅰのまとめ	事前）これまでの授業内容を教科 書・配布資料で復習する。 事後）試験準備を行う。

授業科目	給食経営管理論Ⅰ Nutrition and Food Service ManagementⅠ				担当教員	山部 秀子、渡辺 いつみ			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	◎			○	○				
授業目的	特定給食施設における給食の意義・役割を理解し、給食施設の利用者の健康や栄養状態の維持・増進・改善、生活の向上を目標とした栄養・食事管理を効率的、効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについて学修する。								
到達目標	1. 給食における管理栄養士の役割について説明できる。 2. 給食を提供する施設と関連法規について説明できる。 3. 給食施設利用者の栄養食事管理サイクルについて説明できる。 4. 給食の品質、生産、安全・衛生、施設・設備、人事管理について説明できる。								
関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理論Ⅱ、給食経営管理論実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの他、専門基礎科目および専門科目と関連する。								
テキスト	三好恵子他編著「給食経営管理論」（第一出版）、Excelアドイン「栄養プラス」（建帛社） 必要に応じプリントを配布する。								
参考書	日本人の食事摂取基準（第一出版）又は厚生労働省 HP からダウンロード可能 高城孝助編「実践給食マネジメント論」（第一出版） 塚婦美子編著「改訂新版大量調理」（学建書院） 食品成分表（各自が現在所持している成分表で良い） 調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版部） その他 給食献立集などを参考とする								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点						
	試験	80	目標の達成状況を下記の点から評価し 60 点以上を合格とする ① 授業への姿勢（20 点） グループワークにおける事例への考察、取り組みについて成果報告から評価する。レポート、提出物の評価も含む。 ② 定期試験（80 点） 学習到達目標について定期試験を実施、到達度を評価する						
	レポート								
	小テスト								
	提出物								
	その他	20							
履修上の 留意事項	事前、事後には教科書や配布されたプリントを読んで予習復習をすること。 また 3 年次に開講される臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ）の先修条件科目の 1 つである。								
課題に対するフ ィードバックの 方法	授業内で実施するミニワーク課題の解説等を当日または次回授業の際に行う。 提出課題は、授業内で解説を行う。								
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、給食経営管理システムについて、事例、取り組んだ内容などをもとに具体例を取り入れ、理解しやすい授業を行う。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習		
1 (山部)	ガイダンス・給食の概 念	ガイダンス 給食経営管理の概念 特定給食施設の意義と役割 給食の種類と特徴 給食の関連法規					教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）		
2 (山部)	給食の運営とマネジメ ント	給食運営常務の流れ 給食の運営とマネジメント					教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）		
3 (山部)	栄養・食事管理（1）	栄養・食事管理・食事摂取基準 栄養・食事管理システム 食事環境の整備					教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）		
4 (山部)	栄養・食事管理（2）	栄養・食事計画の実際 栄養・食事管理の評価					教科書で事前学修（2 時間）・講義資料などで事後学習を行う（2 時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (渡辺)	献立管理	献立計画 献立作成の手順と評価 各種給食施設の献立の特徴と展開	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
6 (渡辺)	生産管理	給食における生産計画 調理工程計画の実際 大量調理の品質管理	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
7 (渡辺)	品質管理	給食における品質管理 作業指示による品質管理 品質管理の評価	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
8 (渡辺)	食材料管理	食材料管理の目的と概要 給食の食材料の分類・流通システム 購入管理・発注・検収・保管・在庫管理・食材料費の評価	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
9 (渡辺)	安全・衛生管理	安全・衛生管理の目的・関連法規 HACCP・大量調理施設衛生管理マニュアル 安全・衛生のリスク 事故発生時の対処	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
10 (山部) (渡辺)	施設・設備管理（1）	施設・設備管理の概要・意義・目的 調理室内の機器・器具・ゾーニング（レイアウト） 食器調理用具	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
11 (山部) (渡辺)	施設・設備管理（2）	施設・設備管理の概要・意義・目的 調理室内の機器・器具・ゾーニング（レイアウト） 食器調理用具	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
12 (山部) (渡辺)	施設・設備管理（3）	施設・設備管理の概要・意義・目的 調理室内の機器・器具・ゾーニング（レイアウト） 食器調理用具	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
13 (山部)	原価管理	原価管理の意義・目的 給食の原価管理と評価	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
14 (山部)	事務・情報管理	事務・情報管理の意義・目的 給食の基礎情報と帳票、IT 管理 給食運営業務と事務管理の連携	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）
15 (山部) (渡辺)	給食経営管理のまとめ	総合的な給食運営について	教科書で事前学修（2時間）・講義資料などで事後学習を行う（2時間）

授業科目	給食経営管理論Ⅱ Nutrition and Food Service Management Ⅱ				担当教員	山部 秀子、渡辺 いつみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎	○				
授業目的	給食におけるマーケティング理論の活用、給食組織の運営管理について学修する。さらに経営管理の理論を基本として、給食施設における利用者のアセスメント情報にもとづいた栄養・食事管理の目標を立て、食事摂取基準を活用した給食施設の給与栄養目標量の決定、献立への展開を学修する。								
到達目標	1. 各給食施設の特徴を理解し、給食計画に必要な情報、分析について説明することができる。 2. 給食を運営するための組織や経営資源を総合的に判断し、人材育成を含めた給食管理のトータルマネジメントについて説明できる。 3. 対象者に合わせた食事計画を作成できる。								
関連科目	給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの他、専門基礎科目および専門科目が関連する								
テキスト	三好恵子他編著「給食経営管理論」（第一出版） ※必要に応じて資料配布								
参考書	日本人の食事摂取基準（第一出版）又は厚生労働省 HP からダウンロード可能 高城孝助編「実践給食マネジメント論」（第一出版） 塚婦美子編著「改訂新版大量調理」（学建書院） 食品成分表（各自が現在所持している成分表で良い） その他 給食献立集などを参考とする								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	60	目標の達成状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする ① 試験 60点 学修内容について試験を行い、学修到達度を評価する ② 提出物 30点 課題の作成(期日の厳守、内容について提示された事柄にそって適切に作成されているか) ③その他 10点 授業・課題への取り組み姿勢						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	30							
その他	10								
履修上の留意事項	授業や課題には積極的に取り組み、不明な点は曖昧にせず調べる。食事計画等は課題作成によって理解度を測る。課題作成のためには授業時間以外に多くの時間が必要となる。課題提出期日を厳守すること。またインターネット等の情報は安易に使用しない。 下記の授業内容は、小グループ単位で行うため変則的となる。詳細はガイダンスで説明する。 また、3年次に開講される臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ）の先修条件科目の一つである。								
課題に対するフィードバックの方法	提出課題については、コメントを付して返却すると共に、翌週以降の授業において解説を行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、給食施設での栄養・食事管理の実務例、また献立作成等で配慮すべき事柄などについて具体例や実践例をあげて理解しやすい授業を行う。								
回数(担当)	学習の主題		授業内容				事前・事後学習		
1 (山部) (渡辺)	ガイダンス		授業の目的、概要、給食経営管理の意義、役割について				給食経営管理論Ⅰの内容を事前学修、事後は学習した内容を整理・確認する。		
2 (山部)	給食施設の栄養・食事管理(1)		大学実習食堂で提供される献立の事前評価、改善を行い、望ましい献立作成のあり方を検討する。				教科書を読み事前学修（2時間）、事後は学修した内容整理・確認する（2時間）		
3 (山部)	給食施設の栄養・食事管理(2)		管理栄養士の倫理綱領について 各種給食施設における利用者の特徴、給食の目的、根拠法令、栄養士の配置規程等を把握する				教科書を読み事前学修（2時間）、事後は学修した内容整理・確認する（2時間）		
4 (山部)	給食施設の栄養・食事管理(3)		高齢者施設における栄養・食事管理(2) 高齢者施設にあった献立や期間献立から作業指示書、発注書を作成する				教科書を読み事前学修（2時間）、事後は学修した内容整理・確認する（2時間）		
5 (山部)	顧客管理、人事・労務管理		顧客管理の意義、目的、給食における顧客サービス、人事・労務管理の目的・範囲・人材育成				教科書を読み事前学修（2時間）、事後は学修した内容整理・確認する（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (山部)	給食施設の危機管理	危機管理・情報管理 インシデント・アクシデントレポート、災害時のための貯蔵と献立 災害時における他組織との連携、日本栄養士会との関わり	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
7 (山部)	顧客管理、人事・労務管理（2）	コミュニケーション能力の高め方を学ぶ	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
8 (山部) (渡辺)	経営管理、経営理念と組織	経営管理の意義・目的、経営管理の機能と展開、経営組織、経営資源・戦略	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
9 (渡辺)	経営管理、経営理念と組織	経営管理の意義・目的、経営管理の機能と展開、経営組織、経営資源・戦略	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
10 (山部) (渡辺)	給食運営の委託	委託の目的、形態と方法、委託に関する法規、給食の外部委託の現状	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
11 (山部) (渡辺)	大量調理技法（1）	大量調理における品質管理・栄養教育・衛生管理の計画・検討・分析・評価	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
12 (山部) (渡辺)	大量調理技法（2）	大量調理における献立管理・品質管理・作業管理の計画・検討・分析・評価	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
13 (山部) (渡辺)	大量調理技法（3）	大量調理業務における、食材料管理・生産管理・衛生管理・安全管理の計画・検討①	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
14 (山部) (渡辺)	大量調理技法（4）	大量調理業務における、食材料管理・生産管理・衛生管理・安全管理の計画・検討②	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）
15 (山部) (渡辺)	給食経営管理のまとめ	総合的な給食経営管理について	教科書を読み事前学修（2 時間）、 事後は学修した内容整理・確認する（2 時間）

授業科目	給食経営管理論実習Ⅰ Nutrition and Food Service Management PracticumⅠ				担当教員	山部 秀子、渡辺 いつみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	
授業目的	給食経営管理論Ⅰ・給食経営管理論Ⅱで学修した知識を基礎として、実際に対象者を想定した献立作成、生産管理、品質管理、衛生管理計画等を立案し、食材購入から大量調理、提供、評価等の給食経営管理システムを実習する。実習を通して食材管理、食材購入計画、献立と食数に応じた食材料の発注・購入・検収・保管などを修得する。実習によって給食の計画・生産・提供・評価のサイクルを一巡し、給食経営管理システムを運用して、特定多数の人々に給食を提供するための実践的な知識、能力を身につける。							
到達目標	1. 特定多数を対象とした食事計画に基づき、食材の調達、大量調理、食事・食情報提供、食事摂取状況把握、評価など、一連の給食の運営と管理の流れを説明できる。 2. 給食経営管理論実習Ⅱ臨地実習に備え、給食を運営するために必要な知識・技術について説明できる。							
関連科目	調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、給食経営管理論Ⅰ、給食経営管理論Ⅱの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する							
テキスト	実習ノート及び資料等を配布する。							
参考書	大量調理衛生マニュアル（厚生労働省） 調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル（文部科学省） 食品成分表（各自が現在所持している成分表で良い） 調理のためのベーシックデータ（女子栄養大学出版部）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	—	目標の到達状況を下記の点から評価し 60 点以上を合格とする。					
	レポート		①安全衛生試験 10 点 衛生管理の知識の修得度評価					
	小テスト		②その他 90 点(配点割合は以下の通り)					
	提出物	10	・グループワークにおける帳票類の作成と提出および各自の役割担当への積極的参加と成果への評価 30 点					
	その他	90	・実習記録の評価 10 点 ・献立作成の評価 10 点 ・実習作業中の取り組み評価 30 点 ・自己評価 10 点 実習における自己評価					
履修上の留意事項	体調管理（各自が厳しく自己管理）を行い実習に備えること。特に作業中のリスク管理、安全管理を徹底し、周囲の動きに気を配り器具・機械の取り扱いを行うこと。調理従事者としての衛生管理をしっかりと行うこと（大量調理施設衛生管理マニュアル等をしっかりと読み込んでおく）。 ＊グループに分けて、ローテーションしながら授業を進めるので、順番については、変更する場合がある。							
課題に対するフィードバックの方法	実習毎に反省会を実施し、フィードバックを行う。また、中間報告会等において全体的な取り組みに対してフィードバックを行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、衛生管理を基本とした栄養食事管理、栄養教育等を含む総合的な給食の運営について、実践的に実習を構築して、学内ではあるが実践力を養えるような授業を行う。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (山部) (渡辺)	ガイダンス	給食経営管理論実習について 学内調理施設、設備、調理器具、食器などについて 実習書に基づき、実際の内容について学修する					教科書で事前学修、講義資料などで事後学習を行う。	
2 (山部) (渡辺)	実習準備 実習食試作	給食経営管理実習食の試作					打ち合わせ等で事前学修、実習後評価整理等を行う。	
3 (山部) (渡辺)	実習準備（１）	試作の評価、予定献立決定、各実習における作業分担について 献立価格管理、帳票、発注書作成、食事調査票作成					各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
4 (山部) (渡辺)	実習準備 (2)	栄養教育媒体、リーフレット、ポスター等作成 大量調理実習における要点、留意点、実習手順の確認	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
5 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ (1) 給食運営の演習 (1)	実習食作成のための事前ミーティング (栄養管理班) ・グループで作成した献立について献立の説明する ・調理員へ作業内容の解説をする	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
6 (山部) (渡辺)	給食提供 (1)	学内の大量調理施設において実習 (栄養管理班)	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
7 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ (2) 大量調理技法の演習 (1)	実習食作成のための事前ミーティング (調理班) ・他のグループで作成した献立について内容の把握 ・作業内容の確認	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
8 (山部) (渡辺)	給食提供 (2) 大量調理技法の実践	学内の大量調理施設において大量調理技法の実習 (調理班)	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
9 (山部) (渡辺)	報告会 (1)	給食経営管理論実習の成果報告会 給食の評価、課題発見、解決方法等報告を行う	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
10 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ (3) 給食運営の演習 (2)	実習食作成のための事前ミーティング (衛生管理班)	発表準備、発表後は自己評価、実習ノートの整理等を行う。
11 (山部) (渡辺)	給食提供 (3)	学内の大量調理施設において実習 (衛生管理班)	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
12 (山部) (渡辺)	実習前打ち合わせ (4) 大量調理技法の演習 (2)	実習食作成のための事前ミーティング (調理班) ・他のグループで作成した献立について内容の把握 ・作業内容の確認	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
13 (山部) (渡辺)	給食提供 (4) 大量調理技法の実践 (2)	学内の大量調理施設において大量調理技法の実習 (調理班)	各担当者との事前打ち合せ、実習後はノートの整理等で事後学習を行う。
14 (山部) (渡辺)	報告会 (2)	給食経営管理論実習の成果報告会 給食の評価、課題発見、解決方法等報告を行う	発表準備、発表後は自己評価、実習ノートの整理等を行う。
15 (山部) (渡辺)	まとめ	給食経営管理論実習の総合評価	学んだことを振り返り、まとめる

授業科目	地域連携ケア論Ⅱ Theory of Community-based CareⅡ				担当教員	槌本 浩司、氏家 志乃、澤田 優美、小川 克子			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・2年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○	○		○	◎		
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、2年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰで学んだ内容をもとに、住み慣れた地域で人々が自分らしく生活し続けるためには、どのような社会資源が整うと良いのか考え、地域で生活する人々の生活および健康上の課題を解決するために、地域にはどのような社会資源があるのか、どのような支援やサービス、システムがあるのかを理解する。その中で、人々の生活を支える専門職の専門性と役割について理解を深める。								
到達目標	・「地域で生活すること」とそれに影響する要因、地域住民の抱える生活・健康上の課題について、地域連携ケア論Ⅰでの学びを振り返る。 ・地域に存在する社会資源、サービス、システムについて理解する。 ・地域で活動する保健医療福祉分野の専門職の役割、専門性、業務内容を理解する。 ・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・地域でその人らしく生活するためにどのような社会資源が必要なのか考察する。								
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連します。								
テキスト	なし								
参考書	開講時に提示します。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40％）を予定しています。 また、目標の達成状況をレポート（60％）に記載しましょう。 詳細は授業の中でも説明します。						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物	40							
	その他								
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰと一体の科目として学習しましょう。								
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行いましょう。 また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却します。								
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義を展開します。								
回数 （担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 （小川）	授業ガイダンス	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅰ」の振り返り。健康とは、地域で暮らす生活者の生活と健康との関連、地域の健康課題とはなにか、地域に存在する社会資源とサービスについて				授業前にシラバスを読む（1時間）。 授業後には、配付資料を確認し、内容を復習する（2時間）。			
2 （小川）	地域包括ケアシステムとは	「地域包括ケアシステム」について理解する				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
3 （槌本）	保健医療福祉における専門職の役割	保健医療福祉における各種の専門職とその役割について理解する				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
4 （小川）	地域における生活者を支える専門職からの講話Ⅰ	専門職者からの見た地域と生活者と健康課題についてⅠ （ゲストスピーカー 訪問看護師）				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
5 （小川）	地域における生活者を支える専門職からの講話Ⅱ	地域包括支援センターの機能と役割について （東区第2層 生活支援コーディネーター 高橋 悦子氏）				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			
6 （澤田）	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてⅠ	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その1）				授業前に前回の学習内容を復習する（1時間）。授業後には、内容を復習する（2時間）。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (氏家)	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてⅡ	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その2）	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
8 (槌本)	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてⅢ	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その3）	授業前に前回の学習内容を復習する（1 時間）。授業後には、内容を復習する（2 時間）。

授業科目	保健医療福祉行政論 Health & Welfare Administration				担当教員	千葉 昌樹		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○		○	◎	
授業目的	住民の健康と福祉の向上を目的とする保健医療福祉行政サービスの基本的要素である保健医療福祉行政財政の理念 および仕組みについて学修する。また、保健医療福祉の社会的適用は、政治や行政による政策が中心であることを理 解するとともに、その基盤である行政の仕組みや法規を理解する。さらに、人間の健康と生命を保持・増進する社会 システムとしての医療の提供体制の現状について理解する。							
到達目標	1. 保健医療福祉行政の理念と仕組みについて説明できる。 2. 保健医療福祉制度の変遷等について説明できる。 3. 保健医療福祉行政に係る法体系や仕組みの概要について説明できる。							
関連科目	医療概論、公衆衛生学							
テキスト	特に指定しない							
参考書	国民衛生の動向 2022／2023（一般財団法人 厚生労働統計協会）、藤内修二他編「保健医療福祉行政論」（医学書院）							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験		到達目標の達成度を定期試験、提出物等の内容で総合的に評価する。 レポート：現在、保健・医療・福祉行政で起きている課題など その他：授業への取り組み姿勢					
	レポート	90						
	小テスト							
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	既習の関連科目を復習して臨むこと。							
課題に対するフィ ードバックの方法	レポートに関して、補足的意見などを記載して学生に返却する。							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健・医療・福祉行政の理念や仕組み現状と課題について、理解しやすいように授業を行います。							
回数 （担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	保健医療福祉行政について	わが国の社会保障の動向と衛生行政の体系				身近な保健医療福祉行政について考える（1.5 時間）		
2	保健医療福祉に関する指標	衛生の主要指標				配布プリントを読んでおくこと（1 時間）。		
3	保健・医療・福祉の動向（1）	保健・医療の基盤形成と政策と施策				配布プリントを読んでおくこと（1 時間）。		
4	保健・医療・福祉の動向（2）	社会福祉の基盤形成と政策・施策				配布プリントを読んでおくこと（1 時間）。		
5	医療保険・介護保険	医療提供体制、介護保険制度について				配布プリントを読んでおくこと（1 時間）。		
6	公衆衛生行政施策と推進	計画の策定・推進・評価について				配布プリントを読んでおくこと（1 時間）。		
7	地域保健行政と活動	保健・医療・福祉行政の役割と機能について				現在自分が生活している地域のについて考える（1 時間）。		
8	労働衛生・健康危機管理	行政組織、法制、対策、労働環境の改善・医療事故等の危機管理				配布プリントを読んでおくこと（1 時間）。		

授業科目	病態診療学Ⅱ Fundamentals of Clinical Medicine Ⅱ				担当教員	千葉 仁志		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				
授業目的	病態診療学Ⅰをふまえて、さらに、肝臓・胆嚢・膵疾患、腎・尿路系疾患、呼吸器疾患、運動器・骨格器系疾患、血液・造血器系疾患、神経・精神系疾患、皮膚疾患、産婦人科系疾患、眼科・耳鼻咽喉科系疾患、小児科疾患、感染症疾患、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、加齢と疾患による変化、などについて、病態・検査・診断・治療の概要を学修する。							
到達目標	臨床の現場において管理栄養士として他のメディカルスタッフと連携して、食事の提供や栄養指導を行うための基礎的知識を身につけている。							
関連科目	病態診療学Ⅱは臨床系教育の中核をなしており、2年次後期に履修する病態診療学Ⅰの続編を構成する。本科目の基礎となる科目は、1年次前期の形態機能学Ⅰ、1年次後期の形態機能学Ⅱ・生化学Ⅰ・基礎栄養学、2年次前期の生化学Ⅱ、2年次後期の病態診療学Ⅰである。本科目が基礎の重要部分を構成する科目として、2年次後期～4年次前期の臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ、4年次前期の総合演習Ⅱ、4年次通期の管理栄養士総合演習がある。							
テキスト	田中 明編、栄養科学イラストレイテッド「臨床医学 疾病の成り立ち 第3版」、羊土社。 毎回の授業で配布するレジュメは、教科書を簡明に要約し、必要な追加を行っているので、学習の中心に置くべきものである。定期試験対策は、レジュメを中心に行うと効率的である。							
参考書	詳細な参考書として、「看護のための臨床病態学・第4版」（浅野 嘉延、吉山 直樹、南山堂）。 国家試験に向けての学習の補助となるものとして、「レビューブック管理栄養士」（メディックメディア）がある。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	70％	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題・正解を、レジュメ・教科書を参考にしながら疑問点がなくなるまで学習し、定期試験に臨むこと。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60％以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が60％以上の場合に合格とする。					
	レポート							
	小テスト	30％						
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	教員がパワーポイントで作成した講義資料（レジュメ）に基づいて講義を行う。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を記憶する姿勢が求められる。小テストでは FORMS を使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。							
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストは FORMS を利用するので、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違えた箇所をレジュメと教科書・参考書で確認し、理解と正しい情報の確実な記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、図解なども活用して学生が正しく理解することを助けます。							
回数（担当）	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	ガイダンス・疾患別の病態と治療の概要（1）		病態診療学Ⅱについてのガイダンス、肝臓・胆嚢・膵疾患			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。（2時間）		
2	疾患別の病態と治療の概要（2）		腎・尿路系			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。（2時間）		
3	疾患別の病態と治療の概要（3）		呼吸器系疾患			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。（2時間）		
4	疾患別の病態と治療の概要（4）		運動器・骨格器系疾患			授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	疾患別の病態と治療の概要（5）	血液・造血管系疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
6	疾患別の病態と治療の概要（6）	神経・精神系疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
7	疾患別の病態と治療の概要（7）	眼科・耳鼻咽喉科系疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
8	疾患別の病態と治療の概要（8）	産婦人科系疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
9	疾患別の病態と治療の概要（9）	感染症	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
10	疾患別の病態と治療の概要（10）	小児科疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
11	疾患別の病態と治療の概要（11）	先天性代謝異常	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
12	疾患別の病態と治療の概要（12）	皮膚疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
13	疾患別の病態と治療の概要（13）	自己免疫疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
14	疾患別の病態と治療の概要（14）	アレルギー性疾患	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)
15	疾患別の病態と治療の概要（15）	加齢と疾患による変化、定期試験について	授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2 時間)

授業科目	食品科学実験Ⅱ Food Science LaboratoryⅡ				担当教員	荒川 義人		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実験				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	◎			○	○
授業目的	植物性食品や動物性食品に含まれる特徴的な成分を分離、精製する。多様な食品を実験試料として扱い、食品個々の特性を理解するとともに、食品の生産・加工・流通と栄養について、生産条件、食品加工の意義、食品の流通・貯蔵や加工にともなう食品の成分の変化（栄養価、嗜好性、安全性）との関わりについて理解する。							
到達目標	1. 食品成分の定性・定量、同定に関わる手法を身に付けている。 2. 食品個々の成分特性について理解している。 3.貯蔵や調理・加工にともなう成分変化と、栄養価、嗜好性、安全性の関係について理解している。							
関連科目	食品科学Ⅰ、食品科学Ⅱ							
テキスト	テーマごとにプリントを配布する。							
参考書	津久井亜紀夫 編著 荒川義人他著「食べ物と健康Ⅳ 食品学実験・実習」（樹村房）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況をレポート（60％）、その他（40％）で評価する。 その他：授業時の実験操作を進める姿勢					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物							
	その他	40						
履修上の留意事項	レポートは、実験テーマごとに内容（結果・考察）をまとめたものを、指定期日までに提出する。 レポート作成時、とくに食品科学Ⅰ、Ⅱのテキストで実験内容に該当する箇所の復習を含め2時間程度を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題レポートは、添削のうえ、直接、学生に返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数（担当）	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	植物性食品の特性（1）		小麦粉のでんぷん、グルテンの分離			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		
2	植物性食品の特性（2）		小麦粉のでんぷん、グルテンの定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		
3	植物性食品の特性（3）		野菜のクロロフィルの定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		
4	植物性食品の特性（4）		野菜のクロロフィル、カロテノイドの分離と定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		
5	植物性食品の特性（5）		果実の糖分と有機酸の定量（糖酸比の算出）			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		
6	植物性食品の特性（6）		海藻のグルタミン酸の抽出			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		
7	植物性食品の特性（7）		海藻のグルタミン酸の定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		
8	動物性食品の特性（1）		牛乳のカゼイン、乳糖の分離			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	動物性食品の特性 (2)	牛乳のカゼイン、乳糖の定性	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
10	食品の鮮度 (1)	野菜のビタミンCの減少～アスコルビナーゼの影響	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
11	食品の鮮度 (2)	牛乳の鮮度判定試験	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
12	食品の鮮度 (3)	鶏卵の鮮度判定試験	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
13	食品の着色 (1)	アミノ・カルボニル反応	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
14	食品の着色 (2)	酵素的褐変反応	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
15	官能検査	味覚、嗅覚による食品の評価方法	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。

授業科目	応用栄養学Ⅲ Applied Nutrition III				担当教員	岩部 万衣子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎	○			
授業目的	応用栄養学Ⅰ・応用栄養学Ⅱを基礎として、ライフステージにおいては成人期、高齢期の栄養管理について学修する。成人期の生理的变化と生活習慣の変化や更年期の生理的变化をふまえた成人期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解する。さらに、高齢期の生理的特徴である摂食機能や身体活動レベルの低下等をふまえ、低栄養の予防と対応、脱水、認知症、フレイル等の高齢期の栄養アセスメント、栄養ケアについて学修する。また、運動やスポーツ、ストレスや特殊な環境における身体状況について理解し、対応する栄養ケアについて学修する。休養と睡眠科学についても学修する。								
到達目標	1. 各ライフステージの身体特性、栄養状況を理解し、それぞれの栄養ケアについて説明できる。 2. 運動、ストレス、特殊環境下での身体への影響を理解し、栄養ケアを考えることができる。 3. 休養・睡眠科学に基づいた行動療法を考えることができる。								
関連科目	1年次の形態機能学、生化学、食品科学、調理学、基礎栄養学を基盤とした科目である。 応用栄養学Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学実習と関連する。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学の基盤となる科目である。								
テキスト	伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020年版〉」（第一出版） 栢下 淳、上西 一弘 編「栄養化学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第2版」（羊土社）								
参考書	佐々木 敏 著「食事摂取基準入門 - そのところを読む」（同文書院）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 授業内容に応じたレポート(20%)、小テスト(30%)、定期試験(50%)の結果を総合して目標の到達状況を評価する。						
	試験	50							
	レポート	20							
	小テスト	30							
	提出物								
	その他								
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点し、解答・解説を行う。 提出物は添削し返却する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	成人期の栄養（1）	成人期の特性、栄養上の特徴、生活習慣病				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
2	成人期の栄養（2）	生活習慣病と栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
3	壮年期の栄養	壮年期の特性、栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
4	更年期の栄養	更年期の特性、更年期障害、更年期の栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
5	高齢期の栄養（1）	高齢期の特性、栄養の特徴				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
6	高齢期の栄養（2）	高齢期の栄養障害と栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
7	ライフステージ別食事摂取基準	各ライフステージの食事摂取基準				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
8	運動と栄養（1）	運動時のエネルギー補給				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
9	運動と栄養（2）	健康増進と運動				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	スポーツと栄養	スポーツ種目と栄養	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
11	ストレスと栄養 (1)	ストレスの基本的知識、ストレスと栄養	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
12	ストレスと栄養 (2)	ストレスの実態と対処法	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
13	特殊環境と栄養	特殊環境下における栄養	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
14	休養と睡眠	休養、睡眠科学と行動療法	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
15	危機管理時の栄養 まとめ	災害時を中心とした栄養・食生活 全体のまとめ	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。

授業科目	応用栄養学実習 Applied Nutrition Practicum				担当教員	岩部 万衣子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎	○			
授業目的	応用栄養学Ⅰ・応用栄養学Ⅱ・応用栄養学Ⅲを基礎として、各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアについて実習する。提示された個人（ 集団 ）に対して、栄養アセスメント、栄養ケア計画作成、評価のデザイン、評価結果のフィードバックなどを実習する。作成した栄養ケア計画についてはプレゼンテーションを行い、目標の設定やモニタリング方法等の説明、質疑応答等を通して、プログラムの評価や改善点などを確認し、栄養ケア・マネジメントについて実習する。								
到達目標	1. 各ライフステージの特徴をふまえ、アセスメント、栄養ケア計画の作成、評価のデザイン、評価結果のフィードバックなど栄養ケア・マネジメントができる。 2. 食事摂取基準を活用できる。								
関連科目	応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とした科目である。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学と関連する科目である。								
テキスト	原田まつこ、色川木綿子、大野智子 編「応用栄養学実習 第4版」（講談社）								
参考書	1.「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大学出版部） 2.「日本食品成分表 八訂」（医歯薬出版）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		授業内容に応じたレポート(40%)、提出物（60%）の結果を総合して目標の到達状況を評価する。						
	レポート	40							
	小テスト								
	提出物	60							
	その他								
履修上の留意事項	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを復習すること。 小グループ学習を行うので、各自積極的に取り組むこと。								
課題に対するフィードバックの方法	レポート、提出物は添削し返却する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数(担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス 栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(1)		ガイダンス 思春期・成人期の栄養ケア計画、献立作成			教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
2	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(2)		思春期・成人期の栄養ケア計画、献立作成			教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
3	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(3)		思春期・成人期の栄養ケア計画、献立作成			教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
4	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養 (4)		思春期・成人期の食事、調理実習、試食、評価			教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
5	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養 (5)		思春期・成人期の食事、調理実習、試食、評価			教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
6	乳児期・離乳期・幼児期の栄養 (1)		乳児期、幼児期の栄養ケア計画、献立作成			教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	乳児期・離乳期・幼児期の栄養（2）	乳児期、幼児期の食事、調理実習、試食、評価	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
8	妊娠・授乳期の栄養（1）	妊娠・授乳期の栄養ケア計画、献立作成	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
9	妊娠・授乳期の栄養（2）	妊娠・授乳期の食事、調理実習、試食、評価	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
10	成壮年期の栄養（1） ケースメソッド	成壮年期の食事、栄養ケア計画、献立作成	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
11	成壮年期の栄養（2） ケースメソッド	成壮年期の食事、栄養ケア計画、献立作成	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
12	高齢期の栄養（1） ケースメソッド	高齢期の食事、栄養ケア計画、献立作成、介護食品	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
13	高齢期の栄養（2） ケースメソッド	高齢期の食事、栄養ケア計画、献立作成、介護食品	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
14	ライフステージと栄養管理	総評：各ライフステージの栄養ケア計画にもとづいた食事について	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
15	災害時の食生活と栄養	災害時の食事、防災食、評価	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。

授業科目	免疫と栄養 Immunity and Nutrition				担当教員	板垣 康治			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎					
授業目的	免疫学の基礎的概念を理解すると共に、感染の基本、免疫防御反応、アレルギー反応のしくみを学び、さらに食物アレルギーについて、発症の機序、わが国における実態、及び食品学、栄養学的側面から原因食品の特徴をとらえ、食物アレルギーへの対応方法などについて学修する。								
到達目標	1. 免疫系の基礎的概念と細菌感染、ウイルス感染について説明できる。 2. 免疫疾患について説明できる。 2. 食物アレルギーの定義、発症機序、実態、病態及び治療法について説明できる。								
関連科目	1年前期に履修した食品科学Ⅰ、1年後期に履修した食品科学Ⅱ、2年後期に履修した食品科学Ⅲ、及び4年前期に履修する食品機能論と関連する。								
テキスト	「休み時間の免疫学」齋藤紀先 著（講談社）「食物アレルギーのすべてがわかる本」海老澤元宏監修（講談社）								
参考書	「食物アレルギーの栄養指導」海老澤元宏監修（医歯薬出版）								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点						
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。 最終試験は、第7回目の授業において行う。						
	レポート								
	最終試験	20							
	提出物								
	その他	20							
履修上の 留意事項	各授業の前後に各2時間の予習・復習を必要とする								
課題に対するフィ ードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。								
実務経験を 活かした教育内容	実務経験（横浜市立大学大学院環境免疫皮膚科学講座客員教授）を踏まえて、免疫・アレルギー疾患事例などを講義に織り交ぜながら、免疫学の基礎、および食物アレルギーについて理解が深まるように授業を行う。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス/細菌感染	細菌感染に対する防御反応、細菌感染における抗体産生				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
2	ウイルス感染	ウイルスに対する防御反応				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
3	適応免疫に関わる物質・細胞	抗体・抗原、リンパ球（B細胞、T細胞）				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
4	補体と免疫細胞 免疫による感染防御	補体の働き、免疫細胞（白血球、好中球、単球・マクロファージ、樹状細胞、NK細胞とNKT細胞）、炎症、ワクチン				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
5	過剰・異常な免疫による疾患のメカニズム	Ⅰ型アレルギー、Ⅱ型アレルギー、Ⅲ型アレルギー、Ⅳ型アレルギー、免疫不全、がん免疫、ストレスと免疫				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
6	食物アレルギー	食物アレルギーの基礎、疫学、診断と治療				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキスト等で復習する（2時間）。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	免疫と栄養の総括 (1)	免疫学、食物アレルギーの総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する (2 時間)。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する (2 時間)。
8	免疫と栄養の総括 (2)	最終試験の解説とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する (2 時間)。事後：配布資料で復習する (2 時間)。

授業科目	スポーツ栄養学（基礎） Sports Nutrition(Basic)				担当教員	東郷 将成			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎				
授業目的	スポーツ選手・実施者に必要な食事・栄養素の役割と重要性について学ぶ。								
到達目標	スポーツ選手・実施者に必要な食事量や栄養素の種類や量、役割について理解する。								
関連科目	既習の「基礎栄養学」「応用栄養学」「形態機能学」の学修を基礎都市、「スポーツ栄養学総論」「スポーツ栄養学（応用）」「スポーツ栄養学演習」に関連する。								
テキスト	エッセンシャルスポーツ栄養学（日本スポーツ栄養学会、市村出版、2020）								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	60	到達目標の達成度を試験、各授業でのレポート内容で評価する。						
	レポート	40							
	小テスト								
	提出物								
	その他								
履修上の留意事項	1、2年次で履修した「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「形態機能学」の復習をしておくこと。								
課題に対するフィードバックの方法	スポーツ栄養分野における栄養サポートの基礎とし、授業内において指導およびフィードバックを行う。								
実務経験を活かした教育内容									
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	スポーツにおけるエネルギー供給系およびエネルギー代謝	運動に必要なエネルギー供給とその代謝について学ぶ。				事前にシラバスを読んでおく。テキストを確認し、内容を復習する。			
2	スポーツにおける糖質	運動時に必要な糖質の栄養・摂取方法等について学ぶ。				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
3	スポーツにおけるたんぱく質	運動時に必要なたんぱく質の栄養・摂取方法等について学ぶ。				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
4	スポーツにおける脂質	運動時に必要な脂質の栄養・摂取方法等について学ぶ。				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
5	スポーツにおけるビタミン	運動時に必要なビタミンの栄養・摂取方法等について学ぶ。				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
6	スポーツにおけるミネラル	運動時に必要なミネラルの栄養・摂取方法等について学ぶ。				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
7	スポーツにおける水分補給	運動時に必要な水分の摂取方法等について学ぶ。				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
8	スポーツにおける補食・サプリメント	運動時に必要な補食やサプリメントの摂取方法等について学ぶ。				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			

授業科目	スポーツ栄養学（応用） Sports Nutrition (Applied)				担当教員	松本 恵		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎			
授業目的	最新スポーツ栄養学を用いてコンディショニング方法を学ぶ。							
到達目標	スポーツ選手を対象として、コンディション維持・調整と課題に対する対応が分かるようになる。 スポーツ選手の栄養サポートに活用、実践できる知識を身に付ける。							
関連科目	「スポーツ栄養学総論」「スポーツ栄養学（基礎）」の学修を基礎とし、「スポーツ栄養学演習」に関連する。							
テキスト	開講時に提示します。							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験		到達目標の達成度を提出物（資料媒体の作成）やレポート内容で評価する。					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	60						
	その他							
履修上の 留意事項	各授業の前後に 1～2 時間の予習、1～2 時間の復習を要する。							
課題に対するフィ ードバックの方法	授業内で返却し、達成度について確認する。							
実務経験を 活かした教育内容	日本代表チームやオリンピック選手の栄養サポート実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	スポーツ選手の栄養アセ スメント	栄養アセスメントの考え方、方法について					事前にシラバスを読んでおく。テ キストを確認し、内容を復習する。	
2	エネルギー不足	スポーツにおける相対的エネルギー不足の栄養管理について					授業前に前回の学習内容を確認す る。テキストを確認し、内容を復 習する。	
3	スポーツ選手のウエイ トコントロールⅠ	体重増量時の栄養管理について					授業前に前回の学習内容を確認す る。テキストを確認し、内容を復 習する。	
4	スポーツ選手のウエイ トコントロールⅡ	体重減量時の栄養管理について					授業前に前回の学習内容を確認す る。テキストを確認し、内容を復 習する。	
5	スポーツ貧血予防と改善	スポーツ貧血の予防と改善のための栄養理論と栄養管理につ いて					授業前に前回の学習内容を確認す る。テキストを確認し、内容を復 習する。	
6	疲労骨折・けがからの 回復	スポーツ選手の疲労骨折予防やけがからの回復時の栄養管理に ついて					授業前に前回の学習内容を確認す る。テキストを確認し、内容を復 習する。	
7	ジュニアスポーツ選手の 栄養管理	成長期のジュニアスポーツ選手の食事・栄養管理の考え方					授業前に前回の学習内容を確認す る。テキストを確認し、内容を復 習する。	
8	特殊環境での栄養管理	高所トレーニングや寒冷地、暑熱環境でのスポーツ時の栄養 管理について					授業前に前回の学習内容を確認す る。テキストを確認し、内容を復 習する。	

授業科目	スポーツ栄養学演習 Seminar in Sports Nutrition				担当教員	槌本 浩司、千葉 昌樹、松本 恵			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・通年				選択・必修	選択			
授業形態	演習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎		○	○	
授業目的	スポーツ選手を対象に食事を適切に管理できるようになるために、実践を通じてスキルを修得する。								
到達目標	スポーツ選手の栄養管理に必要な食事調査や体調管理・測定方法を体験し、方法を知る。調査・測定結果をもとに、スポーツ選手の栄養管理の体験、実践を通じてスキルを身に付ける。								
関連科目	スポーツ理論、スポーツ科学と運動、スポーツ栄養学総論、スポーツ栄養学（基礎）、スポーツ栄養学（応用）、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、								
テキスト	開講時に提示します。								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		到達目標の達成度を提出物等の内容で総合的に評価する。 レポート：見学等に関する内容 提出物：調査データ、献立、栄養マネジメント用資料 その他：授業への取り組み姿勢						
	レポート	10							
	小テスト								
	提出物	80							
	その他	10							
履修上の留意事項	具体的な事例に関わりながら、栄養サポートの方法について理解を深める。 各回、講義資料に基づき復習する時間を確保し、講義や演習に必要な準備をして臨むこと。演習は履修人数によってクラス分けする可能性がある								
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとにスポーツ栄養学を学ぶための具体的な演習を行いながら理解を深める。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (槌本)	ガイダンス。食事調査、体組成測定方法	演習のガイダンスと、栄養食事摂取量の調査、体組成測定の方法を学ぶ。				事前にシラバスを読んで、授業全体の流れを確認しておくこと（1時間）。			
2 (槌本)	身体活動時のエネルギー消費と代謝測定	エネルギーの消費、エネルギーの代謝測定の方法を学ぶ。				事前学習：エネルギー消費量の計算方法とエネルギー消費の測定方法について調べる（1～2時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）			
3 (槌本)	栄養食事摂取量の調査と体組成測定	栄養食事摂取量の調査、測定データの読み取り方を学ぶ。				事前学習：身体活動基準・指針を理解しメッツ計算について調べる。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）			
4 (槌本)	スポーツ選手の運動量（ユースチーム）	ユースチームのエネルギー消費量を学ぶ。				事前学習：運動強度の評価について調べる。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）			
5 (槌本)	スポーツ選手の運動量（トップチーム）	トップチームのエネルギー消費量を学ぶ。				事前学習：前回の学習内容を確認する。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）			
6 (槌本)									
7 (槌本)	エネルギーの消費	運動によるエネルギー消費を学ぶ。				事前学習：前回の学習内容を確認する。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1～2時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (千葉)	スポーツ選手の食事 (献立と調理) 1	スポーツ選手に必要な食事内容、調理方法を学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。課題に取り組む(1 時間)。
9 (千葉)			
10 (千葉)	スポーツ選手の食事 (献立と調理) 2	スポーツ選手に必要な食事内容、調理方法を学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。課題に取り組む(1 時間)。
11 (千葉)			
12 (千葉)	スポーツ選手の栄養サ ポート	スポーツ選手の栄養マネジメントを学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。課題に取り組む(1 時間)。
13 (千葉)			
14 (松本)	スポーツ選手の栄養管 理計画、発表	スポーツ選手の栄養サポートの計画、立案、発表、ディス カッションを行う。	課題にしっかり取り組む(1 時 間)。
15 (松本)			

授業科目	栄養教育論Ⅲ Nutrition Education Ⅲ				担当教員	岩部 万衣子、板垣 康治			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎	○			
授業目的	教育対象者のライフステージ（発達段階と場）に合わせた栄養教育について学修する。妊婦・授乳婦、新生児・乳児、幼児、児童・生徒、成人など各対象者に対応した栄養教育と場について理解する。さらに、不特定多数の集団を対象とする栄養教育の方法や、障がい者、運動実施者を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法について理解する。								
到達目標	1. 教育対象者の各ライフステージに合わせた栄養教育方法について説明できる。 2. 教育対象者のライフスタイルに合わせた栄養教育方法について説明できる。 3. 障がい者、運動実施者（健康運動実施者、アスリート）の栄養教育方法について説明できる。 4. 不特定多数の集団を対象とした栄養教育の方法について説明できる。								
関連科目	栄養教育論Ⅰ・Ⅱと基盤とする科目である。 栄養教育論実習、応用栄養学、公衆栄養学、臨床栄養学と関連する科目である。								
テキスト	栄養教育論Ⅰ・Ⅱと同じテキストを使用 （池田小夜子、斎藤トシ子、川野因「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」（第一出版）） ※その他、適宜プリントを配布する。								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験	70	授業内容に応じた提出物（30％）、定期試験（70％）の結果を総合して、目標の到達状況を評価する。 岩部 90％：定期試験（60％）、提出物（30％） 板垣 10％：定期試験（10％）						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	30							
	その他								
履修上の留意事項	関連科目で修得した知識の統合を図り、栄養教育の実践力を高める。 各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削し返却する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1 (岩部)	ガイダンス、対象集団に合わせた栄養教育とは		授業ガイダンス 対象集団に合わせた栄養教育（栄養アセスメントと課題の選択、優先順位、栄養教育計画、評価など、栄養教育論Ⅰ・Ⅱの振り返り）			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
2 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（1）		妊婦・授乳婦を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法(1)			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
3 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（2）		妊婦・授乳婦・新生児・乳児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
4 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（3）		乳児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法（離乳食）			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
5 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（4）		幼児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
6 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（5）		児童を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
7 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（6）		生徒を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
8 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（7）		成人を対象とした栄養教育の場と方法(1)(食事バランスガイド)			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
9 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育（8）		成人を対象とした栄養教育の場と方法(2)(休養指導)			教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (9)	成人を対象とした栄養教育の場と方法(運動・身体活動)	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
11 (板垣)	ライフステージに応じた栄養教育 (10)	各ライフステージにおける食物アレルギーについて	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
12 (岩部)	アスリートを対象とした栄養教育	アスリートを対象とした栄養教育の場と方法	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
13 (岩部)	障がい・障がい児を対象とした栄養教育	障がい・障がい児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
14 (岩部)	不特定多数の集団を対象とした栄養教育	不特定多数の集団を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。
15 (岩部)	食環境づくりと栄養教育・栄養教育論Ⅲのまとめ	栄養教育のための食環境づくり ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育と食環境づくりについてのまとめ	教科書を中心に 1 時間程度の予習復習を行う。

授業科目	栄養教育論実習 Nutrition Education Practicum				担当教員	百々瀬 いづみ			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎	◎		○	
授業目的	栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲで学修した基礎的な知識にもとづき、課題を設定し栄養評価を行う。データを分析・評価したうえで、根拠に基づいた指導目標を設定し、実践的な栄養教育の実習を行う。適切な栄養教育方法を選択し、栄養教育計画を作成、ロールプレイおよび、地域で実際に栄養教育を実施する。同時に栄養教育に有効な指導媒体の作成、発表後のグループディスカッションなどを通して実施した栄養教育の評価を行い、栄養教育をマネジメントする能力を身につける。								
到達目標	1. コンピューター等を用いて、栄養情報の分析、評価ができる。 2. 対象者の特性に対応した栄養教育プログラムを立案、指導媒体の作成ができる。 3. 栄養教育を実施・評価し、プログラムの修正案を提示できる。								
関連科目	栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲ、および応用栄養学とも関連する。								
テキスト	無し（適宜、資料を配付する）								
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		目標の達成状況を下記の視点から評価する。 ※提出物 1) 自己の食事内容・生活リズム・身体活動状況等の記録、自己分析 2) 個別栄養教育指導案、個別栄養教育後の評価（自己・他者評価） 3) 各種食事調査法の結果と考察 4) 集団教育のデータ解析、教育計画 5) 栄養教育（実践）の計画と評価 ※その他：討議の際の積極性・協調性、自己評価の取り組み姿勢、発表時の態度等により総合的に評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	85							
	その他	15							
履修上の 留意事項	関連科目で修得した知識を実習に応用すること。 授業で行うグループ討議には積極的に参加し、課題に取り組みながら実践力を高めること。								
課題に対するフィ ードバックの方法	提出課題に対して、授業の中で解説したり、提出物にコメントを付して返却します。								
実務経験を 活かした教育内容	学生が取り組む栄養教育の準備や実施後の評価に当たっては、実務経験者の立場から、地域の実情を踏まえた助言・指導を行いながら授業を行います。								
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習			
1	授業ガイダンス、 栄養教育実践準備（1）		授業ガイダンス 栄養教育実践の準備（計画、教育媒体作成等）			既修科目（栄養教育論Ⅰ～Ⅲ等） における関連事項の復習を要する (1時間程)。			
2	栄養教育実践の準備（2）		栄養教育実践の準備（教育媒体作成、教育練習等）			グループ作業のため、事前の関連 学修と事後に打ち合わせ等を要す る(1時間程)。			
3	不特定多数の集団向け 教育媒体の作成（1）		不特定多数の集団に向けた効果的な教育媒体を考案する（1）			グループ作業のため、事前の関連 学修と事後に打ち合わせ等を要す る(1時間程)。			
4	不特定多数の集団向け 教育媒体の作成（2）		不特定多数の集団に向けた効果的な教育媒体を考案（2）・ 中間発表			グループ作業のため、事前の関連 学修と事後に打ち合わせ等を要す る(1時間程)。			
5	集団栄養教育(1)		集団栄養教育のためのデー タ分析、課題の抽出、栄養教育計画 作成			グループ作業のため、事前の関連 学修と事後に打ち合わせ等を要す る(1時間程)。			
6	集団栄養教育(2)		集団栄養教育計画作成、発表			グループ作業のため、事前の関連 学修と事後に打ち合わせ等を要す る(1時間程)。			
7	食物摂取頻度調査		食物摂取頻度調査の実施、自己の評価			授業前に関連事項の学修を要す る。時間内に終了しない場合、事 後学習とする(1時間程)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	24 時間思い出し法	食事調査(24 時間思い出し法)の実施、自己・他者の評価	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に終了しない場合、事後学習とする(1 時間程)。
9	個別栄養教育(1)	個別栄養教育（ロールプレイ）の準備(指導案作成、栄養教育用媒体作成等)（1）	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に準備が終了しない場合、事後学習とする(1 時間程)。
10	個別栄養教育(2)	個別栄養教育（ロールプレイ）の準備(指導案作成、栄養教育用媒体作成等)（2）	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に準備が終了しない場合、事後学習とする(1 時間程)。
11	個別栄養教育(3)	カウンセリング技法を用いた個別栄養教育（ロールプレイ）	授業前・後に関連事項の学修を要する(1 時間程)。
12	栄養教育実践の準備 (3)	栄養教育実践のリハーサル	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に終了しない場合、事後学習とする(1 時間程)。
13	栄養教育実践の準備 (4)	栄養教育実践に向け、評価・改善等	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に準備が終了しない場合、事後学習とする(1 時間程)。
14	栄養教育実践	地域住民を対象に、栄養教育を実践する。	授業前・後に関連事項の学修を要する(1 時間程)。
15	栄養教育実践の振り返り 不特定多数の集団向け 教育媒体の作成 (3)	地域住民を対象に実践した栄養教育について評価を行う。 不特定多数の集団向け教育媒体を完成させ、発表する。	授業前・後に関連事項の学修を要する(1 時間程)。

授業科目	栄養カウンセリング演習 Practical Seminar of Nutrition Counseling				担当教員	岡本 智子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	演習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
			○	○	◎	○			
授業目的	栄養教育においては対象者自身が自らの課題に気づき、行動変容により課題を解決しようとする（主体性をもつこと）。個々人に合わせた支援が求められている。またその支援は一方ではなく双方向の関わりにより、対象者との信頼関係を構築しながら継続したフォローが必要となる。そのためには栄養カウンセリング理論を把握した上で、その技法（スキル）を修得し、カウンセリングマインドを身につけた対応が必要となる。この授業では対象者の行動療法を行うために基本的なカウンセリング理論のもと、演習を中心に、個別だけではなく集団栄養教育へとどのように応用すればよいか具体的なスキルを体得することを目的とする								
到達目標	管理栄養士として、人々の疾病の予防・治療や健康維持・増進にとって欠かすことのできない栄養教育を行う上での必要な知識と技術を学び実践できる能力を身につけ、対象者に合わせた栄養カウンセリングができ、栄養教育・栄養サポートができるようになる。								
関連科目	教育心理学								
テキスト	使用しない								
参考書	上原誓志夫外、「第5版最新臨床栄養学 栄養と治療の基礎と実際」光生館 （臨床栄養学Ⅲ（3年後期で使用する）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 演習時の参加状況（授業態度を含む）、レポート：50% その他（課題の実践状況）：50%						
	レポート	50							
	小テスト								
	提出物								
	その他	50							
履修上の留意事項	演習の授業であるため学んだことを実践して次の授業に望むこと。気づきや考えをレポートにまとめて必ず提出すること。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートには翌週の授業時にコメントを付して返却する								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から対象者に合わせたカウンセリング法を体得できるよう“わかる”から“できる”ようにトレーニングを繰り返していく。また演習により体感できたことを自らの言葉で話せるようにする。結果、対象者への伝えたいことを言葉で伝えられるよう授業を行う。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス（科目の目的）	この演習の目的、この授業の全体の流れ、一回ごとの授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出の方法について				事前：シラバスに目を通しておくこと。（1時間）			
2	栄養カウンセリングの効果と栄養教育に必要なカウンセリングスキル①傾聴その1	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけとカウンセリングスキルの実践				事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			
3	栄養教育に必要なカウンセリングスキル②傾聴その2（受容と共感）	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践				事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			
4	栄養教育に必要なカウンセリングスキル③承認その1	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践				事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			
5	栄養教育に必要なカウンセリングスキル④承認その2	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践				事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑤質問その1	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
7	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑥質問その2	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
8	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑦提案と要望、フィードバック	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
9	栄養教育に必要なカウンセリングの流れ（その1）	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
10	栄養教育に必要なカウンセリングの流れ（その2）	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
11	ライフステージと食行動の特徴（妊娠・授乳期・学童期の食行動）	心の状態と食行動を理解する	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
12	ライフステージと食行動の特徴（青年期・成人・壮年期・高齢期の食行動）	この時期の身体の変化、生活スタイルの特徴を捉え、食行動を理解する。また高齢者とのコミュニケーションの取り方を学び実践する。	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
13	カウンセリングに必要な食行動理論について（その1、その2）	摂食障害における食行動（高度肥満）・（神経性食欲不振症・神経性過食症）のカウンセリングについて理解と実践をする	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
14	集団栄養教育におけるグループアプローチ	グループディスカッションにおいての役割について理解と実践をする	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
15	まとめ	これまでの授業を振り返る。学びの成果をまとめる。	授業全体を振り返る。レポートにまとめる（1時間）

授業科目	食生活論 Dietary Life				担当教員	白崎 佳美		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	○		○	
授業目的	・栄養教諭の制度と役割に関する知識（特別支援学校を含む）と ICT を活用した学校給食管理の業務効率化を図るための知識と技法を修得する。 ・学校給食における食育の推進を理解し、食文化と食に関わる歴史についての知識を活用し、食に関する指導に繋げる実践力を養う。							
到達目標	・栄養教諭の職務が「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体のものとして行うことを理解し、教育上の高い相乗効果をもたらすための専門性を身に付け、業務の効率化のために ICT を活用することができる。 ・それぞれの国や地域の風土及び伝統に根ざした文化的な営みである食を通じて地域等を理解し、食文化や地場産品の活用について調査・発表することができる。							
関連科目	応用栄養学Ⅱ、栄養教育論Ⅲ							
テキスト	金田雅代編者「四訂栄養教諭論」（建帛社） 文部科学省「食に関する指導の手引き 第二次改訂版」							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	50	目標の到達状況を試験、提出物、その他で評価する。 提出物：授業内容に応じたレポート等（20％） その他：プレゼンテーション 10％ 授業時の取組み姿勢 20％					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	20						
	その他	30						
履修上の留意事項	栄養教諭の役割を理解し、食育に取り組むための知識を身に付け、実践の基礎ができることを望む。 授業の事前と事後に、予習・復習の時間として各々1時間程度を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容	栄養教諭の経験から、講義内でその知見を活かした授業展開を行っていきたいと考えている。							
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	栄養教諭の制度と役割		栄養教諭制度創設の経緯、学校給食法、学校給食の歴史、栄養教諭の職務、学校組織の栄養教諭の位置付け（校務分掌と各種委員会活動）			事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
2	学校給食管理 ①		栄養管理 学校給食実施基準に基づいた学校給食摂取基準・食品構成について			事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
3	学校給食管理 ②		衛生管理 学校給食衛生管理基準 作業工程表・作業動線図 PCでの実践			事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
4	学校給食管理 ③		ICT を活用した業務効率化 給食管理ソフトや表計算ソフトの活用 PCでの実践			事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
5	学校における食育の推進		食に関する指導の目標 【食育の視点】 ① 食事の重要性 ② 心身の健康 ③ 食品を選択する能力 ④ 感謝の心 ⑤ 社会性 ⑥ 食文化			事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
6	給食の時間に行われる食に関する指導 ①		給食指導【給食の準備から片付けまでの一連の指導】学級担任と栄養教諭の連携 正しい手洗い、配膳方法、食器の並べ方、箸の使い方、食事のマナー等			事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	給食の時間に行われる 食に関する指導 ②	食に関する指導【献立を教材とした給食時間の指導】学級担任 と栄養教諭の連携 給食を教材とした教科等における食に関する指導	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
8	食文化と食に関わる歴 史①	日本の食文化と日本型食生活、米飯給食の普及 郷土食・行事食・地場産物の活用	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
9	食文化と食に関わる歴 史②	日本における食の欧米化、学校給食の多様化 世界の食文化と学校給食の関わり	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
10	食文化と食に関わる歴 史③	食文化（郷土食・行事食・地場産物・世界の食文化）につい ての調査・研究 * 食に関する指導や献立に活かす観点から調査する	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
11	食文化と食に関わる歴 史④	食文化についての調査・研究 食文化についてのプレゼンテーション	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
12	食文化と食に関わる歴 史⑤	食文化についてのプレゼンテーション 感想・意見交換等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
13	特別支援学校における 栄養教諭の役割	特別支援学校について 職務内容、多職種との連携・協働について	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
14	特別支援学校における 食に関する指導	食に関する全体計画(知的障害のある児童生徒の教育を行う場 合) 障害に応じた指導、自立活動と関連付けた指導、個別的な相談 指導	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる
15	フィードバック	前期の学習についての質問・意見・感想等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をま とめる

授業科目	食育指導論 Nutrition Education in Syokuiku				担当教員	白崎 佳美		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	○			
授業目的	・学校給食管理を基礎とし、教材として活用できる献立作成と、ICTを活用した食に関する指導を修得する。 ・家庭・地域との連携、多職種および関係者との連携・協働の重要性について理解する。 ・児童生徒への望ましい食習慣の形成に向けた指導を行うために必要な知識やリスクマネジメントについての知識を修得する。							
到達目標	・給食時間や各教科に関連した食に関する指導において教材として活用できる献立を作成し、指導内容をICTを活用して発表することができる。 ・学校内における様々な場面での指導や、家庭・地域との連携・調整の重要性を広くとらえることができる。 ・個別的な相談指導における栄養教諭の役割や、リスクマネジメントについて理解することができる。							
関連科目	・「給食経営管理論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」、「応用栄養学Ⅱ」と関連するので復習しておくこと。							
テキスト	金田雅代編者「四訂栄養教諭論」（建帛社） 文部科学省「食に関する指導の手引き 第二次改訂版」							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	40	目標の到達状況を試験、提出物、その他で評価する。 提出物：授業内容に応じたレポート等（20％） その他：プレゼンテーション 20％ 授業時の取組み姿勢 20％					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	20						
	その他	40						
履修上の留意事項	学校給食献立作成から食に関する指導までをととして、受講者間において講義内容に関する自由闊達な議論が展開されることを望む。 授業の事前と事後に、予習・復習の時間として各々1時間程度を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容	栄養教諭の経験から、講義内でその知見を活かした授業展開を行っていきたいと考えている。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	教材として活用できる献立作成 ①	学校給食摂取基準について復習 献立作成のポイント（年間計画・予算・施設設備・調理能力等）				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
2	教材として活用できる献立作成 ②	指導内容を考慮した献立にする（事前・事後学習を含む） ＊講義・作成 主食・主菜・副菜のそろったバランスのよい献立				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
3	教材として活用できる献立作成 ③	指導内容を考慮した献立にする（事前・事後学習を含む） ＊講義・作成 郷土食・行事食・旬の地場産物や世界の食文化（オリンピック等の時期）を考慮				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
4	教材として活用できる献立作成 ④	調理場における衛生管理と調理技術 ＊講義・作成 調理従事者とのコミュニケーション（調理指示等）				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
5	教材として活用できる献立作成 ⑤	作成した献立のプレゼンテーションをする 感想・意見交換等				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		
6	教材として活用できる献立作成 ⑥	学校給食を教材とした指導事例 各々の設定（給食時間や各教科等）で献立と関連付けた指導案を作成する				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	教材として活用できる 献立作成 ⑦	各々の設定（給食時間や各教科等）で献立と関連付けた指導案を作成する	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
8	ICTを活用したプレゼンテーション ①	ICTを活用した授業事例 作成した指導案をICTを活用してプレゼンテーションをする	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
9	ICTを活用したプレゼンテーション ②	作成した指導案をICTを活用してプレゼンテーションをする 感想・意見交換等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
10	家庭・地域との連携 ①	情報提供等により共通理解を図る ホームページ、給食だより、給食試食会、食に関する講習会等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
11	家庭・地域との連携 ②	情報提供物・掲示物等の作成とプレゼンテーション	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
12	個別的な相談指導における栄養教諭の役割 ①	発育・発達期である児童生徒の健康と、望ましい食習慣の形成のための個別的な相談指導の進め方について（主治医・担任・養護教諭等との連携）	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
13	個別的な相談指導における栄養教諭の役割 ②	学校給食における食物アレルギー対応（主治医・担任・養護教諭等との連携）	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
14	学校給食におけるリスクマネジメント	食中毒の防止、異物混入の防止、食物アレルギー対応、窒息事故防止等 災害時の対応（臨時休校や分散登校等）、防災給食、災害用備蓄品の準備	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
15	フィードバック	前期・後期の学習についての質問・意見・感想等 専門職の役割と多職種および関係者との連携・協働について	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる

授業科目	臨床栄養学Ⅱ Clinical Nutrition Ⅱ				担当教員	氏家 志乃			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎		○		
授業目的	栄養・食事療法と栄養補給について学修する。経口栄養補給法の目的、食事の形態、治療食の分類、食品と献立作成について学修する。経腸栄養補給法、静脈栄養補給法の目的や適応疾患について理解し、経腸栄養管理、中心静脈と末梢静脈栄養、輸液の種類と成分、栄養補給の算定を学ぶ。								
到達目標	1. 各疾患における「栄養代謝の特徴」を理解し、科学的根拠に基づいた栄養・食事療法について説明できる。 2. 管理栄養士が実践する臨床栄養管理について理解し説明できる。								
関連科目	形態機能学、基礎栄養学、病態診療学								
テキスト	Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅱ 各論 (中山書店)								
参考書	日本人の食事摂取基準 2020年度版(第一出版) Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅰ 総論(中山書店) 八訂食品成分表 (女子栄養大学出版)								
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点						
	試験	80	到達目標の達成度を試験、課題で評価する。						
	レポート	10							
	小テスト								
	提出物	10							
	その他								
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題は翌週の授業で解説を行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での症例などを講義で織り交ぜながら、疾患別の栄養管理について栄養評価、栄養計画、実施、経過観察、再評価など理解しやすいように具体的に授業を進めます。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス	臨床栄養学Ⅰの振り返り、臨床栄養学Ⅱとは				事前) シラバスを確認する。臨床栄養学Ⅰを復習する。 事後) 授業内容を整理する。			
2	疾患別治療食(1)	ナトリウムコントロール食と適応疾患①(循環器疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
3	疾患別治療食(2)	ナトリウムコントロール食と適応疾患②(循環器疾患)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
4	疾患別治療食(3)	エネルギーコントロール食と適応疾患①(代謝性疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
5	疾患別治療食(4)	エネルギーコントロール食と適応疾患②(代謝性疾患)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
6	疾患別治療食(5)	エネルギーコントロール食と適応疾患③(代謝性疾患)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
7	疾患別治療食(6)	易消化食と適応疾患①(消化器疾患：胃・十二指腸疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
8	疾患別治療食(7)	易消化食と適応疾患②(クローン病・潰瘍性大腸炎)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
9	疾患別治療食(8)	脂質コントロール食と適応疾患(膵・胆のう疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
10	疾患別治療食(9)	たんぱく質コントロール食と適応疾患①(肝疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	疾患別治療食（10）	たんぱく質コントロール食とその適応疾患②（腎疾患）	事前）教科書を読んでおく。 事後）教科書、配布資料を復習する。
12	疾患別治療食（11）	たんぱく質コントロール食とその適応疾患③（腎疾患・人工透析）	事前）前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後）教科書、配布資料を復習する。
13	疾患別治療食（12）	褥瘡/摂食嚥下障害	事前）教科書を読んでおく。 臨床栄養学Ⅰ「食形態・摂食嚥下」について復習しておく。 事後）教科書、配布資料を復習する。
14	経腸・経静脈栄養法	2年生の振り返り（適応・禁忌・合併症）／ 経腸栄養で使用する栄養剤・経静脈栄養で使用する輸液の種類	事前）臨床栄養学Ⅰ栄養投与法（経腸栄養・静脈栄養について復習しておく。 事後）教科書、配布資料を復習する。
15	チーム医療／まとめ	チーム医療と管理栄養士の役割／臨床栄養学Ⅱのまとめ	事前）チーム医療に関する配布資料を読み、レポートを作成する。 事後）これまでの授業の内容を復習する。試験の準備を行う。

授業科目	臨床栄養学Ⅲ Clinical Nutrition III				担当教員	岡本 智子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		◎	
授業目的	栄養障害、肥満と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎・尿路系疾患、神経疾患、摂食障害、呼吸器系疾患、血液系疾患、筋・骨格系疾患等について、疾患・病態別に栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング・アセスメント、栄養ケア・計画立案、実施、評価、フィードバック）の方法を学修する。特に栄養ケアプロセス、栄養管理計画立案に必要な情報収集と理由、さらに情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画作成とその根拠、モニタリング、評価計画の作成により患者の QOL を損なわない栄養補給や食事について理解するため学修する。また、栄養サポートチーム（NST）などチーム医療における管理栄養士の役割と活動について学修する。							
到達目標	1. 疾患ごとの栄養アセスメント項目について違いと評価が根拠をもってできるようになる。 2. 患者ごとの栄養必要量の算出が根拠をもってできるようになる。 3. 患者の食事記録をもとに目標栄養量に対して摂取栄養量の評価ができ、栄養の過不足を把握し、栄養の問題点を抽出し、栄養アセスメント項目とあわせて栄養の問題を抽出できるようになる。 4. 疾患ごとに病状、病態に応じて栄養介入方法を変えていく必要性を理解できるようになる。 5. チーム医療の中で管理栄養士の役割が理解できるようになる							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、病理学、病態診療学Ⅰ、Ⅱ							
テキスト	上原誓志夫外 第5版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館							
参考書	Visual 栄養学テキストシリーズ 臨床栄養学 総論、各論 中山書店（初版第2刷）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	80	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 試験：80％ 小テスト：5％ 提出物：15％					
	レポート							
	小テスト	5						
	提出物	15						
	その他							
履修上の留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	小テストはその場で解答し解説をする。提出物には翌週コメントを付し返却する。							
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス	授業内容 進め方、事前事後学習の仕方など				シラバス、教科書を確認して授業の準備をする（2時間）。授業の内容をまとめ、復習する（2時間）		
2	NST 介入における栄養管理（1）	疾患・病態別及び栄養サポートチーム（NST）での栄養管理の概念 NST 活動の組織と栄養管理の流れ（管理栄養士の役割 他職種の役割）				事前：配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
3	NST 介入における栄養管理（2）	NST おける管理栄養士の役割と栄養管理の実践（低栄養 栄養障害・栄養評価等）				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
4	疾患・病態別栄養管理（1）	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 消化器疾患上部（口腔内・食道・胃・十二指腸等）				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
5	疾患・病態別栄養管理（2）	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 消化器疾患下部（炎症性腸疾患等、便性のコントロール（便秘・下痢等））				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
6	疾患・病態別栄養管理（3）	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント（肝疾患等）				事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	疾患・病態別栄養管理 (4)	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント（胆・膵疾患等）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
8	疾患・病態別栄養管理 (5)	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（肥満と肥満症）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
9	疾患・病態別栄養管理 (6)	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（糖尿病）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
10	疾患・病態別栄養管理 (7)	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（脂質異常症・高尿酸血症・痛風等・）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
11	疾患・病態別栄養管理 (8)	循環器疾患の栄養ケア・マネジメント（高血圧・虚血性心疾患・心不全等）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
12	疾患・病態別栄養管理 (9)	呼吸器疾患栄養のケア・マネジメント（COPD・慢性呼吸不全等）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
13	疾患・病態別栄養管理 (10)	腎・尿路系疾患の栄養ケア・マネジメント（慢性腎臓病・慢性腎不全・糖尿病腎症等）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
14	疾患・病態別栄養管理 (11)	摂食障害関連疾患の栄養ケア・マネジメント（神経性やせ症、神経性過食症等）血液系疾患栄養のケア・マネジメント（貧血・その他の貧血等）	事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）
15	まとめ	患者の QOL と食事管理について	全体を振り返りレポートをまとめる。授業中のディスカッションを踏まえてさらにまとめる（2時間）

授業科目	臨床栄養学実習Ⅰ Clinical Nutrition PracticumⅠ				担当教員	氏家 志乃		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		◎	
授業目的	臨床栄養学Ⅰの基礎的な知識に基づいて1) 病院食提供についての仕組み、一般治療食の基準と献立作成、調理までの流れを実習する。2) 傷病者・要介護者の栄養アセスメント、栄養ケア計画（栄養管理計画）の作成方法を実習する。							
到達目標	1. 病院食の基準を理解し、一般治療食の献立作成と調理ができる。 2. 栄養評価ツールを使用し、栄養評価表を作成することができる。 3. 対象者に対応した栄養評価、栄養量の設定ができ、栄養投与方法が選択できる。 4. 多職種で共有できる報告書の作成ができる。（POMR、SOAP）							
関連科目	調理学（実習）、給食経営管理論（実習）、形態機能学（実習）、病態診療学							
テキスト	配布資料を中心に授業を進める。							
参考書	八訂食品成分表、Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学総論Ⅰ・各論Ⅱ（中山書店）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験		到達目標への到達度をレポート 30％、提出物 40％（献立、実習ワークシート）、その他 30％（グループでの取り組み：調理実習 15％、グループワーク 15％）で評価する。					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物	40						
	その他	30						
履修上の留意事項	実習課題やレポート作成のため、各授業前後に1～2時間の時間を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	課題やレポート解説は翌授業にて行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での事例を提示しながら、治療食や栄養ケア・マネジメントの実践を理解しやすいように説明します。							
回数（担当）	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイドランス/病院食の種類と特徴（1）	授業ガイドランス／ 病院食提供の仕組み・一般治療食について					事前) シラバス、臨床栄養学Ⅰの関連箇所を確認する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。	
2	病院食の種類と特徴（2）	献立作成（常食）から軟菜食の展開					事前) 前回授業内容を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。	
3	病院食の種類と特徴（3）	調理実習の準備、媒体作成					事前) 前回授業の内容を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。	
4	病院食の種類と特徴（4）	調理実習・献立評価					事前) 調理献立や作業手順について確認しておく。 事後) 課題作成を行う。	
5	病院食の種類と特徴（5）	病院食の種類と特徴のまとめをグループ発表					事前) 課題作成とその確認 事後) これまでのレポート、課題、授業資料を復習する。	
6	栄養ケア・マネジメント（1）	栄養アセスメントー栄養スクリーニングの実施					事前) 臨床栄養学Ⅰの関連部分を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。	
7	栄養ケア・マネジメント（2）	栄養アセスメントー身体計測					事前) 臨床栄養学Ⅰの関連部分を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	栄養ケア・ マネジメント（3）	栄養アセスメントー臨床検査値の読み方	事前）事前課題を通して予習する。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。
9	栄養ケア・マネジメント（4）	栄養アセスメントー食事摂取量の把握と評価、必要栄養量の設定	事前）臨床栄養学Ⅰの関連部分を復習する。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。
10	栄養ケア・マネジメント（5）	栄養ケア計画ー栄養アセスメントに基づいた栄養ケア計画の立案① 献立作成（分割食、ハーフ食）	事前）配布資料を確認しておく。 事後）課題作成を行う。
11	栄養ケア・マネジメント（6）	栄養ケア計画ー特別用途食品、保健機能食品を使用した調理実習	事前）調理献立を確認する。 事後）特別用途食品、保健機能食品の活用方法について考え、課題作成を行う。
12	栄養ケア・マネジメント（7）	栄養ケア計画ー食形態（ゼリー食、ソフト食）の調理実習	事前）臨床栄養学Ⅰの関係部分や調理献立を確認しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。
13	栄養ケア・マネジメント（8）	栄養スクリーニングから栄養ケア計画立案までの症例グループ発表	事前）症例グループ発表の準備を行う。 事後）発表内容の再検討を行う。
14	栄養ケア・マネジメント（9）	症例に基づく診療記録の実際（POMR・SOAP）①	事前）臨床栄養学Ⅰの関係部分を復習しておく。 事後）配布資料を復習する。
15	栄養ケア・マネジメント（10）／まとめ	症例に基づく診療記録の実際（POMR・SOAP）②／臨床栄養学実習Ⅰのまとめ	事前）前回の授業内容を復習する。 事後）配布資料読み授業内容を復習する。

授業科目	臨床栄養学実習Ⅱ Clinical Nutrition PracticumⅡ				担当教員	氏家 志乃		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		◎	
授業目的	傷病者に対する適切な栄養学的治療手段について実習する。 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰで学修した知識・技術を発展させ、提示された症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画を作成する。							
到達目標	1. 基本的な疾患症例を対象に栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成ができる。 2. 病態に合わせた献立作成を展開食として作成することができる。 3. 対象者のQOLを考慮し、栄養ケア計画及び献立の評価ができる。 4. 栄養障害を伴う症例の栄養ケア・マネジメントができる。							
関連科目	病態診療学、形態機能学（実習）、調理学（実習）、給食経営管理論（実習）							
テキスト	糖尿病食品交換表、腎臓病食品交換表、その他配布資料を中心に授業を進める。							
参考書	八訂食品成分表、Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学総論Ⅰ・各論Ⅱ（中山書店）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験		到達目標への到達度をレポート 20%、提出物 40%（献立、実習ワークシート）、その他（グループ活動：調理実習 15%、グループワーク 15%）で評価する。					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物	40						
	その他	30						
履修上の留意事項	実習課題やレポート作成のため、各授業前後に1～2時間の時間を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	課題やレポート解説は翌授業にて行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での事例を提示しながら、治療食や栄養ケア・マネジメントの実際を理解しやすいように説明します。							
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンス／病院食について（1）	授業ガイダンス／糖尿病症例（高血圧、脂質異常症複合症例）の栄養アセスメントと栄養ケア計画の作成				事前）臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰの関連部分を確認し復習する。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。		
2	エネルギーコントロール食（1）	特別治療食の種類について・基本食から治療食への展開方法				事前）臨床栄養学Ⅱ エネルギーコントロール食と適応疾患、食事療法の基本方針について復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。		
3	エネルギーコントロール食（2）	糖尿病食品交換表の使い方				事前）糖尿病食品交換表を確認しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。		
4	エネルギーコントロール食（3）	糖尿病食品交換表を使用した献立展開				事前）前回授業の内容を復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業内容を復習する。		
5	エネルギーコントロール食（4）	糖尿病症例のアセスメントと栄養ケア計画の作成				事前）前回授業の内容を復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業内容を復習する。		
6	エネルギーコントロール食（5）	調理実習				事前）臨床栄養学Ⅱの関係部分や調理献立を確認しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	たんぱく質コントロール食（１）	慢性腎臓病症例の栄養アセスメントと栄養ケア計画の作成	事前）前回授業の内容を復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業
8	たんぱく質コントロール食（２）	献立作成：基本献立からたんぱく質コントロール食への展開	事前）前回授業の内容を復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業
9	たんぱく質コントロール食（３）	栄養ケア計画・献立の評価、調理実習の準備	事前）前回授業の内容を復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業
10	たんぱく質コントロール食（４）	たんぱく質コントロール食の調理実習	事前）調理献立や作業手順について確認しておく。 事後）課題作成を行う。
11	たんぱく質コントロール食（５）	腎臓病食品交換表の使い方	事前）腎臓病食品交換表を確認しておく。 事後）課題作成を行う。
12	嚥下障害（１）	嚥下障害の実際 食品の種類・テクスチャーの違いと飲み込みについて	事前）臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ関連部分を確認しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。
13	嚥下障害（２）	嚥下障害の実際 日本摂食リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021 に基づいた食品分類・調理実習	事前）調理献立や作業手順について確認しておく。 事後）課題作成を行う。
14	嚥下障害（３）／臨床 栄養学実習Ⅱのまとめ	嚥下障害を有する低栄養症例の栄養ケア／まとめ	事前）配布資料を確認しておく。 事後）授業内容を復習する。

授業科目	公衆栄養学Ⅰ Public Health NutritionⅠ				担当教員	槌本 浩司		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○		◎		◎		
授業目的	公衆栄養の概念と公衆栄養活動の歴史と生態系保全、地域づくり、ヘルスプロモーション、自己管理能力、疾病予防、少子高齢化における健康増進などの活動について学修する。健康・栄養問題の現状と課題について、社会環境と健康栄養問題や健康状態、食事、食生活、食環境の変化等について理解する。また、我が国における栄養政策についての関連法規、管理栄養士制度について学修する。さらに、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、対策について学修する。							
到達目標	1. 公衆栄養の概念とマネジメントについて説明できる。 2. 地域づくりのための公衆栄養活動について説明できる。 3. 国民の健康・栄養・食の現状と課題を理解し、説明できる。 4. 健康増進計画における栄養政策について説明できる。 5. 諸外国の健康・栄養問題を理解し、説明できる。							
関連科目	公衆栄養学Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、栄養教育論、応用栄養学							
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版) 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書	1. 佐々木敏著「わかりやすい EBN と栄養疫学」(同文書院)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点					
	試験	60	目標の到達状況を定期試験、小テスト、その他で評価する。 その他：授業への積極的参加、取り組み姿勢					
	レポート							
	小テスト	30						
	提出物							
	その他	10						
履修上の留意事項	各授業の前後に、1～2時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト(ノート等資料持ち込み可)を実施します。							
課題に対するフィードバックの方法	偶数回における小テストを実施するとともに、小テストの返却時には、個々に対するフィードバックを行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、実際のヘルスプロモーションの概念を中心に、法規、管理栄養士・栄養士制度、職業倫理、調査、健康づくり施策について理解しやすいように授業を行います。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンスと公衆栄養の概念	Chapter1_公衆栄養の概念 公衆栄養の概念				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		
2	公衆栄養活動	Chapter1_公衆栄養の概念 公衆栄養活動				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		
3	人口構成の変遷	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-1 人口構成の変遷				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		
4	健康状態の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-2 健康状態の変化				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		
5	食事の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-3 食事の変化				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	食生活の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-3 食生活の変化	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	食環境の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-5 食環境の変化	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	食料自給率	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 3-1 わが国の公衆栄養活動	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	公衆栄養関連法規	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 3-2 公衆栄養関連法規	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	わが国の栄養士・管理栄養士制度	Chapter3_栄養政策 3-3 わが国の栄養士・管理栄養士制度	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	実施に関する指針・ツール	Chapter3_栄養政策 3-5 実施に関する指針・ツール	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	国の健康増進基本方針と地方計画	Chapter3_栄養政策 3-6 国の健康増進基本方針と地方計画	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	わが国の栄養士・管理栄養士制度	Chapter3_栄養政策 3-3 わが国の栄養士・管理栄養士制度	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	諸外国の健康・栄養政策	Chapter3_栄養政策 3-4 諸外国の健康・栄養政策	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	公衆栄養のまとめ	公衆栄養のまとめ	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	公衆栄養学Ⅱ Public Health Nutrition Ⅱ				担当教員	槌本 浩司		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		○		◎		◎
授業目的	公衆栄養学Ⅰを基礎として、さらに公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムについて学修する。栄養疫学の概要、地域栄養活動の関連と疫学調査法、データの扱い等を修得し、地域の健康・栄養施策計画立案、実践、評価、フィードバックなどについて学修し、データを解析して課題の抽出までの知識・技術を修得する。さらに、課題とその要因について、理論モデルと疫学データを用いて分析することを学修する。また、専門職として、得られた情報に関する管理、個人情報保護、倫理的配慮を身につける。							
到達目標	1. 公衆栄養マネジメントのツールとしてプリシードプロシードモデルを用いた公衆栄養計画と評価計画の策定プロセスについて説明できる。 2. 食事調査の方法と特徴、活用について説明できる。 3. 健康と食事などの因果関係を把握する研究デザインを説明できる。 4. 実態の分析に基づいた公衆栄養プログラムを策定できる。 5. 計画の適切な評価方法を提案（プロセス評価と結果評価）することができる。							
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学							
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウェルネス公衆栄養学」（医歯薬出版） 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	60	目標の到達状況を定期試験、小テスト、その他で評価する。その他：授業への積極的参加、取り組み姿勢					
	レポート							
	小テスト	30						
	提出物							
	その他	10						
履修上の留意事項	各授業の前後に、1～2時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト（ノート等資料持ち込み可）を実施します。							
課題に対するフィードバックの方法	偶数回における小テストを実施するとともに、小テストの返却時には、個々に対するフィードバックを行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、実践に必要な栄養疫学に基づく地域診断に関することに併せ、地域の住民や集団における健康・栄養状態及び社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について理解しやすいように授業を行います。							
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	栄養疫学（1）	ガイダンスと Chapter4_栄養疫学 栄養疫学の概要と調査バイアス				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。		
2	栄養疫学（2）	Chapter4_栄養疫学 食事調査の方法				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。		
3	栄養疫学（3）	Chapter4_栄養疫学 栄養疫学				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。		
4	公衆栄養マネジメント（1）	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養マネジメント				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	公衆栄養マネジメント (2)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養アセスメント	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
6	公衆栄養マネジメント (3)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養プログラムの目標と課題設定	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	公衆栄養マネジメント (4)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 食品ロスについて	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	公衆栄養マネジメント (5)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養プログラムの計画、実施、アセスメント	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	公衆栄養マネジメント (6)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 行動科学モデルの活用	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	公衆栄養プログラムの 展開（1）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域特性に対応したプログラムの展開（1）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	公衆栄養プログラムの 展開（2）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域特性に対応したプログラムの展開（2）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	公衆栄養プログラムの 展開（3）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 健康・食生活の危機管理と食支援	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	公衆栄養プログラムの 展開（4）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 食環境づくりのためのプログラムの展開	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	公衆栄養プログラムの 展開（5）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域集団の特性別プログラムの展開（1）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	公衆栄養プログラムの 展開（6）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域集団の特性別プログラムの展開（2）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	公衆栄養学実習Ⅰ Public Health Nutrition PracticumⅠ				担当教員	槌本 浩司			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		◎				◎			
授業目的	公衆栄養学Ⅰ・公衆栄養学Ⅱを基礎として、地域における効果的な公衆栄養活動について実習を通して学修する。地域における健康課題を既存のデータを解析して抽出し、課題の中から優先的課題を選定し、地域の目標を設定、優先すべき取り組みについてソーシャルマーケティングの方法などを応用して、具体的かつ魅力的な事業計画の立案、評価の作成方法についても設定する。グループディスカッションを取り入れ、これらの事業計画について相互評価等を行い、実習を通して地域住民の健康課題に対応する栄養活動を実践する能力を身につける。								
到達目標	1. 健康行動理論モデルを説明できる。 2. 健康・食生活上の課題とその要因の分析について、健康行動理論を用いて説明できる。 3. 課題と要因の中から、優先すべき取り組みを選定することができる。 4. 診断や評価のための技術として、調査票の設計や集計・分析を行うことができる。 5. 調査結果に基づいて、公衆栄養教育プログラムを立案することができる。								
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅱ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学								
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版) 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。								
参考書	テーマごとにプリントを配布する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点						
	試験	50	目標の到達状況を試験、小テスト、その他で評価する。その他：実習時の積極性等 20%、報告書(成果発表を含む) 20%						
	レポート								
	小テスト	10							
	提出物								
	その他	40							
履修上の留意事項	各授業の前後に、1～2時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト(ノート等資料持ち込み可)を実施します。								
課題に対するフィードバックの方法	実習時個々の課題の進捗状況に合わせコメントを実施するとともに、課題発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域住民の健康課題に対し、ヘルスプロモーションの概念に基づく公衆栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンスと公衆栄養アセスメント(1)	ガイダンスと個々に自治体の健康増進計画を情報収集				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
2	公衆栄養アセスメント(2)	自治体の健康増進計画の情報収集と整理				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
3	公衆栄養アセスメント(3)	自治体の現状値→課題→政策(取り組み)の整理				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
4	公衆栄養アセスメント(4)	自治体の健康増進計画の要約の発表				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	公衆栄養計画案作成Ⅰ _1)	「食品ロス事業」策定準備情報収集	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
6	公衆栄養計画案作成Ⅰ _2)	「食品ロス事業」策定準備情報収集と整理 ※特別講師（消費者庁）を予定	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	公衆栄養計画案作成Ⅰ _3)	「食品ロス」現状値→対象者の決定→実施事業の取決め	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	公衆栄養計画案作成Ⅰ _4)	食品ロス対策事業の発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	公衆栄養計画案作成Ⅱ _1)	地域の食生活情報の整理_食事調査解析	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	公衆栄養計画案作成Ⅱ _2)	地域の食生活情報の整理_食事評価方法	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	公衆栄養プログラムの 展開 1)	自治体の栄養事業計画作成	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	公衆栄養プログラムの 展開 2)	地域集団の特性別プログラムの展開 1	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	公衆栄養プログラムの 展開 3)	地域集団の特性別プログラムの展開 2	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	公衆栄養プログラムの 展開 4)	自治体の栄養事業計画プログラムの発表 1	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	公衆栄養プログラムの 展開 5)	自治体の栄養事業計画プログラムの発表 2	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	総合演習Ⅰ Practical Seminar of NutritionⅠ				担当教員	山部 秀子、渡辺 いつみ、岡本 智子、 槌本 浩司		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・3年次・通年				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎			○			○	○
授業目的	臨地実習の概要について学修する。各臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ・Ⅲ、臨床栄養学実習Ⅳ・Ⅴ、公衆栄養学実習Ⅱ）の意義や目的と施設概要、実習内容について学修する。また、臨地実習に臨むにあたり、必要となる知識・技術・態度について理解する。それらの学修をふまえて、臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ）の事前準備を行う。実習の目的に合わせ、基礎知識の整理と復習、臨地実習施設への訪問、施設指導者との打ち合わせ、実習課題の設定、実習課題に対する評価の設定などを実習に備えて進める。臨地実習終了後は臨地実習の成果発表を行い、実習で修得した知識や技術を共用し、定着させる。							
到達目標	1. 各臨地実習の意義・目的・実習施設の特徴を説明できる。 2. 各臨地実習における自主課題の設定とその理由を説明できる。 3. 社会人としてそれぞれの実習施設（学校・介護施設・福祉施設・病院・保健所・保健センター等）において利用者・地域住民・関係者に対応できる態度を身につけている。 4. 実習内容の報告、研究活動の報告を成果として発表、説明できる。							
関連科目	各臨地実習における先修条件科目が該当する。またその他、各臨地実習までに学修してきた専門基礎科目および専門科目と関連する。							
テキスト	臨地実習について資料配布（実習要項など）、課題設定に関する資料、実習ノート							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験		目標達成状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。 1. 提出物 20点：実習の目的、課題の提出 2. その他 80点：配分は下記の通り 実習施設指導者の評価：30点 実習ノートの内容が的確に記載されている 30点 実習報告等による実習目標、課題の達成度について（発表含む）20点					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	20						
	その他	80						
履修上の 留意事項	臨地実習は学生として学ぶとともに、社会人としての責任ある態度が求められる。事前学習において積極的に学び十分に準備を整えること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から臨地実習（給食経営管理論、臨床栄養、公衆栄養）について具体的な説明、準備などの指導を行い、臨地実習へ安心して臨めるよう授業を行う。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1 (山部) (渡辺)	オリエンテーション	臨地実習について 臨地実習の概要				事前：臨地実習要項を読んでおくこと（0.5時間） 事後：臨地実習の目的等についてまとめること（0.5時間）		
2 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習に ついて （臨地実習科目）	給食経営管理論実習Ⅱ・給食経営管理論実習Ⅲについて				事前：臨地実習要項を読み、疑問点を明確にしておく（0.5時間） 事後：目的や内容をまとめる（0.5時間）		
3 (山部) (渡辺)	臨地実習における実習 課題の意義と目的	自主課題の設定と取り組みについて				事前：臨地実習要項を読み、自己の実習課題を明らかにしておく（0.5時間） 事後：課題を精査する（0.5時間）		
4 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習の事前準備・ 施設訪問	施設訪問と事前あいさつ、実習・課題等についての打ち合わせについて				事前：実習の目的、課題等をまとめて授業に臨む（0.5時間） 事後：実習の具他的準備に取りかかる（0.5時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習事前準備・施設訪問	実習指導者との連絡、相談、報告（課題・準備するものなど）	事前：施設訪問への準備をする（0.5時間） 事後：面接等の内容を整理し教員へ報告する（0.5時間）
6 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習 実習課題について（Ⅰ）	自主課題決定・課題評価項目の設（Ⅰ）	事前：課題決定・整理・計画等の準備（0.5時間） 事後：決定後の内容精査等をおこなう（0.5時間）
7 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習に向けての心構え	外部講師による実習に向けての心構え ※特別講師	事前：実習要項を再度確認し、実習に向けての取り組み姿勢を確認する（0.5時間） 事後：実習に向けて学生として取り組むべき態度等について整理する（0.5時間）
8 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習 実習課題について（Ⅱ）	最終確認（基礎知識の確認・実習準備・必要な物等）	事前：実習要項を読み、持ち物等について確認する（0.5時間） 事後：すべての準備の最終確認を行う（0.5時間）
9 (岡本)	臨床栄養学実習Ⅳ・Ⅴ	臨床栄養学実習Ⅳ・臨床栄養学実習Ⅴについて	事前：臨地実習要項を読み、疑問点を明確にしておく（0.5時間） 事後：目的や内容をまとめる（0.5時間）
10 (槌本)	公衆栄養学実習Ⅱ	公衆栄養学実習Ⅱについて	事前：臨地実習要項を読み、疑問点等を明確にしておく（0.5時間） 事後：目的や内容をまとめる（0.5時間）
11 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表準備（Ⅰ）	成果報告会準備（資料整理等）	事前：成果発表のための実習ノート整理（0.5時間） 事後：成果発表内容を整理する（0.5時間）
12 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表準備（Ⅱ）	発表スライドおよび報告書の作成	事前：スライドおよび報告書作成に向け実習ノート整理（0.5時間） 事後：スライドおよび報告書の内容精査を行う（0.5時間）
13 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表（Ⅰ）	成果報告会（Ⅰ）	事前：スライドを読み込む（0.5時間） 事後：評価を整理する（0.5時間）
14 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表（Ⅱ）	成果報告会（Ⅱ）	事前：スライドを読み込む（0.5時間） 事後：評価を整理する（0.5時間）
15 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表（Ⅲ） 臨地実習総合評価	成果報告会（Ⅲ） 臨地実習における課題・評価について	事前：スライドを読み込む（0.5時間） 事後：評価を整理するまた、総合評価結果を整理する（0.5時間）

授業科目	英語文献講読演習 Readings in English Nutritional Articles				担当教員	松川 典子、板垣 康治、津久井 隆行			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	演習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		◎		○					
授業目的	基本的な栄養学・食品学の英単語を理解する。また英語論文などの文献検索方法を習得し、最新の栄養科学論文に触れることで将来、管理栄養士として必要な英語力を身につける。								
到達目標	1. 基本的な栄養学の単語を理解する。 2. 基本的な食品学の単語を理解する。 3. 英語論文などの文献検索ができる。 4. 栄養学関連の科学論文を読み要約できる。								
関連科目	食品科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生化学Ⅰ・Ⅱ、食品機能学								
テキスト	教員の配布資料								
参考書	清水雅子「はじめての栄養単語」（講談社サイエンティフィック） 阿部祚子／正木美知子「英語で読む 21 世紀の健康」（講談社）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		目標の到達状況をレポート、その他で評価する。 担当者ごとにレポート 70％、その他 30％（30 点）とし、合計 100％（100 点）となるように評価し、各担当者の平均を最終評価とする。 その他：授業時の発表、取組み姿勢						
	レポート	70							
	小テスト								
	提出物								
その他	30								
履修上の留意事項	1. 授業前に配布資料の該当ページに目を通し予習する。 2. 授業後には配布資料の配布資料の該当ページに目を通し復習する。 3. 各授業の前後に約 1 時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、添削し返却する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 （松川）	オリエンテーションと英語文献検索方法	英語文献検索方法について理解する。				事前：シラバスを確認する。 事後：文献検索方法を確認し、興味がある文献を検索する。			
2 （松川）	基本的な栄養学英語（1）	基本的な栄養学英単語について解説する。				事前・事後：配布資料を用いて授業内容を予習・復習する。			
3 （松川）	基本的な栄養学英語（2）	基本的な栄養学英単語について解説する。				事前・事後：配布資料を用いて授業内容を予習復習する。			
4 （松川）	基本的な栄養学英語（3）	基本的な栄養学英単語について解説する。				事前・事後：配布資料を用いて授業内容を予習復習する。			
5 （松川）	食品機能学関連の科学論文の要約	自分で検索した食品機能学論文を要約し発表する。				事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。			
6 （津久井）	食品科学論文の要約（1）	食品科学論文を要約し発表する。				事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。			
7 （津久井）	食品科学論文の要約（2）	食品科学論文を要約し発表する。				事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (津久井)	食品科学論文の要約 (3)	食品科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
9 (津久井)	食品科学論文の要約 (4)	食品科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
10 (津久井)	食品科学論文の要約 (5)	食品科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
11 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約 (1)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
12 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約 (2)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
13 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約 (3)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
14 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約 (4)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
15 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約 (5)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。

授業科目	地域連携ケア論Ⅲ Theory of Community-based Care III				担当教員	氏家 志乃、槌本 浩司、澤田 優美、小川 克子		
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	○	◎	
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに関わる多職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護師、管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。 そのうち3年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱでの内容をもとに、多職種・協働して活動を展開する必要性と、その様なシステムを構築するまでのプロセス、そのプロセスにおける必要な要素について実際の活動例をもとに学修する。その学修を通して、保健医療チームにおける多職種の理解とともに、保健医療におけるチームアプローチの重要性を理解し、自身が目指す職業の専門性、役割について考察する。また、当事者である生活者が地域の課題解決のプロセスに参画することの必要性についても考察する。							
到達目標	・地域の課題を解決する支援について理解する。 ・保健医療福祉チームにおける多職種・機関との連携・協働について理解する。 ・住民の健康な生活を支える各種法律、制度（介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法等）を理解する。 ・地域の健康課題を解決していくために必要なパートナーシップについて理解する。 ・地域で生活する人々が、課題解決のプロセスに主体的に参加する必要性を理解する。							
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連します。							
テキスト	なし							
参考書	開講時に提示する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40％）を予定している。 また、目標の達成状況をレポート（60％）する。 詳細は授業の中で説明する。					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物	40						
	その他							
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱと一体の科目として学修すること。 各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。 また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。							
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義を展開します。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1 (氏家)	授業ガイダンス	授業ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅱ」の振り返り。生活を支える専門職の専門性と役割は何か。				授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には配布資料を確認し、内容を復習すること。		
2 (槌本)	多職種・機関との連携・協働	保健医療福祉チームにおける各保健医療専門職者、他機関の役割、連携、協働の必要性を理解する。				授業前に前回の学修内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。		
3 (氏家)	多職種・機関との連携・協働に参画している専門職者からの講話	外部より実際に多職種・機関との連携・協働に参画している専門職の先生を招き、多職種・機関との連携や協働の実際を講義いただく。				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。		
4 (小川)	地域ケアを支える各民生委員・民生児童委員からの講話	民生委員・民生児童委員の役割と多職種・機関との連携・協働の実際について				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。		
5 (澤田)	住民の健康な生活を支える各種法律、制度など	介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法などについて理解する。				授業前に前回の学修内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (小川)	住民参画とパートナーシップ	住民が地域の課題解決のために専門職と協働し、専門職が住民とパートナーシップを気づくことの重要性について	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。
7 (澤田)	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅠ	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その１）	授業前に前回の授業内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
8 (槌本)	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅡ	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その２）	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

授業科目	給食経営管理論実習Ⅱ Field Practice in Nutrition and Food Service ManagementⅡ				担当教員	山部 秀子、渡辺 いつみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	◎		○	○
ねらい	給食業務を行うために必要な、食事計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得するために、実践の場で学修する。給食の運営に必要な給食費・献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本的業務に関する実務を理解する。高齢者・介護施設等において実習し、それぞれの施設の特徴にあわせた給食の運営について、管理栄養士の業務や役割を実践の場で学修する。							
実習目標	1. 給食運営に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本的業務について具体的に説明できる 2. 施設の特徴に応じた給食の運営について具体的に説明できる。							
関連科目	給食経営管理論Ⅰ・給食経営管理論Ⅱ・給食経営管理論実習Ⅰ、総合演習Ⅰの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する。							
実習内容	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等の給食提供施設における実習。 具体的な実習内容等については、実習要領等を用いオリエンテーションにて説明する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験		目標の達成状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする 1. 提出物 20点：実習の目的、課題の提出 2. その他（配分は以下の通り） 実習指導者の評価：30点 実習ノートの内容が的確に記載されている 30点 実習報告内容（目的や課題の達成について）評価（発表を含む）20点					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	20						
	その他	80						
履修上の留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. 本実習は総合演習Ⅰにおいて、事前準備等を行い、事後には成果発表を行う。 3. 給食経営管理論や関連科目で学修したことが基礎となるため、事前に学修すること。 4. 社会人として実践の場で責任を果たすことを自覚し、自己管理を厳しく行うこと。 5. 不明な点等については、調べる（質問する等を含む）等し、問題点を明確にし、正しい知識を修得しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨地実習への準備、実習内容、注意点などについて具体的に授業を行い、各自が安心して実習に取り組めるよう指導する。また、実習施設においては施設職員、管理栄養士など実務指導者から実践的な指導を受けることによって、管理栄養士の業務が具体的に理解できる授業である。							
実習方法	具体的な内容についてはオリエンテーションで説明する。 1. オリエンテーション（総合演習Ⅰにて） 給食経営管理論実習Ⅱ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設の概要把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備 2. 実習 実習施設（特別養護老人ホーム等）における実習（45時間） 3. 事後指導 実習成果のまとめ実習 実習ノート等の提出 実習報告会準備（スライドおよび報告書） 総合演習Ⅰの成果発表会における発表							
実習施設	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等の給食提供施設							

授業科目	食品機能学 Food Functional Science				担当教員	松川 典子		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		◎				○
授業目的	近年、食品は 3つの機能性から評価され、とくに生理機能については、健康維持・増進、疾病の予防・症状の改善を目的とした食品成分の活用、あるいは食品開発などの側面から注目されている。本講義では、生理機能に関与する食品成分について、その効果、作用機序を教授し、管理栄養士に求められる食品の生理機能に関する知識の修得、その種の情報を適切に判断するための能力を最新エビデンスに基づき身につける。							
到達目標	1. 機能性食品に対する行政上の位置づけ、法的規制、表示等を説明できる。 2. 生理機能を発揮する食品成分の種類、作用のメカニズムを説明できる。 3. 新たな開発が進む様々な機能性食品を科学的に説明できる。							
関連科目	食品科学Ⅰ、基礎栄養学							
テキスト	青柳康夫「食品機能学」(建帛社)							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	80	授業内で前回の内容に関する小テスト(20%)を実施し、全体の授業内容に関連する定期試験(80%)を実施することで学習到達度を評価する。					
	レポート							
	小テスト	20						
	提出物							
	その他							
履修上の 留意事項	関連科目(食品科学Ⅰ、基礎栄養学)の内容を復習した上で授業に臨むこと。各授業の前後に1～2時間の復習を要する。							
課題に対するフィ ードバックの方法	小テストは終了後に解答・解説する。							
実務経験を 活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	食品機能学	食品機能学の講義概論、ガイダンス				事前:シラバスを確認する。教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
2	栄養表示基準、機能性食品	食品表示法、保健機能食品の制度、対象食品について				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
3	抗酸化性機能成分	活性酸素、抗酸化メカニズム、抗酸化を有する食品について				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
4	難消化性・微生物活性機能1	食物繊維の働き、消化吸收促進と代謝改善機能について				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		
5	難消化性・微生物活性機能2	難消化、吸収阻害および微生物活性機能食品の三次機能について				事前:教科書を用いて該当部分を予習する。(1時間) 事後:教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1時間)		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	脂質代謝関連機能 1	中鎖脂肪酸・植物ステロールの機能について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
7	脂質代謝関連機能 2	n-3 系脂肪酸、n-6 系脂肪酸、コレステロールの機能について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
8	酵素阻害、酵素活性化機能	血圧上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
9	消化関連酵素阻害と糖尿病	血糖値上昇抑制成分の種類と作用機構について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
10	免疫系に及ぼす機能 1	免疫機能を活性化する成分について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
11	免疫系に及ぼす機能 2	食物アレルギーについて	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
12	神経系に及ぼす機能	神経系に影響を及ぼす食品成分について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
13	時間栄養学	時間栄養学とは、からだのリズムと栄養について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
14	抗加齢医学	抗加齢医学とは、抗加齢成分・食品について	事前：教科書を用いて該当部分を予習する。(1 時間) 事後：教科書、配布資料を用いて授業内容を復習する。(1 時間)
15	まとめ	講義のまとめ、試験	事前：これまでの授業内夜を復習する。(1 時間) 事後：試験問題を復習する。(1 時間)

授業科目	管理栄養士総合演習 Practical Seminar of Registered Dietetics				担当教員	坂本 恵、荒川 義人、板垣 康治、岡本 智子、 千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、山部 秀子、 金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、 氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	必修			
授業形態	演習				単位数	1単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎	◎	◎	○	○	
授業目的	専門教育科目の学修を通し、4年間で修得してきた管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目の関連性を理解したうえで、食と健康に関する問題点や疑問点を明確にし、修得した各科目を横断的かつ総合的に判断し、問題解決する能力を身につける。また、4年間の成果の総仕上げと位置づけ、修得した知識と技術を統合し、管理栄養士として社会で活躍できる実践力を再確認し、補足する。								
到達目標	1. 専門基礎科目・専門科目における学修目標を習得している。 2. 各科目を横断して、問題解決できる総合的な能力を身につけている。 3. 卒業後の置かれた立場で、管理栄養士として、職務を実践できる基礎的な知識と技術を身につけている。 4. 管理栄養士国家試験合格のための総合力を修得する。								
関連科目	各教員が担当している管理栄養士に必要な基礎教育科目と専門教育科目								
テキスト	資料を配布する								
参考書	クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点						
	試験		到達状況を小テストおよび取り組み姿勢により総合的に評価する。 模擬試験、補講等を実施するので必ず出席すること。 その他：取り組み姿勢						
	レポート								
	小テスト	70							
	提出物								
	その他	30							
履修上の 留意事項	管理栄養士の国家試験の対策として重要な科目である。必ず出席し努力を継続して実力アップをはかること。模擬試験などの成績は変動するが、努力を継続することが国家試験合格の道となる。補講等は必ず受講する事が基本事項である。臨地実習や就活などで欠席する場合は必ずその旨を教員に事前に連絡すること。進捗状況等により補講内容等の順序が変更になることがある。各授業後に理解度を確認するために行われる小テストは必ず受けること。基準点に達しない場合は補講、課題、再テストなどを行う。								
課題に対するフィードバックの方法	小テスト終了後、解答を渡すので自己採点する。間違ったところは配布プリントなどで復習するよう促す。わからない箇所がある場合は個別に対応する。								
実務経験を 活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (坂本)	ガイダンス 専門基礎科目の知識 の確認	管理栄養士総合演習について 管理栄養士に必要な基礎的な知識について 専門基礎科目の補講（食べ物と健康）				管理栄養士国家試験について予 習する。授業内容を復習する。勉 強計画を立てる（2時間）。			
2 (松川)	専門科目の知識の確 認	専門科目の補講（基礎栄養学）				基礎栄養学を国家試験過去問題で 予習する。授業内容を復習する（2 時間）。			
3 (千葉)	専門基礎科目の知識 の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）				人体の構造と機能及び疾病の成 り立ちを国家試験過去問題で予 習する。授業内容を復習する（2 時間）。			
4 (金高)	専門基礎科目の知識 の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）				人体の構造と機能及び疾病の成 り立ちを国家試験過去問題で予 習する。授業内容を復習する（2 時間）。			
5 (津久井)	専門基礎科目の知識 の確認	専門基礎科目の補講（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）				人体の構造と機能及び疾病の成 り立ちを国家試験過去問題で予 習する。授業内容を復習する（2 時間）。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (荒川)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
7 (濱岡)	専門基礎科目の知識の確認	専門基礎科目の補講（食べ物と健康）	食べ物と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
8 (板垣)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（社会環境と健康）	社会環境と健康を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
9 (岩部)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（応用栄養学）	応用栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
10 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
11 (百々瀬)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（栄養教育論）	栄養教育論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
12 (山部・渡辺)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（給食経営管理論）	給食経営管理論を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
13 (槌本)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（公衆栄養学）	公衆栄養学を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
14 (岡本・氏家)	専門科目の知識の確認	専門科目の補講（臨床栄養学）	臨床栄養学（応用問題）を国家試験過去問題で予習する。授業内容を復習する（2時間）。
15 (坂本)	全科目の確認	全科目の総まとめ	国家試験過去問題を確認し覚える（2時間）。

授業科目	臨床栄養学Ⅳ Clinical Nutrition Ⅳ				担当教員	岡本 智子		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	
授業目的	内分泌疾患、電解質異常、がん、手術、周術期患者の管理、クリティカルケア、摂食機能の障害、身体・知的障害、乳幼児・小児疾患、妊産婦・授乳婦の疾患、老年症候群等の疾患等について病態別栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画、実施、評価、フィードバック）の方法を修得する。栄養管理計画作成に必要な情報収集と理由、情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画の作成とその根拠、モニタリング、評価・計画の作成について学修する。さらに、チーム医療における管理栄養士の役割（実践症例の栄養評価及び栄養計画の作成・マネジメント）、他専門職との連携等について具体的に理解を深める。							
到達目標	1. 臨床栄養学Ⅱ、Ⅲにあげた到達目標を達成したうえで、さらに今回学修した疾患について知識を積み上げて修得している。 2. がんの化学療法と栄養管理の問題点、解決法等を考えることができる。 3. 高齢者の栄養管理における問題点と解決法等を考えることができる 4. 妊娠期・周産期の栄養管理と問題点、解決等を考えることができる。 5. クリティカルケアにおける栄養管理について説明できる。 6. 食物アレルギーを理解し、具体的な食事の管理について説明できる							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ							
テキスト	上原誉志夫外 第4版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館（2022年度臨床栄養学Ⅲで使用のもの）							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点					
	試験		課題レポート 40％ その他：小テスト 50%、授業態度 10% で評価する					
	レポート	40						
	小テスト	50						
	提出物							
	その他	10						
履修上の 留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。興味を持って、積極的に授業に参加してほしい。							
課題に対するフィードバックの方法	レポートにはコメントを付して返却する。小テストにはその場で解答と説明を行う。							
実務経験を 活かした教育内容	高度な栄養管理が必要な疾患を臨床の現場をイメージさせながら、症例をもとに講義を進め、また具体的な栄養ケアが実践できるように課題を出しながら、技術やスキルを身につけていくように授業を進めていく							
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1	疾患・病態別栄養管理 (1)		臨床栄養学Ⅲの振り返り、この授業の目的、授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出について			シラバス、教科書を確認して授業の準備をする（2時間）。授業の内容をまとめ、復習する（2時間）		
2	疾患・病態別栄養管理 (2)		内分泌疾患（甲状腺・副甲状腺・副腎）			事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
3	疾患・病態別栄養管理 (3)		Ⅰ型糖尿病、小児糖尿病			事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
4	疾患・病態別栄養管理 (4)		小児の疾患における栄養管理 先天性代謝異常			事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
5	疾患・病態別栄養管理 (5)		妊産婦の疾患：妊娠高血圧、妊娠糖尿病			事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		
6	疾患・病態別栄養管理 (6)		症候・症状の原因、鑑別法と栄養障害の評価（フィジカルアセスメント）			事前：テキスト・配布資料により予習する（2時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2時間）		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	疾患・病態別栄養管理 (7)	肝臓・膵臓疾患 代償期・非代償期の栄養管理	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
8	疾患・病態別栄養管理 (8)	がんの栄養管理 : 化学療法、放射線療法、悪液質	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
9	疾患・病態別栄養管理 (9)	がんの栄養管理とチーム医療(緩和ケアチーム)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
10	疾患・病態別栄養管理 (10)	精神疾患患者の栄養管理 認知症(GS 谷文乃氏)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
11	疾患・病態別栄養管理 (11)	高齢者の栄養管理とチーム医療	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
12	疾患・病態別栄養管理 (12)	周術期における栄養管理 電解質異常、アシドーシス・アルカローシス	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
13	疾患・病態別栄養管理 (13)	クリティカルケア:ICU・CCUにおける栄養管理とチーム医療	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
14	疾患・病態別栄養管理 (14)	摂食機能障害、身体・知的障害 口蓋裂・顎裂	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
15	疾患・病態別栄養管理 (15)	食物アレルギー まとめ	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)

授業科目	臨床栄養学実習Ⅲ Clinical Nutrition Practicum III				担当教員	岡本 智子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○	◎	○
授業目的	提示された合併症を伴う複雑な困難症例について、栄養ケア計画の作成に必要な情報を整理し、栄養アセスメントを行う。栄養アセスメントの総合評価として、徴候・症状等の基礎データを整理しプロブレムリストを作成する。それらをふまえて栄養ケア計画を作成するとともに、モニタリング、評価・計画の作成、チーム医療における栄養管理の展開と手順について実習を通して理解する。提示された症例についての栄養ケア計画から評価、チーム医療における展開について、プレゼンテーションを行う。発表後はグループディスカッションによって、臨床現場における実践力、応用力を養う。							
到達目標	1. 栄養ケアプロセスが理解できる基本的な疾患症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成することができる。 2. 基本的な疾患症例や合併症を伴う疾患、また病態の変化にあわせた栄養障害疾患症例を対象にについて栄養アセスメント・栄養診断、栄養ケア計画作成し、モニタリング・評価が実施できる。 3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画作成と栄養・食事療法を実践すべき献立の評価を行なうことができる。 4. 提示症例の栄養評価、ケア計画をチーム医療の場で根拠に基づいて説明することができる。 5. 提示症例について、口頭及びポスターなどで症例報告のプレゼンテーションができる。							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ							
テキスト	なし							
参考書	上原晋志夫外 「第4版 最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際」 光生館 「臨床栄養学 栄養ケアプロセス演習－傷病者個々人の栄養ケアプラン作成の考え方－」							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 課題レポート・提出物：50％ その他：グループ活動と発表：50％で評価する。					
	レポート	25						
	小テスト							
	提出物	25						
	その他	50						
履修上の留意事項	示された症例については自ら考え、さらにグループ内で検討し栄養ケアプランを立案し実践してほしい							
課題に対するフィードバックの方法	症例をまとめ発表するところでコメントを付す							
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める							
回数 (担当)	学習の主題		授業内容				事前・事後学習	
1	ガイダンス 授業の目的		職業倫理 守秘義務 栄養ケア・マネジメントについて				シラバス、テキストを確認して授業の準備をする (2 時間)。授業の内容をまとめ、復習する (2 時間)	
2	栄養ケアプロセス (栄養アセスメント、栄養診断、評価、モニタリング)		病棟に行く準備 栄養評価 患者への説明など 栄養ケアプロセスに則っての流れを知る				事前：配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)	
3	糖尿病と栄養管理 (1)		長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理①栄養アセスメントと栄養診断について				事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)	
4	糖尿病と栄養管理 (2)		長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理②栄養管理計画書作成				事前：テキスト・配布資料により予習する (2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる (2 時間)	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	糖尿病と栄養管理 (3)	長期コントロール不良糖尿病患者の栄養管理③他グループとのディスカッション 患者への説明	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
6	消化器術後の栄養管理 (1)	胃がん切除後における栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
7	消化器術後の栄養管理 (2)	胃がん切除における栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
8	消化器術後の栄養管理 (3)	胃がん切除における栄養管理 ②入院から外来へのフォローアップについて	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
9	肝疾患の栄養管理 (1)	NASH の栄養管理 ①栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
10	肝疾患の栄養管理 (2)	NASH の栄養管理 ②プレゼンテーション 患者への栄養指導と栄養指導報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
11	肝疾患の栄養管理 (3)	肝硬変の栄養管理③栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
12	肝疾患の栄養管理 (4)	肝硬変の栄養管理(蛋白不耐症) ④栄養アセスメントと栄養診断、栄養管理計画書作成 患者への説明。患者への栄養指導と報告書作成(SOAP)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
13	栄養投与方法	静脈栄養・経腸栄養のプランニング方法	前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
14	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)
15	栄養投与方法	栄養投与方法の確認:濃厚流動・輸液の実際(シミュレーター、ポンプ、輸液セット)	事前:テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)

授業科目	栄養サポートチーム論 Theory of Nutrition Support Team				担当教員	岡本 智子、氏家 志乃、看護学科教員（未決定）			
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	○		◎	○	
授業目的	栄養サポートチーム(NST)の活動現場を知り、チーム医療連携における専門職としての基本的な知識、技術、態度を学ぶ。								
到達目標	NST活動におけるチーム医療連携の意義を説明できる。 NSTのケアを必要とする対象者に対して管理栄養士として栄養ケアプロセスに則り、栄養アセスメント、栄養計画立案、評価を行うことができる。また、診療録（栄養ケア記録）書けるようになる。 チームとして機能するために、他職種とのコミュニケーションの重要性を理解する。 課題にむけて専門職種間で連携するための役割を理解し行動に結び付けることができる。								
関連科目	開講時までに示す								
テキスト	なし								
参考書	初回授業で紹介する								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		レポート 40％（岡本 10％・氏家 10％・看護学科教員 10％・10％） 提出物：課題 20％（岡本 5％・氏家 5％・看護学科教員 5％・5％） その他：発表・資料作成・チーム活動 40％（岡本 10％・氏家 10％・看護学科教員 10％・10％）						
	レポート	40							
	小テスト								
	提出物	20							
	その他	40							
履修上の留意事項	具体的症例の提示と多職種からのコメントを活かし栄養ケアに活かす								
課題に対するフィードバックの方法	提出物やレポートは翌週の授業時にコメントを付して返却する								
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。								
回数（担当）	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 （岡本）	チーム医療の理解についてⅠ	ガイダンス。チーム医療とは何か。チーム医療における管理栄養士の役割について。他職種の役割について。				事前にシラバスを読んでおく（事前学習 1 時間）。			
2 （氏家）	栄養サポートチームの活動を理解する 1-1	困難症例（糖尿病性腎症）に対する栄養評価と栄養ケア計画を立案し検討をする				事前：配布資料により予習する（2 時間） 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2 時間)			
3 （看護学科教員）	栄養サポートチームの活動を理解する 1-2	グループで困難症例（糖尿病性腎症）に立案した計画の評価と再プランの設定。栄養ケア記録を作成する。発表をするための準備をする。				事前：配布資料により予習する（2 時間） 事後：授業内容を整理し、まとめる(3 時間)			
4 （氏家）	栄養サポートチームの活動を理解する 1-3	困難症例（糖尿病性腎症）に症例をまとめ、発表した症例を検討する。教員からのアドバイス。				事前：配布資料により予習する（2 時間） 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2 時間)			
5 （看護学科教員）	栄養サポートチームの活動を理解する 2-1	困難症例（褥瘡・低栄養）に対する栄養評価と栄養ケア計画を立案したものを検討する				事前：配布資料により予習する（2 時間） 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2 時間)			
6 （看護学科教員）	栄養サポートチームの活動を理解する 2-2	困難症例（褥瘡・低栄養）に立案した計画の評価と再プランの設定。栄養ケア記録を作成する。発表をするための準備をする。				事前：配布資料により予習する（2 時間） 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(3 時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (看護学 科教員)	栄養サポートチームの 活動を理解する 2-3	困難症例（褥瘡・低栄養）に症例をまとめ、発表した症例を検討する。	事前：配布資料により予習する（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノ ートにまとめる（2 時間）
8 (看護学 科教員)	症例に基づく栄養管理 を学ぶ	発表した症例に対してディスカッション。教員からのアドバイ ス。	全体を振り返り、レポートをまと める（2 時間）

授業科目	地域栄養活動演習 Community Nutritional Program Practicum				担当教員	槌本 浩司		
対象学科・年次・学期	栄養学科・4 年次・前期				選択・必修	選択		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○		○		◎		
授業目的	地域栄養活動の基本は、地域に住む全ての人々の健康・生活の質向上という目的をもって、地域の活動体を組織し、健康の保持・増進に他職種と連携して取り組むことである。地域栄養活動における各種サービスやプログラムの調整、社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理の仕組みについて、実際の事例をもとに学修する。また、札幌市等の公表データをもとに、アセスメント、課題抽出、目標設定、媒体作成、模擬活動等を通して実践力を身につける。							
到達目標	1. 健康増進プログラムの対象・目的を理解している。 2. 集団の食事評価についての方法を説明できる。 3. 地域、職場等における食生活改善プログラムを作成できる。 4. 統計的なデータをもとに、集団を評価することができる。 5. プレゼンテーション力を身につけている。							
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、栄養教育論、応用栄養学							
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版) 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。							
参考書	テーマごとにプリントを配布する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況をレポート、提出物、その他で評価する。 その他：課題、活動に取り組む姿勢 20% 活動報告発表 (内容含む) 20%					
	レポート	30%						
	小テスト							
	提出物	30%						
	その他	40%						
履修上の留意事項	実践的な学修であり学外の方々に接する機会等がある、社会人としての基本的姿勢、礼儀をもって対応することは勿論、十分に事前学修、知識の整理をしておくことが必要である。活動報告等に要する授業時間の割り振りは履修者数により変動することがある。							
課題に対するフィードバックの方法	演習時個々に課題の進捗状況に合わせコメントを実施するとともに、課題発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康栄養マネジメント全般の内容を演習に織り交ぜながら、地域栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	ガイダンスと自治体における栄養活動 1_1)	活動の実践と展開の方法について				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2 時間)。		
2	自治体における栄養活動 1_2)	健康づくり関係法規について要約し解説できる。 行政栄養士の業務の違い (通知文書、実務の解釈) 都道府県・政令市等・市町村の役割分担の違い ・地域保健法に基づく役割分担が説明できる。				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2 時間)。		
3	政令指定市における健康・栄養活動 1_1)	札幌市 (各区・北海道・全国) の統計情報を要約できる。 (主要死因・医療費・生活習慣病) 健康札幌 21 と健康日本 21 (国) の比較 北海道、札幌市の健康増進計画について				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2 時間)。		
4	政令指定市における健康・栄養活動 1_2)	札幌市 (各区・北海道・全国) の統計情報を要約できる。 主要死因、SMR の推移と現状について 札幌市の健康増進計画とその現状値について				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う (1 時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2 時間)。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅰ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅰ-1 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
6	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅰ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅰ-2 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	健康づくり事業実施案 発表Ⅰ-3)	健康づくり講話資料の作成Ⅰ-3 食（乳幼児）に関する悩み解消資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-1 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-2 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅱ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅱ-3 離乳食に関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-1)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-1 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-2)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-2 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	健康づくり事業実施案 作成準備Ⅲ-3)	健康づくり講話資料作成Ⅲ-3 健康づくりに関する資料の考案	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-1	健康づくり講話の発表Ⅰ-1 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	健康づくり事業実施案 の発表Ⅰ-2	健康づくり講話の発表Ⅰ-2 講話資料の整理と印刷と発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	総合演習Ⅱ Practical Seminar of NutritionⅡ				担当教員	百々瀬 いづみ、板垣 康治、岡本 智子、坂本 恵、千葉 仁志、濱岡 直裕、山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、岩部 万衣子、氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・4 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	演習				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		○	○	○	○	○	◎	◎
授業目的	各専門分野を横断して、専門分野のこれまでの学びで修得した基礎知識や技術に加え、臨地実習を通して実践的に修得した知識・技術、管理栄養士としての役割の理解をふまえて、グループワークで課題に取り組み、知識・技術を統合し、応用・活用して課題解決を図るとともに、この過程を通してコミュニケーション能力、お互いの知識・技術の交換や役割分担等、基礎的能力に加えてさらに各自が管理栄養士としての能力を高めることを目的とする。複数の教員の指導により各専門分野の知識を統合して演習形式で学修を進める。							
到達目標	管理栄養士として活動できる基礎的な能力に加えて、活用・応用できる能力が身についている。							
関連科目	1～3 年次に履修した各分野の既修科目が全て関連する。							
テキスト	特になし(資料を配付する)							
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の達成状況を下記の視点から評価する。 ・提出物：分野ごとに課題に沿った資料作成を課す。 (レポート・プレゼンテーション資料等) ・その他：授業時の発表、取り組み姿勢を評価する。					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
	その他	50						
履修上の留意事項	1.各分野の苦手、理解不足などを解消するために、事前に自習して、積極的にとりくむこと。 2. 目標を共有し、メンバーが役割を分担しチームワークで成果を出すように考えること。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物に関して授業内で解説したり、コメントを付したりして返却する。							
実務経験を活かした教育内容	各分野の担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら授業を効果的に進めていく。							
回数 (担当)	学習の主題		授業内容			事前・事後学習		
1 (百々瀬) (坂本) (松川)	ガイダンス、 フードサイエンスⅠ		総合演習Ⅱの概要 食品機能と調理			事後学習に 1 時間ほど要する		
2 (津久井) (金高)	フードサイエンスⅡ		食品機能開発 健康増進・疾病予防と食品の機能			事後学習に各 1 時間ほど要する		
3 (板垣)	フードサイエンスⅢ		食品機能とアレルギー			事後学習に 1 時間ほど要する		
4・5 (槌本) (濱岡)	栄養疫学		データの収集、管理、応用について EBM にもとづいた評価、治療について、具体的なデータの扱い方			事前・事後学習に各 1 時間ほど要する		
6～9 (岡本) (氏家)	臨床栄養学		臨床現場における疾患別・病態別の栄養管理			事前・事後学習に各 1 時間ほど要する		
10～12 (百々瀬) (坂本) (槌本) (渡辺)	地域社会における 栄養活動		地域社会における根拠にもとづいた評価、栄養活動			事前・事後学習に各 1 時間ほど要する		
13～15 (百々瀬) (千葉) (山部) (氏家) (岩部)	栄養教育		ライフステージ(大学生)と栄養教育 根拠に基づいた栄養教育の実施			事前・事後学習に各 1 時間ほど要する		

授業科目	卒業研究 Graduation Study				担当教員	坂本 恵、安念 保昌、板垣 康治、岡本 智子、 加藤 隆、千葉 仁志、濱岡 直裕、百々瀬 いづみ、 山部 秀子、金高 有里、槌本 浩司、松川 典子、 氏家 志乃、津久井 隆行、渡辺 いつみ			
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	選択			
授業形態	演習				単位数	2単位			
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○		◎					
授業目的	管理栄養士としての専門分野において修得した知識等を総合的に活用し、研究課題を設定、研究計画作成、資料の収集、実験や資料の分析、報告書の作成、ディスカッションなどを繰り返しながら、最終的な成果を発表するとともに論文を作成する。社会で求められる専門職業人としての研究能力を修得する。								
到達目標	1. 研究テーマについて専門的に追求し、研究成果を口頭で発表するとともに論文にまとめる。 2. 卒業研究を通して、発想力、分析力、問題解決能力を身につける。 3. 実験・調査・ゼミ活動、発表を通してコミュニケーション力、プレゼンテーション力を身につける。 4. 事象について、多くの人に理解されるような客観的な見解をまとめ、記述ができる力を身につける。								
関連科目	担当教員の専門分野（担当科目）と関連する								
テキスト	資料を配布する。各自のテーマが決定してから、ゼミ等を通して参考書等を検索する。								
参考書									
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 （％）	評価基準・観点						
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する 提出物：研究テーマに関するレポートと調査計画書 10％ その他：研究に対する取組姿勢 40％、口頭発表 10％、 研究論文内容 40％						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	10							
	その他	90							
履修上の 留意事項	卒業研究は各自がテーマを決定し、予備研究、本研究等を通して科学研究の方法を学びながら、研究論文完成へつなげてゆく。ゼミ発表、実験、調査、研究発表、論文作成について各自が積極的にとりくむ必要性から、研究内容によって個別対応になることがある。各自、授業外学習時間は必須である。進捗状況により内容が前後することがある								
課題に対するフィ ードバックの方法	担当教員が研究テーマに関連する内容について指導し添削を行う。								
実務経験を 活かした教育内容	各担当者が実務経験を活かして、適切な助言をしながら効果的に進めていく。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習		
1 (坂本)	オリエンテーション	卒業研究の今後の予定と、研究テーマの検討について					研究テーマについて調べ検討する。事前事後学習として1～2時間を要する		
2 (全担当 教員)	研究方法について	研究方法の検討、文献検索について					事前・事後学習として1～2時間を要する		
3 (全担当 教員)	研究計画について	文献資料収集、研究計画作成について					事前・事後学習として1～2時間を要する		
4 (全担当 教員)	研究計画検討①	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する					事前・事後学習として1～2時間を要する		
5 (全担当 教員)	研究計画検討②	研究テーマに沿った研究計画を作成し検討する					事前・事後学習として1～2時間を要する		
6 (全担当 教員)	研究計画書確定	研究テーマに沿った研究計画書を確定する					事前・事後学習として1～2時間を要する		
7 (全担当 教員)	研究活動①	研究計画に基づき、テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等					事前・事後学習として1～2時間を要する		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (全担当 教員)	研究活動②	テーマに沿った予備調査・実験等の準備を含む研究活動等	事前・事後学習として1～2時間を要する
9 (全担当 教員)	研究活動③	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
10 (全担当 教員)	研究活動④	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
11 (全担当 教員)	研究活動⑤	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
12 (全担当 教員)	研究活動⑥	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
13 (全担当 教員)	研究活動⑦	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
14 (全担当 教員)	研究活動⑧	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理・分析等）、 中間報告会の準備	事前・事後学習として1～2時間を要する
15 (全担当 教員)	研究活動⑨	卒業研究中間報告会	事前・事後学習として1～2時間を要する
16 (全担当 教員)	研究活動⑩	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
17 (全担当 教員)	研究活動⑪	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
18 (全担当 教員)	研究活動⑫	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
19 (全担当 教員)	研究活動⑬	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
20 (全担当 教員)	研究活動⑭	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
21 (全担当 教員)	研究活動⑮	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
22 (全担当 教員)	研究活動⑯	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
23 (全担当 教員)	研究活動⑰	テーマに沿った研究活動（調査・実験、データ整理等）	事前・事後学習として1～2時間を要する
24 (全担当 教員)	研究報告会準備①	発表スライドの作成	事前・事後学習として1～2時間を要する
25 (全担当 教員)	研究報告会準備②	発表スライドの確認とゼミ発表	事前・事後学習として1～2時間を要する
26 (全担当 教員)	研究報告会	研究成果報告会	事前・事後学習として1～2時間を要する
27 (全担当 教員)	卒業研究論文作成①	成果発表会等の結果をふまえて論文を作成する	成果報告会における指摘事項の再確認と論文作成に3時間程度要する
28 (全担当 教員)	卒業研究論文作成②	卒業研究論文の作成	作成した内容の確認、今後の予定の確認と作成に3時間程度要する

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
29 (全担当 教員)	卒業研究論文作成③	卒業研究論文の作成	引き続き内容確認、作成に 3 時間 程度要する
30 (全担当 教員)	卒業研究論文作成④	卒業研究論文の完成	作成した内容について読み込み、 確認し提出するため 3 時間程度要 する

授業科目	地域連携ケア論Ⅳ Theory of Community-based Care Ⅳ				担当教員	澤田 優美、槌本 浩司、氏家 志乃、小川 克子			
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・4年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○	○	○		○	◎	○	
授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る多職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護師、保健師、管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、4年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を活用しながら、提示された事例が、住み慣れた地域社会で自分らしく生活するために、どのような支援やシステムが必要なのかを具体的に考え、解決策を提示する。その過程で、学生自身が目指す専門職の立場から、どのような役割を担うことができるかについて考察を深める。								
到達目標	・地域で生活する人々の視点で、事例の生活上、および健康上の課題を明らかにできる。 ・事例の課題解決のために必要な支援や地域ケアシステム・ネットワークについて提言できる。 ・専門職としての多職種連携の在り方を通して、自己の課題を考察できる。								
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連する。								
テキスト	開講時に提示する								
参考書	開講時に提示する								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定している。 また、目標の達成状況をレポート（60%）する。 詳細は授業の中で説明する。						
	レポート	60							
	小テスト								
	提出物	40							
	その他								
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲと一体の科目として学習すること。 各授業の前後に 3～4 時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。 また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。								
実務経験を 活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (澤田)	授業ガイダンス	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲ」の振り返り。地域における生活者の健康課題と健康生活を支える専門職の専門性と役割について				授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には配付資料を確認し、内容を復習すること。			
2 (槌本)	地域における生活者の支援Ⅰ	地域における生活者の事例紹介				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
3 (氏家)	地域における生活者の支援Ⅱ	地域における生活者の健康課題の発見についてⅠ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
4 (小川)	地域における生活者の支援Ⅲ	地域における生活者の健康課題の発見についてⅡ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
5 (小川)	地域における生活者の支援Ⅳ	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅠ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			
6 (槌本)	地域における生活者の支援Ⅴ	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅡ				授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (氏家)	地域における生活者の支援 VI	事例が抱える健康課題解決のために必要な支援やシステムについて	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。
8 (澤田)	地域における生活者の支援 VII	専門職としての多職種連携のあり方と事故の課題について	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。

授業科目	給食経営管理論実習Ⅲ Field Practice in Nutrition and Food Service Management III				担当教員	山部 秀子、百々瀬 いづみ、渡辺 いつみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	選択必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎	○	○	◎	
ねらい	児童生徒の栄養管理を中心に給食の運営や関連の資材（設備、食材、人材、情報、資金等）を総合的に判断して、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を実践の場において養い、マーケティングの原理、給食の組織や運営管理等が実践の場でどのように活用されているのか等を実践的に学修し、学内で学んだ知識と技術の統合を図る。また児童生徒個々の特徴を考慮した上で、栄養管理のために喫食状況の把握、栄養・食事管理、食材管理、作業管理の分析、衛生管理、衛生教育、経営分析等を通して課題を発見し、問題解決のための検討などについて実践の場で学修する。さらに他部署・部門、多職種との連携を図るための方法や管理栄養士の役割を学修する。								
実習目標	1. 栄養ケア・マネジメントの基礎的知識、技術について説明できる。 2. 栄養管理において重要な課題をあげ、その解決のため計画を立案できる。 3. 多職種連携における管理栄養士の役割を説明できる。								
関連科目	給食経営管理論1、給食経営管理論Ⅱ、給食経営管理論実習Ⅰ、給食経営管理論実習Ⅱの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する。								
実習内容	札幌市内の小学校等における実習								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：20点（実習の目的、自主課題、施設課題） その他：80点（配分は以下の通り） 施設指導者の評価 30点 実習ノートの内容 30点 実習報告書の内容（実習の目的、課題の達成度について（発表を含む）20点						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	20							
	その他	80							
履修上の留意事項	臨地実習で身につけた知識や技術をさらに定着させ、より深く管理栄養士の業務を理解するために、積極的に取り組むこと。これまでに学修してきたことを復習、整理しておくこと。利用者の特徴や対応等についても十分に事前学習し、臨地実習に臨むこと。								
課題に対するフィードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習において学修する内容や準備について具体的に指導する。また臨地実習では実務を行っている施設職員や管理栄養士の実践的な指導により、管理栄養士の職務や役割等について実習を通して実践的に学ぶことができる。								
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明する。 1. オリエンテーション 給食経営管理論実習Ⅲ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設概要の把握 課題（自主課題または施設からの提示課題）の準備 2. 実習 実習施設（小学校等）における実習（45時間） 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会での発表								
実習施設	札幌市内の小学校等の給食提供施設								

授業科目	公衆栄養学実習Ⅱ Public Health Nutrition PracticumⅡ				担当教員	槌本 浩司		
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	選択必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎		○	○	◎
ねらい	保健所や保健センター等において、地域保健活動における各所の役割や機能、地域住民を対象とした栄養管理に関わる管理栄養士の業務を実践的に学修する。国の健康増進施策等が地方公共団体でどのように計画、施策化、実践されているのかを学修する。また、住民への栄養・食生活の改善に関する事業を実践の場で体験し、様々な栄養関連サービスを必要とする人々に気づき、地域診断の結果から地域の優先的な健康・栄養課題を明確にし、課題解決にむけたプログラムの作成・実施・評価などについて学修し、実践活動の場で今まで修得した知識および技術の統合を図る。							
実習目標	1. 公衆衛生行政を理解している。 2. 住民の健康増進事業を通して栄養改善業務および栄養行政の概要を把握し説明できる。 3. 地域保健活動・健康づくり対策を理解している。 4. 地域保健活動・健康づくり対策が多職種連携により行われていることを理解している。 5. 地域栄養計画の立案、活動の進め方、評価、健康増進事業、地区組織の育成を体得している。							
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学							
実習内容	保健所または保健センターにおける実習							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点					
	試験	100％	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 実習先の評価 40％、 実習記録 20％、 報告書（成果発表を含む）40％					
	レポート							
	小テスト							
	提出物							
	その他							
履修上の留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. 実習の準備・事後の整理は協力して行うこと。 3. 実習保健所管内および保健センターの概要を把握しておくこと。 4. 自身の実習課題を明確化し、到達目標を立て、効果的な実習となるよう臨むこと。 5. 事前学習ノートの整理、報告書の作成は速やかに行い提出すること。							
課題に対するフィードバックの方法	成果発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域における健康増進施策など、公衆栄養活動の実践に必要な知識について理解しやすいように授業を行います。							
実習方法	実習内容についてはオリエンテーションで説明します。 1. オリエンテーション 公衆栄養学臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設管内概要の把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備 2. 実習 実習施設（保健所、保健センター）における実習（45 時間） 3. 事後指導 実習成果のまとめ（実習報告書） 実習報告会の準備 実習報告会での発表							
実習施設	北海道保健所、札幌市保健所・保健センター							

授業科目	臨床栄養学実習Ⅳ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅳ				担当教員	岡本 智子、氏家 志乃		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○			◎	○		◎	○
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種の連携を経験し、地域医療や在宅医療等についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。							
実習目標	1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。 2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。 3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。 4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。 5. 地域医療や在宅医療の概要について説明できる。							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ.臨床栄養学実習Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ							
実習内容	病院施設における実習							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
	その他	50						
履修上の 留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。 3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。 4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。							
実習方法	1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項 2. 実習 実習施設（医療施設）における実習 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で 90 時間)							
実習施設	札幌市内医療施設等							

授業科目	臨床栄養学実習Ⅴ Field Practice in Clinical Nutrition Ⅴ				担当教員	岡本 智子、氏家 志乃		
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・4年次・通年				選択・必修	選択		
授業形態	実習				単位数	2単位		
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○			◎	○		◎	○
ねらい	傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養状態の評価・判定を行い適切な栄養管理について、実践の場で学修する。施設組織内の栄養部門の概要や位置づけ、疾患やライフステージにより栄養管理が異なること、チーム医療・多職種との連携を経験し、NSTで介入する合併症を伴う複雑な症例についても学修する。学内で修得した知識や技術を臨床の場で統合して、課題発見・気づき、どのような対応が必要なのかなどの課題解決を通して、臨床における管理栄養士としての様々な活動を学び、卒業後臨床の現場において実践・応用できる能力を身につける。							
実習目標	1. 実践活動の場において、専門職業人としての職業倫理、社会的使命について説明できる。 2. 実践活動の場において、課題発見・問題解決への取り組みを行うことができる。 3. 栄養管理業務において、適切なマネジメントを行うための専門的な知識や技術について説明できる。 4. チーム医療における管理栄養士の役割について説明できる。 5. 複雑な症例について栄養評価、栄養計画の作成ができる。							
関連科目	臨床栄養学Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ.Ⅳ.臨床栄養学実習Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ							
実習内容	病院施設における実習							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物：事前準備(課題を含む)20%、実習ノート・事後報告 30% その他：実習指導施設指導者の評価 40%、発表 10%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	50						
	その他	50						
履修上の 留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. オリエンテーションは重要である、施設等の特徴を学修しておくこと。 3. 実習課題については実習施設指導者に相談、検討すること。 4. 実習記録の記入・整理・報告は速やかに行い、提出すること。							
課題に対するフ ィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での実習生指導時の経験を織り交ぜながら、充実した臨地実習ができるように必要とされる知識、技術、礼儀、コミュニケーション力について指導します。							
実習方法	1. オリエンテーション 臨床栄養学実習について 事前準備 臨床栄養学実習施設との事前打ち合わせの概要・その他 実習における留意事項 2. 実習 実習施設（医療施設）における実習 3. 事後指導 実習成果のまとめ 実習報告会の準備 実習報告会の発表 (実習全体で 90 時間)							
実習施設	札幌市内医療施設等							

授業科目	教職概論 Introduction to Teaching Profession		担当教員	加藤 隆
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	(1) 栄養教諭の仕事を知り、専門へのあこがれや自覚をもつ。 (2) 学校教師というものに期待されてきた役割とそれをめぐる対立など現在の教職制度の概要を知り、社会的な責任のある素晴らしい専門職であることを学ぶ。 (3) 職業準備としてだけではない教職課程の意義、教師の仕事の内実と成立条件と職場の構造、学び続ける教師として育つことへの期待などを教育学の新しい接近法から学ぶ。			
到達目標	教師の仕事・地位などへの歴史的・社会的期待の存在と共に、その仕事そのもののおもしろさ、難しさ、子供とともに得られる喜びなどを知り、文明的に高度化する社会において学び続ける姿勢と方法を身につけた教師を目指す自覚を育む。			
関連科目	教育原理			
テキスト	講義時に資料を配布する。			
参考書	1. 姉崎・大野・近藤編「教職への道しるべ」(八千代出版) 2. 「小学校学習指導要領」(文部科学省) 3. 「中学校学習指導要領」(文部科学省)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点 レポート：最終コマのあとにレポート課題を課す。 提出物：学校現場などでの見学の際に課す小レポート その他：講義中に設ける討論の参加度	
	試験			
	レポート	50		
	小テスト			
	提出物	20		
	その他	30		
履修上の留意事項	授業中または復習により生じた疑問はその都度担当教員に質問をすること			
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物やレポートに関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、教師の仕事の意義・内容や職場の特質について理解しやすいように授業を行う。			
回数(担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	教職概論の意義	栄養教諭とは何か、および本講概要		事前：教職について参考図書に目を通しておく(2時間) 事後：教職や栄養教諭の意義や役割について内容を整理し、振り返りシートにまとめる(2時間)
2	教師とは何か	歴史の経験と世界の動向から		事前：前回に渡した教師に関する資料に目を通しておく(2時間) 事後：講義資料の復習を振り返りシートにまとめ、推薦図書の読書(2時間)
3	教師の具体的な仕事について	教師の一日のタイムスケジュールや校務分掌等の業務全般について把握する		事前：教師の具体的な仕事について自分なりに考察する(2時間) 事後：教師の一日や校務分掌について振り返りシートにまとめる(2時間)
4	現代の求められる教師像と現実の間で	教師の資質として求められていることと現実としての教師の困難について		事前：教師の生きがいと困難さについて自分なりに考察する(2時間) 事後：講義で気づいたこと、学んだことを自分の言葉でノートのまとめる(2時間)
5	教員の資質形成デザインに見る教員の養成・採用・研修めぐって	教員の資質形成施策の概要について把握する		事前：教師の資質について、関連する図書や資料を読んでおく(2時間) 事後：資質形成施策の概要で気づいたことを自分の言葉でノートのまとめる(2時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	教育のライフコースとライフステージについて	教師になっていくとはどういうことか、二つの視点から考える	事前：教育のライフコースとライフステージについて、関連する図書や資料を読む（2時間） 事後：二つの視点について自分の言葉でノートのまとめる（2時間）
7	学校における栄養教諭の位置と可能性	カリキュラムマネジメントの視点から	事前：栄養教諭について資料などでその特徴を把握する（2時間） 事後：これらの栄養教諭の可能性について自分の言葉でノートのまとめる（2時間）
8	栄養教諭の教育実践事例	食育に関わって知識獲得と態度形成を実現する教育実践について学ぶ	事前：栄養教諭について資料などでその特徴を把握する（2時間） 事後：課題ワークシートの完成、関連する参考図書に当たる（2時間）
9	保護者との連携の必要性和具体的事例	学校・教師と保護者との関係づくりの事例について学ぶ	事前：教師と保護者との連携について自分なりに考えを整理する（2時間） 事後：課題ワークシートの完成、関連する参考図書に当たる（2時間）
10	教師の同僚性と協働の具体的事例	チーム学校と同僚性の二つの視点から教師の協働について考える	事前：教師の協働について自分なりに考えを整理する（2時間） 事後：教師の協働について自分の経験や考察を交えた小レポートの作成（2時間）
11	地域や学校外の人材や諸機関との協働の具体的事例	開かれた教育課程開発の具体的事例について学ぶ	事前：開かれた教育課程について自分なりに考えを整理する（2時間） 事後：取り上げたテーマについて自分の経験や考察を交えた小レポートの作成（2時間）
12	学校での安全と安心を保障するための取り組み事例	復興教育や食育の事例から学ぶ	事前：食育の必要性について参考図書に目を通す（2時間） 事後：取り上げたテーマについて自分の経験や考察を交えた小レポートの作成（2時間）
13	教職の制度、及び教師の責任 1	種類と制度、地位の保障と「公僕」性	事前：事前に配布した教職の制度資料に目を通す（2時間） 事後：教師の地位の保障と「公僕」性について、自分なりの言葉でノートにまとめる（2時間）
14	教職の制度、及び教師の責任 2	創造性（自由）と責任、教化は避けられるか	事前：事前に配布した教職の制度資料に目を通す（2時間） 事後：教師の自由と責任について、課題ワークシートの完成（2時間）
15	まとめ	専門・技能の獲得と人間力形成への期待	事前：これまでに学んだ講義内容を振り返る（2時間） 事後：教師の技能の獲得と人間力形成について、課題ワークシートの完成（2時間）

授業科目	教育原理 Principles of Education		担当教員	加藤 隆
対象学科・年次・学期	栄養学科・1 年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1 単位
授業目的	近代教育思想の精髓を欧米・日本ともに紹介し、明治以降の教育課題と方法の模索を概観する。現代に至るまでの人間像と教育内容・学力観の変遷を示し、戦前・戦後の「新教育」の試みも取り上げる。学力低下問題、学校と地域・家庭との関わり、食育・環境教育等の必要を社会の動きと共に取り上げ、その理想の模索を伝える。これらを通して教育に可能なことを考えていく。折にふれて、意見交流の場を設ける。			
到達目標	教育に関する歴史や思想を概観し、教育学的な視点から人間の特質や人間らしさの本質を把握し、人間の発達を社会の発展との関連で捉え、教育の本質と目的を学修する。これからの教育の在り方を考えるために、歴史の中での教育、学校教育の意義、高学歴社会の現実と課題、社会生活の豊かさや教育の課題、国際化の時代と教育、現代社会と教師など、現代の教育活動が直面する諸問題を理解する。			
関連科目	教職概論 教育課程論			
テキスト	講義時に資料を配布する。			
参考書	1. よくわかる教育原理（ミネルヴァ書房） 2. 「小学校学習指導要領」（文部科学省） 3. 「中学校学習指導要領」（文部科学省）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 提出物：毎回講義終了に提出される振り返りシート(20%) その他：講義中に設ける討論の参加度や意欲態度(30%) 試 験：授業全体の理解について評価する（50%）	
	試験	50		
	レポート			
	小テスト			
	提出物	20		
	その他	30		
履修上の留意事項	授業中または復習により生じた疑問はその都度担当教員に質問をすること			
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物に関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、今日の教育活動が直面する諸問題について理解しやすいように授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	教育の理念	現代に生きる教育思想：コメニウス、ペスタロッチ、デューイ他		事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間） 事後：現代に生きる教育思想について内容を整理し、振り返りシートにまとめる（2 時間）
2	教育の歴史 1	日本の公教育の開始から戦前まで：国作り・学校作りと人格の独立の葛藤（「学制」と福沢諭吉、夏目漱石、内村鑑三、他）		事前：前時に配布した教育資料に目を通しておく（2 時間） 事後：講義で取り上げた教育者の著作を紹介し、自分で図書に当たる(2 時間)
3	教育の歴史 2	日本の「新教育」と戦後の教育課程：新しい人格像と地域学校作りの模索		事前：事前配布した教育資料に目を通す（2 時間） 事後：取り上げた日本の「新教育」の成果と課題について自分の考察も交えてノートにまとめる(2 時間)
4	日本の課題	学力 1- 学習指導要領と変遷		事前：学習指導要領の指定された箇所を事前に読んでおく（2 時間） 事後：学習指導要領と変遷と特徴について自分の考察も交えてノートにまとめる(2 時間)
5	グループ討議	戦後日本が目指した教育とは何であったか		事前：グループ学習の事前の確認とテーマへの準備（2 時間） 事後：グループ討議で気づいたこと、学んだことを振り返りシートにまとめる（2 時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	日本の課題	学力 2- 学力低下問題、地域・家庭と学習意欲。各地の取り組み事例	事前：事前配布した学力関連資料に目を通す（2 時間） 事後：学力低下問題と地域の取り組みについての新聞記事や参考図書で理解を深める（2 時間）
7	日本の課題	総合的な教育主題－キャリア教育・食育・環境教育・グローバル教育、他	事前：事前配布した教育資料に目を通す（2 時間） 事後：キャリア教育・食育・環境教育・グローバル教育から一つのテーマを取り上げてレポート（2 時間）
8	まとめとグループ討議	教育の本質と教育の仕事を考える	事前：これまでで学んだ講義内容を資料等で振り返る（2 時間） 事後：グループ討議の内容について考察を交えてまとめ、自分の見方を深める（2 時間）

授業科目	教育制度論 System of Education	担当教員	明田川 知美
対象学科・年次・学期	栄養学科・1年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	公教育は国家的な事業であり、教育法・制度・政策のもとで実施されている。この講義では、まず現代日本の学校教育・社会教育制度、教育行政の仕組みのうち、基本的な要素を取り上げて概観し、それらの制度等の意義を確認するとともに、あわせて課題についても検討する。また、学校教育に関わる課題に対して、現在行われている学校づくり、教育実践の取り組み事例を紹介し、学校改善や教育活動を進める際にしてもつべき視点や方法を考察する。		
到達目標	教育に関する法制、教育政策の形成過程、文部科学省・地方教育委員会など、教育行政の基本的な組織、および最近の教育政策（制度改革）について学び、これらの政策・制度の意義および現在生じている課題について理解する。また、今日の教育政策と教育改革、地域や学校レベルでの取り組みを知り、学校と教育をよりよくするために求められること、また学校と教職員、地域住民がなすべきこと、なしうることを具体的に構想する。		
関連科目			
テキスト	1.横井敏郎「教育行政学：子ども・若者の未来を拓く（第3版）」（八千代出版）		
参考書	1.勝野正章、藤本典裕他、「教育行政学-改訂新版」(学文社) 2.川口洋誉、中山弘之編著「未来を創る教育制度論」(北樹出版)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点
	試験		レポートは講義のまとめとして実施します。 提出物は講義内で課すフィードバックシートや感想文などです。
	レポート	50	
	小テスト		レポートの評価基準は、①設題に対して適切な資料を用い論じられているか ②自分の考察を説得力を持って論じられているか、です。
	提出物	50	
履修上の留意事項	その他		
	主体的な授業参加を求めます		
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課すフィードバックシートや感想シートについては、次回以降の講義にて応答する。レポートについては添削評価後にフィードバックと返却を行う。		
実務経験を活かした教育内容			
回数(担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1	日本国憲法に定める教育を受ける権利と教育の機会、主権者とは。	教育権、学校設置者、義務教育制度などの基本事項について学びます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
2	教育基本法 - 制定の理念と2006年改正	教育基本法の理念と、その内容をめぐる議論について学びます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
3	教育機会の保障をめぐる現状と課題（不登校、夜間中学、外国人の子供を例に）	不登校、夜間中学や、フリースクール等の事例から教育を受ける権利とは何かを考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
4	文科省と教育委員会制度 - 設置理念と変遷、その必要性	国と地方、教育委員会制度の狙いや抱える課題について学びます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
5	教育課程と学習指導要領、教師の自由と教科書制度（検定と採択）	学習指導要領に伴う教科書の検定の事例から運営のあり方について考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
6	教育財政（学校事務、授業料、私費負担、就学費と子どもの貧困の例）	教育と教育の機会に関わるお金の問題を考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
7	学校経営（教師の役割、学校安全と事故：いじめ・体罰ほかを事例に）	教師の専門性、子どもの自殺、いじめ、体罰など子どもの生命に関わる事故をいかに防ぐかを考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。
8	教育制度の未来：希望を紡ぐ、教師と子ども、地域の人々との連携方策	これからの学校の在り方の動向について考えます。	授業後も講義資料をよく読み復習すること。

授業科目	教育課程論 Curriculum Development		担当教員	松田 剛史
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	1 児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について、教育課程編成の観点から主体的に考える時間とする。 2 自らが意見を持ち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや学びを深める場とする。			
到達目標	1 教育課程の意義や効果的な教育課程編成のあり方について理解することができる。 2 カリキュラムマネジメントの実際と課題について考えることができる。			
関連科目	教育方法論			
テキスト	・尾崎博美、井上元 編 『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版 2018年 9784779512674			
参考書	・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』東山書房 2018年 9784827815597			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点	
	試験	40	・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス（認知度）30％：学習評価シート	
	レポート		・能動的かつ協動的に学習活動へと取り組むパフォーマンス（参加度）30％：学習状況の観察	
	小テスト		・各種学習成果（学修度）40％：考查や提出物等	
	提出物	60		
	その他			
履修上の留意事項	・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。 ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。 ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。 ・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。 ・Google form や Google スライドなどの G ツール、mentimeter、Miro といった ICT ツールを活用して授業を展開する。また、活動には zoom などのオンライン会議ツールを活用する場合がある。			
課題に対するフィードバックの方法	・授業時間や学習支援システム、メールや SNS 等において随時伝達、共有する			
実務経験を活かした教育内容	・義務教育における教員経験を活かし、学校現場での実際を踏まえて指導にあたる			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	教育課程と自己をつなげる	自身の学校時代の経験と教育課程との接点について考える。		事前学習は特にないが、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
2	人間を計画通りに育てることはできるのか？	「教育目的」へいたる道のりとしての教育課程について考える。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
3	人を計画的に育てることはどのように考えられてきたか？	学校における生活知をめぐる教育論争からカリキュラム論の誕生について認識を深める。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
4	何を学ぶのかをなぜ自由に決めることができないのか？	教育課程に関する法と制度について認識する。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
5	何が変わったのか？どうして変えるのか？	学習指導要領の変遷から、現代社会で求められる資質能力について認識する。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	なぜ「ゆとり教育」だったのか？	1998・1999年改定学習指導要領から、教育の変革点について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
7	「頭がいい」ってどういうこと？	教育課程設計の前提となるさまざまな資質・能力観について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
8	教師がカリキュラムの開発・編成を行うことは可能か？	学校を基盤としたカリキュラム開発について認識する。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

授業科目	教育方法論 Teaching Methods		担当教員	松田 剛史
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	1 児童生徒が身につけたい能力態度やその指導のあり方について、教育方法の視点から主体的に考える時間とする。 2 自らが意見をもち、受講者相互に議論し、批判し、協力し、参画しながら新たな気づきや学びを深める場とする。			
到達目標	1 効果的な教育指導のあり方について理解することができる。 2 児童生徒に身につけさせたい資質能力について考えることができる。			
関連科目	教育課程論			
テキスト	・尾崎博美、井上元 編 『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版 2018年 9784779512674			
参考書	特になし			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点	
	試験	40	・学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス(認知度)30%:学習評価シート	
	レポート		・能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス(参加度)30%:学習状況の観察	
	小テスト			
	提出物			
	その他	60	・各種学習成果(学修度)40%:考査や提出物等	
履修上の留意事項	・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。 ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。 ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。 ・授業計画は学習状況等によって講義回が前後することがある。 ・Google form や Google スライドなどの G ツール、mentimeter、Miro といった ICT ツールを活用して授業を展開する。また、活動には zoom などのオンライン会議ツールを活用する場合がある。			
課題に対するフィードバックの方法	・授業時間や学習支援システム、メールや SNS 等において随時伝達、共有する			
実務経験を活かした教育内容	・義務教育における教員経験を活かし、学校現場での実感を踏まえて指導にあたる			
回数(担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	教育方法とは何か	「教育」と「学習」の違いとその関係性について認識し、適切な指導方法のあり方について考える。		事前学習は特にないが、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
2	学校で用いられる「言葉」にルールはあるのか？	言語コードの規範と再生産が教育に及ぼす影響について、フランスの移民地区における事例をもとに考える。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
3	現場の教師はどうやって授業をつくるか？①	「本質的な問い」を軸にした授業づくりについて考える。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
4	現場の教師はどうやって授業をつくるか？②	教科指導を例に、授業において身につけたい資質能力について考える。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
5	アクティブ・ラーニングに教師はいらない？	ヒドゥン・カリキュラムとしての教師の指導のあり方について考える。		テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	授業の”外”が授業／学校を変える？	反転授業の発想と教科外領域への視点について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
7	「普通」のカリキュラムって何だろう？	オルタナティブ教育の視点から、教育方法について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。
8	遊びで満たされた学びの舞台	主体性の育成とパフォーマティブな学びの視点から、教育方法について考える。	テキストのワークに対する回答を準備し、授業にて学習者同士で共有することで、本日の問いに対する適切な回答を事後においてまとめる活動を展開する。

授業科目	道徳教育論 Moral Education		担当教員	加藤 隆
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	道徳教育とは、人間が本来、人間としてよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動であり、学校教育の中核となるものである。本講義では、道徳・道徳教育の歴史や理論の研究をふまえ、学校現場における道徳教育の実践について学習することを通じ、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てる具体的な在り方について学ぶものとする。			
到達目標	1. 近代以降の欧米と日本の道徳・道徳教育に関する歴史と理論について理解する。 2. 現代日本の道徳教育の制度・しくみの現状と改革の課題について理解する。 3. 現代日本の学校における道徳教育の実践あるいは授業実践について考察し、道徳教育の教材・教科書の活用とともに新たな指導法の開発・修得を行う。			
関連科目	教育原理 生徒指導論 法と人権			
テキスト	「小学校学習指導要領特別の教科道徳編」（廣済堂あかつき） 「中学校学習指導要領特別の教科道徳編」（教育出版）			
参考書	毎回の授業で適宜関係資料等を配布する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 試 験：授業全体の理解について評価する（50％） 提出物：毎回講義終了に提出される振り返りシート(30%) その他：講義中に設ける討論の参加度や意欲態度(20%)	
	試験	50		
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30		
	その他	20		
履修上の留意事項	配布された資料や論文を熟読すること			
課題に対するフィードバックの方法	毎回講義終了後に学生が授業評価とコメントを記載し、それに対して次回講義でコメントに対する意見交流を行う。また、提出物に関しても、観点のよさ、補足的意見を記載して学生に返却する。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、道徳教育の教材や指導法について理解しやすいように授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	道徳とは何か 道徳教育の現状	現代日本の道徳・道徳教育の現状と課題		事前：自身が経験してきた道徳教育についてまとめる（2時間） 事後：道徳教育の現状と課題について内容を整理し、レポートにまとめる（2時間）
2	道徳・道徳教育の歴史と理論	近代以降の欧米と日本における道徳・道徳教育の歴史と理論について学ぶ		事前：道徳教育の歴史と理論について事前配布の資料に目を通す（2時間） 事後：欧米と日本の道徳教育について自分の考察も交えてノートにまとめる（2時間）
3	道徳教育の指導計画、学校教育に占める位置	学校における道徳教育の位置並びに道徳教育の指導計画の実践について学ぶ		事前：事前配布していた参考資料に目を通しておく（2時間） 事後：学校における道徳教育の位置について、考察したことをレポートにまとめる（2時間）
4	道徳教育の指導計画、生徒指導と道徳教育の課題	道徳教育と学級・学年・全学年の生徒指導の課題との密接な関わりを学ぶ		事前：事前配布していた参考資料に目を通しておく（2時間） 事後：講義内容をまとめ、自分なりの意見も交えてノートにまとめる（2時間）
5	学習指導案の研究と作成1（小学校における実践例と研究）	児童の発達段階・児童の現状に適しい教材の選択・考える道徳授業をつくる		事前：指導案についての事前配布していた参考資料に目を通しておく（2時間） 事後：作成した学習指導案を振り返り、必要な修正を行い完成する（2時間）
6	学習指導案の研究と作成2（中学校における実践例と研究）	生徒の発達段階・生徒の現状に適しい教材の選択・考える道徳授業をつくる		事前：指導案についての事前配布していた参考資料に目を通しておく（2時間） 事後：作成した学習指導案を振り返り、必要な修正を行い完成する（2時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	学習指導案の研究と作成3（道德教育の課題と指導法）	道德教育の課題にあわせて様々な道德教育指導法があることを学ぶ	事前：作成した二つの指導案の成果と課題を振り返る（2時間） 事後：様々な道德教育指導法と子どもの発達段階をテーマにレポートをまとめる（2時間）
8	まとめと道德教育の展望	改革をめざす現代の道德教育の内容・方法の課題と展望を明らかにする	事前：これまでに学んだ講義内容を振り返る（2時間） 事後：これからの道德教育の可能性について課題ワークシートの完成（2時間）

授業科目	特別活動・総合的学習指導論 Extra curricular activities and Integrated learning		担当教員	高橋 公平
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	小中学校の教育課程には各教科とともに学級活動・委員会活動といった「特別活動」、学校や地域、子どもの側に即して構想される「総合的な学習の時間」が位置付けられている。これらが教育課程上どのような役割をはたしているのか、またその授業の実際について理解することを目的とする。			
到達目標	この授業では様々な実践例を提示する。これらの実践例から教師の教育的意図、子どもの思考の文脈、成長について分析することを通して、学校の有機的な機能が理解できることを第一の目的とする。それを踏まえて受講者自身の子ども観・学校観を豊かにし、教育実習や学校支援ボランティア等で生かすことができるようになることを第二の目的とする。			
関連科目	自分が経験した特別活動・総合的な学習の時間の内容について			
テキスト	1.「小学校学習指導要領」（文部科学省） 2.「中学校学習指導要領」（文部科学省）その他、毎回、資料を配布する。 なお、「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」は、文部科学省のホームページから閲覧、ダウンロードすることができるので、必要に応じそちらを活用されたい。			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点	
	試験			
	レポート	40		
	小テスト			
	提出物	40		
その他	20	・毎回の授業後に 200 字以上のリフレクションシートを記述、提出してもらう。シートでは授業の概要の理解度と、受講者の洞察力（気づきや授業の本質に迫る質問）について評価する。 ・レポートは、授業で提示した実践例から一つ選び、その実践についての分析、検討を記述すること。実践をもとに自らの意見を展開できているかについて評価する。 ・その他、小中学校での授業づくりにつながる簡単な調査課題を 2 回課す。		
履修上の留意事項	欠席した場合は、資料を忘れずにもらうこと。なお授業の展開次第でテーマ・内容が変更になる場合があることを留意していただきたい。			
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題については、必要に応じてコメントを付して返却する。また、全体で確認・共有・議論したい内容であれば取り上げ、さらに授業内容の理解を深めていくことにつなげる。			
実務経験を活かした教育内容	担当教員は小学校教諭として 19 年勤めており、総合的な学習の時間や社会科における著書や実践論文を執筆している。実際の学校での授業実践を紹介することを講義の中心として進める。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	特別活動・総合的な学習とは何か。	ガイダンス 「学級びらき」と特別活動。 特別活動と総合的な学習とは何か。		資料を読んで復習すること。 自身の被学級活動経験の整理。
2	特別活動の意義と歴史 特別活動の始まり。	「生活指導」、「学校自治活動」と特別活動。「子ども熟議」		資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
3	学級づくりと特別活動	学級会や班活動の意義と実践		資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
4	キャリア教育と特別活動・総合的な学習	係活動や委員会活動や主権者教育とキャリア教育との関係		資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
5	総合的な学習の理論的背景	学力と総合、総合的な学習の時間の歴史と現在		資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
6	総合的な学習の実践例 1	小学校における総合的な学習の実践例 ～教科横断的学習と探究・表現～		資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
7	総合的な学習の時間の実践例 2	地域の産業の実態と課題を追究する総合的学習～漁業・農業～		資料を読んで復習すること。次の課題の準備。
8	総合的な学習の時間の未来	SDGs と総合的な学習 ～子どもの社会参画へとつながる学び～		これまでの講義のまとめ、レポート作成準備。

授業科目	生徒指導論 Student Life Guidance		担当教員	佐藤 憲夫
対象学科・年次・学期	栄養学科・2年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為など幅広い生徒指導の実態を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方についての学習を深める。実際の教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行い、実践的な生徒指導の視点を養うことを目的とする。			
到達目標	(到達目標) ①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。 (テーマ) 生徒指導の理論及び方法			
関連科目	2年（前期）道德教育、2年（後期）特活・総合指導論と密接に関連する。			
テキスト	「(新) 生徒指導提要」(文部科学省) その他、毎回関連する資料を配付する。「(新) 生徒指導提要」は、文部科学省のホームページで閲覧、ダウンロードすることができるので、必要に応じ活用すること。			
参考書	授業時に適宜紹介する			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点 試験：試験は課題内容を理解したうえで、自らの考えを加え咀嚼し、意見を展開できているかという観点で評価する。 レポート：講義中に学習者自身の体験やコメント等の小レポートを課す。 最終試験は、授業終了後の定期試験期間前におこなう予定。	
	試験	80		
	レポート	20		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	教師を志す者としてのスタンスをしっかり持つ。自分が教師となったときの場面を想定し、指導者としての立場でどう行動することが必要であるのか考えを深めてほしい。講義の内容を自分自身の中高時代の行動や思考にスライドさせることも、理解の深化に結びつく。また、常に社会の動向を注視し、教育に関する情報アンテナを高く持つことが必要である。			
課題に対するフィードバックの方法	小レポートは翌週の授業時に解説し、あわせて質問・意見等の共有をおこなう。			
実務経験を活かした教育内容	学校教育教員、社会教育主事の経験から、実際に教育現場でおこった出来事を例示しながら授業を展開していく。			
回数(担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	生徒指導とは何か（原理と位置づけ）	生徒指導の定義（教科・道德、特別活動等との関連） 教師の指導的役割 新旧生徒指導提要の内容について		事前：自分が受けてきた生徒指導について振り返り、小レポートにまとめ授業後提出。(2時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7時間)
2	生徒指導の方法と体制	生徒指導の目標、集団指導と個別指導、学級づくりの観点と方法、校内の各体制の分担		事前：生徒指導の目標についてについて整理する。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7 時間)
3	生徒指導の発達観指導観とその範囲	生徒指導の前提となる発達観と指導観、子供の人権と生徒指導、教師のかかわり方		事前：教科の授業中における生徒指導についてその視点を整理する。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7 時間)
4	道德・特活・総合的な学習の時間における生徒指導	道德教育と生徒指導の相互関係、総合的な学習の時間における生徒指導（探求学習、協的に学ぶ、自己の生き方を考える）、特別活動における生徒指導（すき間を埋める、進路指導）		事前：道德・総合・特活の目標についてまとめておく。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7 時間)
5	生徒指導と問題行動	問題行動とは、問題行動に対応する視点、校内における生徒指導体制		事前：自分の体験を踏まえながら、具体的問題行動をまとめる。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(1.7 時間)

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	いじめ問題と生徒指導	暴力やいじめの構造と解決法の模索、校内の協力と専門機関との連携、チームによる支援、S CとSSWの職務の対比	事前：課題をかかえる子ども、指導が難しい子どもとの対応について整理し まとめておく。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートにま とめる。(1.7 時間)
7	課題をかかえる児童・ 生徒と生徒指導	不登校・いじめ、発達障害の基本的理解と対応、題行動の理解 と対応	事前：自分の体験を踏まえながら、具体 例をまとめておく。(2 時間) 事後：授業内容を整理し、ノートに まとめる。(1.7 時間)
8	教職員の体制と 生徒指導	喫煙、飲酒、薬物乱用、自殺の防止、虐待への対応、教員の連 携、地域との協力	事前：今まで授業で扱ってきたことにつ いて整理しておく。(2.5 時間) 事後：試験準備も兼ねながら、授業内容を 整理し、ノートにまとめる。(1.2 時間)

授業科目	特別支援教育概論 Introduction to special education		担当教員	松井 由紀夫
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	1単位
授業目的	幼児期から思春期（青年期前期）にかけて生ずる様々な障害について、発達の視点から、その態様と対処の仕方を学んでいく。また、特別な支援を要する子ども達の教育のあり方について児童・生徒の多様性を前提としたインクルーシブ教育を中心に学んでいく。 心理的障害に対しては、カウンセリングマインドに基づく受容的働きかけを、また、発達障害に対しては主に行動療法的な働きかけの重要性を学び、特別な支援を要する幼児・児童ならびに生徒が通常学級の中で自己実現を目指す環境作りを考えていく。 他にも、様々な障害のある子どもや、障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもの特性や支援の方法を学ぶ。その際、特別支援教育のシステム、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導などの教育の場、様々な教育課程、個別の指導計画・個別の教育支援計画の意義を理解する。 また、特別支援教育の最大の特徴である自立活動について、基礎的な知識を学ぶ。			
到達目標	1. 障害をもつ子どもに対する教育現場における支援のあり方について理解する。 2. 臨床心理学・障害児心理学の基礎的な理論・技法を学ぶ。 3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児・児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を学習する。 4. 特別支援を要する子ども達の特徴を個性ととらえるインクルーシブ教育について学ぶ。			
関連科目				
テキスト	使用しない。（適宜、プリントを配布する。）			
参考書	1. 特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領 2. 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 到達目標に関するレポートにより評価する。	
	試験			
	レポート	100		
	小テスト			
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	事後学習として、前の講義との繋がりを確認しておくこと。			
課題に対するフィードバックの方法				
実務経験を活かした教育内容	特別支援学校教員としての実務経験をもとに実務に即した指導を行う			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	教育の場における児童生徒の生活上、学習上の困難とは	インクルーシブ教育へのイントロダクション		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること
2	臨床心理の考え方	認知行動療法、来談者中心療法、精神分析		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること
3	発達段階による心理社会的な課題	それに対処する学級体制の構築		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること
4	発達障害の理解と対応	学習障害（LD）・発達障害（ADHD）・自閉症スペクトラム		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること
5	知的障害・心身障害の理解	知的障害、肢体不自由、病弱、重症の心身障害のある子どもの特性と支援の方法の理解		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること
6	視覚・聴覚障害の理解と支援	視覚障害、聴覚障害、その他の特別な教育的ニーズのある子どもの特性と支援の方法の理解		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること
7	特別支援教育制度と実際の理解	特別支援教育の制度と教育課程、教育計画の理解		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること
8	自立活動の意義、実際と指導者の問題	自立活動の意義、目標、内容、方法、指導者に関する問題の理解		事後、配布プリントを読み、ノートを整理すること

授業科目	教育心理学 Educational Psychology		担当教員	安念 保昌
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	ヒトは教えられて人になってゆき、教える側は相手をよく見て良いところを引き出していかねばならない。幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解し、また幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。さらに、教授学習の方法、課程、動機付けなどを学修する。また、障害のある子どもの心身の発達と学習過程についても学修する。			
到達目標	発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解し、各発達段階における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を学修する。さらに、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎、主体的学習を支える動機付け・集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けを理解し、それを支える指導の基礎となる考え方を学修する。			
関連科目	心理学、生涯発達論、人間関係論			
テキスト	前もって配信される授業資料			
参考書	1. 杉森伸吉・松尾直博・上淵寿共(編著)「コアカリキュラムで学ぶ教育心理学」(培風館)2020 2. 中澤潤(編著)「よくわかる教育心理学」(ミネルヴァ書房)2008 3. 速水敏彦(編著)「教育と学びの心理学」(名古屋大学出版会)2013			
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点 毎回、教員採用試験過去問とともに復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化して提出してもらう。またその総まとめとして、定期試験を行う。それらをワークシート:定期試験=6:4で評価する。	
	試験	40		
	レポート			
	小テスト			
	提出物	60		
	その他			
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3色ボールペンを使ってノートを取ること。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。			
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭、前回提出されたワークシートの回答にコメントしながら、復習する時間を設ける。 試験の採点后、試験問題に関して、授業の流れの中でどの部分から出たのか、またそれについて解説した文書を、Teamsで配信する。			
実務経験を活かした教育内容				
回数(担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	教育心理学とは何か	教育心理学の歴史と目指す方向		事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
2	発達	発達の基本法則、発達段階と発達課題		事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
3	認知発達	認知の発達、共同注意、心の理論		事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
4	学習	古典的条件付け、オペラント条件付け、行動分析		事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
5	記憶	古ワーキングメモリ、長期記憶、記憶方略		事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
6	知能と学力	知能検査の歴史、知能指数、メタ認知		事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
7	言語発達	聞く・話す・読み書きの発達		事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	動機づけ	コンピテンス、外発的・内発的動機付け、学習性無力症	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
9	パーソナリティと社会性の発達	類型論、特性論、協調関係の形成	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
10	教授学習過程	授業形態、発見学習、授業分析	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
11	教育評価	評価の歪み、相対評価、絶対評価	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
12	教師	リーダーシップ、ピグマリオン効果、メンタルヘルス、レジリエンス	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
13	問題行動	いじめ、非行、非社会的行動、モンスターペアレント、ストレス	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
14	教育相談	生徒指導、来談者中心療法、認知行動療法	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。
15	様々な障害と支援	A S D、L D、A D H Dの理解、特別支援教育	事前：配信される授業資料を予習する(2時間)。事後：授業後ワークシートにて復習を行う(2時間)。

授業科目	教育相談論 Educational Counseling		担当教員	川俣 智路
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義		単位数	2単位
授業目的	いじめ、不登校、児童虐待等、学習指導以外での学校・教師に課せられている課題にたいしていくための教育相談・カウンセリングの理論の基本的な理解と、必要な能力（方法）の土台の形成を行っていく。 教師だけで教育活動を行うことが困難な時代であるという認識のもと、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関等、他の発達援助職・機関との連携についても理解を深めるような学びを行っていく。			
到達目標	○いじめ、不登校など、教育相談に関わる教育課題、教育相談の歴史・理論についての理解を深める。 ○教師として必要なカウンセリング・子ども理解の思想と方法を模擬体験も通して理解・形成する。 ○学習活動の中で分析・討論・発表等の教師として必要な能力の形成を行う。			
関連科目	心理学関連科目、特別支援教育関連科目の復習をしておくこと			
テキスト	特に使用せず、資料を配付します。			
参考書	橋本創一 他編著 『教職課程コアカリキュラム対応版 キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育＆教育相談・生徒指導・キャリア教育』 福村出版 2020			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 成績評価は毎回、授業終了時に行われる小テストの結果から判断します。小テストはデジタル媒体での受験、提出となりますのでネットに繋がる PC かタブレット PC、またはスマートフォンを持参してください。	
	試験			
	レポート			
	小テスト	100		
	提出物			
	その他			
履修上の留意事項	簡単な体験ワークや、学びを深めるためのアクティビティを実施する予定です。こうしたペア、グループでの活動に不安がある場合には、初回の授業までに教員に申し出てください。授業の達成目標と評価基準が変わらない範囲で、配慮できる可能性があります。			
課題に対するフィードバックの方法	小テストの結果などは、翌週の冒頭に振り返り問題を実施しながら確認します。			
実務経験を活かした教育内容	スクールカウンセラーの経験を生かして、ケース対応やマネジメントの事例を取り扱います			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1	教育相談とは何か	教育相談の役割について概観します		教育相談の役割とは何か自分のイメージを考えて受講してください。／参考資料を購読してください。
2	子どもの心と発達	子どもの心の発達、そしてその理解の方法の基礎について学びます		参考資料を読んでもらうこと／次回の講義の課題に取り組むこと
3	聴き取ること～模擬カウンセリング～	話を聴く、その効果と方法について体験的に学びます		参考資料に目を通して受講すること／振り返りレポートの作成
4	相談を受けるとは？	相談を受けることの専門性について学びます		参考資料に目を通して受講すること／参考資料を読むこと
5	いじめについて考える	いじめ問題についてその概論を学ぶとともに、いじめに取り組む実践について学ぶ		講義の課題を読んでもらうこと／振り返りレポートの作成
6	不登校について考える	不登校についてその概論を学ぶとともに、不登校に取り組む実践について学ぶ		講義の課題を読んでもらうこと／参考資料を読むこと
7	特別支援教育について考える	特別支援教育の概要、主な発達障害について学びます		講義の課題を読んでもらうこと／参考資料を読むこと
8	特別支援教育の実践	実際に学習場面においてどのように支援ができるかを体験的に学びます		講義の課題を読んでもらうこと／関連する資料を読むこと
9	授業での学びを支援する	実際に学習場面の支援について分析し、実際的な方法について学びます		参考資料を読んでもらうこと／振り返りレポートを書くこと
10	担任としての教育相談	教育相談の機能から見た担任教員の役割について学ぶ		参考資料を読んでもらうこと／関連する内容の論文を読むこと
11	スクールカウンセラーの仕事とは	スクールカウンセラーの業務、教育相談との連携について学びます		参考資料を読んでもらうこと／関連する内容の論文を読むこと

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
12	児童虐待とスクール・ソーシャルワーク	児童虐待の現状、対応方法をソーシャルワークの役割を学ぶ	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと
13	事例検討の方法	教育相談のための事例検討の方法について学びます	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと
14	やってみよう模擬事例検討	模擬事例を用いて、事例検討の方法について学びます	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと
15	まとめ	教育相談の意義とその役割について総括的に理解する	参考資料を読んできること／関連する内容の論文を読むこと

授業科目	栄養教育実習事前・事後指導 Guidance for Nutrition Teaching Practicum		担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・通年		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	1単位
授業目的	事前指導：栄養教諭の実習の意義や目的を理解し、実習に臨む基本姿勢の構築を図る。実習に関する報告書等の作成方法をはじめとし、実習効果を高める技術を体得させる。事後指導：実習報告書を作成し、課題ならびに成果を抽出してまとめる。実習報告会を行い、プレゼンテーションができる能力の養成を図る。			
到達目標	事前指導：栄養教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で、意欲的に栄養教育実習に参加することができる。事後指導：栄養教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能、課題等を理解している。			
関連科目	栄養教育実習			
テキスト	適宜、資料等を配布する			
参考書	適宜、提示する			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	30		
	その他	70		
履修上の留意事項	充実した栄養教育実習とするための事前学習・準備を周到に行って欲しい。実習後には、振り返りを十分に行い、栄養教諭としての資質向上を目指して積極的に取り組んで欲しい。			
課題に対するフィードバックの方法	栄養教育実習に向けての事前学習・準備での振り返りや助言、実習報告書作成での自身の課題や課題解決の方向性に対する観点整理や助言を行う。			
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら実習の意義や目的について理解しやすいように授業を行う。			
回数 (担当)	学習の主題	授業内容		事前・事後学習
1 (全担当教員)	栄養教育実習オリエンテーション	栄養教育実習の意義や目的、マナー、教育実習に必要な知識の確認・整理等		事前：既習の関連科目の復習をする（1時間）事後：教育実習の意義や目的について自分の言葉でノートにまとめる（1時間）
2 (全担当教員)	学校現場の実態について	学校現場の状況や実習に向けて取り組むべきことなど		事前：実習に向けて学びたい事項（質問事項）の整理する（1時間）事後：実習に向けて取り組むべきことなどを整理する（1時間）
3 (全担当教員)	栄養教育実習に向けた模擬指導（給食前指導）ガイダンス・準備Ⅰ	指導テーマの検討・指導案作成		事前：模擬指導（給食前指導）のテーマを検討する（1時間）事後：指導案作成方法の振り返りをする（1時間）
4 (全担当教員)	給食前指導の準備Ⅱ	教育教材の作成		事前：教材作成を参考図書などで準備する（1時間）事後：学んだ教育教材の作成のポイントを自分で振り返りまとめる（1時間）
5 (全担当教員)	模擬給食前指導と討論Ⅰ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認		事前：討論に向けての内容、資料の準備をする（1時間）事後：全体討論での気付き、学びをノートに整理する（1時間）
6 (全担当教員)	模擬給食前指導と討論Ⅱ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認		事前：討論に向けての内容、資料の準備をする（1時間）事後：全体討論での気付き、学びをノートに整理する（1時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7 (全担当教員)	討論 給食前指導の振り返り・研究授業（45 分間食指導）ガイダンス・準備Ⅰ	指導テーマの検討・指導案作成	事前：研究授業のテーマについて構想をまとめる（1 時間）事後：指導案作成方法の振り返りをする（1 時間）
8 (全担当教員)	研究授業の準備Ⅱ	教材作成準備・栄養教育の事前練習	事前：研究授業の内容、指導展開を構想する（1 時間）事後：栄養教育の事前練習を整理する（1 時間）
9 (全担当教員)	模擬研究授業（45 分間食指導）と討論Ⅰ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：研究授業の資料、確認準備などを行う（1 時間）事後：討論を通じて気付いたこと、教えられたことを自分の言葉でノートにまとめる（1 時間）
10 (全担当教員)	模擬研究授業（45 分間食指導）と討論Ⅱ	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：研究授業の資料、確認準備などを行う（1 時間）事後：討論を通じて気付いたこと、教えられたことを自分の言葉でノートにまとめる（1 時間）
11 (全担当教員)	栄養教育実習の振り返り、報告（報告書・発表会）準備	教育実習の振り返り、履修カルテの記入、報告書・報告会準備	事前：栄養教育実習を振り返って整理する（1 時間）事後：報告書・報告会準備に向けて必要な資料準備をする（1 時間）
12 (全担当教員)	実習報告書作成Ⅰ	実習記録（報告書）の作成	事前：実習報告書作成に向けて資料を用意する（1 時間）事後：実習報告書作成の加除修正を行う（1 時間）
13 (全担当教員)	実習報告書作成Ⅱ	実習記録（報告書）の作成（完成）	事前：実習報告書作成の進捗を確認し、必要な資料を準備する（1 時間）事後：完成した実習報告書に目を通し、自分の課題を明確化する（1 時間）
14 (全担当教員)	実習成果報告会準備	実習成果の発表に向けてプレゼンテーション資料の作成、発表準備	事前：実習成果報告会に向けて必要な諸準備をする（1 時間）事後：実習成果報告会のポイントについて確認する（1 時間）
15 (全担当教員)	実習報告会	栄養教育実習の成果を発表する。発表を参考に、自身の課題や課題解決の方向性についてまとめる	事前：実習成果報告会に向けて最終的な準備をする（1 時間）事後：報告会を通じて自身の課題や課題解決の方向性について整理する（1 時間）

授業科目	栄養教育実習 Nutrition Teaching Practicum		担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4 年次・通年		選択・必修	選択
授業形態	実習		単位数	1 単位
ねらい	栄養教諭として、児童・生徒の健やかな成長と長い生涯にわたる健康維持の基礎づくりのために、適正な食習慣ならびに自己管理ができるように、学校現場（小学校）において、実習を行う。講義や演習を通して学んだ知識や技術を基礎として、児童・生徒に対し給食を教材とした栄養教育・食育を実践する。			
実習目標	1）児童との関わりを通して、児童の実態や課題を把握することができる。 2）栄養教諭の心構えや態度を学修し、栄養教諭に求められる役割を理解する。 3）学校給食管理の実態を把握し、生きた教材としての給食と食に関する指導の一体化について理解する。			
関連科目	栄養教育実習事前・事後指導、教職実践演習、給食経営管理論実習Ⅲ			
実習内容	・学校現場において、観察・参加・実習を通じて、学校教育（学校給食経営管理を含む）の実態を学ぶ。 ・給食時や教科・特別活動において、食に関する指導（指導案の作成、研究授業の実施など）を体験する。			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点 目標の達成状況を下記の点から評価する。 ・提出物：実習ノート・自主課題等の記録（40％） ・実習報告書（30％） ・その他：実習施設指導者の評価（30％）	
	試験			
	レポート			
	小テスト			
	提出物	70		
	その他	30		
履修上の留意事項	1. 本実習は、「栄養教育実習事前・事後指導」において、実習前に必要なオリエンテーションや事前準備等を行い、実習後に成果発表等を行う。 2. 教職関連科目で学修したことが基礎となるため、事前にしっかり振り返りをしておくこと。			
課題に対するフィードバックの方法	実習成果報告会のポイントについて確認することや、実習報告書作成での自身の課題や課題解決の方向性に対する観点整理や助言を行う。			
実務経験を活かした教育内容				
実習方法	小学校で 1 週間（5 日間：45 時間）。 日程や具体的内容等は「栄養教育実習事前・事後指導」のオリエンテーションで説明する。			
実習施設	札幌市内の小学校（予定）			

授業科目	教職実践演習 Seminar on Teaching Practice	担当教員	加藤 隆、百々瀬 いづみ、岩部 万衣子
対象学科・年次・学期	栄養学科・4年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	これまでの教職課程で学んだ理論と実践の有機的な統合を図るため、講義により学びを深めるほか事例研究（討論）、年間指導計画の立案や教材研究、栄養教育の実践等を行う。		
到達目標	1) 教員としての使命感、責任感、社会性や対人関係能力について理解する。 2) 栄養教諭としての指導力等について自ら確認し、課題探究とその解決策に向けて取り組む。		
関連科目	栄養教育実習事前・事後指導、栄養教育実習		
テキスト	適宜、資料等の配布し、教科書等を貸与する		
参考書	適宜、提示する		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点
	試験		目標の達成状況を下記の点から評価する。 ・提出物：指導案・レポート等の提出物（30%） ・その他：討議、演習、実践等への参加態度（30%）、 ・プレゼンテーション（40%）
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
	その他	70	
履修上の留意事項	栄養教諭課程の総まとめの演習と心得、栄養教諭としての資質向上を目指して積極的に取り組んで欲しい。		
課題に対するフィードバックの方法	事例研究（討論）での観点整理を行ったり、年間指導計画の立案や教材研究、栄養教育の実践等を客観視する助言を行う。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、教員としての使命感、責任感、社会性について理解しやすく授業を行う。		
回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
1 (全担当教員)	ガイダンス（科目の趣旨・ねらい）	討論「履修カルテ」を活用したこれまでの学修の振り返り	事前：これまでの履修カルテの振り返り（1時間）。事後：履修カルテの記入と記載内容の振り返り（1時間）
2 (全担当教員)	討論 栄養教育実習からの事例研究	教科指導の分析・グループ討論	事前：栄養教育実習での学びをまとめる（1時間）。事後：栄養教育実習での学びの振り返り（1時間）
3 (全担当教員)	発表・討論	「第2回グループ討議」発表と全体討論	事前：栄養教育実習での学びの振り返り（1時間）事後：討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り（1時間）
4 (全担当教員)	討論 栄養教育実習からの事例研究	生徒指導の分析・グループ討論	事前：前回の討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り（1時間）事後：（1時間）栄養教育実習での学びの振り返り（1時間）
5 (全担当教員)	発表・討論	「第4回グループ討議」発表と全体討論	事前：前回の事例研究の学びの振り返り（1時間）事後：討論内容を踏まえて、気づき・学びの振り返り（1時間）
6 (全担当教員)	講義 学校現場の実際Ⅰ	学校栄養教諭による地域連携の実際	事前：講師から学びたい事項（質問事項）の整理（1時間）事後：地域連携の実際について自分なりにまとめる（1時間）
7 (全担当教員)	討論	「第6回講義」からの学び	事前：第6回講義での学びの振り返り（1時間）事後：討論を通じて気付いたことを自分の言葉でまとめる（1時間）
8 (全担当教員)	演習「年間指導計画」作成～立案に向けた情報収集・グループ討論	グループ討論による年間指導計画の作成	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1時間）事後：「年間指導計画」作成方法の振り返り（1時間）
9 (全担当教員)	演習「年間指導計画」立案（完成）と教材研究	グループ討論による年間指導計画の作成と教材作成	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1時間）事後：「年間指導計画」と「教材作成」方法の振り返り（1時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10 (全担当 教員)	演習 教材作成（個人作業）	栄養教育（発表用）に必要な教材の作成	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1時間） 事後：「教材作成方法」の振り返り（1時間）
11 (全担当 教員)	演習 教材作成・発表（グループ内での発表・修正作業）	栄養教育（発表用）に必要な教材の作成と討論による修正	事前：「年間指導計画」作成方法について事前に参考書籍に目を通す（1時間） 事後：「教材作成方法」の振り返り（1時間）
12 (全担当 教員)	演習 教材を活用した栄養教育の計画・指導案作成	作成した教材を活用した栄養教育計画と、指導案の作成	事前：「栄養教育計画」について事前に参考書籍に目を通す（1時間）事後：栄養教育の手法と、指導案作成方法の振り返り（1時間）
13 (全担当 教員)	演習 教材を活用した栄養教育のグループ内発表	グループ討論による栄養教育内容の発表と修正	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：グループ内発表を簡潔にまとめる（1時間）
14 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表（1グループの発表）と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
15 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表（2グループの発表）と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
16 (全担当 教員)	演習 栄養教育の模擬発表（3グループの発表）と全体討論	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：全体討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
17 (全担当 教員)	討論 栄養教育の模擬発表の振り返り・改善案について	栄養教育の発表内容全体を振り返り・改善方法等について討論	事前：栄養教育に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：改善方法等について討論を通じて学んだことを自分なりに整理する（1時間）
18 (全担当 教員)	演習 栄養教育の準備Ⅰ（教材の作成・変更等）	栄養教育の実践に向け教材の作成・変更・練習等	事前：栄養教育の実践に向け教材に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：教材の作成・変更・練習等について気付いたことを整理する（1時間）
19 (全担当 教員)	演習 栄養教育の準備Ⅱ（グループ内練習等）	グループ内での栄養教育の練習等	事前：グループ内での栄養教育の練習に向けた準備と確認（1時間）事後：栄養教育の実践に向けた準備（1時間）
20 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践（1グループ）	1 グループは栄養教育の実践／他グループは発表の観察	事前：グループ単位で実践に向けた準備と確認（1時間）事後：実践と観察を通じて学んだことの振り返り（1時間）
21 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践（2グループ）	2 グループは栄養教育の実践／他グループは発表の観察	事前：グループ単位で実践に向けた準備と確認（1時間）事後：実践と観察を通じて学んだことの振り返り（1時間）
22 (全担当 教員)	実践 児童会館等における栄養教育の実践（3グループ）	3 グループは栄養教育の実践／他グループは発表の観察	事前：グループ単位で実践に向けた準備と確認（1時間）事後：実践と観察を通じて学んだことの振り返り（1時間）
23 (全担当 教員)	討論 栄養教育実践の評価・改善について	全グループの栄養教育実践結果の報告と改善点について討論	事前：グループ単位で実践のまとめを確認（1時間）事後：討議の内容を自分なりに整理する（1時間）
24 (全担当 教員)	講義 「学校現場の実際Ⅱ（特別支援学校で栄養教諭の役割）」	学校栄養教諭による特別支援学校における業務の実際	事前：講師から学びたい事項（質問事項）の整理（1時間）事後：特別支援学校における業務の実際について自分なりにまとめる（1時間）
25 (全担当 教員)	討論 「第24回の講義からの学び」	「第24回の講義」からの学び	事前：第24回講義での学びの振り返り（1時間）事後：討論を通じて気付いたことを自分の言葉でまとめる（1時間）
26 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育の計画・指導案作成	グループ討論による指導計画、指導案の作成	事前：特別支援学校に関する参考書籍に目を通す（1時間）事後：指導計画、指導案の作成のポイントを整理する（1時間）

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
27 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育のグループ内発表	グループ討論による栄養教育内容の発表と修正	事前：グループ内発表の準備と確認（1時間）事後：栄養教育内容の発表と修正についてまとめる（1時間）
28 (全担当 教員)	演習 特別支援学校における栄養教育の模擬発表	栄養教育内容の発表と全体討論での修正点の確認	事前：模擬発表に向けて事前準備と確認（1時間）事後：栄養教育の模擬発表で学んだことを自分なりにまとめる（1時間）
29 (全担当 教員)	討論 特別支援学校における栄養教育のあり方について	現場の栄養教諭を交えて、栄養教育のあり方について討論する	事前：第 24 回講義での学びの振り返り（1時間）事後：現場の栄養教諭を交えての討論で気付いたことを自分の言葉でまとめる（1時間）
30 (全担当 教員)	討論 「教職実践演習の振り返り」、履修カルテの記入・自己評価	履修カルテを活用して、自己の学び（達成状況）や課題を振り返る	事前：これまでの履修カルテの振り返り（1時間）。事後：履修カルテの記入、自己評価（1時間）

IV 規 程

(学則・教務に関する諸規程)

札幌保健医療大学学則

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 札幌保健医療大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に則り、専門の学術の理論及び応用を深く研究・教授し、保健医療における有為な人材を養成、社会の発展に貢献することを目的とする。

(自己点検・評価等)

第2条 本学は、その教育研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況等について自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果について公表する。

2 自己点検・評価に関し必要な事項は別に定める。

3 第1項の自己点検・評価に加え教育研究等の総合的な評価について、学校教育法施行令第40条に定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を受ける。

(教育内容等の改善のための組織的改善)

第3条 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修を行うものとする。

2 前項の教育内容等の改善に関し必要な事項は、別に定める。

(情報公開)

第4条 本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法により、積極的に情報公開する。

2 前項の情報公開に関し必要な事項は別に定める。

第2節 組織

(学部及び学科)

第5条 本学に、次の学部及び学科を置く。

保健医療学部 看護学科

栄養学科

2 学科の入学定員及び収容定員は、次の通りとする。

学部名	学科名	入学定員	収容定員
保健医療学部	看護学科	100 名	400 名
	栄養学科	80 名	320 名

3 大学及び学科の教育上の目的

(1) 大学

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

(2) 看護学科

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を実践できる能力、多職種と連

携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

(3) 栄養学科

栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。

(大学院)

第5条の2 本学に大学院を置く。ただし、大学院学則は別に定める。

(図書館)

第6条 本学に、図書館を置く。

2 図書館に関し必要な事項は、別に定める。

第3節 職員組織

(職員)

第7条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、及びその他必要な職員を置く。

(事務局)

第8条 本学に、事務局を置く。

2 事務局の事務を統括し職員を指揮監督するため、事務局長を置く。

3 事務局に関し必要な事項は、別に定める。

第4節 評議会及び教授会

(評議会)

第9条 本学に、評議会を置く。

2 評議会の組織等については、別に定める。

3 評議会は、次の各号に掲げる事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 大学の管理運営の重要事項に関すること
- (2) 大学の将来構想に関すること
- (3) 学則その他重要な規程の制定及び改廃に関すること
- (4) 教員の人事計画に関すること
- (5) 教員の採用、退職及び昇任等に関すること
- (6) 学生の入学に関すること
- (7) 学生の奨学金に関すること

4 評議会に関し必要な事項は、別に定める。

(教授会)

第10条 学部教授会を置く。

2 教授会の組織等については別に定める。

3 教授会は、次の各号に掲げる事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び卒業に関すること
- (2) 学位の授与に関すること

4 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という。）がつかさどる次の各号に掲げる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

- (1) 教育・研究の基本方針に関すること
- (2) 教育課程の編成に関すること

- (3) 学則その他学部運営に関する規程等の制定及び改廃に関する事
- (4) 学生の指導及び賞罰に関する事
- (5) 学生の除籍に関する事
- (6) 学生の奨学金に関する事
- (7) 入学試験要項に関する事
- (8) 教員の教育研究業績の審査に関する事

第5節 学年、学期及び休業日

(学年)

第11条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第12条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第13条 休業日は、次の通りとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める日
- (3) 本学の創立記念日
- (4) 夏期休業
- (5) 冬期休業
- (6) 春期休業

2 学長は、必要があると認める場合は、前項の休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

3 学長は、必要があると認める場合は、休業日においても臨時の授業日を設けることができる。

第2章 学部通則

第1節 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第14条 学部の修業年限は、4年とする。

(最長在学年限)

第15条 学生は8年を超えて在学することができない。

第2節 入 学

(入学の時期)

第16条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

第17条 本学に入学することの出来る者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(7) 専修学校の高等課程(修業年限3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(8) 本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

第18条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選考)

第19条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第20条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

第3節 教育課程及び履修方法等

(教育課程の編成)

第21条 本学は、学部・学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

(授業科目)

第22条 授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目及び教職に関する科目とする。

2 各授業科目を必修科目、選択必修科目、選択科目に分け、各年次に配当する。

第22条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技にいずれかにより又はこれらを併用して行うものとする。

2 授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で行うことができる。

(履修の要件)

第23条 学部・学科における履修の要件については、別表1、別表2、別表3及び別表4のとおりとする。

2 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。

(単位計算方法)

第24条 授業科目の単位計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ次の基準によるものとする。

(1) 講義・演習については、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験・実習及び実技については、45時間の実験・実習又は実技をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第25条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

(他大学等における授業科目の履修等)

第26条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学等との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学等の授業科目を履修させることができる。

- 2 学長は、前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、60 単位を限度として卒業要件単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 27 条 教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 28 条 教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修により修得した単位を含む。）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 3 前 2 項により修得したものとみなし、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて 60 単位を超えないものとする。

(本学以外での履修の許可)

第 29 条 本学学生にして、前 2 条に定める大学等で授業科目の履修を希望する者は、学長の許可を得なければならない。

(本学以外で履修した科目及び単位の取り扱い)

第 30 条 本学以外で修得した科目及び単位の取り扱いに関する詳細は、別に定める。

(成績)

第 31 条 授業科目の成績評価は、秀（100 点～90 点以上）・優（90 点未満～80 点以上）・良（80 点未満～70 点以上）・可（70 点未満～60 点以上）・不可（60 点未満）の 5 種をもって表わし、可以上を合格とする。

(その他)

第 32 条 この節に定めるもののほか、授業科目の種類・単位数及び履修方法等については、別に定め第

第 4 節 休学・転学・留学・退学・除籍・再入学及び復籍

(休学)

第 33 条 疾病その他特別の理由により 2 カ月以上修学することができない者は、学部長の許可を得て休学することができる。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められるものについては、学部長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第 34 条 休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1 年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。

- 3 休学期間は、第 15 条の在学期間に参入しない。

- 4 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学部長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第 35 条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第 36 条 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第 41 条に定める在学期間を含めることができる。

3 第 26 条の規定は、外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。

(退学)

第 37 条 病気その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、保証人連署の上、退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第 38 条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2) 第 15 条に定める在学年限を超えた者

(3) 第 34 条第 2 項に定める休学期間を超えてなお修学できない者

(4) 死亡又は長期間にわたり行方不明の者

(編入学及び再入学)

第 39 条 本学に他大学等から編入学を志願する者又は、やむを得ない理由で本学を退学した者で、その後 2 年以内に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長が相当年次に入学を許可することがある。

2 前項により、入学を許可された者の既に履修した科目及び単位数の取り扱い並びに修業年限は、学長が決定する。

3 第 46 条に規定する懲戒処分により退学した者は、再入学することはできない。

4 編入学及び再入学に関する規程は別に定める。

(転学科)

第 40 条 所属する学科から他学科へ変更することを志願する者があるときは、その学科に欠員がある場合に限り、選考の上、学長が相当年次に転学科を許可することがある。

2 転学科に関する規程は、別に定める。

(復籍)

第 41 条 第 38 条第 1 号に該当する事由により除籍された者で、未納の授業料等に相当する金額を納付して復籍を願ひ出た者に対しては、学長が許可することがある。

2 前項により復籍を許可された者に対し必要な事項は、学長が決定する。

第 5 節 卒業及び学位等

(卒業)

第 42 条 本学に 4 年以上在学し、別表 1 及び別表 3 に定める授業科目及び単位数を修得した者については、学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第 43 条 前条により卒業を認定された者には、次の学位を授与する。

保健医療学部 看護学科 学士(看護学)

栄養学科 学士(栄養学)

(免許及び資格の取得)

第 44 条 看護学科の学生で第 42 条に定める卒業要件を満たした者は、保健師助産師看護師法に基づき、看護師国家試験受験資格を取得する。

2 看護学科の学生で保健師国家試験受験資格を希望する者は、第 1 項の規定を満たし、かつ別表 1 に定める保健師に関する科目を履修し、必要な単位を修得しなければならない。

3 栄養学科の学生で第 42 条に定める卒業要件を満たした者は、栄養士法並びに同法施行規則に基づき、栄養士免許証が交付され、また管理栄養士国家試験受験資格を取得する。

4 栄養学科の学生で第3項の規定を満たし、かつ別表4に定める栄養教諭養成課程を履修し、免許状授与に必要な単位数を修得した者は、教育職員免許法並びに同法施行規則の規定に基づき、栄養教諭一種免許状が授与される。

第6節 賞 罰

(表彰)

第45条 学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第46条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがない者

(2) 正当な理由がなくて出席が常でない者

(3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7節 科目等履修生等

(科目等履修生)

第47条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、各学科等の教育研究に支障がない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として学長が受入を許可することができる。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第8節 入学検定料、入学金及び授業料並びに教職課程履修費等

(納付金)

第48条 入学検定料、入学金及び授業料並びに教職課程履修費及び栄養教育実習費の金額は、別表5及び別表6のとおりとする。

(授業料の納付)

第49条 授業料は、年額の二分の一ずつを次の2期に分けて納付することができる。

区 分	納 期
前期（4月から9月まで）	4月中
後期（10月から翌年3月まで）	10月中

(復学の場合の授業料)

第50条 前期又は後期の中途において、復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料を復学した月に納付しなければならない。

(前期で卒業する場合の授業料)

第51条 前期で卒業する者の授業料は年額の二分の一を納付するものとする。

(退学及び停学の場合の授業料)

第52条 学期の途中で退学した者、又は停学を命じられた者の該当期分の授業料は徴収する。

(休学の場合の授業料)

第53条 前期又は後期の中で休学を許可され、又は命ぜられた者についての休学期間の授業料は徴収しない。

(納付した授業料等)

第54条 納付した入学検定料、入学金、及び授業料は、特別の事情がある場合を除き返戻しない。

第3章 改正及び細則

(改正)

第55条 本学則の改正は、教授会及び評議会を経て理事長が行う。

(その他)

第 56 条 学部規程のほか、本学則施行についての細則その他必要な事項は、別に定める。

附 則

この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この学則は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

2 2019 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条第 1 項に規定する別表 4 の保健医療学部栄養学科教職に関する履修要件は、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

2 2021 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条第 1 項に規定する別表第 3 については、なお従前の例による。

附 則

1 この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

2 2022 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条 1 項に規定する別表 1 及び別表 2 については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 保健医療学部看護学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考	
				必修	選択	自由			
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	必修科目 15 単位及び選択科目 9 単位以上、計 24 単位以上修得	1	1 1		講義		
		生物学							講義
		化学							講義
		論理的思考		2			講義		
		情報処理		1			演習		
		統計分析法		1			演習		
		情報リテラシー		1			演習		
	小計（7 科目）				6	2	0		
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）			1	1 1		演習	
		英語Ⅱ（会話）			1			演習	
		英語Ⅲ（読解）						演習	
		英語Ⅳ（総合）						演習	
		表現技法Ⅰ（読解・分析）		1			演習		
		表現技法Ⅱ（討議・発表）		1			演習		
	小計（6 科目）				4	2	0		
	人間と社会	心理学			2	1 2 1 1 1 1 2 2 1 1		講義	◆ ◆ ◆
		倫理学			1			講義	
		現代社会論			2			講義	
		生態学			1			講義	
		生活環境論			2			講義	
		教育学			1			講義	
		文学と人間			1			講義	
		スポーツ科学と運動			1			演習	
		スポーツ理論			1			講義	
		法と人権			2			講義	
地域社会文化論			2	講義					
国際社会論			1	講義					
社会貢献と活動			1	演習					
小計（13 科目）			5	13	0				
基礎教育 計			15	17	0				
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	必修科目 24 単位及び選択科目 3 単位以上、計 27 単位以上修得	2	1		講義		
		形態機能学Ⅱ		2			講義		
		感染免疫学		2			講義		
		病態学		2			講義		
		薬理学		2			講義		
		栄養代謝学		2			講義		
		臨床栄養学					講義		
		生涯発達論		1			講義		
		臨床心理学		1			講義		
		疾病治療論Ⅰ		2			講義		
		疾病治療論Ⅱ		2			講義		
		小計（11 科目）					18		1
	社会と健康	環境保健論			1	2 1 1 1 1 1 1		講義	※ ※ ※
		社会福祉論			2			講義	
		疫学						講義	
		関係法規			1			講義	
		保健医療福祉行政論			1			講義	
		健康政策論Ⅰ			1			演習	
		健康政策論Ⅱ			1			講義	
		保健統計学Ⅰ		1				講義	
		保健統計学Ⅱ			1			講義	
		生命倫理		1				講義	
		特別総合科目			1			演習	
		小計（11 科目）			6			7	
	専門基礎科目 計			24	8	0			

別表 1 保健医療学部看護学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
専門科目	看護の基本	看護学概論	必修科目 73 単位及び選択必修科目「クリティカル看護論」「慢性看護論」「リハビリテーション看護論Ⅱ」から 1 単位、選択科目 4 単位以上、計 78 単位以上修得	2			講義	
		看護技術総論		1			演習	
		援助関係論		1			演習	
		看護技術論Ⅰ		2			演習	
		看護技術論Ⅱ		2			演習	
		看護技術論Ⅲ		1			演習	
		健康教育論		1			講義	
		家族看護学		1			講義	
		看護倫理		1			講義	
		看護理論		1			講義	
		看護基礎実習Ⅰ		1			実習	
		看護基礎実習Ⅱ		2			実習	
		地域看護学概論		1			講義	
		地域看護実習		2			実習	
		小計（14 科目）		19	0	0		
	人間の発達段階と看護活動	成人看護学概論		1			講義	
		成人看護活動論Ⅰ		2			講義	
		成人看護活動論Ⅱ		1			演習	
		成人看護活動論Ⅲ		1			演習	
		外来看護実習		1			実習	
		成人看護実習Ⅰ		2			実習	
		成人看護実習Ⅱ		2			実習	
		小計（7 科目）		10	0	0		
		高齢者看護学概論Ⅰ		1			講義	
		高齢者看護学概論Ⅱ		1			講義	
		高齢者看護活動論Ⅰ		1			演習	
		高齢者看護活動論Ⅱ		1			演習	
		高齢者看護実習		3			実習	
		小計（5 科目）		7	0	0		
		小児看護学概論		2			講義	
		小児看護活動論Ⅰ		1			演習	
		小児看護活動論Ⅱ		1			演習	
		小児看護実習		2			実習	
		小計（4 科目）		6	0	0		
		母性看護学概論		2			講義	
		母性看護活動論Ⅰ		1			演習	
		母性看護活動論Ⅱ		1			演習	
		母性看護実習Ⅰ		1			実習	
		母性看護実習Ⅱ		1			実習	
		小計（5 科目）		6	0	0		
		精神看護学概論		2			講義	
		精神看護活動論Ⅰ		1			演習	
		精神看護活動論Ⅱ		1			講義	
		精神看護実習		2			実習	
		小計（4 科目）		6	0	0		

別表 1 保健医療学部看護学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
専門科目	看護の統合と探求	在宅看護学概論		1			講義	
		在宅看護論Ⅰ		1			講義	
		在宅看護論Ⅱ		1			演習	
		在宅看護実習		2			実習	
		医療安全論		1			講義	
		災害看護論			1		講義	
		看護学研究法		2			講義	
		看護課題研究		2			演習	
		クリティカル看護論			1		講義	
		慢性看護論			1		講義	
		リハビリテーション看護論Ⅰ		1			講義	
		リハビリテーション看護論Ⅱ			1		講義	
		スポーツと看護			1		講義	
		国際看護論			1		講義	
		看護管理論		1			講義	
		看護教育論			1		講義	
		看護総合実習		2			実習	
		実践総合演習		1			演習	
		栄養サポートチーム論			1		講義	
		地域連携ケア論Ⅰ		1			講義	
		地域連携ケア論Ⅱ		1			講義	
		地域連携ケア論Ⅲ		1			講義	
		地域連携ケア論Ⅳ		1			講義	
		小計（23 科目）			19	8	0	
	専門科目 計				73	8	0	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論			1		講義	
		公衆衛生看護支援論Ⅰ			2		講義	※
		公衆衛生看護支援論Ⅱ			2		演習	※
		公衆衛生看護対象論Ⅰ			2		講義	※
		公衆衛生看護対象論Ⅱ			1		講義	※
		公衆衛生看護展開論			2		講義	※
		公衆衛生看護管理論			2		講義	※
		公衆衛生看護実習Ⅰ			2		実習	※
		公衆衛生看護実習Ⅱ			2		実習	※
		公衆衛生看護実習Ⅲ			1		実習	※
		小計（10 科目）			0	17	0	
合計（120 科目）				112	50	0		

※印は保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修できる科目

◆印は※のほかに養護教諭二種免許取得申請に必要な科目

別表 2 保健医療学部栄養学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解 論理的思考 情報処理 統計分析法 情報リテラシー 生物学 基礎化学	必修科目 16 単位 及び選択科目 11 単位以上、 計 27 単位以上 履修	1 2 1 1 2	1 1 1		講義 講義 演習 演習 演習 講義 講義	※
		小計(7科目)		7	2	0	—	
	言語と表現力	英語Ⅰ(基礎) 英語Ⅱ(会話) 英語Ⅲ(読解) 英語Ⅳ(総合) 表現技法Ⅰ(読解・分析) 表現技法Ⅱ(討議・発表)		1 1 1 1	1 1		演習 演習 演習 演習 演習	
		小計(6科目)		4	2	0	—	
	人間と社会	心理学 倫理学 生態学 スポーツ科学と運動 スポーツ理論 地域社会文化論 社会貢献と活動 生活環境論 現代社会論 国際社会論 法と人権 教育学 文学と人間		2 1 1 1 2 1 2 2 1 2 1 1	1 1 1 2 1 2 1 1		講義 講義 講義 演習 講義 講義 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義	※ ※ ※ ※
		小計(13科目)		5	13	0	—	
		基礎教育科目 計		16	17	0	—	
専門基礎科目	社会・環境と健康	生涯発達論 人間関係論 生命倫理 医療概論 健康管理概論 公衆衛生学 公衆衛生学実習 保健医療福祉行政論Ⅰ 保健医療福祉行政論Ⅱ	必修科目 40 単位 及び選択科目 4 単位以上、 計 44 単位以上 履修	1 2 2 1 1	1 1 2		講義 講義 講義 講義 講義 講義 実習 講義	
		小計(9科目)		7	6	0	—	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ 形態機能学Ⅱ 形態機能学実習Ⅰ 形態機能学実習Ⅱ 有機化学 病理学 微生物学 微生物学実験 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実験 病態診療学Ⅰ 病態診療学Ⅱ		2 2 1 1 2 2 2 1 2 2 1 2 2	2		講義 講義 実習 実習 講義 講義 講義 実験 講義 講義 実験 講義 講義	
		小計(13科目)		20	2	0	—	
	食べ物と健康	食品科学Ⅰ 食品科学Ⅱ 食品科学Ⅲ 食品科学実験Ⅰ 食品科学実験Ⅱ 食品機能学		2 2 1 1	2		講義 講義 講義 実験 実験 講義	

別表2 保健医療学部栄養学科教育課程

専門基礎科目	食べ物と健康	食品衛生学 食品衛生学実験 調理学 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ		2 1 2 1 1			講義 実験 講義 実習 実習		
		小計(11科目)		13	4	0	—		
	専門基礎教育科目 計			40	12	0	—		
専門科目	管理栄養士論	管理栄養士論 管理栄養士総合演習	必修科目 45 単位及び選択必修科目「給食経営管理論実習Ⅲ」又は「公衆栄養学実習Ⅱ」のうち 1 単位並びに選択科目 6 単位以上、計 53 単位以上履修	1 1			講義 演習		
		小計(2科目)		2	0	0	—		
		基礎栄養学		基礎栄養学 基礎栄養学実験	2 1			講義 実験	
	小計(2科目)			3	0	0	—		
	応用栄養学			応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学Ⅲ 応用栄養学実習 免疫と栄養 スポーツ栄養学	2 2 2 1			講義 講義 講義 実習 講義 講義	
		小計(6科目)		7	2	0	—		
		栄養教育論		栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論Ⅲ 栄養教育論実習 栄養カウンセリング演習 食生活論 食育指導論	2 2 2 1			講義 講義 講義 実習 演習 講義 講義	※ ※
				小計(7科目)	7	5	0	—	
	臨床栄養学			臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学Ⅲ 臨床栄養学Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅰ 臨床栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅲ	2 2 2 2 1 1 1			講義 講義 講義 講義 実習 実習 実習	
				小計(7科目)	11	0	0	—	
		公衆栄養学		公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習Ⅰ 地域栄養活動演習 国際栄養学	2 2 1			講義 講義 実習 演習 講義	
				小計(5科目)	5	2	0	—	
	給食経営管理論			給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理論実習Ⅰ	2 2 1			講義 講義 実習	
				小計(3科目)	5	0	0	—	
		総合演習		総合演習Ⅰ 総合演習Ⅱ	1 1			演習 演習	
				小計(2科目)	2	0	0	—	
	科目統合			英語文献講読演習 卒業研究		1 2		演習 演習	
		小計(2科目)		0	3	0	—		
		臨地実習		給食経営管理論実習Ⅱ 給食経営管理論実習Ⅲ 公衆栄養学実習Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	1 2	1 1 2		実習 実習 実習 実習	
	小計(5科目)			3	4	0	—		
	専門科目 計			45	16	0	—		
合計(100科目)				101	45	0	—		

※印は栄養教諭一種免許状授与に必要な科目

別表 3 保健医療学部栄養学科教職に関する科目

授業科目の名称	単位数			授業形態	備考
	必修	選択	自由		
教職概論			2	講義	
教育原理			1	講義	
教育制度論			1	講義	
教育心理学			2	講義	
特別支援教育概論			1	講義	
教育課程論			1	講義	
道德教育論			1	講義	
特別活動・総合的学習指導論			1	講義	
教育方法論			1	講義	
生徒指導論			1	講義	
教育相談論			2	講義	
栄養教育実習事前・事後指導			1	実習	
栄養教育実習			1	実習	
教職実践演習			2	演習	

別表 4 保健医療学部看護学科及び栄養学科入学検定料、入学金及び授業料

① 入学検定料

(単位：円)

試 験 区 分	金 額
学校推薦型選抜入学・一般選抜入学・総合型選抜入学・編入学	30,000
社会人入学	30,000
大学入試センター利用入学	10,000

② 入学金及び授業料

(単位：円)

項 目	学 科	金 額	備 考
入学金	両学科共通	300,000	入学時のみ
授業料	看護学科	1,500,000	2期分納可
	栄養学科	1,050,000	

別表 5 保健医療学部栄養学科教職課程履修費及び栄養教育実習費

(単位：円)

項 目	金 額	納入区分	納入時期
教職課程履修費	20,000	1年次以降	前期授業料納入時
栄養教育実習費	10,000	4年次	同 上

札幌保健医療大学保健医療学部履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、札幌保健医療大学学則（以下「学則」という。）第32条の規定に基づき、授業科目（以下「科目」という。）の履修方法などに関して必要な事項を定めるものとする。

(科目及び単位数)

第2条 保健医療学部（以下「本学部」という。）における科目は、学則第22条に規定する「基礎教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」とする。それぞれの科目の単位数、必修・選択科目については、学則別表1及び別表3のとおりとする。

(卒業に必要な単位数)

第3条 本学部において卒業に必要な単位数は、次表のとおりとする。

(1) 看護学科

科目区分	必修単位	選択単位
基礎教育科目	15 単位	9 単位以上
専門基礎科目	24 単位	3 単位以上
専門科目	73 単位	5 単位以上 ※選択必修 1 単位含む
卒業に必要な単位数	112 単位	17 単位以上

(2) 栄養学科

科目区分	必修単位	選択単位
基礎教育科目	17 単位	9 単位以上
専門基礎科目	40 単位	4 単位以上
専門科目	49 単位	7 単位以上 ※選択必修 1 単位含む
卒業に必要な単位数	106 単位	20 単位以上

2 栄養教諭一種免許取得に必要となる学則別表4に掲げる科目の単位数は、卒業に必要な単位数には含まないものとする。

(授業期間)

第4条 毎学年の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週以上とする。

(授業方法)

第5条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらを併用して行うものとする。

2 授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で行うことができる。

(履修登録の方法及び登録時期)

第6条 履修する科目は、指定された期間に所定の様式にて履修登録をしなければならない。

- 2 後期のみの授業科目についても、原則として、学年初めの指定された期間に登録するものとする。
- 3 前項に関わらず、次の者については、後期の指定された期間に履修登録することができる。
- (1) 前期に休学し、後期に復学する者
 - (2) 学則第 36 条により留学した者で、後期に本学における履修を再開する者
 - (3) 前期末で卒業を目指した者が、学則第 42 条の規定を満たすことができずに、後期に履修する者
- 4 履修登録の訂正は、各期確認訂正期間に限り認めるものとする。

(休学及び退学による履修登録の取扱い)

第 7 条 履修登録後の各学期途中で休学又は退学した場合は、その開講学期に履修登録したすべての科目を評定不能の取扱いとする。

(科目の履修制限)

第 8 条 次に該当する場合、その科目の履修を認めない。

- (1) 既に単位を修得した科目
- (2) 授業時間が重複する科目
- (3) 休学中の場合
- (4) 在籍する学年より上級学年に配当されている科目
- (5) 学費未納の場合

(履修登録単位数の上限)

第 9 条 学則第 23 条第 2 項の規定に基づく卒業の要件として修得すべき単位数について、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を看護学科は 45 単位、栄養学科は 48 単位とする。ただし、編入学をした者については、この限りではない。

2 栄養教諭一種免許取得に必要な学則別表 4 に掲げる科目の単位数は、第 1 項の履修登録単位数の上限、栄養学科の 48 単位には含まないものとする。

3 再履修する科目の単位数は、第 1 項の履修登録単位数の上限、看護学科の 45 単位、栄養学科の 48 単位には含まないものとする。

(大学が認める特段の理由による欠席の取扱い)

第 10 条 大学が認める特段の理由による欠席とは、次表の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った者について、補講等の配慮を受けることができる欠席のことをいい、欠席を許可する日数は、次表のとおりとする。

欠席事由	提出期限	必要添付書類等	許可日数
災害、公共交通機関の障害	授業の場合は、原則 5 日以内、試験の場 合は、指定された日 時までに、欠席届を	・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書	当該日のみ
忌引き	提出	・会葬礼状のはがき等 ・保証人による証明書 (要押印)	・配偶者 7 日以内 ・一親等（父母、子） 7 日以内 ・二親等（祖父母、兄弟姉妹） 3 日以内

感染症等による出席停止 (感染症とその出席停止期間は、別に定める。)		・ 医師の診断書 ・ 登校許可証明書（感染症用）等	医師の診断書により出席停止を必要とされた期間に限る。
その他教務委員会が認めた事由		欠席事由を証明できる書類等	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間に限る

(天候による休講措置)

第 11 条 天候による非常事態に伴う学生の休講措置の条件については、別に定める。

(先修条件)

第 12 条 履修に必要な条件として、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目を別に定める。

(試験)

第 13 条 履修した科目については、試験を行う。試験の詳細は、札幌保健医療大学試験規程に定める。

2 次の各号の一つに該当する者は、受験資格を有しないため、「失格」の取扱いとする。

(1) 授業料その他納付金が未納の者

(2) 授業出席時間数が、その授業実施時間数の 3 分の 2 未満の者

(成績評語)

第 14 条 単位は、学則第 25 条に基づいて授与され、その成績評語は「秀 (S) ・優 (A) ・良 (B) ・可 (C) ・不可 (D)」の 5 種をもって表示するものとする。

2 失格科目は「失格 (P)」、単位認定科目は「認定 (N)」、評定不能科目は「評定不能 (W)」と表示するものとする。

(進級要件)

第 15 条 進級要件は、別に定める。

(看護師国家試験受験資格の取得)

第 16 条 看護師の国家試験受験資格を取得しようとする者は、看護学科の課程を履修し、卒業に必要な単位 (129 単位) を取得しなければならない。

(保健師国家試験受験資格の取得)

第 17 条 保健師の国家試験受験資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位数の他に、公衆衛生看護学履修生のみが履修できる全ての授業科目（「健康政策論Ⅰ」「健康政策論Ⅱ」「保健統計学Ⅱ」「公衆衛生看護支援論Ⅰ」「公衆衛生看護支援論Ⅱ」「公衆衛生看護対象論Ⅰ」「公衆衛生看護対象論Ⅱ」「公衆衛生看護展開論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」「公衆衛生看護実習Ⅲ」）を取得すること。なお、専門基礎科目及び専門科目の選択科目のうち、「疫学」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護学概論」を修得し、合計 148 単位以上を修得しなければならない。

2 保健師国家試験受験資格取得のための履修希望者は、公衆衛生看護学履修生審査会で審査し、教授会にて学長が決定する。履修希望者は、次の各号の基準をすべて満たしていなければ申請することができない。

(1) 保健師への興味・関心及び学習意欲が認められること。

(2) 2 年次までの必修科目の全ての単位を修得していること。

(3) 2年次までの専門科目(必修)の全科目成績評価においてGPAが原則として2.5以上であること。

(4) 学業生活が全般に安定し、成業の見込みがあること。

(養護教諭二種免許の取得)

第18条 養護教諭二種免許を取得しようとする者は、保健師国家試験に合格し、保健師免許を取得していなければならない。

2 保健師国家試験受験資格に必要な科目のほかに養護教諭免許取得の申請に必要な科目のすべて

(「法と人権」「スポーツ科学と運動」「スポーツ理論」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「情報処理」「情報リテラシー」)を修得していなければならない。

(栄養士の取得)

第19条 栄養士の資格を取得しようとする者は、本学が別表1に定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

(管理栄養士国家試験受験資格の取得)

第20条 管理栄養士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、本学が別表2に定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。

(栄養教諭一種免許状の取得)

第21条 栄養教諭一種免許状の取得に関する規程は別に定める。

(食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格の取得)

第22条 食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得しようとする者は、学則の定める栄養学科の卒業に必要な科目の単位を修得しなければならない。

2 前項に定める単位の中には「有機化学」の2単位を含まなければならない。

(単位認定の時期)

第23条 単位認定の時期は各開講学期末とする。したがって、単位認定の時期に在学していない者の単位認定は行わない。

2 各学期途中で休学又は退学した場合は、その開講学期に履修登録したすべての科目を評定不能の取扱いとする。

(卒業の認定)

第24条 学則第42条の規定に基づき、大学に4年以上在学し、所定の科目を履修し、看護学科においては129単位以上、栄養学科においては126単位以上を修得した者については、教授会を経て、学長が卒業を認定する。

2 学生の卒業時期は、学期末あるいは学年末とする。

(補則)

第25条 この規程に定めるほか、履修に関して必要な事項は、教授会を経て学長が別に定める。

(改廃)

第26条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2019 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

2 2021 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 3 条第 1 項第 2 号、第 9 条第 1 項、同条第 3 項、同条第 4 項、第 19 条、第 20 条及び第 24 条については、なお従前の例による。

附 則

1 この規程は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

2 2022 年 3 月 31 日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

札幌保健医療大学保健医療学部履修に関する細則

(趣旨)

第1条 この細則は、札幌保健医療大学学則（以下「学則」という。）第32条及び札幌保健医療大学保健医療学部履修規程（以下「履修規程」という。）第12条に基づき、授業科目（以下「科目」という。）の履修などに関して必要な事項を定めるものとする。

(先修条件)

第2条 各臨地実習に係る科目についての履修に必要な条件は、次のとおりとする。

(1) 看護学科

① 平成25年度及び平成26年度入学生については、次表のとおりとする。

科 目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している成人看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	
高齢者看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している高齢者看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している小児看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	看護基礎実習Ⅱ、3年次前期までに開講している母性看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	4年次前期までに開講している精神看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	4年次前期までに開講している在宅看護論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

② 2015（平成27）年度から2021年度入学生については、次表のとおりとする。

科 目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	2年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、援助関係論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	

高齢者看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している小児看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	2年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。3年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	4年次前期までに開講している精神看護学の科目（精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱ）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	3年次の臨地実習すべての単位を修得見込みであること。4年次前期までに開講している在宅看護論の科目（在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱ）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目（公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護管理論）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

③ 2022年度以降の入学生については、次表のとおりとする。

科 目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	2年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。看護技術論Ⅱ・Ⅲの科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	3年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	
高齢者看護実習	3年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習Ⅰ	3年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	母性看護実習Ⅱ、小児看護実習、精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び4年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目（公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護対象論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論、公衆衛生看護管理
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

	論)「保健医療福祉行政論」「疫学」「健康政策論Ⅰ」「保健統計学Ⅱ」のすべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
--	---

(2) 栄養学科

各臨地実習に係る科目の履修については、次表の先修条件となっている科目の単位を修得していないなければならない。

科 目	先修条件 (単位を修得していないといけない科目)
給食経営管理論実習Ⅱ	給食経営管理論Ⅰ
	給食経営管理論Ⅱ
	給食経営管理論実習Ⅰ
公衆栄養学実習Ⅱ	公衆栄養学Ⅰ
	公衆栄養学Ⅱ
	公衆栄養学実習Ⅰ
給食経営管理論実習Ⅲ	給食経営管理論実習Ⅱ
臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	臨床栄養学Ⅰ
	臨床栄養学Ⅱ
	臨床栄養学実習Ⅰ
	臨床栄養学Ⅲ
	臨床栄養学実習Ⅱ
	給食経営管理論実習Ⅱ

2 前項の科目以外で履修に必要な条件がある科目は、次のとおりとする。

(1) 看護学科の「実践総合演習」の履修は、看護総合実習が不合格又は未履修の場合、履修することができない。

(2) 看護学科のうち、2015(平成27)年度から2021年度入学生の「看護総合実習」の履修は、3年次の領域別実習不合格科目と追実習科目を合算して7単位以上になった場合、次年度以降となる。

(3) 看護学科のうち、2015(平成27)年度から2021年度入学生において、下表の科目の履修は、先修条件となっている科目を修得していないなければならない。

科 目	先修条件 (単位を修得していないといけない科目)
成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ	成人看護学概論
成人看護活動論Ⅲ	成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護学概論
高齢者看護活動論Ⅱ	高齢者看護活動論Ⅰ
小児看護活動論Ⅰ	小児看護学概論
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
母性看護活動論Ⅱ	母性看護活動論Ⅰ

精神看護活動論Ⅰ	精神看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護活動論Ⅱ	
公衆衛生看護管理論	
公衆衛生看護活動論Ⅲ	公衆衛生看護活動論Ⅰ
	公衆衛生看護活動論Ⅱ
	公衆衛生看護管理論
看護課題研究	看護学研究法

(4) 看護学科のうち、2022 年度以降の入学生において、下表の科目の履修は、先修条件となっている科目を修得または修得見込でなければならない

科 目	先修条件
成人看護活動論Ⅱ	成人看護活動論Ⅰ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護学概論Ⅱ
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護支援論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅱ 公衆衛生看護展開論 公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護支援論Ⅱ	公衆衛生看護支援論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅱ 公衆衛生看護展開論 公衆衛生看護管理論
健康政策論Ⅱ	健康政策論Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅲ

(追実習)

第3条 臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいう。

2 追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後5日以内に学務課に提出する。

3 前項の所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目1回限り実習することができる。

4 追実習は履修登録した年度の当該科目の開講期間内に追実習期間を設定し実施する。

- 5 追実習は当該科目の単位認定に必要な日数分すべて行う。
- 6 単位認定のためには、原則 3 分の 2 以上の出席が必要である。
- 7 評価は、通常の単位認定評価と同様とする。

(再実習)

第 4 条 臨地実習における再実習とは、不合格（60 点未満）となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいう。

2 栄養学科の再実習は、履修登録した年度の当該科目の開講期間内に実施する。再実習を受けようとする学生は、別途指定された期日までに必要な手続きを学務課にて行わなければならない。

3 看護学科の再実習は、履修登録した当該年度内に行うことはできない。当該実習科目は、次年度に再度履修登録を行い実習に臨まなければならない。

4 単位認定のためには、原則 3 分の 2 以上の出席が必要である。

5 評価の上限は可（60 点）とする。ただし、次年度に再度履修登録した科目の評価は通常の単位認定評価と同様とする。

(進級要件)

第 5 条 進級要件は、次のとおりとする。

(1) 看護学科

- ① 2 年次に進級するためには、1 年以上在学し、1 年次に配当されている専門基礎科目及び専門科目の必修科目のすべてを修得しなければならない。
- ② 3 年次に進級するためには、2 年以上在学し、基礎教育科目の必修科目と選択科目 7 単位以上、2 年次に配当されている専門基礎科目及び専門科目の必修科目のすべてを修得しなければならない。
- ③ 4 年次に進級するためには、3 年以上在学し、3 年次に配当されている必修科目のすべてを修得していなければならない。

(2) 栄養学科

- ① 2 年次に進級するためには、1 年以上在学し、1 年次に配当されている専門基礎科目および専門科目の必修科目を 20 単位以上修得していなければならない。
- ② 3 年次に進級するためには、2 年以上在学し、基礎教育科目の必修科目 17 単位以上、選択科目 6 単位以上、専門基礎科目及び専門科目の必修科目 54 単位以上を修得していなければならない。
- ③ 4 年次に進級するためには、3 年以上在学し、専門基礎教育科目及び専門科目 77 単位以上を修得していなければならない。ただし、編入学をした者については、この限りではない。

(細則の改廃)

第 6 条 この細則の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この細則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 29 年 10 月 25 日に一部改正のうえ、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 5 条第 1 項第 2 号②に定めた条文の適用は、平成 29 年度入学生からとする。

附 則

この細則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この細則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 2021 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 5 条第 2 号②及び③については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この細則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 2022 年 3 月 31 日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

札幌保健医療大学教職課程履修規程

(目 的)

第1条 この規程は、札幌保健医療大学学則（以下「学則」という。）第44条第4項に基づき、本学における教育職員免許状授与の所要資格を取得させるための課程（以下「教職課程」という。）の履修及び教員免許状取得に関する必要な事項を定める。

(免許状の種類)

第2条 本学において取得できる学科の教育免許状の種類は次の表のとおりとする。

学科	免許状の種類
保健医療学部栄養学科	栄養教諭一種免許状

(科目及び単位数)

第3条 教員免許状を取得しようとする者は、次の表に定める単位を修得しなければならない。

免許状の種類	栄養に係る教育に関する科目	教職に関する科目	教員免許法施行規則第66条の6に定める科目
栄養教諭一種免許状	4単位	18単位	8単位

2 教職課程の科目及び単位数は、別表第1のとおりである。

(履修の資格)

第4条 栄養学科教職課程の栄養教育実習を履修するためには、教職課程に係る科目のうち3年次までに配当されているすべての必修科目の単位を修得していなければならない。

(栄養教育実習の停止及び取消)

第5条 栄養学科教職課程の栄養教育実習を履修しようとする者が、学業成績、性行及び生活態度等において、栄養教育実習生としての適格性を欠くと認められる場合には、教務委員長は教職課程委員会の議を経て、当該学生の栄養教育実習の停止及び取消しを行うことがある。

(履修登録及び履修費等)

第6条 教職課程を履修する学生は、所定の用紙に履修する授業科目名を記載して履修登録を行わなければならない。

2 栄養学科の教職課程を履修する学生は、学則第48条別表6に定める教職課程履修費及び栄養教育実習費を所定の期限までに納付しなければならない。

3 前項に定める費用を所定の期限までに納付しないときは、教職課程を履修しない又は履修を取りやめたものとみなす。

4 履修登録後における既納の教職課程履修費及び栄養教育実習費の返還は行わない。

(改 廃)

第7条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附則

1 この規程は、2019年4月1日から施行する。

2 2019年3月31日以前に入学した学生の第3条第2項に規定する教職課程の科目及び単位数は、なお従前の例による。

別表第1 栄養教諭一種免許状取得に必要な科目及び単位数（2019年度以降入学生対象）

（保健医療学部 栄養学科）

栄養に係る教育に関する科目（4単位）

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目		
各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
			必修	選択
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 食生活に関する歴史的及び文化的事項	4	食生活論	2	
食に関する指導の方法に関する事項		食育指導論	2	

教職に関する科目（18単位）

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
				必修	選択
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理	1	
	教職の意義及び教育の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育制度論	1	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	1	
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目及び	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育論	1	
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		特別活動・総合的な学習指導論	1	
	生徒指導の理論及び方法		教育方法論	1	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		生徒指導論	1	
			教育相談論	2	
科目に教育実習に関する実践	栄養教育実習	2	栄養教育実習事前・事後指導	1	
			栄養教育実習	1	
	教職実践演習	2	教職実践演習	2	

教員免許法施行規則第66条の6に定める科目（8単位）

免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目		
科目	単 位 数	授業科目	単位数及び 教職におけ る必修・選 択の別	
			必修	選択
日本国憲法	2	法と人権	2	
体育	2	スポーツ理論	1	
		スポーツ科学と運動	1	
外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ（基礎）	1	
		英語Ⅱ（会話）	1	
情報機器の操作	2	情報処理	1	
		情報リテラシー	1	

別表第1 栄養教諭一種免許状取得に必要な科目及び単位数（2018年度以前入学生対象）
（保健医療学部 栄養学科）

栄養に係る教育に関する科目（4単位）

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目		
各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
			必修	選択
・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項	4	食生活論	2	
・食に関する指導の方法に関する事項		食育指導論	2	

教職に関する科目（18単位）

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含める必要事項	単位数	授業科目	単位数及び教職における必修・選択の別	
				必修	選択
関 教 する 職 科 意 目 義 に に	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等	2	教職概論	2	
る 教 科 育 目 の 基 礎 理 論 に 関 す	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	教育原理	1	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 （障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		教育心理学	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育制度論	1	
す 教 科 育 目 課 程 に 関	・教育課程の意義及び編成の方法	4	教育課程論	1	
	・道徳及び特別活動に関する内容		道徳教育論	1	
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		特別活動論	1	
育 生 に 徒 関 指 す 導 科 及 目 び 教	・生徒指導の理論及び方法	4	生徒指導論	2	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談論	2	
栄養教育実習		2	栄養教育実習事前・事後指導	1	
			栄養教育実習	1	
教職実践演習		2	教職実践演習	2	

教員免許法施行規則第66条の6に定める科目（8単位）

免許法施行規則に定める科目及び単位数		左記に対応する開設授業科目		
科目	単 位 数	授業科目	単位数及び 教職におけ る必修・選 択の別	
			必修	選択
日本国憲法	2	法と人権	2	
体育	2	スポーツ理論	1	
		スポーツ科学と運動	1	
外国語コミュニケーション	2	英語Ⅰ（基礎）	1	
		英語Ⅱ（会話）	1	
情報機器の操作	2	情報処理	1	
		情報リテラシー	1	

札幌保健医療大学試験規程

(趣旨)

第1条 この規程は、札幌保健医療大学保健医療学部履修規程第13条の規定に基づき実施する試験に関し必要な事項を定めるものとする。

(受験資格)

第2条 学生は、各学期に履修登録した授業科目（以下「科目」という。）についてのみ、受験することができる。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、受験資格を有しない。

(1) 授業料その他納付金が未納の者

(2) 授業出席時間数が、その授業実施時間数の3分の2未満の者

(受験資格の喪失)

第3条 次の各号のいずれかに該当する者は、当該科目の受験資格を失う。

(1) 学生証を携帯していない者

(2) 試験開始後20分を超えて遅刻した者

(3) 試験監督者の指示に従わない者

(4) 試験において不正行為を行った者

(5) 追試験・再試験についての必要な手続きを終了していない者

2 前項第1号の規定にかかわらず、同号に該当する者に対しては、当該科目の試験のみに有効とする仮学生証による受験を認める。仮学生証の交付を受けようとする者は、速やかに学務課において手続きを行うこととする。

(試験の種類)

第4条 試験の種類は、「定期試験」、「追試験」及び「再試験」とする。

2 「定期試験」は、指定された期間の学期末に行う。ただし、科目責任者が必要と認める場合には、適宜行うことができる。なお、手続き及び実施は、科目責任者の責任下で行う。

3 「追試験」は、定期試験を大学が認める特段の理由又は、やむを得ない事由により試験を受験できなかった者で、かつ必要な手続きを行った者に対して行う。追試験は、原則として有料とし、各科目1回限りとする。なお、追試験の受験許可は、教務委員会で審議のうえ、認められる。

4 「再試験」は、定期試験等又は、追試験において不合格となり、必要な手続きを行った者に対して行う。再試験は、有料とし、原則として各科目1回限りとする。ただし、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）又は、追試験を受験しなかった者は、再試験の手続きを行うことができない。

(試験方法)

第5条 試験は、筆記、口述、レポート、実技等の方法により行う。

(試験時間)

第6条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第7条 試験監督は、複数体制とする。原則として、当該科目の担当教員が試験監督主任となる。

2 試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

(成績評価)

第8条 学則第31条に基づき、次のとおり成績評価を行う。成績評価は、秀（100点～90点以上・優（90点

未満～80 点以上)・良 (80 点未満～70 点以上)・可 (70 点未満～60 点以上)・不可 (60 点未満) の 5 種類をもって表わし、可以上を合格とする。

- 2 追試験の成績評価は、定期試験と同様の取扱いとする。ただし、再試験の場合は成績評価の上限を可 (60 点) とする。

(成績通知)

第 9 条 成績は、各期末に本人・保護者 (保証人) 等に通知する。

(受験者の義務)

第 10 条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- (1) 試験場においては、試験監督者の指示に従う。
- (2) 試験開始後 20 分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得る。
- (3) 学生証を机上に提示する。
- (4) 解答に先立って、学籍番号及び氏名を記入する。
- (5) 試験開始後、30 分経過するまで及び試験終了 5 分前からは退室することができない。
- (6) 配付された解答用紙は、必ず提出する。
- (7) 試験場においては、物品の貸借をしない。

(不正行為者の取扱い)

第 11 条 受験中に不正行為をした者及び試験監督者の指示に従わなかった者は、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第 46 条の定めるところにより懲戒を行う。

(改廃)

第 12 条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2022 年 8 月 1 日から施行する。

札幌保健医療大学における成績評価の異議申し立てに関する規程

（目的）

第1条 この規程は、札幌保健医療大学保健医療学部の学生が履修した授業科目に係る成績評価（以下、「評価」という）に対して、異議申し立てを行う場合に必要な事項を定めることを目的とする。

（異議申し立て事由）

第2条 学生は、当該学期に履修した授業科目の評価について疑義のある場合は、具体的理由を付して異議を申し立てることができる。ただし、評価の基準に関する申し立ては認めない。

（評価に関する問い合わせ）

第3条 学生は、評価に対する異議申し立てを行う前に、当該科目の科目責任者に問い合わせを行う。問い合わせの方法は、別紙様式1により学務課を通して行う。

（問い合わせの期限）

第4条 前条に規定する問い合わせは、評価が提示されてから7日以内に行う。

（科目責任者の責務）

第5条 第3条の規定により問い合わせを受けた科目責任者は、原則5日以内に、評価について別紙様式1に必要事項を記入し学務課に提出する。学務課は受領した当該書類を速やかに学生に提示する。

（評価に関する異議申し立て）

第6条 前条に規定する科目責任者からの説明又は回答に対し異議がある場合は、回答を受けてから速やかに別紙様式1により、教務部長に異議申し立てを行う。

2 学生から異議申し立てを受領した場合は、科目責任者に異議申し立て内容の審議を行うことを報告する。

（異議申し立て内容の審議）

第7条 教務部長は、前条に規定する異議申し立てを受けた場合、教務委員会にて評価に関する審議を行う。

2 教務委員会は必要に応じて、科目責任者と当該学生から意見を聞く。

3 教務委員会は評価に関する審議を行い、その結果を教授会に報告する。

（調査結果の通知）

第8条 調査の結果は、異議申し立てを行った学生と科目責任者に次の様式により通知する。

（1）異議申し立てを行った学生 別紙様式2

（2）科目責任者 別紙様式3

（改廃）

第9条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附則

この規程は2019年4月1日から施行する。

成績評価に関する異議申立書

提 出 日	年 月 日	
学 部 学 科		
学籍番号・氏名		
学生連絡先	(電話番号)	(メールアドレス)

[illegible]

科目責任者受理日	年 月 日
回答	
評価訂正の有無	☐ 評価の訂正を行う（学務課にて訂正の手続きを取ってください） ☐ 評価の訂正は行わない
科目責任者回答日	年 月 日
科目責任者氏名	

上記回答に異議がある場合は、以下記入し、速やかに学務課に提出してください。

上記回答に対して、 異議申立いたします。			
提出日	年	月	日
学籍番号	学生氏名		

年 月 日

所 属
学生氏名 様

札幌保健医療大学
教務部長

成績評価に関する異議申し立てに対する判断結果について（通知）

年 月 日付けでなされた成績評価に関する異議申し立てについて、下記の通り判断しましたので通知します。

記

1. 担当教員名、科目名

- ・科目責任者名
- ・科目名

2. 判断結果・理由

- ☐ 判断結果・成績評価に関する科目担当教員の説明を妥当であると判断します。
- ☐ 成績評価に関する貴殿の申し立てを妥当であると判断します。つきましては科目責任者に成績評価の再考を求め、評価を訂正します。

（理由）

年 月 日

所 属
教員氏名 様

札幌保健医療大学
教務部長

成績評価に関する異議申し立てに対する判断結果について（通知）

〇〇年〇〇月〇〇月付けでなされた成績評価に関する異議申し立てについて、下記の通り判断しましたので通知します。

記

1. 担当教員名、科目名

- ・科目責任者名
- ・科目名

2. 判断結果・理由

- ☐ 判断結果・成績評価に関する科目責任者の説明を妥当であると判断します。
- ☐ 成績評価に関する貴殿の申し立てを妥当であると判断します。つきましては科目責任者に評価の再考を求め、成績を訂正します。

（理由）

札幌保健医療大学既修得単位認定規程

（目的）

第1条 この規程は、札幌保健医療大学（以下「本学」という。）学則第28条の規定に基づき、本学に入学した学生の既修得単位の認定の取扱いについて必要な事項を定めることを目的とする。

（申請手続）

第2条 本学に入学した学生で既修得単位の認定を希望する学生は、入学時に次の書類を学務課へ提出しなければならない。

（1）既修得単位認定申請書

（2）学業成績証明書（修得単位の単位数、授業時間数、単位修得・成績を証明できるもの）又は単位修得証明書

（3）在学時のシラバス（認定を受けようとする授業科目の内容を確認できるもの）

（4）その他既修得単位認定に必要な書類

（申請の時期）

第3条 申請の時期は、本学に入学した年の4月に限るものとする。

（既修得単位の認定基準等）

第4条 認定を受けようとする授業科目及び単位数は、本学における授業科目及び単位数と同等以上と認められるものでなければならない。

2 既修得単位として認定できる授業科目は、原則として本学の基礎教育科目・専門基礎科目に限るものとし、当該科目の単位数の範囲内で行う。

3 認定できる授業科目は、単位を取得後10年以内のものとする。

（認定方法）

第5条 既修得単位の認定は、教授会を経て、学長が決定する。

2 既修得単位の認定の審査は、教務委員会において行なう。その際、必要に応じて授業科目担当教員の意見を求めることができる。

（申請者への通知）

第6条 教務委員長は、既修得単位の認定結果について、既修得単位認定通知書により申請者へ通知する。

（認定申請科目の履修）

第7条 既修得単位の認定を受けようとする学生は、第2条により申請した授業科目の単位が認定されるまでは、その授業科目を履修しなければならない。

2 申請した学生が希望した場合、担当教員が許可すれば認定後も聴講することができる。

（履修科目の登録上限）

第8条 認定した授業科目の単位数は、履修科目の登録上限に算入しない。

（成績の表記）

第9条 認定した授業科目の成績の表記は、「認定」とする。

2 認定した授業科目はGPA算出の対象科目としない。

（修業年限）

第10条 第4条第1項の規定により既修得単位の認定を行った場合においても、修業年限の短縮は、行わない。

(改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。









札幌保健医療大学

〒007-0894 札幌市東区中沼西4条2丁目1番15号

TEL(011)792-3350 FAX(011)792-3358

<http://www.sapporo-hokeniryou-u.ac.jp>